

# TFIN50\_1

## 財務会計 I パート 1/2

SAP ERP - Financials

日付	_____
会場	_____
講師	_____
	_____
Web サイト	_____

### 受講者用ハンドブック

コースバージョン: 92  
コース期間: 10 日数  
製品番号: 50095435



An SAP course - use it to learn, reference it for work

## 著作権

著作権 © 2010 SAP AG. All rights reserved.

本書のいかなる部分もSAP AG の明確な許可なく複製、転記を行うことは形態を問わず禁じられています。本文書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP AG、またはその販売代理店が販売するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社が所有権を有するソフトウェアコンポーネントが含まれています。

## 商標

- Microsoft®、WINDOWS®、NT®、EXCEL®、Word®、PowerPoint® および SQL Server® は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- IBM®、DB2®、OS/2®、DB2/6000®、Parallel Sysplex®、MVS/ESA®、RS/6000®、AIX®、S/390®、AS/400®、OS/390® および OS/400® は IBM Corporation の登録商標です。
- ORACLE® は、ORACLE Corporation の登録商標です。
- INFORMIX®-OnLine for SAP および INFORMIX® Dynamic ServerTM は、Informix Software Incorporated の登録商標です
- UNIX®、X/Open®、OSF/I®、Motif® は Open Group の登録商標です。
- Citrix®、Citrix のロゴ、ICA®、Program Neighborhood®、MetaFrame®、WinFrame®、VideoFrame®、MultiWin®、およびその他の Citrix 製品名は Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
- HTML、DHTML、XML、XHTML は、Massachusetts Institute of Technology、World Wide Web Consortium W3C® の商標または登録商標です。
- Java® は、Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。
- JAVASCRIPT® は Netscape の開発および実現技術をライセンスを受けて使用した Sun Microsystems, Inc., の登録商標です。
- SAP、SAP のロゴ、R/2、RIVA、R/3、ABAP、SAP ArchiveLink、SAP Business Workflow、WebFlow、SAP EarlyWatch、BAPI、SAPPHIRE、マネジメントコックピット、mySAP.com のロゴ、および mySAP.com は、ドイツおよび世界各国における SAP AG の商標または登録商標です。本文書に記載されたこれ以外の各製品は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

## 免責事項

これらのマテリアルは、'現状のまま' 提供されるものであり、SAP は、これらのマテリアルとサービス、情報、テキスト、グラフィック、リンク、およびここに記載された他のすべてのマテリアルと製品に関し、限定されない製造物責任と特定の目的への適合性の保証を含め、明示か默示かを問わず、いかなる保証もいたしません。これらのマテリアルまたは含まれるソフトウェアコンポーネントの使用により発生した、無制限の営業利益の損失や不利益を含め、いかなる種類の直接損害、間接損害、もしくは特別の損害、偶発的損害、懲罰的損害についても、一切の責任を負わないものとします。

g20100913163711

# 使用上の注意

このハンドブックは、このコースにおける講師の説明を補足することを目的としています。このハンドブックは自習用に作成されたものではありません。

## 凡例

このガイドで使用する書体の凡例を以下に示します。

書体	説明
サンプルテキスト	画面上に表示される語や文字列。これらのテキストには、項目名、画面の表題、押ボタン、メニュー名、メニューパス、およびオプションが含まれます。 これらのテキストは、他の文書へのクロスリファレンスとして内部的にも、外部的にも使用されます。
サンプルテキスト	本体テキスト、グラフィックの表題、および表における強調された語または語句。
EXAMPLE TEXT	システムにおけるエレメント名。本体テキストで囲まれた場合、プログラミング言語の各キーワード (SELECT、INCLUDEなど) や、レポート名、プログラム名、トランザクションコード、テーブル名などが含まれます。
Example text	画面出力。ファイルやディレクトリ名とそのパス、メッセージ、変数名やパラメータ、およびプログラムのソーステキストの一部などが含まれます。
Example text	正確なユーザエントリ。これらの語や文字は、文書で表示されるとおりシステムに入力します。
<Example text>	可変のユーザエントリ。括弧 <> は、その中の語および文字が適切なエントリで置き換えられることを示します。

## 本文で使用される記号の凡例

このハンドブックでは次のアイコンが使用されます。

アイコン	凡例
	追加情報、ヒント、または背景説明
	前述の注記または追加説明
	例外または注意事項
	手順
	講師のプレゼンテーションで表示される項目

# 内容

<b>コースの概要.....</b>	<b>vii</b>
コースの目標 .....	vii
コースの目的 .....	vii
<b>1 章: 基本設定.....</b>	<b>1</b>
組織単位 .....	3
総勘定元帳の基本設定 .....	22
バリアント原則 .....	31
会計年度 .....	34
通貨 .....	44
<b>2 章: マスタデータ .....</b>	<b>59</b>
G/L 勘定 .....	60
利益センタとセグメント .....	91
得意先/仕入先コード .....	101
<b>3 章: 伝票管理.....</b>	<b>135</b>
伝票構造 .....	136
会計期間 .....	163
転記権限 .....	176
財務会計の基本伝票 .....	183
<b>4 章: 転記管理.....</b>	<b>199</b>
伝票分割 .....	201
初期値 .....	219
変更管理 .....	227
反対仕訳伝票 .....	236
支払条件と現金割引 .....	244
税 .....	265
会社間取引 .....	287
リアルタイム統合 .....	302
<b>5 章: 消込.....</b>	<b>313</b>
未消込明細の消込 .....	314
入金と支払 .....	326
支払差額 .....	337
換算差損益 .....	353

<b>6 章: 小口現金出納帳.....</b>	<b>359</b>
小口現金出納帳の設定.....	360
小口現金出納帳取引 .....	372
<b>7 章: 後続の内容: 追加のトピック .....</b>	<b>381</b>
新総勘定元帳のその他のトピック .....	382
<b>付録 1: メニューパス .....</b>	<b>389</b>
<b>付録 2: 従来の総勘定元帳から新総勘定元帳 (New G/L) への変更点 .....</b>	<b>401</b>
<b>付録 3: 従来の総勘定元帳のメニューパス .....</b>	<b>409</b>
<b>目次 .....</b>	<b>421</b>

# コースの概要

## 対象グループ

このコースの対象者は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials を使用した財務会計の導入を担当するコンサルタント

## コース受講のための前提条件

### 前提条件

- 財務会計(会計管理)領域における実務能力
- SAP125 - SAP ナビゲーション
- TERP01 - SAP ERP: 概要
- TERP02 - SAP ERP: SAP NetWeaver 概要
- TERP21 - SAP ERP: 財務会計プロセス概要
- SM001 - SAP Solution Manager 概要



## コースの目標

このコースの目標は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials コンポーネント(新総勘定元帳)の基本的な設定の実行
- 財務会計のコアビジネスプロセスの実行



## コースの目的

このコースの目的は、以下のとおりです。

- 財務会計の組織単位の登録
- マスタデータの更新
- 転記処理の入力の制御
- 転記処理の分析と説明



# 1 章

## 基本設定

### 章の概要

- 会計管理で重要な組織ユニット(会社コードなど)
- 会計年度
- 通貨
- バリアント原則



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials 組織ユニットを使用した会社の会計管理構造のマッピング
- 財務会計の基本的な組織オブジェクトの意味の説明
- 独自の会社コードおよび会社の登録
- 元帳およびシナリオという用語を使用した、新総勘定元帳の概要説明
- 新総勘定元帳の基本設定の説明
- 非リーディング元帳の有効化、およびシナリオを使用することによる特定のビジネス状況への非リーディング元帳の関連付け
- バリアント原理の用途と利点の説明
- 会計年度バリアントの必要性と用途の説明
- さまざまな種類の会計年度バリアントの説明
- 各要件に合う会計年度バリアントの定義
- 会社コードへの会計年度バリアントの割当
- SAP ERP システムでの通貨の定義
- さまざまな換算レートタイプの意味の説明
- 換算レートの更新
- 換算レート更新のための各種ツールの使用
- 換算レート更新のオプションの説明

## 章の内容

レッスン: 組織単位 .....	3
演習問題 1: 組織単位 .....	13
レッスン: 総勘定元帳の基本設定 .....	22
演習問題 2: 新総勘定元帳の設定 .....	27
レッスン: バリアント原則 .....	31
レッスン: 会計年度 .....	34
演習問題 3: 会計年度 .....	37
レッスン: 通貨 .....	44
演習問題 4: 通貨 .....	53

## レッスン：組織単位

### レッスンの概要

SAP ERP を使用した会計管理への組織ユニットの反映

- クライアント、会社コード、利益センタ、セグメント、会社、および事業領域の各用語の説明
- 会社コードの登録
- 会社コードのコピー
- 国固有の設定の実行



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials 組織ユニットを使用した会社の会計管理構造のマッピング
- 財務会計の基本的な組織オブジェクトの意味の説明
- 独自の会社コードおよび会社の登録

### ビジネスシナリオ

あなたの顧客である会社は、日本を拠点とする中規模の企業です。この企業は、1つの法人組織です。

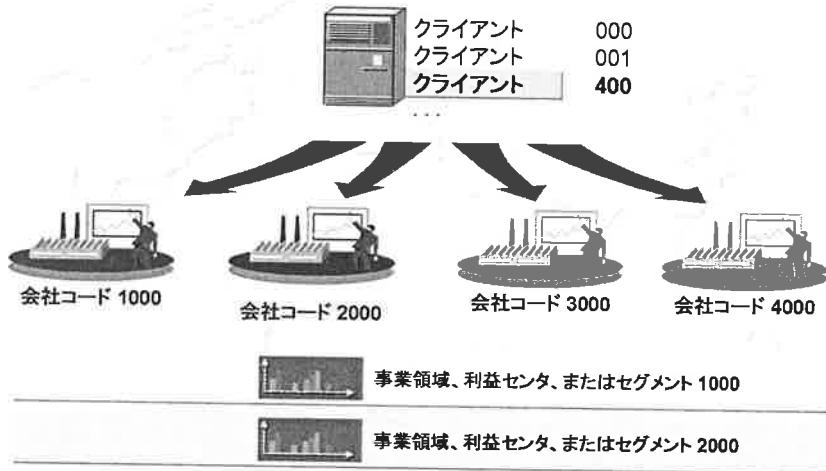


図 1: SAP ERP Financials における組織ユニット

クライアントは、SAP ERP システム階層の最上位レベルです。SAP ERP アプリケーションのすべての組織ユニットで有効となる設定やデータ(換算レートなど)は、クライアントレベルで入力します。これにより、これらの情報を何度も入

力せずに済みます。各クライアントは、個別のマスタレコードと完全なテーブル/データのセットを持つ、技術的に独立した単位です。ビジネスの観点から見ると、クライアントレベルは、多くの場合企業グループまたは関連会社のグループのレベルに相当します。ユーザがシステムにログオンするには、クライアントキーを入力する必要があり、また、そのユーザのマスタレコードがクライアント内に存在している必要があります。

財務会計でもっとも重要な組織ユニットは、会社コードです。

会社コードは、独立した決算/法的会計管理を行う単位を表します。たとえば、企業グループ内の独立した法人などが挙げられます。法的に必要とされる財務諸表は、会社コードレベルで作成することができます。したがって、会社コードは、SAP ERP Financials で最低限必要となる構造です。国際的な企業では、事業が複数の国にまたがることも多くあります。ほとんどの国の政府および税務当局は、会社ごとに法的実体を登録するように要求しているため、通常は国ごとに独立した会社コードを登録します。

SAP システムでは、貸借対照表および損益計算書が作成される各組織は、会社コードとして保存する必要があります。



会社コードを登録するには、"会社コードコピー" 機能を使用して既存の会社コードをコピーします。これにより、以下のデータがコピーされます。

- 定義
- グローバルパラメータ
- カスタマイジングテーブル
- G/L 勘定 (必要な場合)
- 勘定設定

この後、必要に応じて、新しい会社コードに適切な変更を行います。

## 図 2: 会社コードの登録



**ヒント:** IMG では、以下の順で提案されます。

- コピー/削除/チェック: 会社コード
- 編集: 会社コードデータ

既存の会社コードをコピーします。この方法の利点は、既存の会社コード固有のパラメータもコピーされることです。コピー後、新たな会社コードのデータを変更することができます。

会社コードのキーとして、4 文字のテキストキーを指定する必要があります。このキーによって会社コードが識別されます。会計取引の転記や会社コード固有のマスタデータの登録の際に、このキーの入力が必要になります。



**ヒント:** コピー機能を使用するかどうかは任意です。参照会社コードを使用せずに会社コードを定義して自分で設定を行うこともできます。

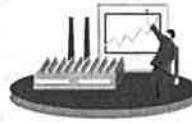


### ● 会社コードの定義

- 4 文字の会社コードキー
- 会社名
- 市区町村
- 国
- 通貨
- 言語
- 住所

### ● グローバルパラメータ

- 勘定コード表
- 会計年度バリエント
- 会社コード初期値



**図 3: 会社コード**

アクティビティ 編集: 会社コードデータには、以下のオブジェクトが含まれます。

- 住所データは、連絡文書で必要となり、評価レポートに記録されます。
- 各会社コードに対して通貨を定義する必要があります。この会社コード通貨で勘定が管理されます。他の通貨はすべて外貨として扱われます。外貨で転記された金額は、会社コード通貨に換算されます。SAP ERP Financials では、会社コードに定義された通貨を**国内通貨**と呼びます。
- (たとえば小切手の発行時などに)自動的に適切な言語でテキストが登録されるようにするために、言語キーを入力する必要があります。
- 国コードは、どの国を本国と見なすかを指定します。他の国はすべて外國と見なされます。これは、外貨支払処理ではそれぞれ異なる書式が必要となるため、会計取引または支払処理で重要になります。また、外国との連絡文書用にさまざまな住所書式もサポートされています。

事業領域の定義の際には、4 文字のテキストキーとテキストを入力するだけです。セグメントは 10 文字、会社は 6 文字で構成されます (英数字を使用することができます)。

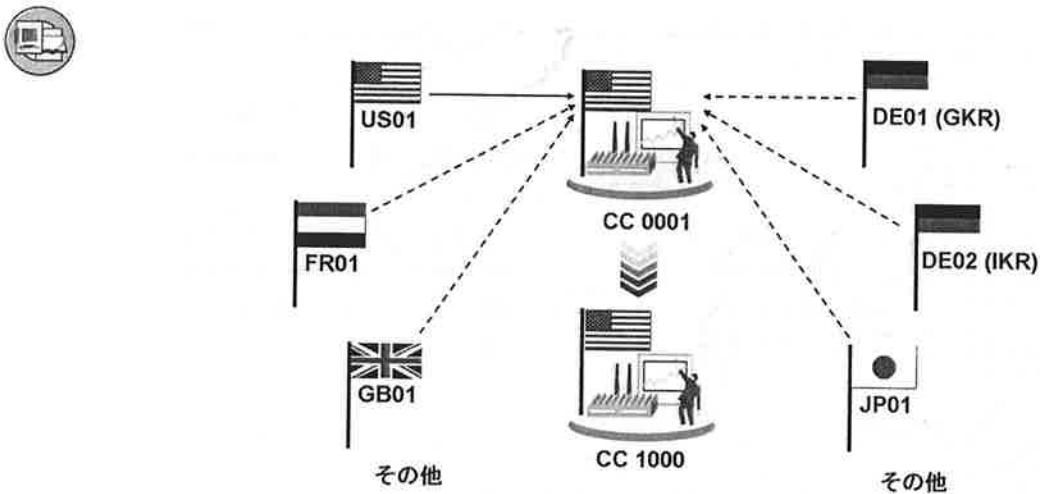


図 4: 国別テンプレート

SAP ERP 標準システムでは、会社コード 0001 が一般的な会社コードのテンプレートになっています。この会社コードでは、国際勘定コード表 INT が使用されており、国別設定は行われていません。

国別テンプレートが存在する国の会社コードが必要な場合は、国別プログラムを使用して、国別テンプレートから国固有のテーブルを会社コード 0001 にコピーすることができます。これにより、その国に応じて会社コード 0001 が設定されます。その後、この会社コードを新規会社コードにコピーします。国別プログラムを再び実行して、別の国のテンプレートを登録することもできます。

**ヒント:** 国別プログラムでは、国固有の会社コードテンプレートだけでなく、管理領域、プラント、購買組織、販売組織、与信管理領域、財務管理領域などの国別テンプレートを登録することもできます。

**注意:** 必ずテンプレートをコピーしてから、その先の作業を行ってください。会社コード 0001 を本稼働の会社コードとして使用しないでください。これは、国別プログラムでは目標会社コードとして常に会社コード 0001 を使用するためです。

また、国別インストールプログラムは SAP ERP の初期インストールでのみ実行し、アップグレードインストールでは実行しないでください。これは、SAP ERP のリリースごとに国固有のカスタマイジングの構造が異なる可能性があるためです。

会社コード以外にも、財務会計には重要な組織ユニットがあります。ただし、会社コードとは異なり、これらはオプションの要素です。

ここでは、以下の点で法的要件または内部会計要件が重要な役割を果たします。

- どの会社またはセグメントで個別レポートが可能であるか
- どの活動領域または責任範囲に対して個別の財務諸表(または損益計算書)を作成することができるか

これらのレポート要件のために使用することができる、その他数多くの組織ユニットがあります。どの組織ユニットを選択するかは、さまざまな要因に応じて異なります。たとえば、過去に一般的に使用された要素、つまり歴史に応じて組織ユニットを選択することができます。

### 財務会計のその他の重要な組織ユニット:

- **事業領域:** 事業領域は、組織内の個別の事業分野を表し、複数の会社コードにまたがって使用することができます。事業領域は決算の単位となる事業体であり、この事業体ごとに内部または外部で使用する財務諸表のセットを作成することができます。そのため、事業領域ごとに取引金額を保存して評価することができます。  
(事業領域の例/主要な事業分野: トレーニング、コンサルティング、ソフトウェア開発)
  - **利益センタ:** 利益センタの請求書によって、会社内の個別の独立した領域の業績が評価されます。これらの領域が原価および収益に関与しています。利益センタの請求書は、利益を内部的に分析することを目的としています。会計管理の観点からは、利益センタレベルの損益計算書のみを作成するか(伝票ブレークダウンが無効)、または財務諸表も作成するか(伝票ブレークダウンが有効)を決定する必要があります。  
(例: トレーニング教室の領域、得意先固有のトレーニングの領域、トレーニング管理の領域)
  - **セグメント:** 企業は、国際会計原則 (IFRS 8 および SFAS 131) に従って、事業セグメント(業務セグメント)の財務結果に関する情報をレポートで提供する義務があります。これは、“管理アプローチ”を使用して行われます。この場合、内部レポートのセグメント情報は、セグメントへのリソース割当に関する意思決定や業績の評価に使用されるものと同じ構造である必要があります。  
(セグメントの例/主要な事業分野: トレーニング、コンサルティング、ソフトウェア開発)
  - **会社:** 会社は、SAP システムにおける財務会計の連結機能の基礎として使用されます。会社には、1つ以上の会社コードが含まれていることがあります。会社コードを使用することは、連結処理準備の一環となります。  
たとえば、連結親会社は1つ目の子会社に会社コード 1000 を割り当て、2つ目の子会社には会社コード 2000 を割り当てます。業務処理においてこの会社コードを指定することによって、グループ内の関係をマッピングし、明確にすることができます(会社間取引相殺消去)。
  - **機能領域:** 売上原価会計では、営業費用は機能(管理、販売など)に応じて分類されます。
- カスタマの内部会計および外部会計の要件を満たすために、事業領域、利益センタ、セグメント、会社、および機能領域を使用することができます。会社コードとは異なり、これらのオブジェクトの使用はオプションです。

会計管理で使用される組織オブジェクトの選択においては、以下の質問がもっとも重要となります。

- 企業または企業グループにおいてもっとも重要な会計原則は何ですか。
- 会社では、内部および外部のレポートで、どの会計原則に従って数値をレポートしますか。
- 会社では、総費用または売上原価会計のどちらに従って損益計算書が構成されていますか。
- 会社には、法律に従ってセグメントレポートを発行する義務がありますか。
- 連結財務諸表を発行する必要はありますか。

これらの質問に対する回答が、どのような組織オブジェクトを使用および定義するか、またはどの組織オブジェクトを財務会計からテンプレートとして使用するかについて意思決定を行う場合の基礎となります。



トピック	推奨表示:	既知の代替手順:
期間会計	原価タイプ (SAP 標準の収益タイプおよび費用タイプ)	なし
売上原価会計	機能領域	個別勘定 (非推奨)
セグメントレポート	利益センタから誘導されたセグメント	利益センタ 事業領域 収益性分析 (結果に影響を与える値のみ)
連結処理準備	会社/取引会社	個別勘定 (非推奨)
パラレル会計 (例: 国内法および国際法)	複数元帳アプローチまたは複数勘定アプローチ (いずれも同等のアプローチであると見なされます)	特別元帳モジュールによる表現 (会計管理の個別モジュール) 個別会社コード (非推奨)

図 5: 國際的な会計の要件

事業領域、利益センタ、またはセグメントごとの財務諸表を作成するカスタマは、伝票ブレークダウンを有効にする必要があります。



**注意:** SAP 標準シナリオ (SAP ノート 1035140) では、利益センタからセグメントが誘導されます (管理アプローチ: 法的要件に従ったセグメントの外部レポートでの使用、および新総勘定元帳の利益センタ会計の社内管理会計での使用)。

## 管理領域

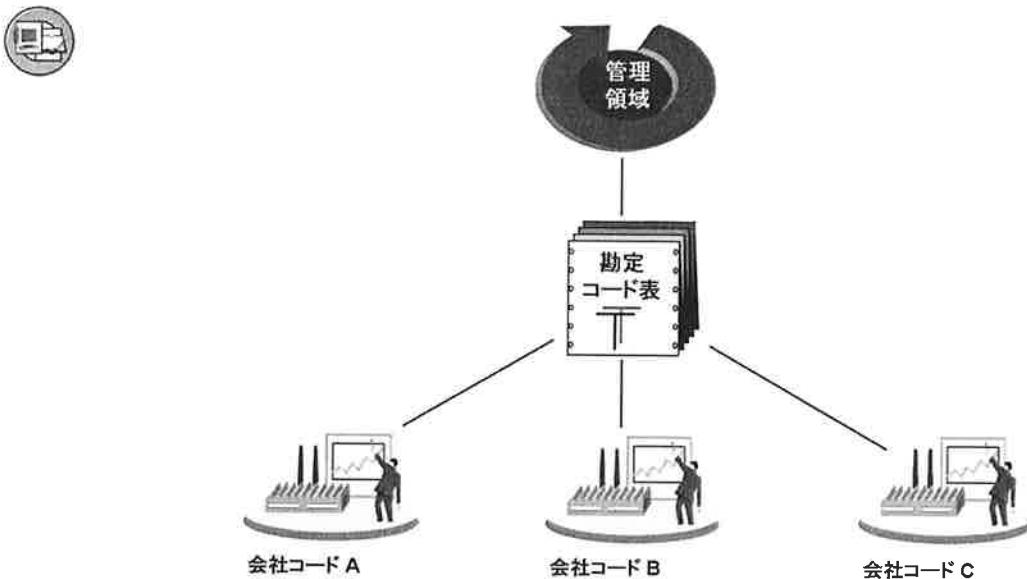


図 6: 管理領域

管理領域は、管理会計におけるもっとも重要な組織要素です。管理領域は、原価と収益の管理や割当が可能な独立した組織構造です。原価計算の単位を表します。

1つの管理領域に複数の会社コードを割り当てることができます。これにより、割り当てられた複数の会社コード間の原価計算が可能になります。

ただし、同じ管理領域に複数の会社コードを割り当てる場合は、割り当てるすべての会社コードで同じの勘定コード表および同じ会計年度バリアントを使用している必要があります。

通常、管理領域は、管理会計の担当従業員が設定します。ただし、財務会計と管理会計には重要な関係性が存在するため、これらの領域を全体としても考慮する必要があります。



## 演習問題 1：組織単位

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 会社コードの登録
- 会社 ID の登録

### ビジネスシナリオ

カスタマの会社は、あるグループに属しています。本社は、コースが実施されている国にあります。

#### タスク 1:

このクライアントの会社を表す会社コード GR## を登録します。このコースでは、今後この会社コードを使用して演習問題を行います。

講師が指示しない限り、会社コード通貨は EUR のままにしてください。

1. 会社コード 1010 には、必要なすべての設定およびデータがすでに含まれています。会社コード 1010 を新しい会社コード GR## にコピーします。  
さらに、この時点で G/L 勘定もコピーします。
2. 会社コード GR## の定義を以下のように変更します。

会社名:	<b>Group ##</b>
国:	<b>JP (コース実施の国)</b>
通貨:	<b>国内通貨 (EUR)</b>
言語:	<b>JA (ローカル言語)</b>

他の項目は、各自の要件に合わせて入力することができます。

#### タスク 2:

会社はあるグループに属しており、会社 ID によって識別されます。GE## が、グループ内の会社コードの会社 ID です。グループでは、通常この ID が割り当てられます。

1. 会社コードおよび会社に対して、会社 ID GE## を登録します。

次へ

### タスク 3:

会社コード GR## の共通設定、特に事業領域財務諸表の設定をチェックします。会社コードに新しい会社 ID を割り当てます。

1. 会社コードのグローバルパラメータを照会します。会社コード GR## に会社 ID GE## を割り当てます。
2. 次に、会社コードのグローバルパラメータの 事業領域財務諸表 設定を確認します。ヘルプ機能 (F1) を使用して、理解を深めます。

### タスク 4:

正誤問題

1. 事業領域は、会社コードに直接割り当てることができます。

この文章の内容は正しいですか。

- 正  
 誤

### タスク 5:

新しい会社コード (GR##) を管理領域 1000 に割り当てます。

1. 管理領域 1000 はすでに会社に存在しており、新しい会社コード (GR##) の割当のみが必要です。

## 解答 1：組織単位

### タスク 1：

このクライアントの会社を表す会社コード GR## を登録します。このコースでは、今後この会社コードを使用して演習問題を行います。

講師が指示しない限り、会社コード通貨は EUR のままにしてください。

1. 会社コード 1010 には、必要なすべての設定およびデータがすでに含まれています。会社コード 1010 を新しい会社コード GR## にコピーします。

次へ

さらに、この時点で G/L 勘定もコピーします。

a) 導入ガイドへのナビゲート方法 (IMG - IMG メニューパス):

ツール → カスタマイジング → IMG → プロジェクト実行

"SAP 完全版IMG" を選択します (アプリケーションツールバーの押ボタン)。

ツール → カスタマイジング → IMG → プロジェクト実行

"SAP 完全版IMG" を選択します。

IMG トランザクションコード: SPRO

会社コードのコピー:

IMG: 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 編集/コピー/削除/チェック:  
会社コード → コピー/削除/チェック: 会社コード

メニュー: 組織オブジェクト → 組織オブジェクトコピー (または "組織オブジェクトコピー" ボタンを選択)

項目名またはデータ型	値
コピー元会社コード	1010
コピー先会社コード	GR##

"Enter" を選択します。

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定の会社コードデータを コピーしますか	はい
コピー先の会社コードに別の国 内通貨を割当てますか	いいえ

ダイアログボックスに "情報: コピーされていないデータがあります (長文テキスト参照)" というメッセージが表示されたら、"Enter" を押して確認します。

その他の警告メッセージも "Enter" を押して確認し、処理を続行します。

2. 会社コード GR## の定義を以下のように変更します。

次へ

会社名:	<b>Group ##</b>
国:	<b>JP (コース実施の国)</b>
通貨:	<b>国内通貨 (EUR)</b>
言語:	<b>JA (ローカル言語)</b>

その他の項目は、各自の要件に合わせて入力することができます。

- a) 緑色の矢印を選択してダイアログボックスに戻り、"編集: 会社コードデータ"を選択するか、または以下のメニューパスを選択します。

会社コード定義の変更:

IMG: 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 編集/コピー/削除/チェック:  
会社コード → 編集: 会社コードデータ(ダブルクリック)

GR## を選択します。

項目名またはデータ型	値
会社名	Group ##
市区町村	任意の市区町村名
国	JP (コース実施の国)
通貨	国内通貨 (EUR)
言語	JA (ローカル言語)

"保存" を選択します。

→ **注記:** おつかれ様でした。会社コードの登録が完了しました。

次へ

## タスク 2:

会社はあるグループに属しており、会社 ID によって識別されます。GE## が、グループ内の会社コードの会社 ID です。グループでは、通常この ID が割り当てられます。

1. 会社コードおよび会社に対して、会社 ID GE## を登録します。
  - a) IMG: 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 定義: 会社  
アプリケーションツールバーで“新規エントリ”を選択します。  
以下の値を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社	GE##
会社の名称	会社グループ ##
住所	任意
国	JP (コース実施の国)
通貨	会社コード通貨と同じ (EUR)

“保存”ボタンを選択して、エントリを保存します。

次へ

### タスク 3:

会社コード GR## の共通設定、特に事業領域財務諸表の設定をチェックします。会社コードに新しい会社 ID を割り当てます。

1. 会社コードのグローバルパラメータを照会します。会社コード GR## に会社 ID GE## を割り当てます。

- a) 以下のように選択します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 会社コードのグローバルパラメータ → 登録: グローバルパラメータ

会社コードの上にカーソルを置いて、会社コードを選択します。

ダブルクリックすると、会社コードのグローバルデータ概要にナビゲートすることができます。

“会計組織”画面領域に、“会社”項目が表示されます。以下の値を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社	GE##

“保存”ボタンを選択して、エントリを保存します。同じ画面のまま次の処理を続行します。

2. 次に、会社コードのグローバルパラメータの事業領域財務諸表設定を確認します。ヘルプ機能(F1)を使用して、理解を深めます。

- a) “処理パラメータ”画面領域の右側に、“事業領域財務諸表”項目があります。テキストの前にあるボタンをクリックします。その後、F1を押します。このボタンの機能説明が表示されます。

→ 注記: 事業領域財務諸表:

用途: この区分を設定すると、キーや勘定の項目管理にかかわらず、伝票転記時に事業領域項目が常に入力可能になります。この区分を設定すると、管理会計(CO)、在庫/購買管理(MM)、および販売管理(SD)コンポーネントで必須入力となる項目があります。

次へ

## タスク 4:

### 正誤問題

- 事業領域は、会社コードに直接割り当てることができます。

**解答:** 誤

事業領域は、会社コードに直接割り当てることはできません。これにより、会社コードの境界を越えて、各事業領域の取引金額を評価することができます。

## タスク 5:

新しい会社コード (GR##) を管理領域 1000 に割り当てます。

- 管理領域 1000 はすでに会社に存在しており、新しい会社コード (GR##) の割当のみが必要です。

a) **IMG:**

企業構造 → 割当 → 管理会計 → 管理領域に対する会社コードの割当

画面の右側で明細(行)の先頭にあるボタンをクリックして、**1000 CO ヨーロッパ**を選択します。

画面の左側(第 2 レベル)で、会社コードの割当をダブルクリックします。

画面の左側に、割当済の会社コードが表示されます。

アプリケーションツールバーで新規エントリをクリックします。

マニュアルで会社コード GR## を入力し、F4 ボタンを使用して選択します。

**Enter** を押します。会社コードの名称が表示されます。

ディスクアイコンを選択して、エントリを保存します。

標準ツールバーの緑色の矢印(前画面)を使用して、この領域を終了することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP ERP Financials 組織ユニットを使用した会社の会計管理構造のマッピング
- 財務会計の基本的な組織オブジェクトの意味の説明
- 独自の会社コードおよび会社の登録

## レッスン: 総勘定元帳の基本設定

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 元帳およびシナリオという用語を使用した、新総勘定元帳の概要説明
- 新総勘定元帳の基本設定の説明
- 非リーディング元帳の有効化、およびシナリオを使用することによる特定のビジネス状況への非リーディング元帳の関連付け

### ビジネスシナリオ

財務会計は、数多くの組織ユニットで構成されています。会社で順守する必要がある法的要件は、カスタマイジングで設定する必要があります。該当するすべての要件に準拠するために、まず、新総勘定元帳の必須の基本設定を行う必要があります。

どの要素に対して個別のレポートが必要であるかを定義した後(特定の利益センタの財務諸表など)、エンティティを定義することによって、新総勘定元帳のカスタマイジングを実行することができます。

新総勘定元帳によって、さまざまな元帳を使用したパラレル評価アプローチおよびパラレル会計の使用が可能になります。



各クライアントにはリーディング元帳が **1つのみ** ありますが、他の要件を満たすために追加の非リーディング元帳が使用されます。

Define Ledgers in General Ledger Accounting		
Ld (Ledger Name)	Totals Table	Leading
L0 IFRS (Leading Ledger)	FAGLFLEXT	<input checked="" type="checkbox"/>
L5 US-GAAP	FAGLFLEXT	<input type="checkbox"/>
L6 Local GAAP	FAGLFLEXT	<input type="checkbox"/>

リーディング元帳は連結財務諸表の作成に使用される会計原則を反映しています。リーディング元帳は、すべての補助元帳に統合されており、**すべての会社コードで更新されます**。

リーディング元帳 =  
例： グループ元帳



図 7: 新総勘定元帳の元帳および複数元帳アプローチ

標準システムには、リーディング元帳 L0 と集計テーブル FAGLFLEXT が用意されています。リーディング元帳(会社の会計原則としての IFRS や US-GAAP など)に加えて、非リーディング元帳(国内規制)も定義することができます(パラレル会計)。これは、新総勘定元帳では複数元帳アプローチと呼ばれています。会社コードごと、または国内の会計原則ごとに追加の元帳を定義する必要はありません。この目的では、非リーディング元帳を 1 つ用意するだけで十分です。

複数の元帳を使用する場合は(複数元帳アプローチ)、非リーディング元帳で異なる会計年度を定義することができます。

リーディング元帳は常に 1 つのみ存在します。標準システムでは、リーディング元帳の値のみが CO に転記されます。

複数元帳アプローチ以外に、**複数勘定アプローチ**もあります。このアプローチでは、さまざまな評価アプローチおよび評価がさまざまな勘定に転記されます。財務諸表を準備する場合、IAS などのためにどの勘定が関連し、どの勘定を評価する必要があるかが、各“財務諸表バージョン”に従って決定されます。

以下に、これら 2 つのアプローチで考慮する必要があるいくつかの点について簡単に示します。



複数勘定アプローチ	複数元帳アプローチ
各 GAAP に固有の勘定領域 → 複雑な勘定コード表構造	固有の勘定領域なし → 勘定コード表への変更なし
各 GAAP に少なくとも 1 つの未処分利益勘定	すべての GAAP に 1 つのみの未処分利益勘定
複雑な財務諸表定義	標準的な財務諸表定義
ローカル GAAP および国際的な GAAP で転記対象かどうかは勘定レベルで指定	ローカル GAAP および国際的な GAAP で転記対象かどうかは伝票レベルで指定
すべての評価アプローチを管理会計に転記可能	リーディング評価のみを管理会計に転記可能

新総勘定元帳におけるパラレル会計の表現では、  
複数勘定アプローチまたは複数元帳アプローチが使用されます。  
通常、これら 2 つのアプローチは、同等のものであると見なされます。

図 8: 複数勘定アプローチと複数元帳アプローチ



**シナリオ定義とは:**  
シナリオでは、(他のアプリケーションコンポーネントからの) 転記中に、(総勘定元帳ビューの) 元帳で更新される項目が定義されます。

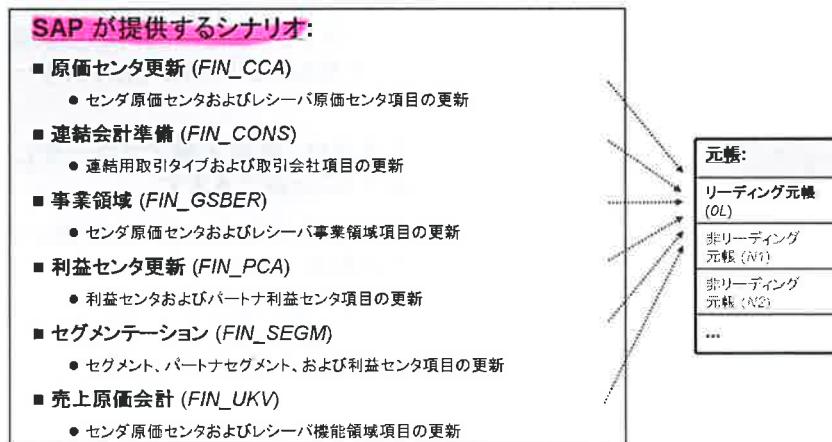


図 9: シナリオ - 定義と割当

シナリオによって更新される項目を使用して、セグメントレポートなどの、特定のビジネス状況をマッピングすることができます。

使用可能なシナリオは、カスタマイジングにあります。

独自のシナリオを定義することはできません。

提供されているシナリオは、カスタマイジングで元帳に割り当てます。

**重要:** 1つの元帳(リーディング元帳)に1つまたは複数のシナリオを割り当てることも、6つすべてのシナリオを一度に割り当てることもできます。

割り当てるシナリオ数は、どのような“切り口”または“業務要件”を総勘定元帳でマッピングするかにのみもとづいて決定します。

非リーディング元帳は、必ず定義する必要があるわけではありません。つまり、シナリオを非リーディング元帳に割り当てる必要はありません。**重要:** すべてのシナリオをいずれかの元帳に割り当てる必要はありません。

さまざまな会計原則に従って会計管理をマッピングする場合は、複数の非リーディング元帳を使用すると便利です。



## 演習問題 2: 新総勘定元帳の設定

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 新総勘定元帳の元帳の設定。新総勘定元帳におけるシナリオのコンセプトの意味、および非リーディング元帳の有効化方法について理解します。

### ビジネスシナリオ

#### タスク:

- カスタマイジング設定をチェックして、リーディング元帳の ID、および値の保存先となる集計テーブルを確認します。
- リーディング元帳 *OL* には、どのシナリオが割り当てられていますか。



ヒント: 演習問題の制御 - システム設定は変更しないでください。

- 次のステップでは、会社コード **GR##** に対して元帳 **L5** および **L6** が許可されているかどうかをチェックします。
- 非リーディング元帳 *L5* で、売上原価会計にもとづいて、セグメントレポートおよび損益計算書をマッピングします。この作業が可能であるかどうかを チェックします。

## 解答 2: 新総勘定元帳の設定

### タスク:

1. カスタマイジング設定をチェックして、リーディング元帳の ID、および値の保存先となる集計テーブルを確認します。
  - a) IMG: カスタマイジング → 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 定義: 総勘定元帳の元帳
  - b) → ID は 0L です。
  - c) → 集計テーブル名は FAGLFLEXT です。
2. リーディング元帳 0L には、どのシナリオが割り当てられていますか。



**ヒント:** 演習問題の制御 - システム設定は変更しないでください。

- a) IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 割当: シナリオおよびユーザ定義項目 -> 元帳
- b) 元帳 0L を選択します。ダイアログ構造で、“シナリオ”エントリをダブルクリックして選択します。以下のシナリオが表示されます。

FIN_CONS	連結処理準備
FIN_GSBER	事業領域
FIN_PCA	利益センタ更新
FIN_SEGM	セグメントレポート
FIN_UKV	売上原価会計

3. 次のステップでは、会社コード GR## に対して元帳 L5 および L6 が許可されているかどうかをチェックします。
  - a) IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 定義/有効化: 非リーディング元帳
  - b) 作業領域決定: エントリダイアログボックスで、非リーディング元帳 L5 を選択し、データを保存します。
  - c) 会社コード 1010 をコピーすると、会社コード GR## に対して元帳 L5 が有効化されます。
  - d) このチェックを元帳 L6 に対しても繰り返します。

次へ

4. 非リーディング元帳 L5 で、売上原価会計にもとづいて、セグメントレポートおよび損益計算書をマッピングします。この作業が可能であるかどうかを チェックします。
  - a) IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 割当: シナリオおよびユーザ定義項目 -> 元帳
  - b) 元帳 L5 を選択して、ダイアログ構造でシナリオエントリをダブルクリックします。
  - c) さまざまなシナリオが表示されますが、その中にセグメントレポートおよび売上原価会計があります。
  - d) 緑色の矢印を使用して、照会を終了します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 元帳およびシナリオという用語を使用した、新総勘定元帳の概要説明
- 新総勘定元帳の基本設定の説明
- 非リーディング元帳の有効化、およびシナリオを使用することによる特定のビジネス状況への非リーディング元帳の関連付け

## レッスン：バリアント原則

### レッスンの概要

SAP ERP システムにおけるバリアント原則の使用について、理論的な概要を示します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

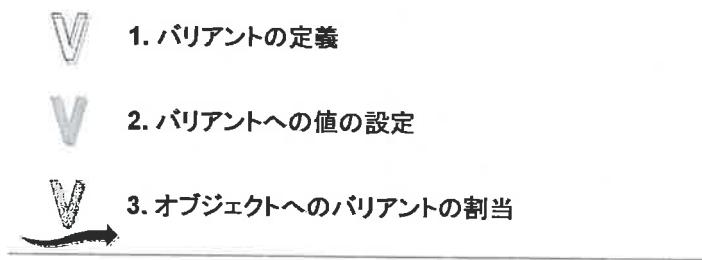
- バリアント原理の用途と利点の説明

### ビジネスシナリオ

カスタマは、複数の設定テーブルで使用され、システム設定を簡略化することができる原則が SAP ERP にあることを経験豊富なコンサルタントから聞きました。



バリアント原則は、SAP システムで特定のプロパティを 1 つ以上のオブジェクトに割り当てるために使用される、3 ステップの方法です。  
3 つのステップは以下のとおりです。



- バリアント原則は、以下のものに対して使用されます。

- 項目ステータス
- 会計期間
- 会計年度
- ...

図 10: バリアント原則

以下に、この原則をわかりやすく表す例を示します（会計年度バリアントの登録）。

- バリアントの定義: 会計年度バリアントは K4 です。
- バリアント K4 の値の定義: 会計年度 K4 のプロパティを定義します。
- SAP ERP オブジェクトへのバリアントの割当: この会計年度を使用するさまざまな会社コードに K4 を割り当てます。
- バリアントを使用する主な利点は、複数のビジネスオブジェクトに共通するプロパティの更新が容易になることです。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- バリエント原理の用途と利点の説明

## レッスン: 会計年度

### レッスンの概要

このレッスンでは、さまざまな会計年度バリアントの定義方法について説明します。



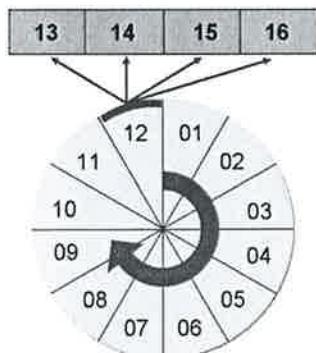
### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 会計年度バリアントの必要性と用途の説明
- さまざまな種類の会計年度バリアントの説明
- 各要件に合う会計年度バリアントの定義
- 会社コードへの会計年度バリアントの割当

### ビジネスシナリオ

この会社の会計年度は、カレンダ年に対応しています。会計管理責任者は、年次処理関連の転記のために4つの特別会計期間を必要としています。



- 会計年度は、以下のいずれかで定義することができます。
  - 年度非依存**
    - 期間の番号、開始日付、および終了日付は、すべての年度で同じになります。
  - 年度依存**
    - 期間は年度ごとに異なります。

図 11: 会計年度

会計取引を各期間に割り当てるには、会計年度とその会計期間を定義する必要があります。会計年度は、会社コードに割り当てるバリアントとして定義します。

会計年度バリアントには、通常会計期間と特別会計期間の定義が含まれています。特別会計期間は、期間ではなく“年次処理”のビジネスプロセスに割り当てられる転記で使用します。合計 16 の期間を定義できます。

会計期間は、転記日付から誘導されます。転記日付が最後の通常会計期間にある場合は、取引を特別会計期間の1つに転記することができます。

**例:** 上の図は、12の会計期間と4つの特別会計期間で構成される会計年度を示しています。転記日付が12番目の会計期間内にある場合、取引を4つの特別会計期間の1つに転記することができます。

標準会計年度バリアントは、システムに事前定義されており、テンプレートとして使用することができます。



**ヒント:** 会計年度バリアントでは、期間がオープンであるかクローズであるかは指定できません。このデータは、別のテーブルで管理されます。会計年度バリアントでは、会計期間の数と各期間の開始日および終了日だけが定義されます。

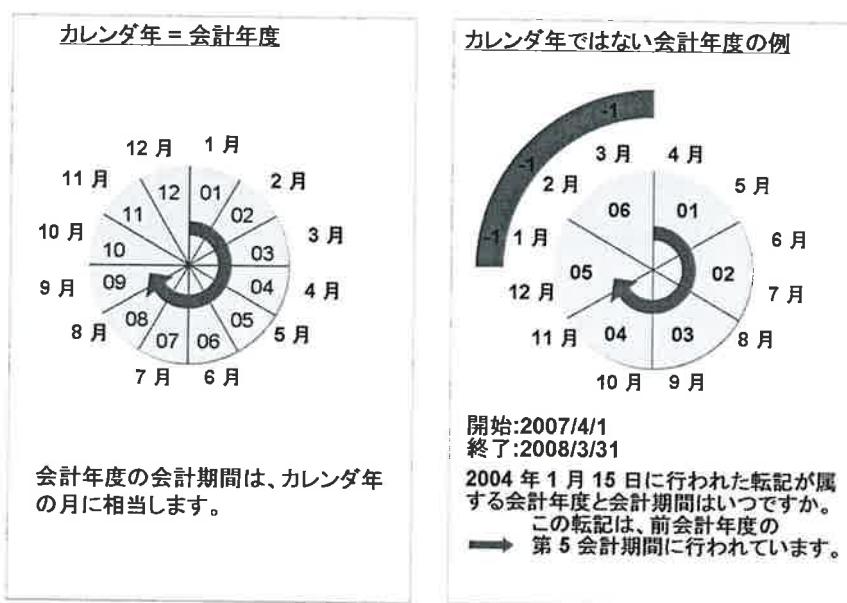


図 12: 年度非依存の会計年度バリアント

会計年度バリアントの各会計年度で、会計期間数と、会計期間の開始日と終了日が毎年同じ場合、このバリアントは年度非依存です。年度非依存の会計年度バリアントは、以下のいずれかとして定義することができます。

- カレンダ年
- 非カレンダ年

会計年度をカレンダ年として定義した場合、会計期間とカレンダの1年の月数が一致します。したがって、カレンダ年バリアントの会計期間数は12になります。

会計年度を**非カレンダ年**として定義した場合は、各期間に終了日を割り当てて、会計期間を定義する必要があります。非カレンダ年には、1から16までの会計期間を登録することができます。非カレンダ年の開始日が1月1日でない場合、前または翌会計年度に属する会計期間には、フラグ-1または+1を設定する必要があります。

上記右側の図は、6つの会計期間があり、4月に始まり3月に終わる非カレンダ年の例です。1月から3月までは前会計年度に属するため、フラグ-1を設定する必要があります。

会計年度がカレンダ年と異なり、会計期間はカレンダ月と一致する場合は、うるう年に備えて2月の最大日数を29日にします。

通常は、会計年度は年度非依存です。

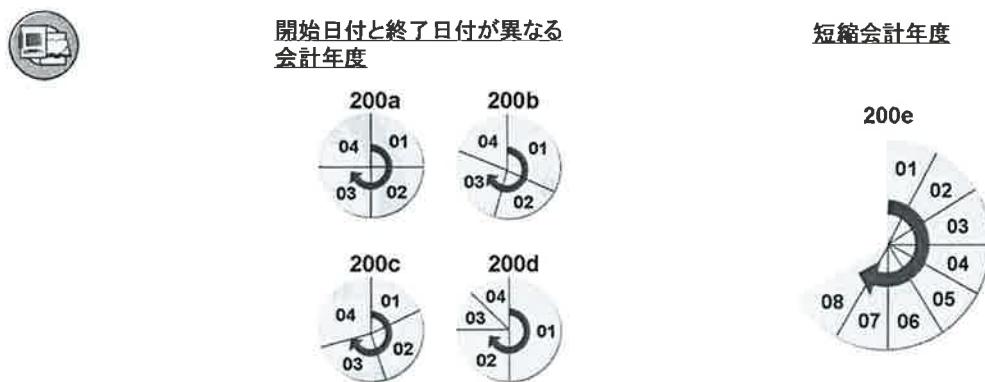


図 13: 年度依存の会計年度バリエント

以下のいずれかまたは両方の条件に該当する場合は、会計年度バリエントを**年度依存**として定義する必要があります。会計期間の開始日と終了日が会計年度によって異なる場合、または会計年度によって会計期間数が異なる場合です。

会計年度バリエントのすべての会計年度で会計期間の数が同じ場合には、年度ごとに異なる期間日付のみを定義します(左側の例を参照してください)。

会計年度バリエントに会計期間が少ない年度があるものは、**短縮会計年度**と呼ばれます(上図右の例を参照してください)。短縮会計年度は、通常の会計年度の終了前に決算処理を行う必要がある場合(たとえば、会計年度の開始日を変更する場合や会社が売却された場合など)に必要になります。短縮会計年度とその会計期間数は、期間日付を定義する前に定義する必要があります。短縮会計年度には、他の会計年度より少ない会計期間数しか割り当てられません。

## 演習問題 3: 会計年度

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- カレンダ年ベース会計年度バリアントの登録と会社コードへの割当
- 四半期ベース会計年度バリアントの登録

### ビジネスシナリオ

この会社の会計年度は、カレンダ年に対応しています。会計管理責任者は、年次処理関連の転記に4つの特別会計期間を必要としています。

#### タスク:

会計年度バリアントのプロパティを確認します。会計年度バリアントを定義します。

- 事前定義された会計年度バリアントのうち、以下に該当するものはどれですか。

カレンダ年	
年度依存	

- 通常、年度依存の会計年度バリアントはどのような目的で使用しますか。

---



---



---



---

- 会社コードに、12の会計期間と4つの特別会計期間のあるカレンダ年バリアント##を登録します。



**ヒント:** 既存のデータに01、02などから始まるものがあるため、自分のグループ番号に30を加算してください。たとえば、グループ番号が02の場合は、02に30を加算して32を会計年度バリアントとして入力します。

- 登録した会計年度バリアントを会社コードGR##に割り当てます。

次へ

5. 4つの会計期間と1つの特別会計期間で成り立つ会計年度の会計年度  
バリエント##+60を登録します。会計期間1つの長さは3か月です。会  
計年度は、4月から3月までとします。

## 解答 3: 会計年度

### タスク:

会計年度バリアントのプロパティを確認します。会計年度バリアントを定義します。

- 事前定義された会計年度バリアントのうち、以下に該当するものはどれですか。

カレンダ年	01、K0、K1、K2、K3、K4
年度依存	AA、AM、R1、UL、WK

- 通常、年度依存の会計年度バリアントはどのような目的で使用しますか。

**解答:** 年度依存の会計年度バリアントは、以下の場合に使用されます。

- 会計期間の開始日と終了日が年度によって変わる場合
- 会計期間の数が、他の会計年度より少ない会計年度がある場合（短縮会計年度）

次へ

3. 会社コードに、12 の会計期間と4 つの特別会計期間のあるカレンダ年バリアント## を登録します。



**ヒント:** 既存のデータに 01、02 などから始まるものがあるため、自分のグループ番号に 30 を加算してください。たとえば、グループ番号が 02 の場合は、02 に 30 を加算して 32 を会計年度バリアントとして入力します。

- a) カレンダ年にもとづく会計年度バリアントを登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 更新: 会計年度バリアント(短縮会計年度更新)

編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
FV	## + 30



**ヒント:** 既存のデータに 01、02 などから始まるものがあるため、自分のグループ番号に 30 を加算してください。たとえば、グループ番号が 02 の場合は、02 に 30 を加算して 32 を会計年度バリアントとして入力します。

項目名またはデータ型	値
テキスト	12 会計期間カレンダ年 ##
カレンダ年	<input checked="" type="checkbox"/>
会計期間数	12
特別会計期間数	4

"保存" を選択します。

次へ

4. 登録した会計年度バリアントを会社コード GR## に割り当てます。

- a) 会計年度バリアントを会社コードに割り当てます。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 割当: 会社コード-> 会計年度バリアント

メッセージが表示されたら、“Enter”で確認します。

項目名またはデータ型	値
会計年度バリアント	## + 30

“保存”を選択します。

次へ

5. 4つの会計期間と1つの特別会計期間で成り立つ会計年度の会計年度バリアント##+60を登録します。会計期間1つの長さは3か月です。会計年度は、4月から3月までとします。
- a) 4つの通常会計期間と1つの特別会計期間で成り立つ会計年度バリアントを定義します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 更新: 会計年度バリアント(短縮会計年度更新)

編集 → 新規エントリ(または新規エントリ押ボタン)

項目名またはデータ型	値
FV	## + 60
テキスト	4会計期間 - グループ ##
通常会計期間数	4
特別会計期間数	1

“保存”を選択します。

緑色の矢印を選択して、概要画面に戻ります。

期間日付を定義します。

会計年度バリアント##+60を選択します。

ダイアログ構造で、"期間"をダブルクリックします。

編集 → 新規エントリ(または新規エントリ押ボタン)

月	日	期間	年シフト
03	31	4	-1
06	30	1	0
09	30	2	0
12	31	3	0

“保存”を選択します。

→ 注記: カレンダ年ベースの会計年度バリアントを登録し、それを会社コードに割り当てました。

また、カレンダに依存しない会計年度バリアントも登録しました。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 会計年度バリアントの必要性と用途の説明
- さまざまな種類の会計年度バリアントの説明
- 各要件に合う会計年度バリアントの定義
- 会社コードへの会計年度バリアントの割当

## レッスン: 通貨

### レッスンの概要

このレッスンでは、この通貨に関する設定について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP ERP システムでの通貨の定義
- さまざまな換算レートタイプの意味の説明
- 換算レートの更新
- 換算レート更新のための各種ツールの使用
- 換算レート更新のオプションの説明

### ビジネスシナリオ

会社は、複数の国の得意先や仕入先と取引を行っています。経理責任者は、システム内の換算レートを最新の状態に保つために業務が大幅に増加することを懸念しています。あなたは、SAP ERP に備えられているツールを使用すると、予想よりも大幅に作業量が少なく済むことを説明する必要があります。



#### 通貨コードの例

\$ → USD

£ → GBP

¥ → JPY

#### 換算レートタイプ:

- 取得時レート
- 電信売買売値
- 電信売買買値
- 平均レート
- 特定基準日のレート
- ....

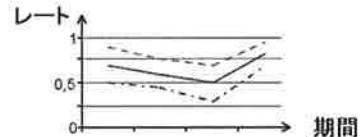


図 14: 通貨と換算レートタイプ

通貨コードは、使用するすべての通貨に対して割り当てる必要があります。ほとんどの通貨は、SAP システムで標準国際通貨コードを使用してすでに定義されています。通貨コードごとに有効日付を設定することができます。

**換算レートタイプ**を使用すると、任意の通貨 2 つの組合せに対して複数の換算レートを更新することができます。これらの換算レートは、評価、換算、計画などのさまざまな目的で使用することができます。



$$\frac{\$}{\text{£}} \longrightarrow \frac{1}{1}$$

$$\frac{\$}{¥} \longrightarrow \frac{1}{100}$$

図 15: 換算係数

換算係数を使用して、換算レートタイプと通貨の組合せごとに通貨間の関係を定義する必要があります。この処理は、通常は 1 度だけ実行します。

インフレーションによって通貨間の関係が大幅に変わることの可能性があるため、換算係数は期間基準で更新することができます。

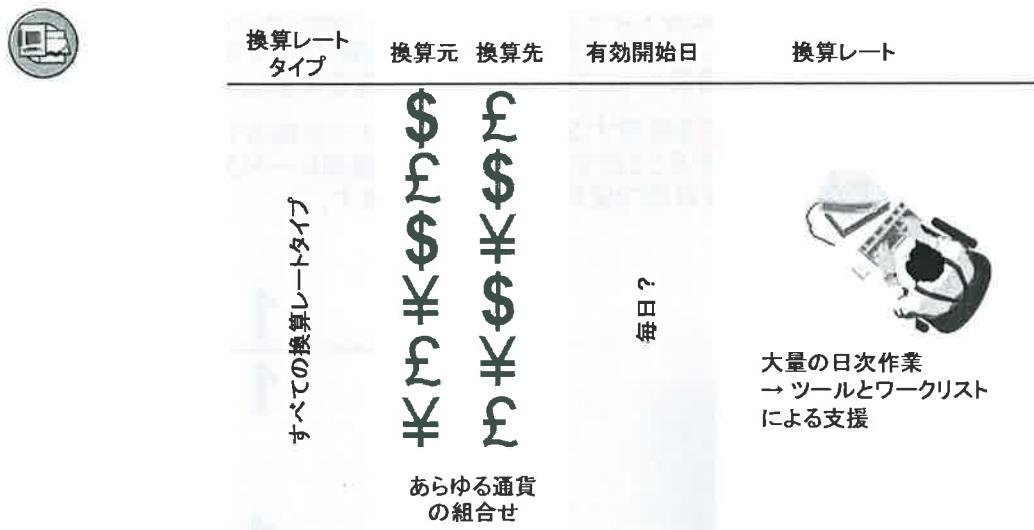


図 16: 換算レートの更新

換算レートの更新は、常時必要な作業です。

更新の負担を軽減するために、SAP ERP ではいくつかのツールを提供しています。換算レートタイプごとに、以下のいずれかのツールを使用することができます。

- 逆算(使用可能なツールの中でもっとも古いもので、現在はほとんど使われていません)
  - 基準通貨
  - 換算レートスプレッド



**ヒント:** 換算レートタイプごとに、これらのツールのいずれか1つのみを使用することができます。ただし、異なる換算レートタイプには異なるツールを使用することができます。

外部市場データをファイル書式で転送できるレポート RFTBFF00 を使用すると、Multicash 書式で入力ファイルをアップロードすることによって換算レートテーブルを自動更新することができます。

また、レポート RFTBDF07 および RFTBDF14 を使用して換算レートを転送することもできます。外部データ取込で換算レートのリアルタイム更新がサポートされている場合には、データはデータ取込インターフェースを使用してリアルタイムで転送されます。リモートファンクションコール (RFC) により、外部システムと SAP システム間の直接接続が確立されます。ファイル入力書式、データプロバイダ、ファイル構造などに関する追加情報については、このレポートの文書を参照してください。

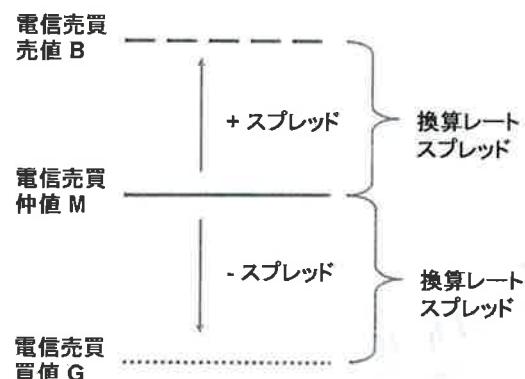


図 17: 換算レートスプレッド

電信売買買値/電信売買賣値と**電信売買仲値**との間の換算レートスプレッドは、通常は一定です。換算レートタイプの換算レートスプレッドをシステムに入力すれば、電信売買買値/電信売買賣値は電信売買仲値に換算レートスプレッドを加算/減算して算出できるため、電信売買仲値だけを更新すればよくなります。

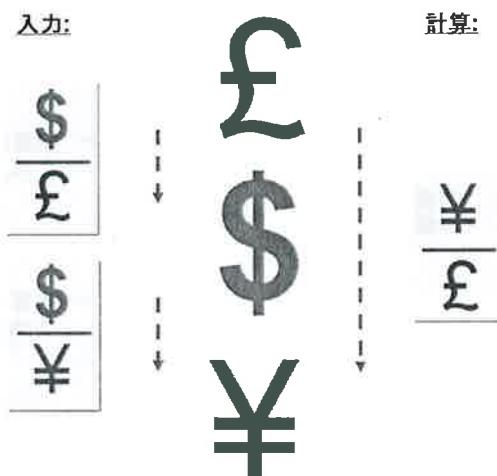
基準通貨と換算レートスプレッドの組合せ:

非常に効率的な換算レートツールの組合せは、以下のとおりです。

- 電信売買仲値 (M) に基準通貨を使用
- 換算レートスプレッドを使用して、電信売買買値と電信売買賣値 (B と G) を計算



入力:



計算:

図 18: 基準通貨

換算レートタイプに基準通貨を割り当てることができます。これにより、その他の通貨の換算レートは、この基準通貨に対して更新するだけでよくなります。2つの外貨間の換算は基準通貨を介して行われます。つまり、2つの換算レートを組み合わせて換算されます。

リリース 4.0A までは、換算レートタイプごとに 1 つの基準通貨しか使用できませんでした。法的要件によっては、換算する通貨に応じて複数の基準通貨を使用しなければならない場合もあります。



直接呼び値

$$\$ \rightarrow €$$

1

1.07021

間接呼び値

$$€ \rightarrow \$$$

1

0.93439

国内通貨 = ユーロ

図 19: 換算レートの直接/間接呼び値

SAP ERP の全アプリケーションと全機能で、直接呼び値と間接呼び値を使用して換算レートが処理されます。換算レートの定義や通信に、直接呼び値と間接呼び値のいずれを使用するかは、市場の標準や個別の取引に応じて決定します。間接呼び値の使用はアプリケーションにも国にも依存せず、換算レートが使用されるすべてのコンポーネントに影響します。

直接呼び値では、1 単位の外貨の国内通貨額が提示されるのに対し、間接呼び値では、1 単位の国内通貨の外貨額が提示されます。

例: 国内通貨 = EUR、外貨 = USD

- 直接呼び値: 1 USD = 1.2663 EUR
- 外貨 USD の 1 単位が、上記の単位数の国内通貨に相当します。
- 間接呼び値: 1 EUR = 0.7897 USD
- 国内通貨 EUR の 1 単位に対して、上記の単位数の外貨を受け取ります。

通貨の組合せごとに、換算レートの標準表記として直接呼び値か間接呼び値のいずれを使用するかを定義することができます。ここで設定した標準呼び値以外の呼び値で換算レートを入力すると、不一致を示すため換算レートが強調表示されます。

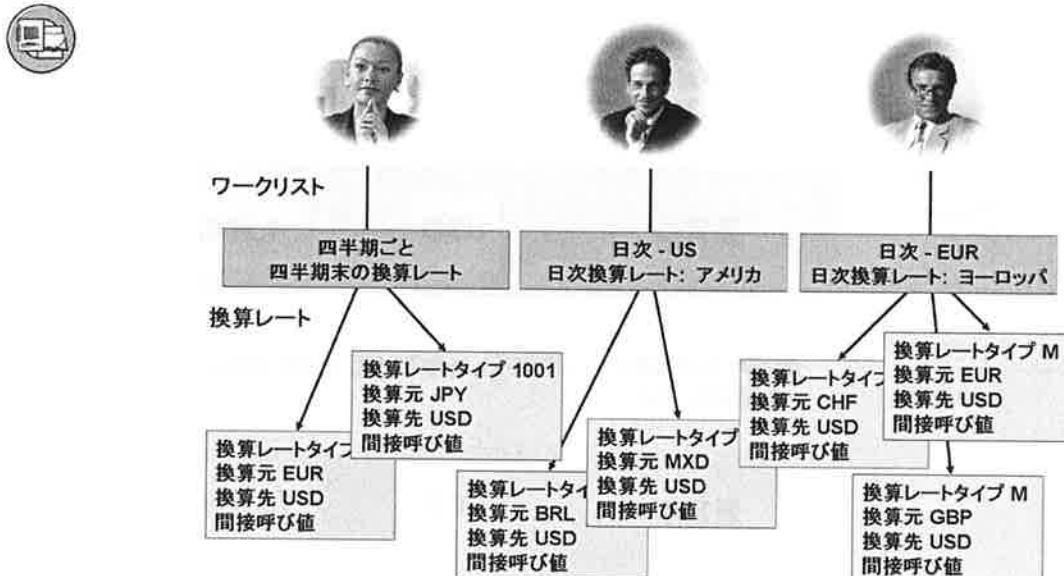


図 20: 換算レート更新のワーキリスト

多くの会社では、複数の従業員が換算レートテーブル TCURR の更新を担当しています。この場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 従業員が(無意識または知らずに)換算レートを不正に更新してしまいます。
- 従業員が間違った呼び値で換算レートを更新してしまいます(直接の代わりに間接、またはこの逆)。
- テーブルが非常に大きいため、更新に非常に時間がかかります(スクロールが必要です)。
- テーブル TCURR は、複数のユーザが同時に更新することができません。

リリース R/3 Enterprise では、**ワークリスト**を定義し、トランザクション TCURMNT を使用して換算レートを更新することができます。これには、以下の利点があります。

- 関連する換算レートのみを更新することができます。さらに、ワーカリストに対する権限を割り当てることができます。
- 関連する呼び値のみを更新することができます。
- ワーカリストが小さくなり、より明確になります。
- 異なるワーカリストの並列処理が可能です。



**直接呼び値換算レートを使用した取引 (国内通貨 EUR): 1  
USD = 1.2663 EUR**

通貨/レート

USD

1.2663

**間接呼び値換算レートを使用した取引 (国内通貨 EUR): 1 EUR  
= 0.93439 USD**

通貨/レート

USD

/0.7897

**図 21: 異なる呼び値による換算レートの設計**

換算レートは、直接呼び値または間接呼び値で入力することができます。2つの接頭辞を登録し、これを使用して入力または照会中に直接呼び値と間接呼び値の換算レートを区別することができます。接頭辞を入力しない場合は、以下の標準設定が有効になります。

- (空白、接頭辞なし): 直接呼び値換算レート**
- “/”: 間接呼び値換算レート**

1. シナリオ：主に直接呼び値を使用し、間接呼び値をほとんど使用しない場合は、標準設定を使用します。この場合は、接頭辞なしで直接呼び値の換算レートを入力することができます。

2. シナリオ：直接呼び値だけでなく、間接呼び値も頻繁に使用する場合は、たとえば以下のように両方に対して接頭辞を定義する必要があります。

- 直接呼び値に“\*”を、間接呼び値に“/”を定義します。
- このように設定した場合、接頭辞なしで換算レートを入力しようとするとエラーメッセージが表示されます。このため、ユーザはどちらの呼び値が適切かを検討し、有効な接頭辞を付けて換算レートを入力します。

3. シナリオ：会社でもっとも広く使用される表記が間接呼び値である場合は、以下のように設定することができます。

- 直接呼び値に“\*”を、間接呼び値に“”(空白)を定義します。
- この設定の場合、間接呼び値の換算レートは接頭辞なしで入力できますが、使用頻度の低い直接呼び値の換算レートの入力時は接頭辞を付ける必要があります。

外貨換算に関する FAQ の概要については、SAP ノート 783877 を参照してください。



## 演習問題 4: 通貨

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- SAP ERP での換算レート更新に関する知識のチェック

### ビジネスシナリオ

会社は、複数の国の得意先や仕入先と取引を行っています。経理責任者は、システム内の換算レートを最新の状態に保つために業務が大幅に増加することを懸念しています。SAP ERP に備えられているツールを使用すると、予想よりも大幅に作業量が少なく済むことを説明する必要があります。

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

- 換算レート更新ツールの名称を挙げてください。

---

---

---

### タスク 2:

次の質間に答えてください。

- SAP ERP では、                                  を使用して通貨を定義します。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

**タスク 3:**

次の質間に答えてください。

1. 一般に使用される換算レートタイプ 3 つと、その用途を挙げてください。

---

---

---

**タスク 4:**

次の質間に答えてください。

1. 基準通貨を定義するための IMG パスを挙げてください。

---

---

---

## 解答 4: 通貨

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 換算レート更新ツールの名称を挙げてください。

解答:

- 逆算
- 基準通貨
- 換算レートスプレッド

### タスク 2:

次の質間に答えてください。

1. SAP ERP では、通貨コードを使用して通貨を定義します。

解答: 通貨コード

### タスク 3:

次の質間に答えてください。

1. 一般に使用される換算レートタイプ 3 つと、その用途を挙げてください。

解答:

- M: 転記および消込の平均レート
- G: 電信売買買値
- B: 電信売買売値

### タスク 4:

次の質間に答えてください。

1. 基準通貨を定義するための IMG パスを挙げてください。

解答: SAP NetWeaver → 一般設定 → 通貨 → チェック: 換算レートタイプ<sup>\*</sup>



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP ERP システムでの通貨の定義
- さまざまな換算レートタイプの意味の説明
- 換算レートの更新
- 換算レート更新のための各種ツールの使用
- 換算レート更新のオプションの説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP ERP Financials 組織ユニットを使用した会社の会計管理構造のマッピング
- 財務会計の基本的な組織オブジェクトの意味の説明
- 独自の会社コードおよび会社の登録
- 元帳およびシナリオという用語を使用した、新総勘定元帳の概要説明
- 新総勘定元帳の基本設定の説明
- 非リーディング元帳の有効化、およびシナリオを使用することによる特定のビジネス状況への非リーディング元帳の関連付け
- バリアント原理の用途と利点の説明
- 会計年度バリアントの必要性と用途の説明
- さまざまな種類の会計年度バリアントの説明
- 各要件に合う会計年度バリアントの定義
- 会社コードへの会計年度バリアントの割当
- SAP ERP システムでの通貨の定義
- さまざまな換算レートタイプの意味の説明
- 換算レートの更新
- 換算レート更新のための各種ツールの使用
- 換算レート更新のオプションの説明



# 2 章

## マスタデータ

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 勘定コード表の定義と使用
- G/L 勘定の構造の説明
- G/L 勘定の書式の管理
- さまざまな種類の G/L 勘定の列挙と説明
- G/L 勘定の登録、更新、管理
- 同時に複数の G/L 勘定を変更する方法の説明
- グループ勘定コード表と国勘定コード表の利点と欠点の説明
- 利益セントおよびセグメントという用語の詳細な説明
- セグメントの誘導オプションの説明
- 得意先/仕入先コードの構造の説明
- G/L 勘定と得意先/仕入先コードの類似点と相違点の説明
- 得意先/仕入先コードの管理と更新
- 得意先コードと仕入先コード間の関係の説明

### 章の内容

レッスン: G/L 勘定	60
演習問題 5: G/L 勘定	81
レッスン: 利益セントとセグメント	91
演習問題 6: 利益セントとセグメント	95
レッスン: 得意先/仕入先コード	101
演習問題 7: 得意先/仕入先コード	117

## レッスン: G/L 勘定

### レッスンの概要

G/L 勘定のマスタレコードについて学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 勘定コード表の定義と使用
- G/L 勘定の構造の説明
- G/L 勘定の書式の管理
- さまざまな種類の G/L 勘定の列挙と説明
- G/L 勘定の登録、更新、管理
- 同時に複数の G/L 勘定を変更する方法の説明
- グループ勘定コード表と国勘定コード表の利点と欠点の説明

### ビジネスシナリオ

会計管理責任者は、G/L 勘定の勘定コード表と会社コードの設定を会社コード 1000 からコピーできると判断しました。しかし、会計管理部門は、承認済の経費と支払を処理するために追加の G/L 勘定を必要としています。費用の勘定コードは、専用の番号範囲に属していなければなりません。



### 勘定コード表を登録して使用するための 3 つのステップ (3 項目)

- 勘定コード表の定義
- 勘定コード表の属性の定義
- 勘定コード表の会社コードへの割当

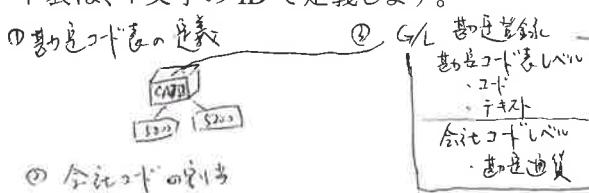


図 22: 勘定コード表

勘定コード表、勘定コードを登録します。  
（おはじき）

勘定コード表は、G/L 勘定の構造や基本情報を含むメリアントです。

勘定コード表は、4 文字の ID で定義します。



言語、G/L 勘定コードの長さ、グループ勘定コード表、項目ステータスなど、勘定コード表の個別設定を定義します。

該当する構造にもとづいて勘定を設定するすべての会社コードに対して、この勘定コード表を割り当てます。



#### 勘定コード表の定義には、次のものが含まれます。

- 勘定コード表キー

- テキスト

#### 一般仕様

- 更新言語

- G/L 勘定コードの長さ

#### 管理会計統合

- 原価要素のマニュアルまたは自動登録

#### 連結会計

- グループ勘定コード表 図 41

#### ステータス

会計年度  
をもつて

- "ロック" フラグ

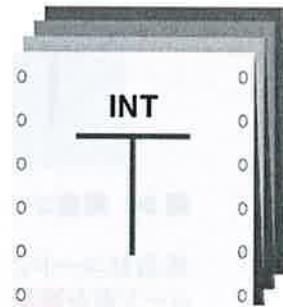


図 23: 勘定コード表の定義

更新言語は、勘定テキストの更新に使用する言語です。

勘定コードの長さは、1 から 10 桁の間で定義します。

G/L 勘定と原価要素の統合により、勘定コードマスタレコードの更新時に原価要素マスタレコードをどの程度まで更新するかを制御することができます。原価要素はマニュアルで更新できますが、自動的に更新するオプションもあります。新しい G/L 勘定を保存すると、対応する原価要素が自動的に登録されます。ただし、これは原価要素タイプの初期値がその原価要素に対して定義されていることが前提条件になります。初期値が設定されていない場合、システムでは原価要素を登録しないと想定されるためです。

各 G/L 勘定にグループ勘定コードを割り当てることができます。この勘定コードは、会社コードごとに異なる勘定コード表を使用する場合の会社コードをまたがるレポートで使用します。勘定コード表にグループ勘定コード表を入力した場合、G/L 勘定定義の該当項目にグループ勘定コードの入力が必要となり、入力したグループ勘定コードがそのグループ勘定コード表に存在するかどうかがチェックされます。

未完成の勘定コード表をロックして、完成するまで会社コードでこの勘定コード表が使用されないようにすることができます。

勘定コード表に G/L 勘定を登録すると、レポート RFSKPL00 を実行して、情報取得や文書作成に使用することができます。これを使用して、勘定コードマスターデータを照会したり、G/L 勘定一覧を印刷したりすることができます。

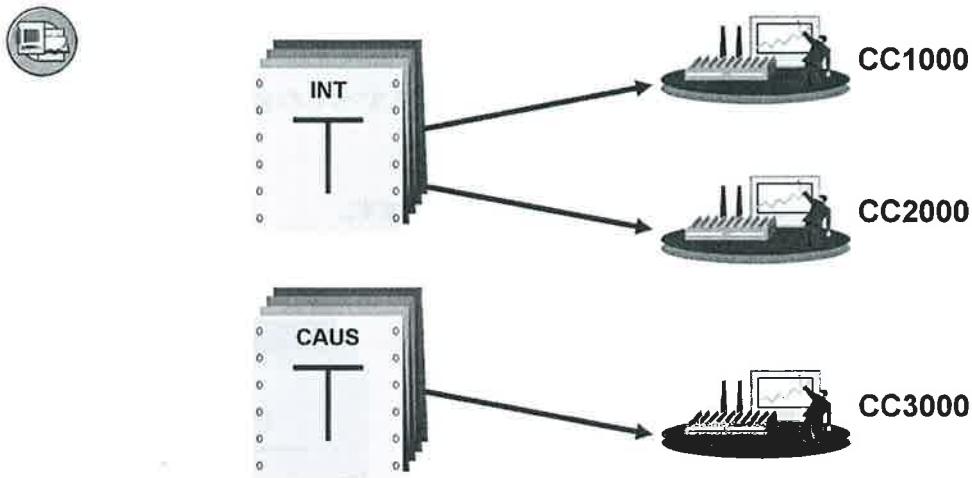


図 24: 勘定コード表の割当

各会社コードに、勘定コード表が割り当てられる必要があります。**1つ**勘定コード表を**複数**の会社コードに割り当てるすることができます(バリエント原則)。

管理会計コンポーネントと財務会計コンポーネントでは、同じ勘定コード表が使用されます。会社コードをまたがった管理会計を行う会社コードには、すべて同じ勘定コード表を割り当てる必要があります。上の例では、会社コード 1000 と 2000 を使用して会社コードをまたがった管理会計を行うことはできますが、会社コード 2000 と 3000 を使用して行うことはできません。

レポート RFSKVZ00 を使用すると、勘定コード表固有のデータと会社コード固有のデータを含む G/L 勘定一覧を照会することができます。

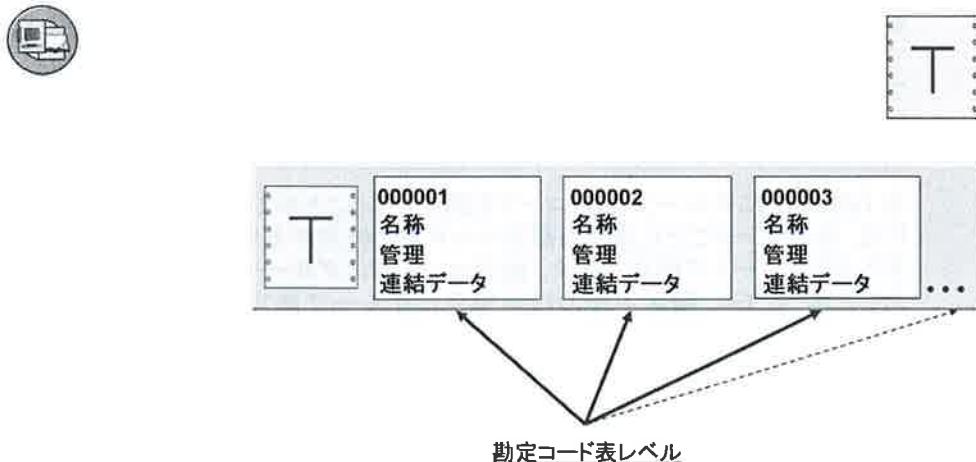


図 25: 勘定コード表レベル

勘定コード表には、勘定に関する基本的な情報が記載されます。勘定の情報は、**勘定コード表レベル**にまとめられます。

勘定コード表レベルには、以下のものが含まれています。

- 勘定コード
- 勘定名 (テキスト(短)またはテキスト(長))
- 管理項目 (次の図を参照)
- 連結項目

勘定コード表を他の言語に翻訳して、マスタデータの照会や転記の際に適切なログオン言語で勘定名を表示することができます。勘定コード表が適切なログオン言語に翻訳されていない場合は、勘定名はマスタ言語で表示されます。

1つの勘定コード表レベルに対して、内容の異なる複数のテキスト情報を割り当てることができます。

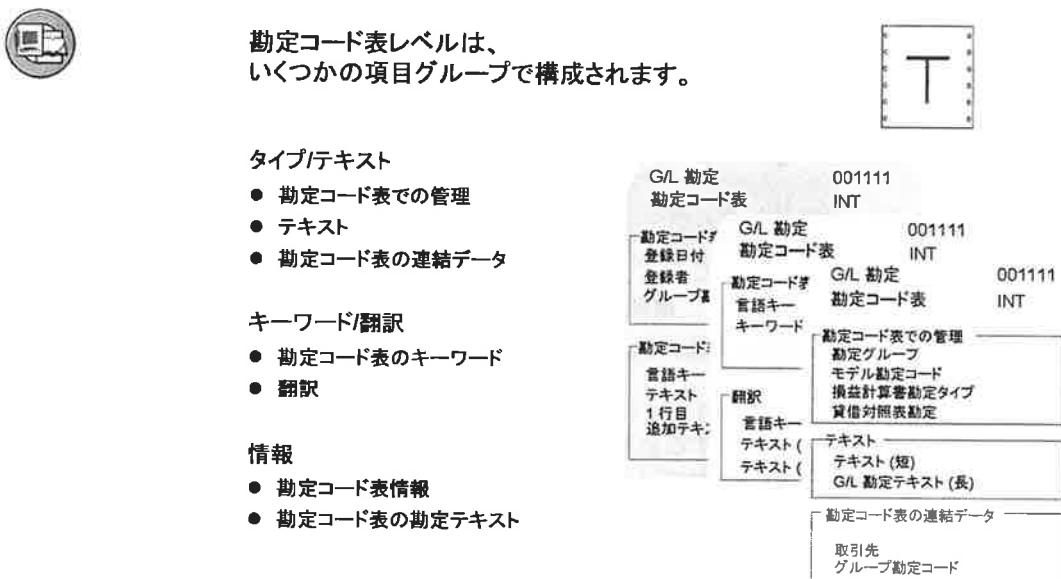


図 26: 勘定コード表レベルの項目

G/L 勘定の勘定コード表レベルに入力した情報は、すべての会社コードに適用されます。

この情報は 1 度だけ入力します。勘定コードに会社コードの情報を入力する際には、勘定コード表レベルからの情報が自動的に呼び出されるため、同じ情報を何度も入力する必要はありません。

勘定コード表レベルに入力したテキスト情報は、テキスト ID と言語によって管理されます。レポート“勘定割当マニュアル”(RFSKTH00)を使用して、テキスト情報を照会することができます。

キーワードを使用して勘定コードを検索することができます。

勘定コードマスタデータの個別処理に応じて、タブページのレイアウトを定義または変更することができます。以下のものを定義することができます。

- ・ タブページの数
- ・ タブページのタイトル
- ・ 必要な項目グループと、そのタブページ上における位置
- ・ 共通処理、勘定コード表固有領域での処理、および会社コード固有領域での処理で使用するレイアウトをそれぞれ選択することができます。標準システムには、これらの編集機能用のレイアウトが含まれています（これらの名称は SAP で始まります）。これらのレイアウトをコピーして要件に合わせて調整し、勘定コード表または勘定グループに割り当てることができます。

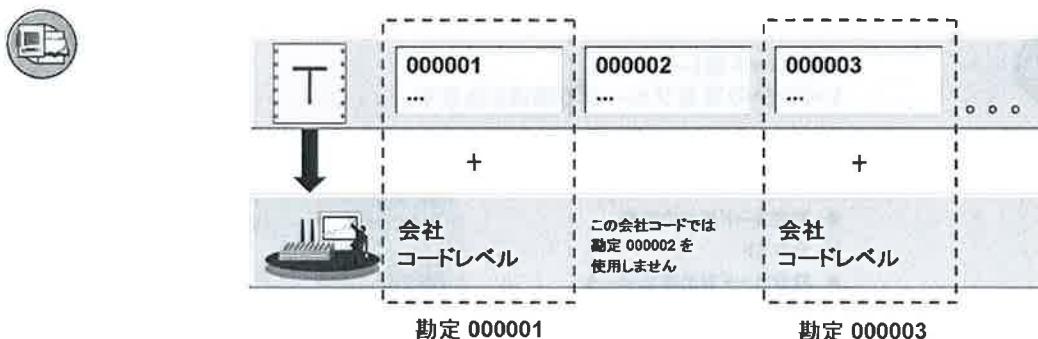


図 27: 会社コードレベル

会社コードに割り当てられた勘定コード表の勘定を使用するには、会社コードレベルを登録する必要があります。この会社コードレベルが勘定コード表レベルに追加されて 1 つの勘定を構成します。

会社コードレベルには、その会社コードのみに関する情報が含まれています。この情報によって、会計伝票の入力と会計データの管理方法を制御します。

“会社コードレベル”の図では、勘定 000002 はこの会社コードでは使用されませんが、グループ内の別の会社コードでは使用される可能性があります。このような勘定の例として、図の会社コードがビジネスパートナを持たない国の通貨で管理される外貨貸借対照表勘定があります。グループ内の別の会社コードがこの国にビジネスパートナを持っている場合、その会社コードではこの勘定が使用されます。

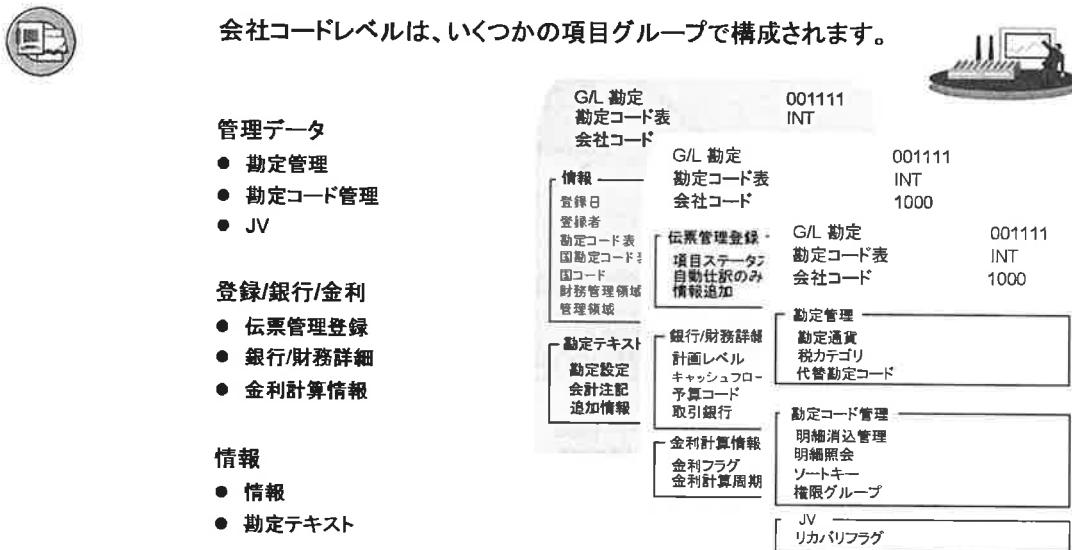


図 28: 会社コードレベルの項目

同じ G/L 勘定でも、会社コードレベルは会社コードの要件に応じて変えることができます。たとえば、特定の会社コードに対して“税カテゴリ”区分を設定することで、費用勘定の使用時に税を含めることができます。他の会社コードに対しては、この区分を設定しなくてもかまいません。

各会社コードに関連する情報を定義します。

- 通貨
- 税
- 統制勘定
- 明細照会
- ソートキー
- 項目ステータスグループ
- 取引銀行
- 金利計算情報

勘定コード表レベルの図で説明したように、テキストはテキスト ID と言語によって管理されます。レポート“マニュアル勘定割当”を使用して、テキストを照会することができます。

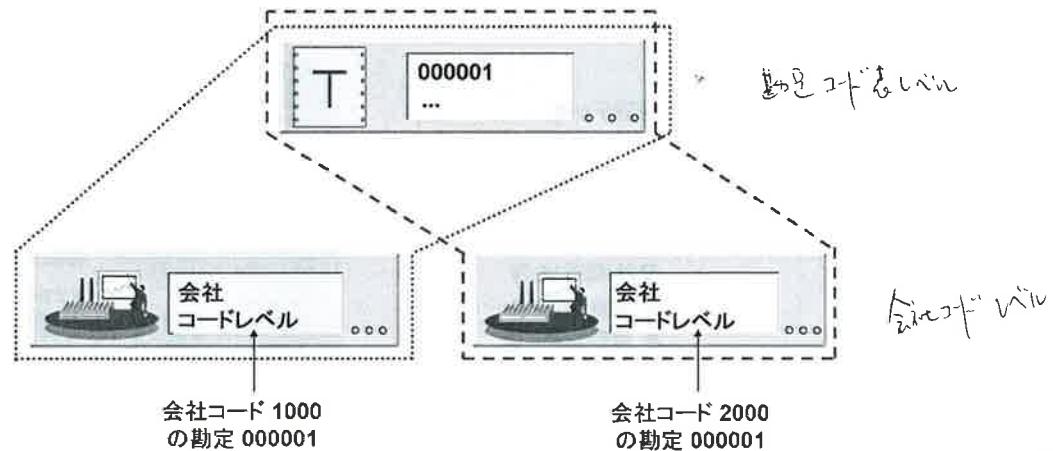


図 29: 1 つの勘定コード表に複数の会社コード

割り当てられた勘定コード表の勘定を使用する会社コードごとに、それぞれ独自の会社コードレベルデータを登録する必要があります。勘定の番号と名称は勘定コード表レベルで更新されるため、割り当てられたすべての会社コードで勘定の名称と番号が同じになります。

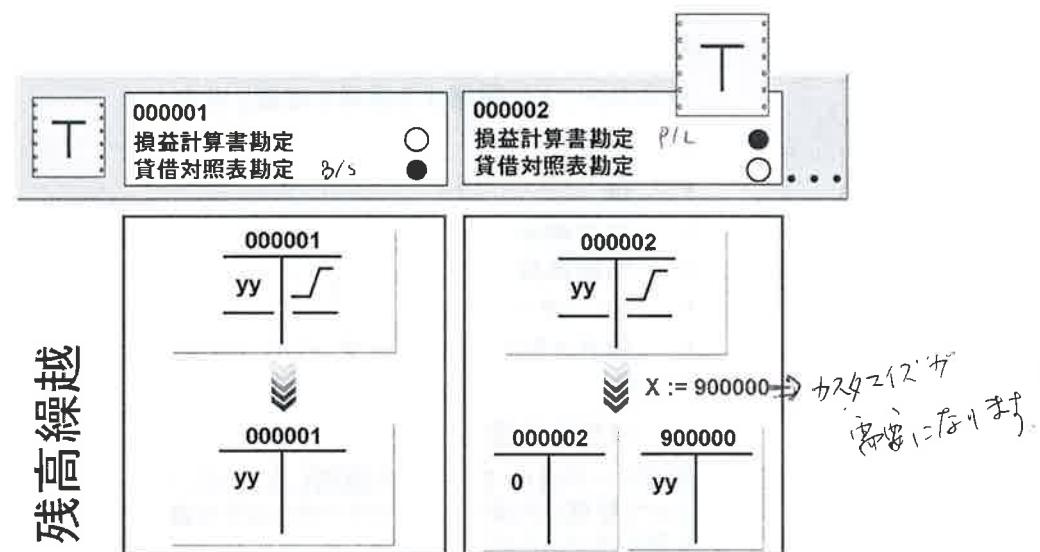


図 30: 貸借対照表勘定と損益計算書勘定

**勘定コード表レベル**で、その勘定が**貸借対照表**勘定または**損益計算書**勘定のいずれであるかを指定する必要があります。

この 2 種類の勘定は、決算処理での扱いが異なります。

- 貸借対照表勘定の場合、**残高は同じ勘定に繰り越されます**。
- 損益計算書勘定の場合、**残高は未処分利益勘定に繰り越され、損益計算書勘定の残高はゼロになります**。残高が繰り越される勘定には、キー (“X”など) が割り当てられます。このキーは、勘定コード表レベルの項目 “損益計算書勘定”に入力します。

カスタマイジングで、ユーザが未処分利益勘定を定義すると、G/L マスタレコードの登録時にこの未処分利益勘定が費用勘定に割り当てられます。未処分利益勘定が 1 つしかない場合は、このカスタマイジングで定義された勘定が自動的に使用されます。未処分利益勘定が複数存在する場合は、マスタレコードの登録時に、各損益計算書勘定に対して適切な未処分利益勘定を選択することができます。

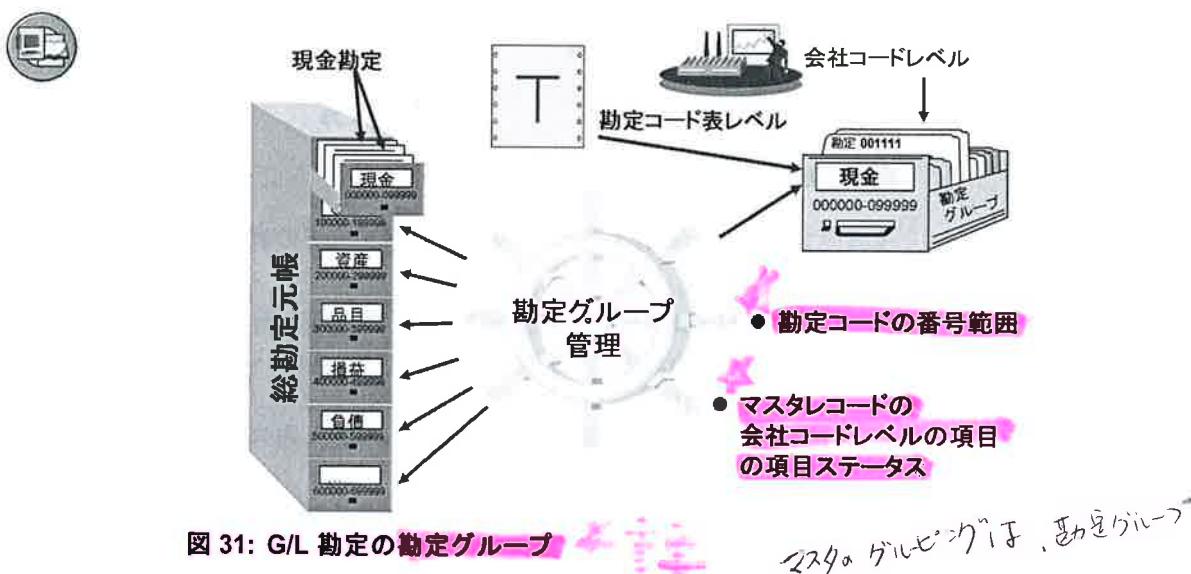


図 31: G/L 勘定の勘定グループ

勘定コード表にはさまざまな種類の勘定が含まれるため、これらをさまざまな勘定グループにまとめることができます。通常、**1つの勘定グループには、総勘定元帳内の同じ役割の勘定 (現金勘定、品目勘定、資産勘定、損益計算書勘定など) がまとめられます**。

番号範囲を勘定グループに割り当てるとき、同じ種類の勘定を同じ番号範囲内に登録することができます。勘定コードマスタレコードの番号範囲は、重複させることもできます。

勘定グループは、勘定コード表レベルに入力する必要があります。この勘定グループによって、G/L 勘定の会社コードレベルの表示方法が制御されます。たとえば、すべての現預金勘定で、明細照会ができるように設定します。この場合、カスタマイジングで、“明細照会”が必須入力になるように“現金勘定”勘定グループの項目ステータスを変更します。

SAP ERP には、事前定義済の勘定グループが用意されています。

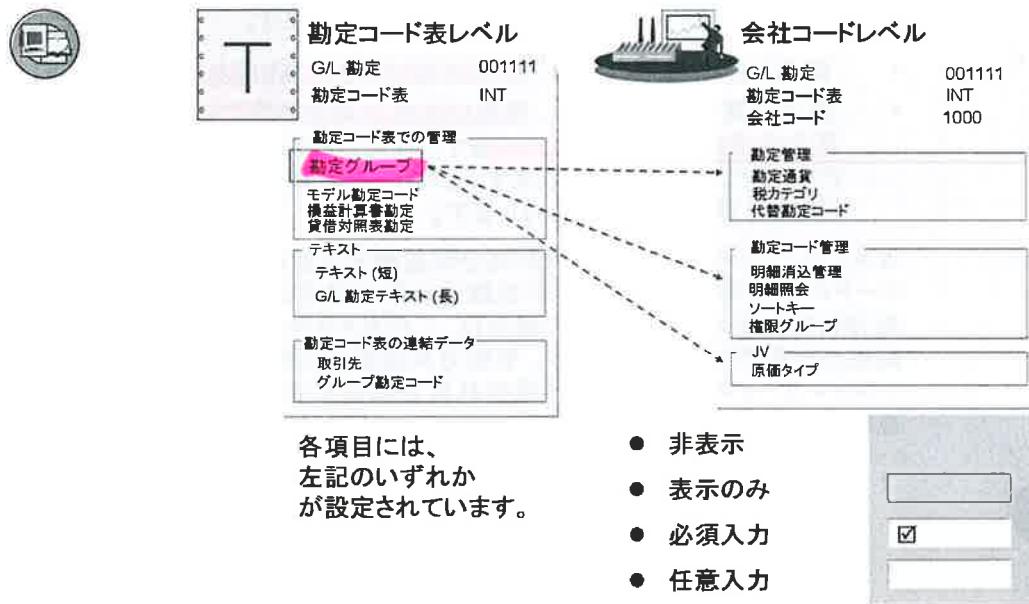


図 32: 項目ステータス

項目ステータスを使用すると、勘定のマスタデータの表示と更新を制御することができます。

- 使用しない項目には、**非表示**ステータスを割り当てることができます。
- (変更モードの場合でも) **値を変更してはならない**項目には、**表示のみ**ステータスを割り当てることができます。
- **値の入力が必須**の項目については、**必須入力**ステータスを定義することができます。
- **入力可能**であるが**必須入力**ではない項目は、**任意入力**に設定することができます。

たとえば金利計算フラグ、金利計算周期、最終金利計算基準日など、任意の項目をグループ化して、その項目ステータスをグループ全体で有効にすることができます。

項目“**勘定通貨**”と“**項目ステータスグループ**”は、常に**必須入力**項目です。このステータスを変更することはできません。



**ヒント:** 項目を非表示にした場合でも、項目に値が含まれていることがあります。これらの値も**引き続き有効**です。

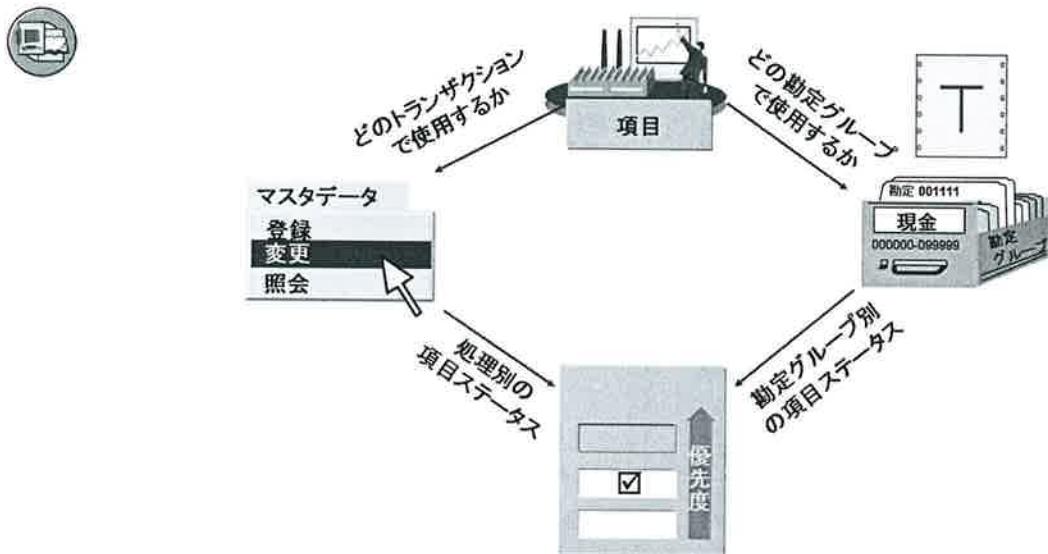


図 33: マスタデータの項目ステータス

勘定コードマスタレコードに表示される項目は、勘定グループだけでなく、マスタレコードの編集で使用するトランザクション（登録、変更、照会など）によっても制御されます（トランザクション固有の制御）。マスタレコードの登録後に特定の項目を修正できないようにするには、カスタマイジングの“マスタデータ変更”トランザクションでこの項目を修正不可に指定します。たとえば、現金勘定の通貨を GBP に指定し、これを修正不可にします。この場合、カスタマイジングのマスタデータ変更トランザクションで、該当項目にステータス“表示”を割り当てます。

項目ごとに、勘定グループと処理別の項目ステータス定義が考慮され、優先度の高い方が使用されます。優先度の順序は、高いものから順に以下のようになります。

- 非表示
- 表示のみ
- 必須入力
- 任意入力

“照会”トランザクションでは値を入力することができないため、マスタデータ照会トランザクションでアクセスする項目のステータスは、常に表示または非表示のどちらかになります。

トランザクション固有の制御を使用しない場合は、[ ] の項目の項目ステータスを [ ] に設定します。この項目ステータスは優先度が低いため、この設定によって勘定グループ固有の制御が常に使用されるようになります。

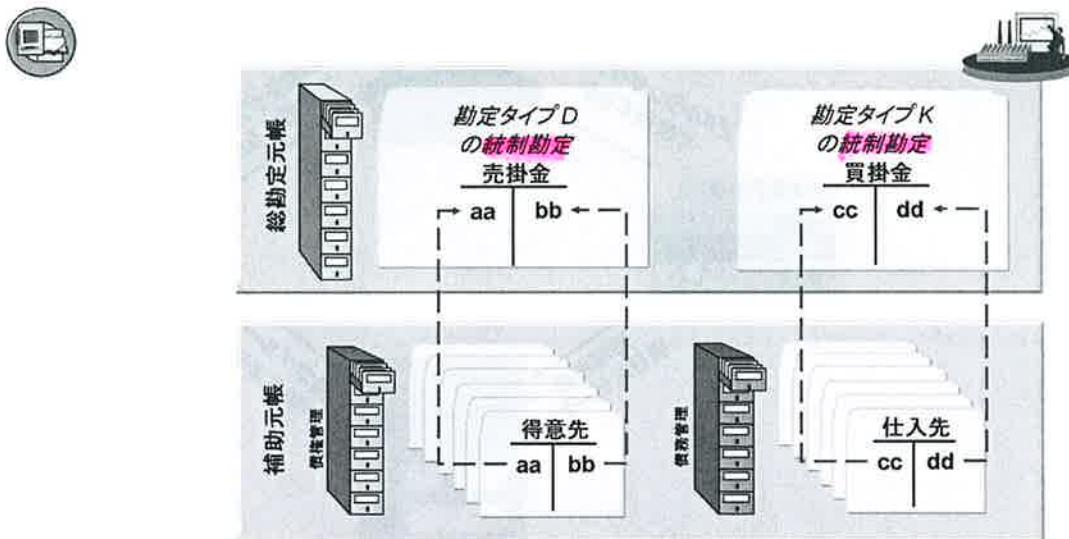


図 34: 統制勘定

**統制勘定**は、補助元帳のすべての取引を記録するために得意先/仕入先マスター レコードに割り当てられる G/L 勘定です。

補助元帳に対するすべての転記は、割り当てられた統制勘定に自動的に転記されます。そのため、総勘定元帳は常に最新の状態になります。

G/L 勘定を統制勘定として定義するには、勘定タイプの統制勘定項目に以下のいずれかの勘定タイプを入力します。

- **D: 得意先**
- **K: 仕入先**

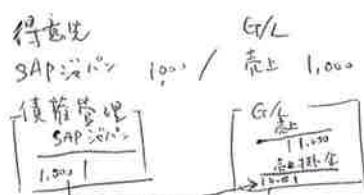
これにより、統制勘定は指定された勘定タイプに対してのみ有効になります。

通常、統制勘定は“債権”勘定および“債務”勘定です。

**ヒント:** 統制勘定には、金額を直接転記することができません。

特定の統制勘定に割り当てられている取引先を照会するには、得意先または仕入先一覧 (RFDKVZ00 または RFKKVZ00) の動的選択で統制勘定項目を選択します。

統制勘定…補助元帳と総勘定元帳の整合性  
を保ったままに使われる勘定



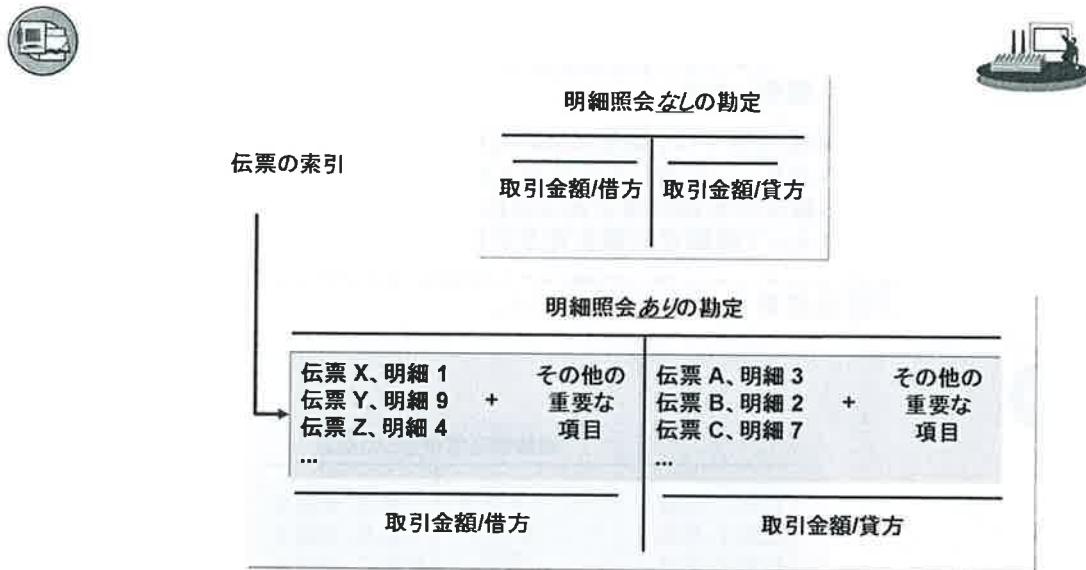


図 35: 明細照会 (入力ビュー)

取引金額は、借方側または貸方側の明細転記の合計です。残高は、借方と貸方の取引金額の差額です。

項目“明細照会”は、勘定の会社コードレベルの管理項目です。

- “明細照会”なしの勘定の場合、伝票がこの勘定に転記されると取引金額のみが更新されます。ユーザがこの勘定をオンラインで照会すると、残高のみが表示されます。
- “明細照会”ありの勘定の場合、転記された明細のもっとも重要なデータが特別な索引テーブルに格納されます。このデータは伝票にも保存されるため、重複が発生し、記憶領域や処理時間が余計に必要となります。ユーザがこの勘定をオンラインで照会すると、残高と個別明細の両方が表示されます。レポート RFSEPA01 を使用して、明細照会を後から有効化することができます。このレポートを使用する前に、このレポートの文書を参照してください。

**†** 明細照会はシステムリソースが余分に必要となるため、これを使用するのは他の方法で明細を照会できない場合のみにしてください。以下の勘定に対しては、明細照会を有効化しないでください。

- 統制勘定 (明細は補助元帳で管理されます)
- 収益勘定 (明細は受注管理アプリケーションで管理されます)
- 在庫品目勘定 (明細は在庫購買管理アプリケーションで管理されます)
- 税勘定 (税明細は伝票と一緒になければ意味がなく、伝票が転記されたときにすでに税額がチェックされています)

必要なすべての情報は、補助元帳にあります。

有効な新総勘定元帳には、伝票に対する“入力ビュー”および“総勘定元帳ビュー”があります。これらについては、“伝票分割(転記管理)”の章で詳細に説明します。

新総勘定元帳では、勘定における明細管理の制御についての説明は、伝票の入力ビューに対してのみ当てはまります。総勘定元帳ビューでは、すべての勘定の明細が常に表示されます。新総勘定元帳においては、補助元帳によって総勘定元帳を完全に説明することができなくなったため(伝票分割時における明細の利益センタおよびセグメントなど)、明細管理の制御方法は変更することができません。



The screenshot shows two tables side-by-side under the heading "明細消込管理なしの勘定" (Ledger entry without detail消込管理). The left table lists "伝票 X, 明細 1" and "伝票 Y, 明細 9 + 重要な項目" (Important items), followed by "伝票 Z, 明細 4" and "..." on the left, and "取引金額/借方" on the right. The right table lists "伝票 A, 明細 3" and "伝票 B, 明細 2 + 重要な項目" (Important items), followed by "伝票 C, 明細 7" and "..." on the left, and "取引金額/貸方" on the right. Below these, another section titled "明細消込管理ありの勘定" (Ledger entry with detail消込管理) shows similar tables where checkboxes are present next to the ledger numbers.

図 36: 明細消込管理

左側に手書き風のメモが記載されています。  
「主にいつの  
未消込も選択可  
能」とあります。

明細消込管理ありの勘定の明細は、未消込または消込済のいずれかに指定されます。

明細消込管理ありの勘定では、明細照会を有効化しておく必要があります。

取引に対して消込処理が行われたかをチェックする必要がある場合は、明細消込管理が前提条件となります。未消込明細と消込済明細は別々に照会することができ、消込が必要な会計取引を容易に識別することができます。

明細消込管理は、以下の勘定に対して使用する必要があります。

- 銀行仮勘定
- 入庫/請求書受領の消込勘定
- 給与消込勘定

明細消込管理の有効化または無効化を設定できるのは、勘定の貸借が一致している場合のみです。

追記: 勘定は通常、未消込明細管理勘定またはそれ以外です。ただし、元帳ごとに明細消込管理が設定されている場合は、EHP3 (Enhancement Package 3) 以降、“元帳グループ固有消込”(元帳ごとの明細消込管理)機能を使用することができます。この機能は、後で特定の条件が満たされた場合に実行することもできます。これについては、AC210 で説明します。AC200 のコース内容には含まれていません。

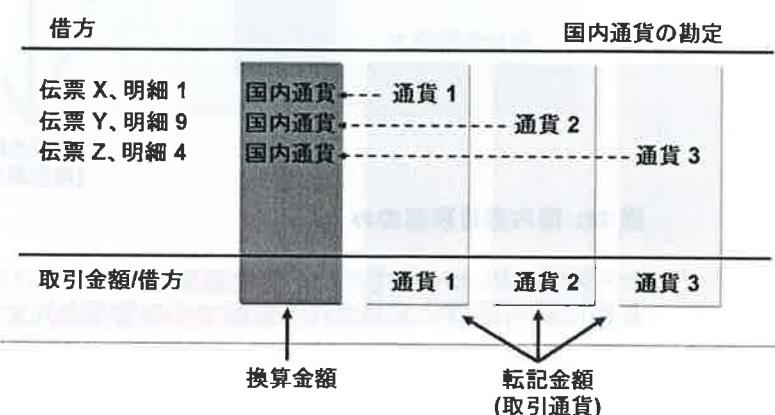


図 37: 国内通貨の勘定

勘定通貨として、以下のいずれかの通貨を選択することができます。

- 国内通貨
- 外貨

標準では、G/L 勘定の登録時に国内通貨が勘定通貨として提案されます。

勘定通貨が国内通貨である場合、その勘定には**任意の通貨**で転記することができます。その他の通貨は、各明細の国内通貨に変換されます。

取引額は、以下のように**各通貨**で管理されます。

- 国内通貨 (国内通貨に換算された全転記金額の合計)
- 通貨 1 (通貨 1 で転記された金額の合計、国内通貨の場合もあり)
- 通貨 2 (通貨 2 で転記された金額の合計)
- 通貨 3 (通貨 3 で転記された金額の合計)
- その他

これは、明細照会できるかどうかに関係なく適用されます。

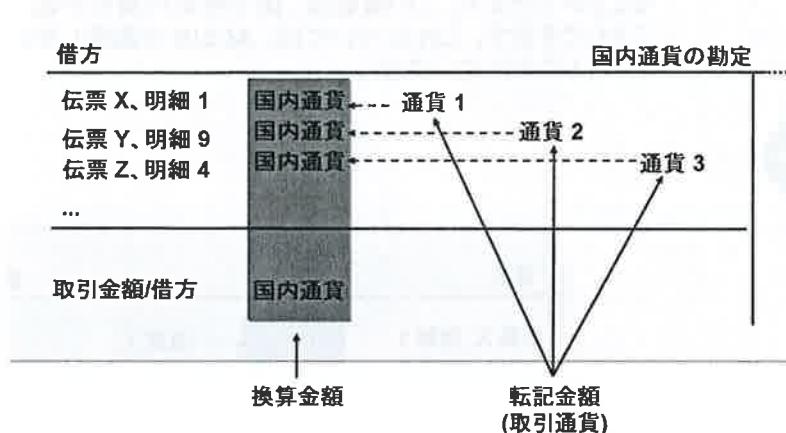


図 38: 国内通貨残高のみ

マスタデータレコードで区分 “**国内通貨残高のみ**” が選択された場合、取引金額は**国内通貨に変換された金額**でのみ管理されます。

この項目は、**換算差損益の転記なし**で同じ国内通貨の明細を相互に割り当てることによって勘定を消し込む消込勘定に対して選択します。

このフラグは、**現金割引勘定**と**入庫/請求仮勘定**で設定する必要があります。

**得意先や仕入先の統制勘定には、設定しない**でください。

通常、このフラグは、**外貨で管理されず、明細消込管理を行わない**貸借対照表勘定で設定します。

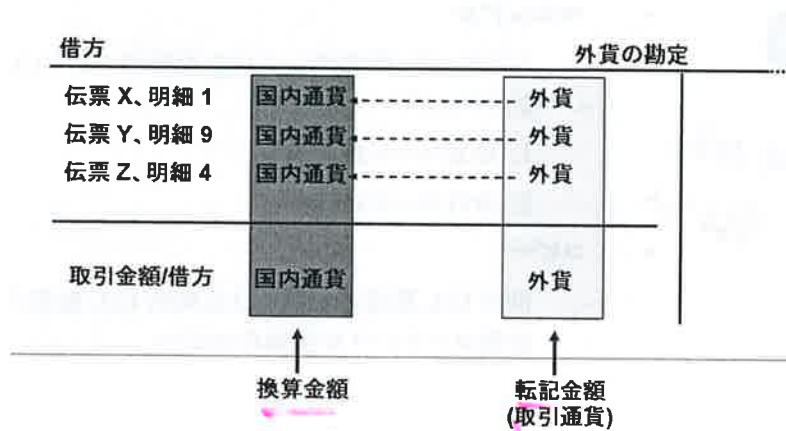


図 39: 外貨の勘定

同時管理

勘定通貨として外貨が指定されている勘定では、その外貨でのみ転記することができます。



( G/L 勘定  
登録方法 )

- マニュアル
  - 1 ステップ: 両方のレベルを同時に(集中)登録
  - 2 ステップ:
    1. 勘定コード表レベル
    2. 会社コードレベル
- コピー
  - 別の G/L 勘定の参照による個別 G/L 勘定のコピー
  - 会社コードレベル全体のコピー
  - 勘定コード表レベル全体のコピー
- データ転送
  - 外部システムからの新規勘定コード表の転送 「SXA」
- マニュアル登録:
  - 2 ステップの方法では、勘定コード表レベルと会社コードレベルを別々に登録します。これにより、勘定コード表レベルのみ、または複数の会社コードレベルで G/L 勘定を登録することができます。
  - 特定の会社コードで G/L 勘定を登録するには、1 ステップの方法を使用します。必要に応じて他の会社コードでも G/L 勘定を登録する場合は、2 ステップの方法の第 2 ステップを繰り返して会社コードレベルでの登録を行います。
- コピーによる G/L 勘定の登録:
  - 他の現金勘定などの既存の勘定と同じプロパティを持つ勘定を登録するには、その既存の勘定を参照して新規勘定を登録し、勘定名を適宜変更します。
  - 他の会社コードで既存の会社コードのすべての G/L 勘定が必要な場合は、会社コードレベル全体を新たな会社コードにコピーすることができます。
  - また、勘定設定も含めた勘定コード表全体を新規勘定コード表にコピーすることもできます。さらに、財務諸表バージョンもコピーすることができます。
- データ転送:
  - データ入力作業を削減するために、ABAP チームがプログラム RFBISA00 (勘定コードマスタデータのバッチインプットインターフェース)などを修正することによって新規勘定コード表を転送することができます。



以下の情報を一括して変更することができます。

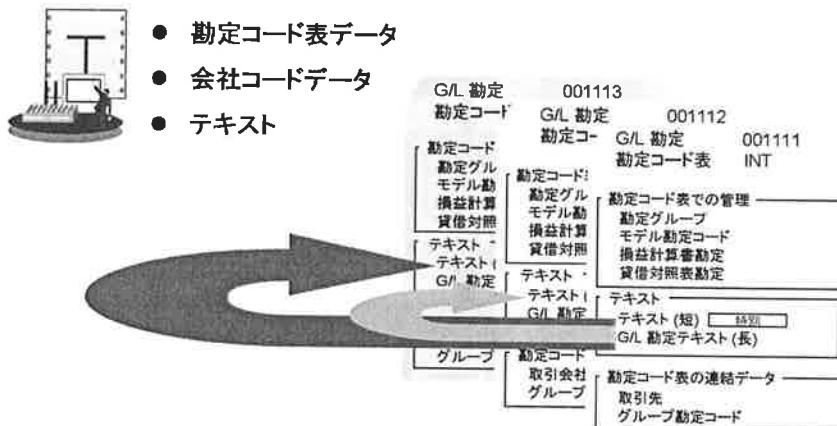


図 40: 一括処理

SAP ERP システムには、勘定コードマスタレコードの一括処理機能が用意されています。

複数の G/L 勘定のマスタデータの勘定コード表レベル、会社コードレベル、またはテキストを同時に変更することができます。複数の勘定コード表の G/L 勘定を処理することもできます。

照会した G/L 勘定を変更することができます。

- 変更する項目を選択することができます。
- 照会した項目の値を変更することができます。既存の値を置換するには、列“新規値”に新たな値を入力します。選択したすべての G/L 勘定で、元の値が新しい値に置き換えられます。



**ヒント:** 既存の G/L 勘定に対する変更は、保存後に有効になり、広範囲に影響があります。このため、保存する前に変更内容を確認してください。

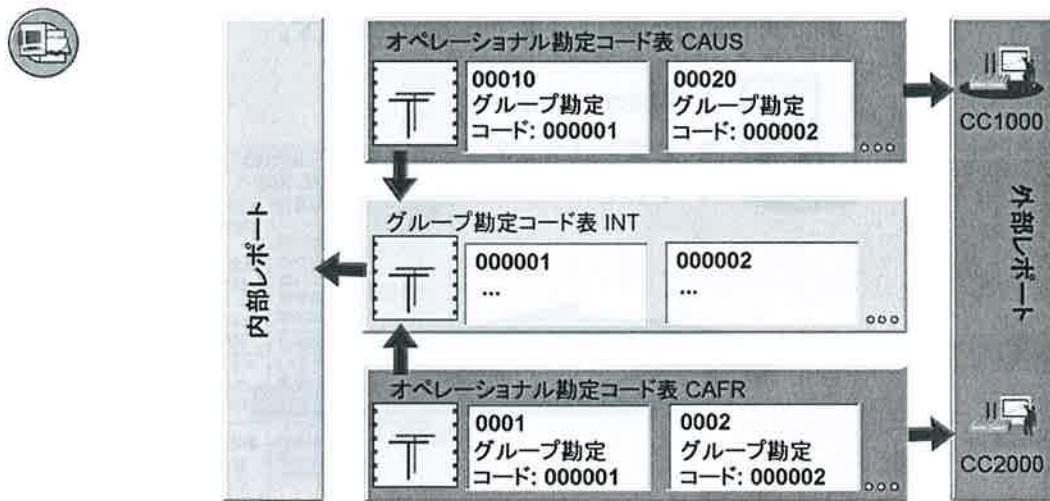


図 41: グループ勘定コード表

内部使用目的として、複数の会社コードの明細を含む財務諸表などの会社コードをまたがったレポートが役立つ場合があります。

これは、すべての会社コードで同一の勘定コード表を使用している限り、何の問題もありません。ただし、法的要件により、会社コードによっては特別な勘定コード表の使用を求められる場合もあります。このような場合は、内部レポートの登録時に以下の手順に従ってください。

- グループ勘定コード表を使用することができます。この勘定コード表には、グループ勘定がすべて含まれている必要があります。
- グループ勘定コード表を、各オペレーション勘定コード表に割り当てます。この割当を行うと、勘定コード表の勘定コード表レベルにある項目“グループ勘定コード”が必須入力項目になります。
- オペレーション勘定の勘定コード表レベルに、グループ勘定コードを入力します。1つのオペレーション勘定コード表の複数の勘定で同じグループ勘定を参照することができます。
- グループ勘定コード用の財務諸表バージョンを使用する必要があります。

**デメリット:** 会社コードによって使用される勘定コード表が異なるため、会社コード間の管理会計を実行することはできません。

本 PDF の原稿は高品質な日本語  
で書かれています。  
しかし、誤植や文法上の問題が  
多くあります。  
そのため、翻訳や校正を行った  
結果、誤植や文法上の問題が  
多くあります。

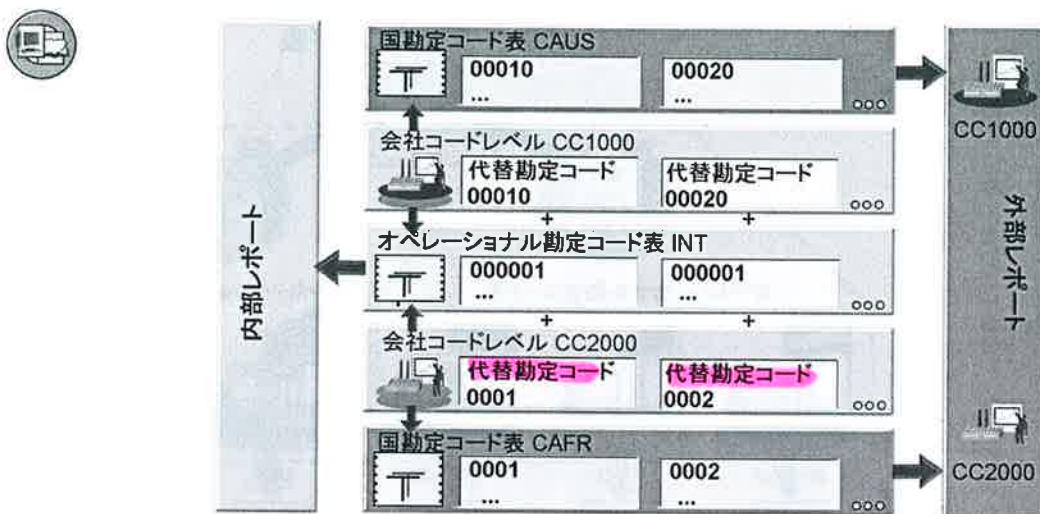


図 42: 国勘定コード表

グループ勘定コード表の代わりに、国勘定コード表を使用することができます。すべての会社コードで、同じオペレーションルルル勘定コード表を使用します。外部レポート用に特別な勘定コード表を必要とする会社コードについては、以下の設定をすることができます。

- ✓ 国勘定コード表を割り当てます。
- ✓ 国勘定コード表の勘定コード(代替勘定コード)を各会社コードレベルに入力します。国勘定コード表の勘定コードは、1度しか使用できません。

**ヒント:** すべての会社コードで同じ勘定コード表に従って転記を行うため、会社コード間の管理会計が可能です。

**デメリット:** 国勘定コード表に慣れている記帳担当者は、まず勘定コード表の使用に慣れる必要があります。

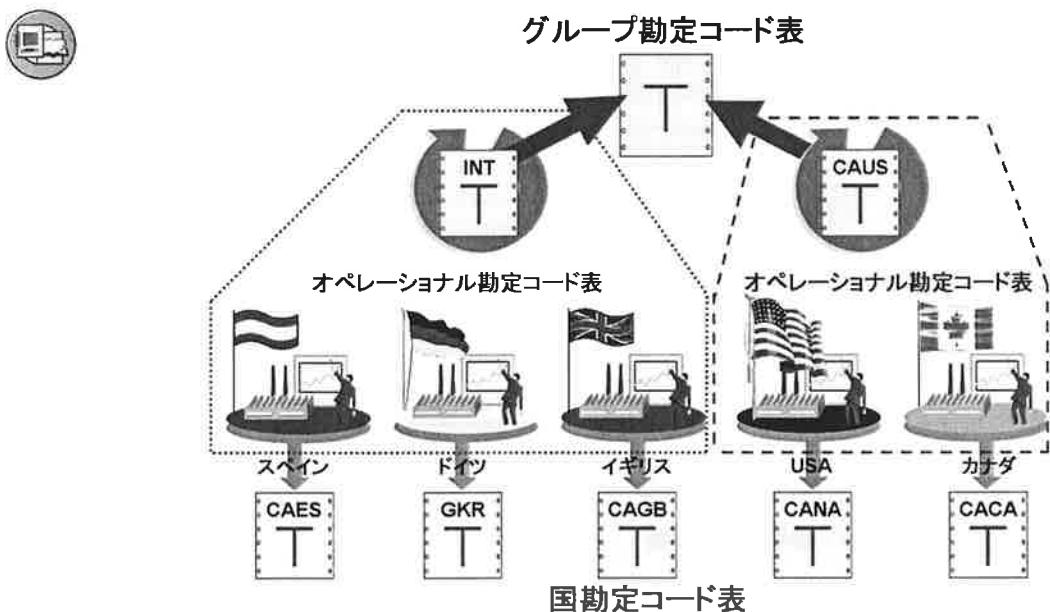


図 43: シナリオ: グループの勘定コード表

上の図に示されている国際的グループのシナリオでは、スペイン、ドイツ、イギリスの会社コードでは同じ勘定コード表が使用されているため、ヨーロッパの会社コードで会社コード間の管理会計を実行することができます。ヨーロッパのすべての会社コードで、オペレーション勘定コード表として勘定コード表 INT を使用します。

アメリカの会社コードとカナダの会社コードでは、オペレーション勘定コード表として勘定コード表 CAUS を使用します。そのため、北米での会社コードをまたがる管理会計が可能です。

国勘定コード表を使用してレポートを登録するために、グループの経営会議において、会社コードに国勘定コード表を定義するよう決定されました。

この経営会議では、ヨーロッパと北米を組み合わせた管理会計は必要ではなく、その代わりに連結を行うことも決定されました。このため、勘定コード表 INT と CAUS に対してグループ勘定コード表 CONS が設定されました。

## 演習問題 5: G/L 勘定

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 勘定コード表の登録および使用
- G/L 勘定の登録
- 勘定グループの登録
- G/L 勘定に関する知識の確認

### ビジネスシナリオ

会計部門は、承認済の経費と支払を処理するための G/L 勘定を追加する必要があります。承認済の経費とは、会計管理責任者の承認が必要となる国内通貨 10,000 単位を超える費用です。この費用勘定には、AE0000 から AE9999 の範囲の勘定コードを使用する必要があります。支払勘定には、CD0000 から CD9999 の範囲の勘定コードを使用する必要があります。

### タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 勘定コードはどのようなセグメントから構成されますか。

---



---



---

2. 前の演習問題で会社コード 1010 をコピーしたときに、会社コードの勘定コード表と会社コードレベルもコピーされました。また、関連する勘定グループも勘定コード表とともにコピーされています。このビジネスシナリオにおける G/L 勘定について、会計部門では、費用用と支払用に 2 つの追加勘定グループが必要になります。

勘定コード表 (INT) 内の勘定グループ “ERG” を新しい勘定グループ AE## にコピーして、テキスト “承認済費用 ##” を指定します。勘定グループ AE## の番号範囲を AE0000 ~ AE9999 に適宜変更します。

勘定コード表 (INT) 内の勘定グループ “SAKO” を新しい勘定グループ CD## にコピーして、テキスト “現金費用 ##” を指定します。勘定グループ CD## の番号範囲を CD0000 ~ CD9999 に適宜変更します。

次へ

3. 3つのG/L勘定を登録します。承認済費用に2つ(交際接待費とスポーツカーレンタル費用)、現金支払用に1つです。勘定の登録には、指定された参照勘定を使用します。この新規勘定には、新規勘定グループ AE## または CD## を使用します。次に、会社コードの勘定コード表を照会します。

勘定コード: **AE01##, AE02##, CD03##**

参照勘定コード:

**勘定 AE01## および AE02## → G/L 勘定 400000**

**勘定 CD03## → G/L 勘定 113100**



**ヒント:** 承認済費用の新規勘定には、グループ勘定コード 312600 “その他一般費用”を使用します。現金支払の新規勘定には、グループ勘定コード 110100 を使用します。参照勘定コードの詳細については、“マスタデータ”の章を参照してください。



**ヒント:** 保存する前に、項目 ‘代替勘定コード’ のエントリを削除します。

4. 使用可能な項目ステータス定義を優先順位に従って挙げてください。

---



---



---



---

5. 複数の会社コードで、同じ \_\_\_\_\_ を使用することができます。  
空白に適切な答えを記入してください。

6. \_\_\_\_\_ は、勘定コードマスタレコードでの会社コードデータの項目表示を制御します。  
空白に適切な答えを記入してください。

7. \_\_\_\_\_ には、対応する補助元帳の取引金額の合計が含まれています。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

## タスク 2:

### 正誤問題

1. 統制勘定は、1日に1回更新されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
2. G/L 勘定の明細はいつでも照会することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
3. 明細消込管理を行うG/L 勘定では、明細照会を有効化しておく必要があります。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
4. 国内通貨で管理されているG/L 勘定は、その通貨でのみ転記することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
5. 外貨で管理されているG/L 勘定は、その外貨でのみ転記することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
6. 会社コードによって使用されるオペレーションルール勘定コード表が異なるため、会社コード間の管理会計を実行することはできません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

## 解答 5: G/L 勘定

### タスク 1:

以下のタスクを実行します。

- 勘定コードはどのようなセグメントから構成されますか。

解答:

- 勘定コード表レベル
  - 会社コードレベル
- 前の演習問題で会社コード 1010 をコピーしたときに、会社コードの勘定コード表と会社コードレベルもコピーされました。また、関連する勘定グループも勘定コード表とともにコピーされています。このビジネスシナリオにおける G/L 勘定について、会計部門では、費用用と支払用に 2 つの追加勘定グループが必要になります。

勘定コード表 (INT) 内の勘定グループ “ERG” を新しい勘定グループ AE## にコピーして、テキスト “承認済費用 ##” を指定します。勘定グループ AE## の番号範囲を AE0000 ~ AE9999 に適宜変更します。

勘定コード表 (INT) 内の勘定グループ “SAKO” を新しい勘定グループ CD## にコピーして、テキスト “現金費用 ##” を指定します。勘定グループ CD## の番号範囲を CD0000 ~ CD9999 に適宜変更します。

- G/L 勘定グループをコピーします。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → 準備 → 定義: 勘定グループ

下にスクロールして、勘定コード表 INT を照会します。

勘定グループ SAKO 総勘定元帳勘定と、ERG 損益計算書勘定を選択し、“別名コピー”アイコンを選択します。

項目名またはデータ型	値
次に、勘定グループ ERG を以下の情報で上書きします。	
勘定グループ	AE##
名称	承認済費用 ##
開始勘定	AE0000
終了勘定	AE9999
次に、勘定グループ SAKO を以下の情報で上書きします。	

次へ

勘定グループ	CD##
名称	現金支払 ##
開始勘定	CD0000
終了勘定	CD9999

“Enter”を選択してから、“保存”を選択します。

3. 3つのG/L 勘定を登録します。承認済費用に2つ(交際接待費とスポーツカーレンタル費用)、現金支払用に1つです。勘定の登録には、指定された参照勘定を使用します。この新規勘定には、新規勘定グループ AE## または CD## を使用します。次に、会社コードの勘定コード表を照会します。

勘定コード: AE01##, AE02##, CD03##

参照勘定コード:

勘定 AE01## および AE02## → G/L 勘定 400000

勘定 CD03## → G/L 勘定 113100



ヒント: 承認済費用の新規勘定には、グループ勘定コード 312600 “その他一般費用”を使用します。現金支払の新規勘定には、グループ勘定コード 110100 を使用します。参照勘定コードの詳細については、“マスタデータ”の章を参照してください。



ヒント: 保存する前に、項目 ‘代替勘定コード’ のエントリを削除します。

- a) G/L 勘定(費用勘定)を登録します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスタレコード → G/L 勘定 → 個別処理 → 共通

または、トランザクションコード: FS00

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	AE01##
会社コード	GR##

勘定コード → 参照登録を選択します。

次へ

項目名またはデータ型	値
勘定コード	400000
会社コード	GR##

“続行”を選択します。



**ヒント:** すべてのドロップダウンリストにキー情報 (AE##、CD##など) が表示されるよう設定します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスタレコード → G/L 勘定 → 個別処理 → 共通  
ショートカット “Alt + F12” を使用して、ローカルレイアウトのカスタマイジングにアクセスします。“オプション”で、タブページ “エキスパート” を選択します。

エントリ “ドロップダウンリストにキーを表示” を選択します。  
設定をコピーします。

項目名またはデータ型	値
勘定グループ	AE## (承認済費用 ##)
テキスト(短)	接待 ##
G/L 勘定テキスト(長)	接待費 ##
グループ勘定コード	312600

“管理データ”タブを選択して、“代替勘定コード”項目のエントリを削除します。

“保存”を選択します。

必要に応じて、“Enter”を押して情報メッセージを確認します。

このプロセスを繰り返して、スポーツカーレンタル費用の追加費用勘定 AE02## を登録します。

- b) G/L 勘定 (現金支払勘定) を登録します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスタレコード → G/L 勘定 → 個別処理 → 共通

または、トランザクションコード: FS00

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	CD03##
会社コード	GR##

次へ

勘定コード→参照登録を選択します。

項目名またはデータ型	値
勘定コード	113100
会社コード	GR##

“続行”を選択します。

項目名またはデータ型	値
勘定グループ	現金支払##
テキスト(短)	支払 GR##
G/L 勘定テキスト(長)	現金支払 GR##
グループ勘定コード	110100

タブ“管理データ”を選択して、代替勘定コードを削除します。

“保存”を選択します。

必要であれば、“Enter”を押して情報メッセージを確認します。

- c) 各自の勘定コード表を照会します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理→財務会計→総勘定元帳→情報管理→総勘定元帳レポート(新)→マスタデータ→勘定コード一覧(S\_ALR\_87012328)

選択画面で、以下のとおり入力します。

項目名またはデータ型	値
勘定コード表	INT
会社コード	GR##

“実行”を選択します。

このレポートには、すべての G/L 勘定のマスタレコードが表示されます。双眼鏡アイコン(Ctrl + F)を使用して、登録した新規 G/L 勘定にナビゲートします。

緑色の矢印を選択して選択画面に戻ります。

“出力管理”セクションのすべてのチェックボックスを選択解除し、レポートを再実行します。

次へ

これにより、レポートには勘定コードと G/L 勘定テキスト(長)が表示されます。

→ **注記:** 勘定コード表に新たに 3 つの G/L 勘定を追加し、レポートを実行して会社コードの勘定コード表をチェックしました。

4. 使用可能な項目ステータス定義を優先順位に従って挙げてください。

**解答:**

- 非表示
- 表示
- 必須入力
- 任意入力

5. 複数の会社コードで、同じ勘定コード表を使用することができます。

**解答:** 勘定コード表

6. 勘定グループは、勘定コードマスタレコードでの会社コードデータの項目表示を制御します。

**解答:** 勘定グループ

7. 統制勘定には、対応する補助元帳の取引金額の合計が含まれています。

**解答:** 統制勘定

## タスク 2:

正誤問題

1. 統制勘定は、1 日に 1 回更新されます。

**解答:** 誤

統制勘定はリアルタイムで更新されます。

2. G/L 勘定の明細はいつでも照会することができます。

**解答:** 誤

明細を照会できるのは、明細照会が有効化された状態で勘定が管理されている場合のみです。

3. 明細消込管理を行う G/L 勘定では、明細照会を有効化しておく必要があります。

**解答:** 正

明細消込管理を行う G/L 勘定は、“明細照会”オプションを選択せずに定義することはできません。

次へ

4. 国内通貨で管理されている G/L 勘定は、その通貨でのみ転記することができます。

**解答:** 誤

国内通貨で管理されている G/L 勘定は、任意の通貨で転記することができます。

5. 外貨で管理されている G/L 勘定は、その外貨でのみ転記することができます。

**解答:** 正

勘定通貨として外貨を選択した場合、この勘定にはその外貨による金額のみを転記することができます。

6. 会社コードによって使用されるオペレーション勘定コード表が異なるため、会社コード間の管理会計を実行することはできません。

**解答:** 正

すべての会社コードで同じオペレーション勘定コード表が使用される場合は、会社コード間の管理会計を実行することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 勘定コード表の定義と使用
- G/L 勘定の構造の説明
- G/L 勘定の書式の管理
- さまざまな種類の G/L 勘定の列挙と説明
- G/L 勘定の登録、更新、管理
- 同時に複数の G/L 勘定を変更する方法の説明
- グループ勘定コード表と国勘定コード表の利点と欠点の説明

## レッスン：利益センタとセグメント

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 利益センタおよびセグメントという用語の詳細な説明
- セグメントの誘導オプションの説明

### ビジネスシナリオ

新総勘定元帳では、各会社に対して、レポート(貸借対照表および損益計算書)の作成に使用する要素またはオブジェクトを定義することができます。多くの場合、要素としてセグメントが選択されます。



項目/特性セグメントは、会社コードレベルより下で対象/エンティティの評価を登録するための、SAP ERPソリューション以降で(FIで)使用可能な新しい標準勘定割当オブジェクトです。

NA帳/Lから使用可能

レポートのマトリクス

この目的は、(広範な)企業でのさまざまな業務活動(市場または製品、一般的には活動領域)の詳細を提供することです。

キーワード:セグメントレポート

まだ使用可能な、(実際に)すでに使用されている代替勘定割当:

- 利益センタ
- 事業領域 → 会社のGルート  
会社、入力時、事業領域には手書き、セグメントは誘導
- CO-PA の収益性セグメント
- ユーザ定義項目

図 44: “セグメント”エンティティの使用

セグメントは、“セグメントレポート”に関する国際会計原則(IAS、IFRS、US-GAAP)の要件を満たすために使用することができます。

IFRS 第8号からの抜粋: 事業セグメント:

5. 事業セグメントとは、会社の事業領域の1つです。

a) (同一企業内の他の領域との取引に関する収益および費用を含み)その活動から収益を得、費用を負担する事業活動に従事します。

b) 事業セグメントの営業利益は、当該セグメントへのリソースの割当についての意思決定および当該セグメントの収益性の評価の観点から、企業の主要な意思決定者によって定期的に検査されます。

c) 事業セグメントに対しては、対応する財務情報が存在しています。

事業領域オブジェクトまたは利益センタオブジェクトを代替として使用することができます。

事業領域と利益センタは、これまでに他の目的で他の要件を満たすために頻繁に使用されていたため、これらに加えてセグメントが提供されます。

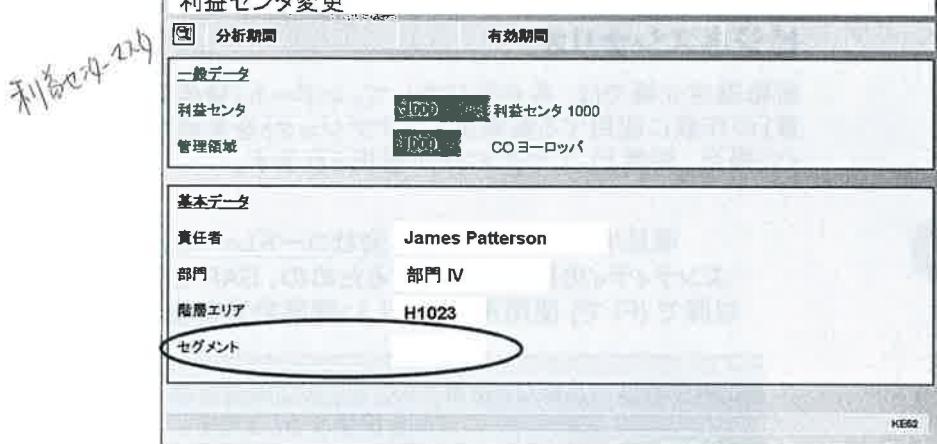


図 45: セグメントの誘導

ERP システムでは、利益センタのマスタデータにセグメントを保存することができます。

セグメントは、利益センタが転記されるときに自動的に転記されます。

利益センタのロジックのような“ダミーセグメント転記”は存在しません。利益センタにセグメントが存在しない場合には、セグメント勘定割当もありません。

標準的な方法では、**利益センタからセグメントが誘導されます**（カスタマは、独自のソリューションまたは誘導をプログラミングすることもできます）。

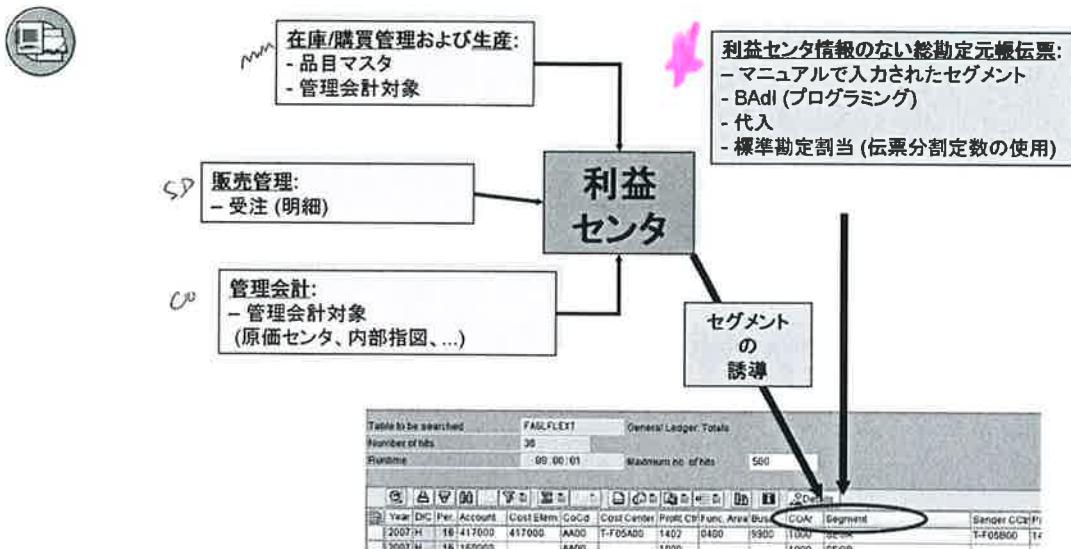


図 46: セグメントの誘導 (2)

利益センタ特性はさまざまな SAP オブジェクトにすでに存在しているため、セグメントは、利益センタ特性から誘導されます。また、セグメント特性は利益センタ特性から自動的に誘導されます。

このトピックに関する SAP ノート 1035140 があります。セグメントの使用は、同時に利益センタも使用する場合にのみ、SAP によって正式に承認されています。セグメントは、利益センタの使用によってのみ自動的に誘導することができます。多くのビジネスケース、特にロジスティクスでは、セグメントをマニュアルで入力することはできません。多くの標準インターフェースでも、セグメントはサポートされていません。これらの理由から、セグメントの使用は利益センタも使用する場合にのみ正式に承認されています。

特性セグメントを利益センタマスタレコードから誘導することができない場合は、セグメントを割り当てる他の方法を見つける必要があります。

伝票分割には、以下のオプションが用意されています。

- マニュアル入力
- BAdI 実装 (FAGL\_DERIVE\_SEGMENT)
- 代入ルールの定義
- 標準勘定割当

利益センタ会計は、管理会計に由来します。ただし、外部会計での重要性が増しているため、現在は財務会計の一部でもあります。それぞれの会社では、利益センタ会計を内部会計または外部会計のどちらの手段として使用するかを判断します（利益センタ会計についてのコースは、管理会計のカリキュラムに含まれています）。



## 演習問題 6: 利益センタとセグメント

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- セグメントおよび利益センタの登録
- 管理会計対象からの利益センタおよびセグメントの誘導の説明

### ビジネスシナリオ

会社の利益センタ会計およびセグメントレポートを新総勘定元帳にマッピングしたいと考えています。このためには、オブジェクトを登録して割り当てる必要があります。

### タスク:

- セグメント SE##(会社の主要事業分野)を“サービス”という名称で登録します。
- 管理領域 1000 に、省略名 PR##を使用して利益センタを登録します。テンプレートとして、管理領域 1000 の利益センタ 1000 を使用することができます。

利益センタについて、以下のデータを更新します。

項目名またはデータ型	値
有効開始日	1999年1月1日～9999年12月31日
名称	PC グループ ##
テキスト(長)	利益センタグループ ##
責任ユーザ	空白のまま
責任者	グループ ##
部署	トレーニング
階層エリア	H9500(トレーニング)
セグメント	SE##

新しい利益センタを有効化します。

- “原価センタグループ ##”という名称で原価センタ COCE##を登録します。テンプレートとして、管理領域 1000 の原価センタ 1000 を使用してください。

次へ

原価センタについて、以下のデータを更新します。

項目名またはデータ型	値
原価センタ	COCE## (テンプレート 1000 / 1000 を使用)
有効開始日	1999/01/01 から 9999/12/31 まで有効
名称	原価センタ ##
テキスト	原価センタグループ ##
責任ユーザ	空白のまま
責任者	グループ ##
部署	トレーニング
原価センタカテゴリ	4 - 総務部門
階層エリア	H1120 - 内部サービス
会社コード	GR##
事業領域	9900
機能領域	0400 - 管理
利益センタ	PR##

正しい会社コード(通常は GR##)および利益センタ PR##を選択してください。

結果: 原価センタ COCE##が利益センタ PR##に関連付けられ、利益センタ PR##がセグメント SE##に関連付けされました。

4. セグメントには時間参照が設定されますか。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
5. セグメントは階層に割り当てられますか。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
6. 同じセグメントを複数の利益センタに割り当てるできますか。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

## 解答 6: 利益センタとセグメント

### タスク:

1. セグメント SE## (会社の主要事業分野) を“サービス”という名称で登録します。
  - a) IMG: 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 定義: セグメント  
新規エントリ:

項目名またはデータ型	値
SE##	サービスグループ ##

2. 管理領域 1000 に、省略名 PR## を使用して利益センタを登録します。  
テンプレートとして、管理領域 1000 の利益センタ 1000 を使用することができます。

利益センタについて、以下のデータを更新します。

項目名またはデータ型	値
有効開始日	1999 年 1 月 1 日 ~ 9999 年 12 月 31 日
名称	PC グループ ##
テキスト(長)	利益センタグループ ##
責任ユーザ	空白のまま
責任者	グループ ##
部署	トレーニング
階層エリア	H9500 (トレーニング)
セグメント	SE##

次へ

新しい利益センタを有効化します。

- SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスター レコード → 利益センター → 個別処理 → 登録 (KE51)  
ダイアログボックスで、EC-PCA: 利益センター登録を選択します。
- テンプレートの利益センタを使用して、演習問題に説明されているように新しいエントリを登録します。

項目名またはデータ型	値
有効開始日	1999年1月1日～9999年12月31日
名称	PC グループ ##
テキスト(長)	利益センタグループ ##
責任ユーザ	空白のまま
責任者	グループ ##
部署	トレーニング
階層エリア	H9500(トレーニング)
セグメント	SE##

“ディスクケット”アイコンを使用して、新しい利益センタを保存します。  
アプリケーションツールバーの“有効化”ボタンを使用して、利益センタを有効化します。

- “原価センタグループ ##”という名称で原価センタ COCE## を登録します。テンプレートとして、管理領域 1000 の原価センタ 1000 を使用してください。

原価センタについて、以下のデータを更新します。

項目名またはデータ型	値
原価センタ	COCE##(テンプレート 1000 / 1000 を使用)
有効開始日	1999/01/01 から 9999/12/31 まで有効
名称	原価センタ ##
テキスト	原価センタグループ ##
責任ユーザ	空白のまま
責任者	グループ ##

次へ

部署	トレーニング
原価センタカテゴリ	4 - 総務部門
階層エリア	H1120 - 内部サービス
会社コード	GR##
事業領域	9900
機能領域	0400 - 管理
利益センタ	PR##

正しい会社コード(通常は GR##)および利益センタ PR##を選択してください。

結果: 原価センタ COCE##が利益センタ PR##に関連付けられ、利益センタ PR##がセグメント SE##に関連付けされました。

- a) SAP Easy Access メニュー → 会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → マスタデータ → 原価センター → 個別処理 → 登録

演習問題の説明に従って、データを入力します。データを保存します。

4. セグメントには時間参照が設定されますか。

解答: 誤

特定の期間でセグメントを参照、有効化、または変更することはできません。

5. セグメントは階層に割り当てられますか。

解答: 誤

事業領域と同様に、セグメントはどの構造にも割り当てられず、複数の会社コードにまたがって使用することができます。

6. 同じセグメントを複数の利益センタに割り当てるできますか。

解答: 正

通常、セグメントの使用は、法的要件に対応しています。通常は少数のセグメント(主要事業分野)のみを使用します。これらのセグメントは、非常に多くの利益センタに割り当てられます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 利益センタおよびセグメントという用語の詳細な説明
- セグメントの誘導オプションの説明

## レッスン：得意先/仕入先コード

### レッスンの概要

得意先コードと仕入先コードのマスタレコードについて学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 得意先/仕入先コードの構造の説明
- G/L 勘定と得意先/仕入先コードの類似点と相違点の説明
- 得意先/仕入先コードの管理と更新
- 得意先コードと仕入先コード間の関係の説明

### ビジネスシナリオ

会計管理責任者は、G/L 勘定と補助元帳勘定の類似点と相違点を調べています。彼は、得意先/仕入先コードの構造に关心を持っています。何よりも、彼は検索ヘルプで提供されるオプションについて知りたいと思っています。

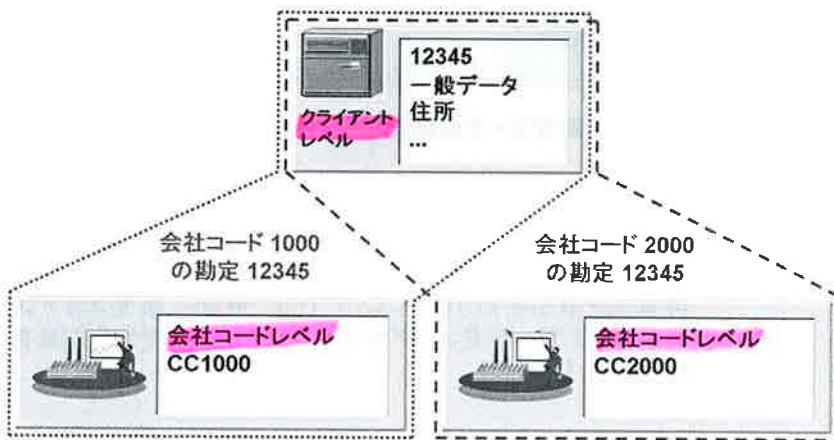


図 47: 得意先/仕入先コードの会計管理ビュー

G/L 勘定と同様に、得意先/仕入先コードにも 2 つのレベルがあります。

- 一般データを格納する **クライアントレベル**。このデータには、組織からでもアクセスすることができます。
- 会社コード固有データを格納する **会社コードレベル**。特定の得意先または仕入先との取引を行う会社コードには、その得意先または仕入先の会社コードレベルデータを登録する必要があります。これにより、得意先コードまたは仕入先コードも登録されます。

レポート RFBIDE10/RFBIKR10 を使用すると、コピー元会社コードで更新されている得意先/仕入先マスタデータを別の会社コードに転送することができます。

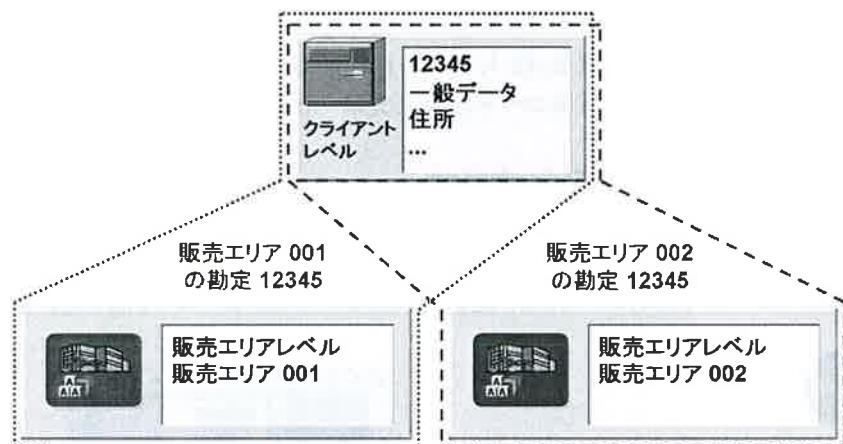


図 48: 得意先コードの販売エリアビュー

販売管理部門も得意先と連絡を取る機会があり、得意先の詳細データを認識している必要があるため、各得意先に **販売エリアレベル** を登録することができます。

得意先と取引を行う販売エリアでは、最初に販売エリアレベルを登録する必要があります。販売エリアセグメントには、販売エリア固有のデータが含まれています。

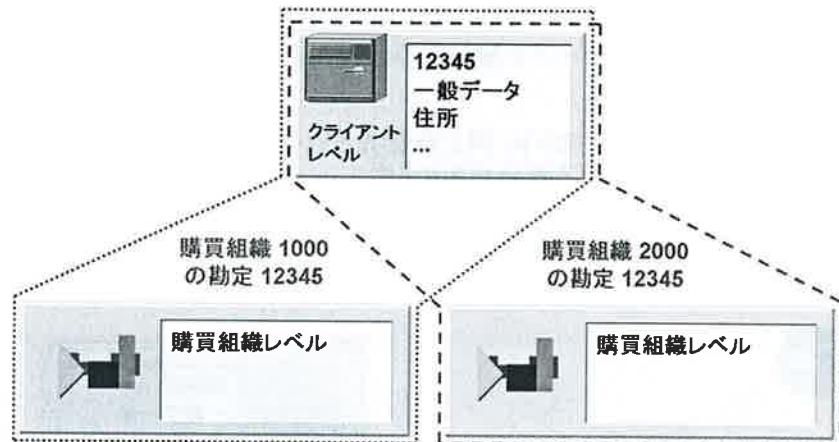


図 49: 仕入先コードの MM ビュー

得意先に販売エリアレベルがあるように、仕入先には**購買組織レベル**があります。

仕入先と取引を行う購買組織には、最初に購買組織レベルを登録する必要があります。購買組織レベルには、購買組織固有のデータが含まれています。

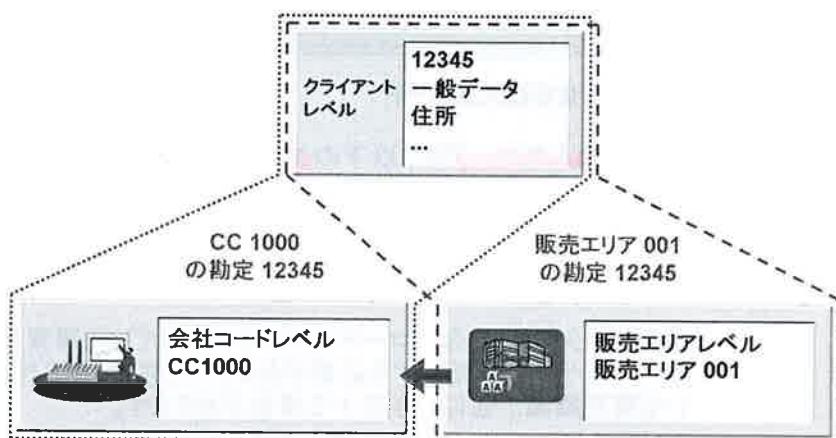


図 50: 完全な得意先コード

**完全な得意先コード**は、以下の 3 つのレベルのデータで構成されます。

- クライアントレベルの一般データ
- 会社コードレベルデータ
- 販売エリアレベルデータ

通常、少なくとも会社コードに割り当てられた販売エリアに対して販売エリアレベルデータを登録する必要があります。

 **ヒント:** 同じ得意先と取引を行っている販売エリアが他にも存在する場合があります。

得意先コードは、クライアントレベルで得意先に割り当てられます。このため、得意先コードは、どの会社コードや販売エリアでも同じになります。

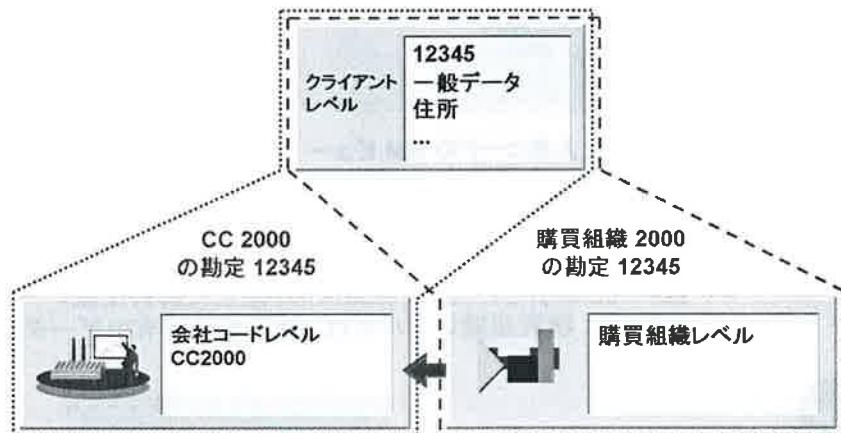


図 51: 完全な仕入先コード

完全な仕入先コードは、以下の 3 つのレベルのデータで構成されます。

- クライアントレベルの一般データ
- 会社コードレベルデータ
- 購買組織レベルデータ

通常は、少なくとも会社コードに割り当てられている購買組織に対して購買組織レベルデータを登録する必要があります。注記: 同じ仕入先と取引を行っている購買組織が他にも存在する場合があります。

仕入先コードは、クライアントレベルで仕入先に割り当てられます。このため、仕入先コードは、どの会社コードや購買組織でも同じになります。

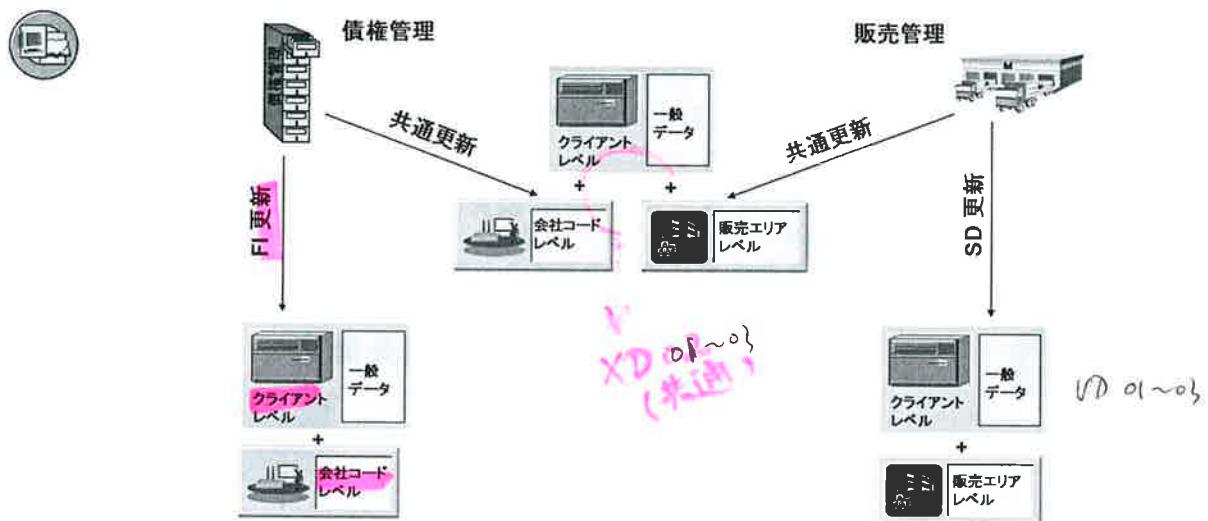


図 52: 共通更新と個別更新(得意先)

システムには、組織の要件に応じて得意先マスタレコードを更新するための個別機能が用意されています。これらのデータレコードは、全領域で**共通更新**することも、財務会計と販売管理で**個別**に更新することもできます。

このコースでは、財務会計での得意先マスタレコードの更新に焦点を当てます。

**ヒント:** 債権管理と販売管理の両方を導入する場合は、両方の導入チームのメンバが協力して、得意先マスタレコードの設定方法と更新の責任者を決定する必要があります。

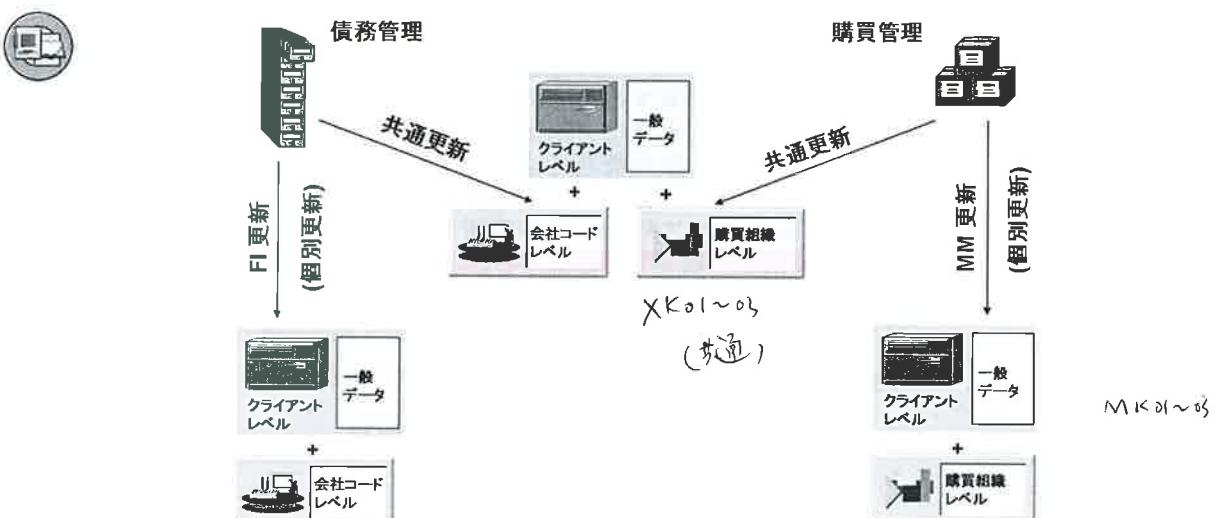


図 53: 共通更新と個別更新(仕入先)

得意先マスタレコードの場合と同様、仕入先マスタレコードも全領域で**共通更新**することも、財務会計と在庫/購買管理で**個別**に更新することもできます。

このコースでは、財務会計での仕入先マスタレコードの更新に焦点を当てます。



**ヒント:** 債務管理と在庫/購買管理の両方を導入する場合は、両方の導入チームのメンバが協力して、仕入先マスタレコードの設定方法と更新の責任者を決定する必要があります。



### 不完全な得意先勘定



### 不完全な仕入先勘定



図 54: マスタデータの比較

購買/販売管理コンポーネントを使用する場合は、両方のコンポーネントで得意先と仕入先を更新する必要があります。得意先/仕入先マスタレコードを正しく設定するもっとも簡単な方法は、共通更新を使用することです。ただし、場合によっては、購買/販売管理で必要なレベルのマスタレコードを登録し、会計管理でも必要なレベルのマスタレコードを登録することができます。このような場合、不完全なマスタレコードや重複するレコードを登録する恐れがあります。**不完全な勘定を検索して修正するには、レポート RFDKAG00 の得意先マスタデータ比較や、RFKKAG00 の仕入先マスタデータ比較を実行し、必要に応じて修正を行います。**これにより、勘定を修正することができます。

勘定の重複登録は、以下のように回避することができます。

- 新規勘定の登録前にマッチコードを使用
- 自動重複チェックの有効化

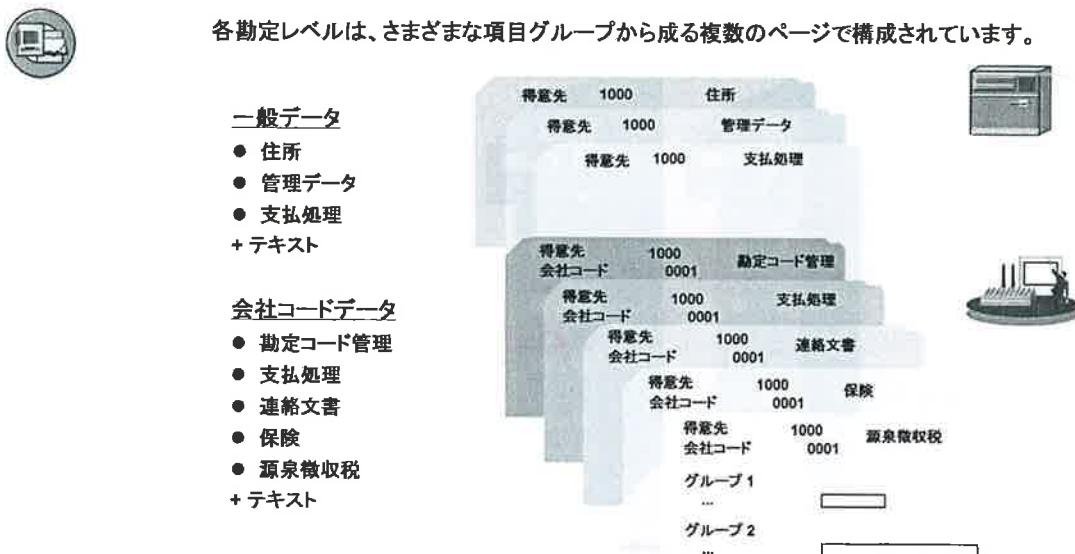


図 55: 得意先/仕入先コードのページ

勘定を変更または照会する際、第一画面で該当ページを選択することで任意のページに直接ジャンプすることができます。

重要な項目は以下のとおりです。

- 検索語句: これらの項目には、得意先/仕入先名の略語を入力することができます。書式は、会社のガイドラインや慣例によって決まります。
- グループ: ユーザ定義のグループキーを使用して、同じ企業グループに属する得意先または仕入先をグループ化することができます。このグループキーは、レポートの実行やトランザクション処理、またはマッチコードで使用することができます。
- 記帳担当者: 記帳担当者の名称を ID を付けて保存する必要があります。記帳担当者が担当する得意先/仕入先マスタレコードにこの ID を入力することができます。これにより、その記帳担当者の名称がすべての連絡文書に自動的に印刷されるようになります。この ID は、督促および支払提案一覧のソートにも使用することができます。

各レベルには、説明テキストを入力することができます。

**明細照会と明細消込管理は、すべての得意先/仕入先コードで標準設定されています。**

また、既存のマスタレコードを参照元として指定して、新しい得意先/仕入先マスタレコードを登録することもできます。この場合、得意先/仕入先に直接関連しないデータのみが参照勘定から新しい勘定にコピーされます。したがって、住所などはコピーされません。レコードを保存する前に、コピーされたデータをチェックし、必要に応じて変更する必要があります。すべての勘定グループで参照勘定を登録しておくことをお奨めします。

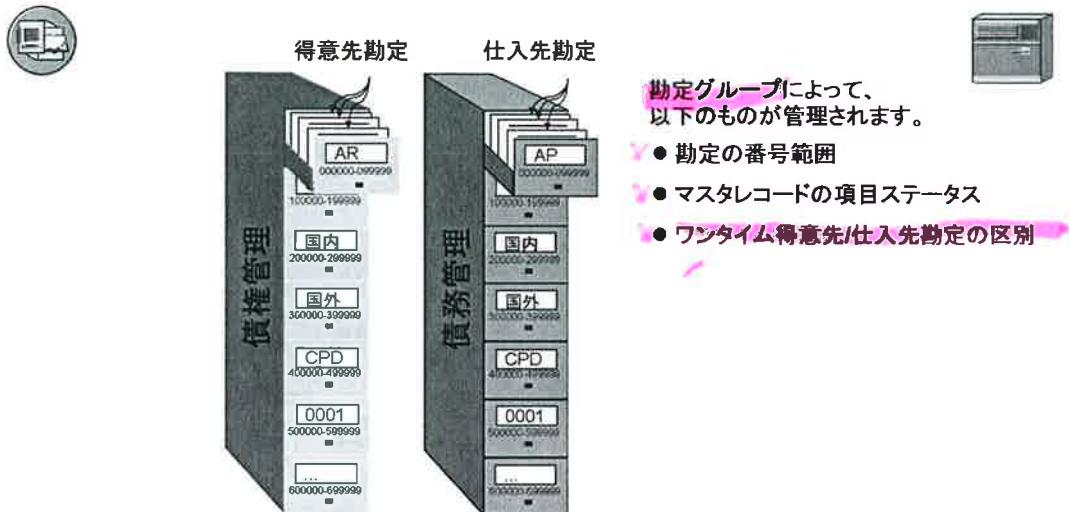


図 56: 得意先/仕入先の勘定グループ

得意先/仕入先マスタレコードの登録時に、第一画面で勘定グループを入力します。財務会計では、得意先または仕入先コードを登録した後でその勘定グループを変更することはできません。ただし、販売管理で取引先機能を使用する場合は、勘定グループの変更が可能な場合もあります(受注先住所から出荷先住所への変更など)。追加情報については、販売管理の SAP ライブドリーラーを参照してください。

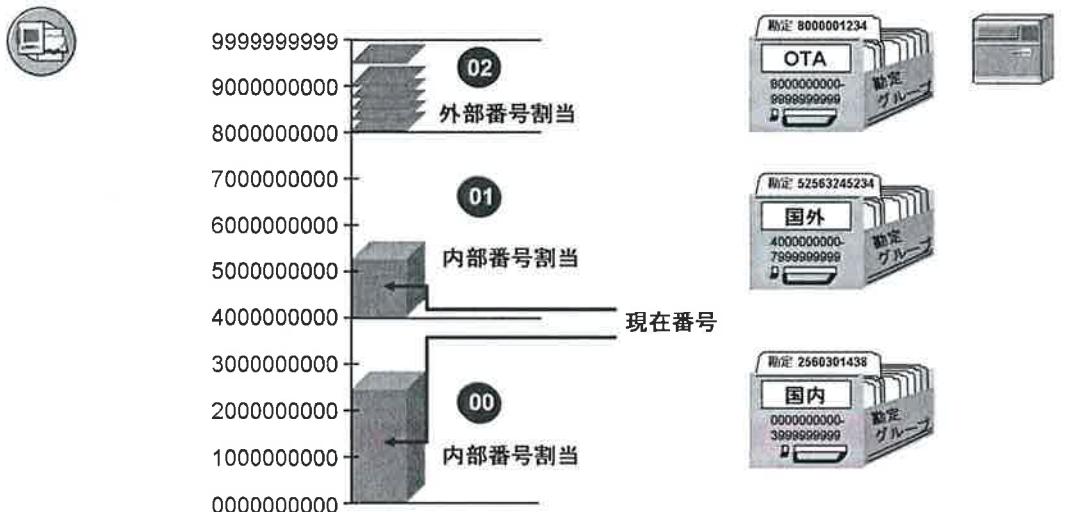


図 57: 得意先/仕入先の番号範囲

得意先コードと仕入先コードの番号範囲は、別々に定義されます。使用可能な勘定コードの範囲は、さらに小さな番号範囲に分割されます。番号範囲は、重複してはなりません。

各番号範囲について、その番号割当が外部採番または内部採番のいずれであるかを定義することができます。内部番号はシステムによって割り当てられ、外部番号はレコードの登録時にユーザが入力します。外部番号には、英字を使用することができます。

内部番号割当では、範囲内で使用可能な次の番号が常に新規勘定に割り当てられます。特定の番号範囲内に残っている番号数を調べるには、現在番号を照会します。

外部番号割当では、ユーザが勘定コードを選択します。この番号は、順序どおりでなくともかまわないので、現在番号を照会することはできません。

各番号範囲は、1つまたは複数の勘定グループに割り当てることができます。

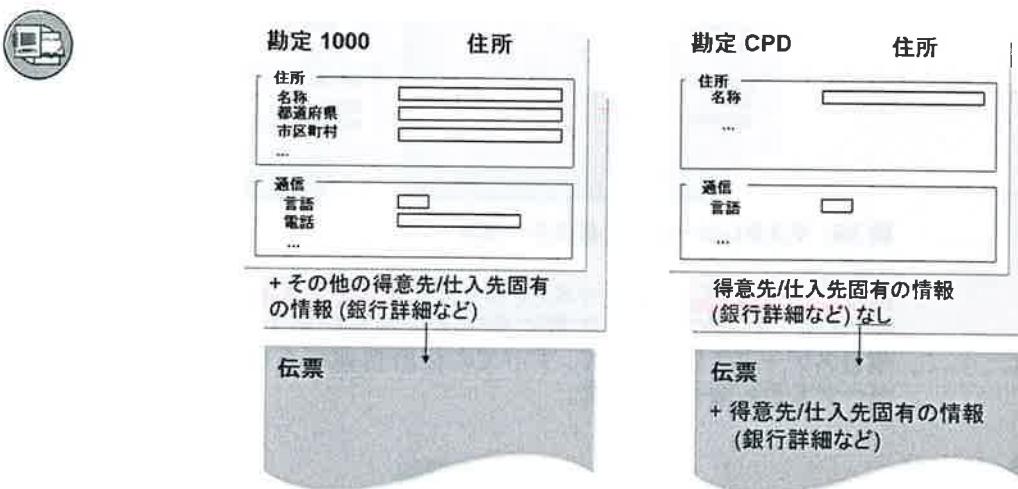


図 58: 通常の勘定とワンタイム勘定

めったに取引を行わない得意先と仕入先用には、特別な得意先/仕入先マスタレコードを登録します。これらのマスタレコードには、ワンタイム得意先/仕入先(ワンタイム勘定)の債権および債務が含まれています。他のマスタレコードとは異なり、ワンタイム勘定マスタレコードには特定の得意先/仕入先に関する情報は含まれていません。これは、この勘定を複数の得意先/仕入先で使用するためです。このため、得意先/仕入先固有の項目は非表示にします。

ワンタイム得意先/仕入先の得意先/仕入先固有データは、転記時に伝票に入力します。

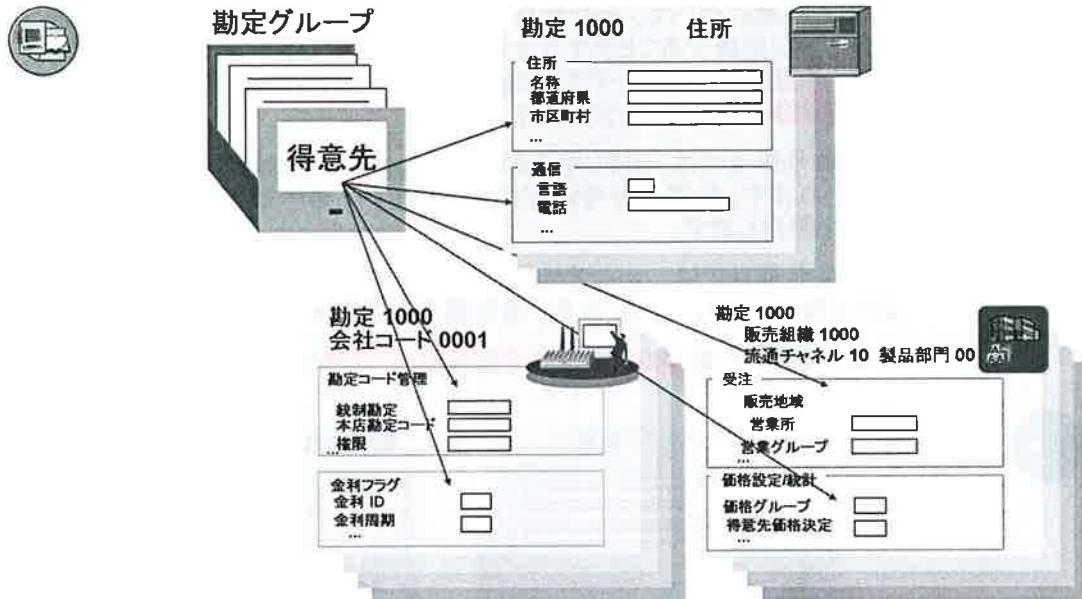


図 59: マスタレコードの項目ステータス

**勘定グループ**によって、マスタレコードに表示される項目が制御されます。たとえば、すべての連絡文書に全住所情報が記載されるようにするには、項目ステータスを変更して、すべての住所情報項目を“必須入力”としてマークする必要があります。

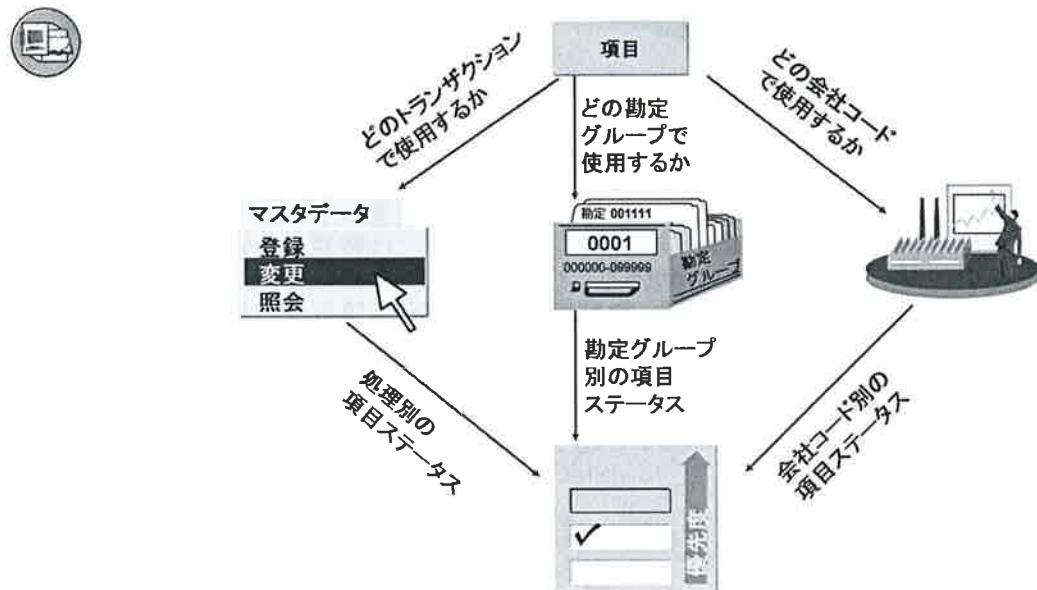


図 60: 項目ステータス制御

得意先/仕入先マスタデータの画面レイアウトは、以下のような要素によって制御されます。

**勘定グループ別制御：**通常、項目ステータスは勘定グループによってのみ制御されます。このため、同じ勘定グループの勘定はすべて画面レイアウトが同じになります。

**トランザクション別制御：**マスタデータトランザクション（登録、変更、または照会）に応じて項目ステータスを設定することができます。登録後の変更を禁止する項目（項目“統制勘定”など）については、“変更”トランザクションのトランザクション依存項目ステータスを“表示のみ”に設定してください。

**会社コード別制御：**G/L 勘定グループの勘定グループ別項目ステータスとトランザクション別項目ステータスについては、すでに説明しました。この他、会社コード固有の画面レイアウトにもとづいて、得意先および仕入先マスタレコードの会社コードレベル内の項目の項目ステータスを制御することもできます。特定の項目を使用する会社コードではその値を入力し、使用しない会社コードではその項目を非表示にすることができます。たとえば、特定の会社コードで督促プログラムが使用されないようにするには、その会社コードで関連項目を非表示にします。

勘定グループ固有の項目ステータス、トランザクション固有の項目ステータス、および会社コード固有の項目ステータスは互いに比較され、**もつとも優先度の高い項目ステータスが使用されます**。

“照会”トランザクションでは入力ができないため、“照会”トランザクションでアクセスする項目のステータスは、常に表示か非表示のいずれかになります。

トランザクション固有または会社コード固有の制御を使用しない場合は、すべての項目の項目ステータスを任意入力に設定します。この項目ステータスは優先度が低いため、この設定によって勘定グループ固有の制御が常に使用されるようになります。

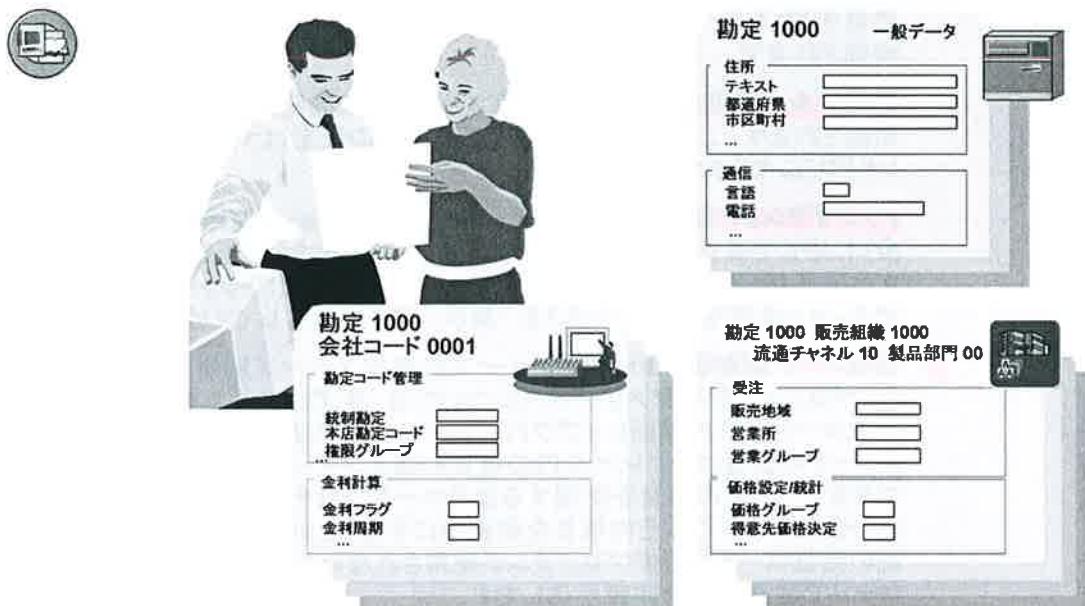


図 61: 二重管理原則

得意先/仕入先マスタデータの変更者とは別のユーザが変更内容を確認することができます。通常、これは得意先/仕入先に対する重要な変更に対して行います。

まず、IMG で、得意先/仕入先マスタレコードの二重管理項目を定義します。

得意先/仕入先マスタレコードの項目を“要承認”に定義した場合、入力内容が変更されると対応する得意先/仕入先への支払がブロックされます。このブロックは、権限を持つ担当者が変更内容をチェックし、確認または拒否したときに解除されます。

変更内容の確認は、個別の得意先/仕入先ごとに行うことも、一覧を作成して処理することもできます。この一覧は、以下の基準で制限することができます。

- 得意先/仕入先
- 会社コード
- 未確認の勘定
- 却下された勘定
- 自分が確認する対象の勘定
- レポート RFDABL00 または RFKABL00 を使用すると、すべての勘定の得意先または仕入先マスタレコードに対する変更を照会することができます。

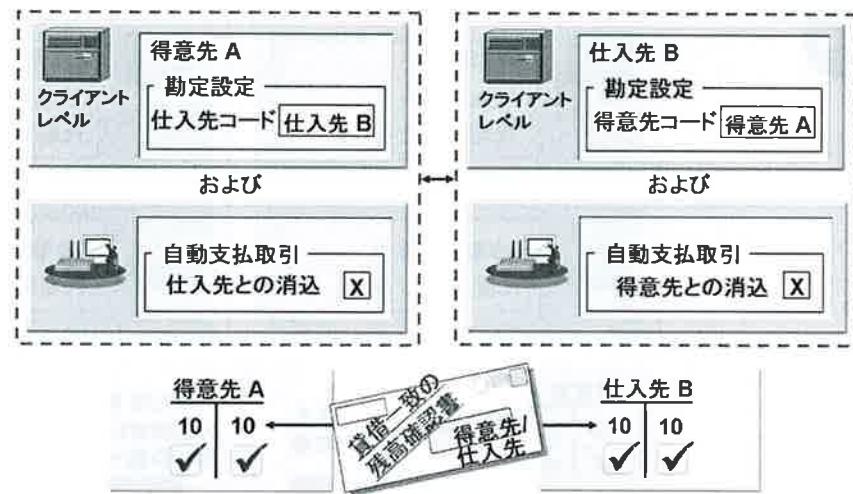


図 62: 得意先/仕入先の消込

得意先が仕入先でもある（または仕入先が得意先でもある）場合、支払および督促プログラムで**未消込明細を相殺**することができます。割り当てられた勘定の未消込明細は、明細照会と未消込明細選択画面でも照会することができます。

未消込明細を消し込むには、以下のステップを実行する必要があります。

- 得意先マスターに仕入先コードを、または仕入先マスターに得意先コードを入力する必要があります。
- 会社コードごとに、得意先と仕入先との間で未消込明細を消し込むかどうかを個別に決定することができます。消込を使用する場合は、得意先コードで“仕入先決済”項目を選択するか、または仕入先コードで対応する項目を選択する必要があります。

得意先または仕入先一覧レポート(RFDKVZ00 または RFKKVZ00)の“追加選択”で“勘定設定およびステータス”を設定すると、レポートの出力時に、各得意先または仕入先のパートナ関係が表示されます。

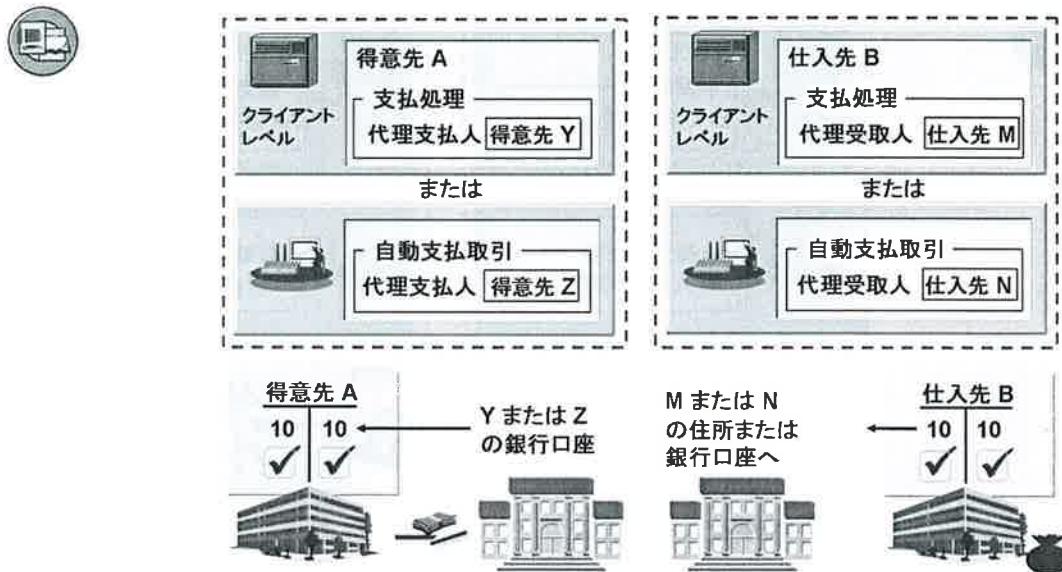


図 63: 代理支払人/受取人

クライアントレベルと会社コードレベルで、代理支払人/代理受取人を入力することができます。会社コードレベルの入力は、クライアントレベルの入力より優先されます。

マスタレコードには、この機能の使用に関するいくつかのオプションがあります。請求書の登録時に“個別受取人”フラグを設定すると、SAP ERP に未登録の得意先/仕入先の支払人/受取人に関する情報を入力することができます。

代理支払人/受取人が既存の得意先または仕入先である場合は、その得意先/仕入先コードを使用可能な支払人/受取人としてマスタレコードに入力することができます。請求書入力の際に、マッチコードを使用してこれらの受取人/支払人を選択することができます。

代理支払人を入力した場合、その勘定の未消込明細の支払期日が来ると、消込金額が代理支払人によって支払われます。

代理受取人を入力した場合、その勘定の未消込明細の支払期日が来ると、会社が支払う必要のある消込金額を代理受取人に支払います(通常は仕入先に支払われる金額が、破産管財人などに支払われます)。

得意先または仕入先一覧レポート(RFDKVZ00 または RFKKVZ00)の“追加選択”で“支払データ”区分を設定すると、レポートの出力時に、各得意先の代理支払人または各仕入先の代理受取人が表示されます。

SAP メモ  
 東日本  
 大阪支社  
 100 100

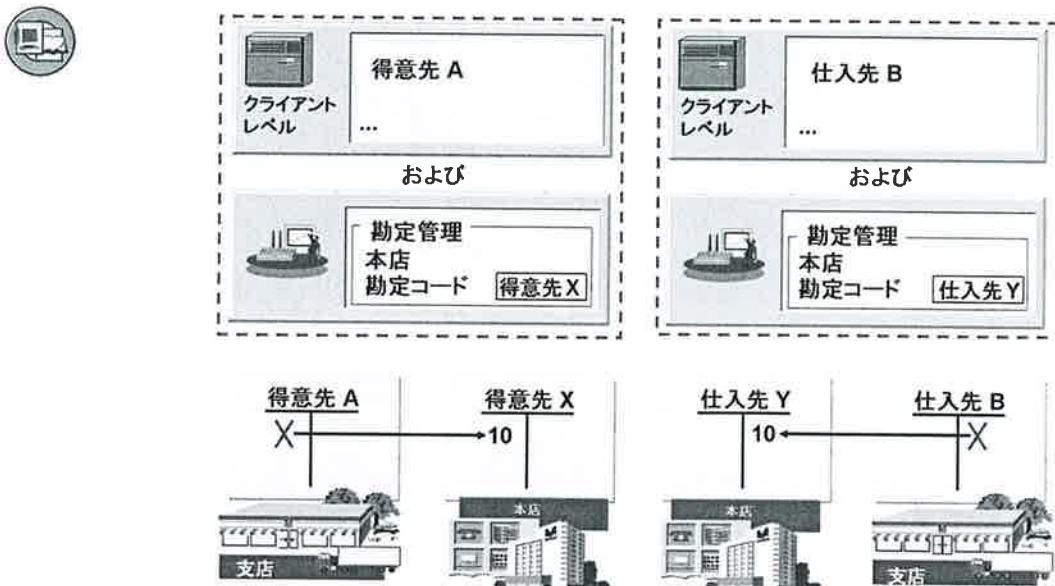
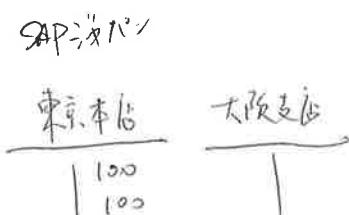


図 64: 本店/支店 勘定管理コードが異なる (回数かげない)

一部の業種の得意先では、発注は個別に(支店から)行われ、請求書に対する支払は一括して(本店で)行われます。この場合、商品フローとキャッシュフローに相違が生じます。これは、本店勘定コードと支店勘定コードの使用によってSAPシステムに反映することができます。

支店勘定コードに転記された明細はすべて、本店勘定コードに自動的に転送されます。通常、督促状は本店に送信され、支払や入金は本店が行います。ただし、本店マスタレコードで項目“分散処理”が選択されている場合は、督促/支払プログラムで代わりに支店勘定コードが使用されます。

得意先または仕入先一覧レポート(RFDKVZ00 または RFKKVZ00)の“追加選択”で“勘定設定およびステータス”を設定すると、レポートの出力時に、各支店に対応する本店が表示されます。





## 演習問題 7: 得意先/仕入先コード

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 得意先/仕入先コードグループの登録
- 得意先/仕入先コードの登録
- 得意先/仕入先コードに関する知識の確認

### ビジネスシナリオ

得意先/仕入先マスタデータは、会計部門で登録します。

#### 得意先コード:

- 勘定コードは、自動的に割り当てられます。
- 支払条件は、記帳担当者が更新する必要があります。

#### 仕入先コード:

- 勘定コードは、記帳担当者が割り当てます。
- 債務部門管理者は、両方の検索語句(検索語句1と検索語句2)の入力を必須にする拡張検索を使用することを望んでいます。
- 検索語句1が、変更の要承認項目であることをチェックします。

### タスク 1:

番号範囲はすべての会社コードに対して有効なため、番号範囲は変更しないでください。

1. 通常の得意先コード用に、“得意先 #”というテキストで勘定グループ D## を登録します。これは、勘定グループ KUNA をコピーし、ビジネスシナリオの要件に従って D## を設定して実行します。この勘定グループに番号範囲 02 を割り当てます。
2. 新しい勘定グループ D## を使用して、一般得意先コードを登録します。以下の項目にデータを入力します。

検索語句:	<b>GR##</b>
グループキー:	<b>4711</b>
統制勘定:	<b>売掛金 - 国内 140000</b>
支払条件:	<b>0002</b>

次へ

3. 通常の仕入先コード用に“仕入先 #”というテキストで勘定グループ K## を登録します。これは、勘定グループ KRED をコピーし、ビジネスナリオの要件に従って K## を設定して実行します。この勘定グループに番号範囲 XX を割り当てます。



**ヒント:** XX は番号範囲です。グループ番号ではありません。

4. この新規勘定グループ K## を使用して、仕入先 # という一般仕入先コードを登録します。参照の仕入先として、会社コード 1000 の仕入先 1000 を使用することができます。項目に以下のデータを入力します。

項目名またはデータ型	値
検索語句 1 (A)	GR##
検索語句 2 (B)	仕入先の一部



**ヒント:**

**質問:** 2 つ目の検索語句を入力することができないことに気付きました。この理由は何ですか。回答は、タスク 2 で確認することができます。

**または:** 検索語句 2 (B) を入力することができました。この理由は、アクティビティ 2 のポイント 3 で説明します。

グループ ID:	<b>4711</b>
統制勘定:	<b>買掛金 160000</b>
計画グループ:	<b>A1</b>
支払条件:	<b>0001</b>

## タスク 2:

さらにマスタレコードを確認したところ、要件の 1 つが満たされていないことがわかりました。両方の検索語句を仕入先マスタレコードに入力することができませんでした。

1. 検索語句の項目がマスタレコードで必須入力になっていることを確認します。
2. 勘定グループで項目 “検索語句 B” (検索語句 2) が必須入力項目として定義されているかどうかをチェックします。
3. マスタレコードに項目が表示されていない理由は何ですか。仕入先マスタレコード登録のトランザクション依存項目のステータスを調べます。

次へ

- この理由を調べます。

ヒント: 定義: トランザクション依存画面レイアウト(仕入先)の隣にあるIMG アクティビティの文書をクリックします。

### タスク 3:

#### オプション:

会計管理責任者は、仕入先タイプを最初の検索語句に入力することに決定しました。この例では、これは供給や設備などになり、会社コードを第2検索語句に入力します。最初の検索語句は、要承認項目です。そのため、会計管理責任者はこの項目に対する変更すべてを確認する必要があります。

- 検索語句1(A)を要承認項目として定義します。
- 仕入先マスタレコードを新しい情報で更新します。
- 隣の席の人が加えた仕入先マスタレコードに対する変更を確認します。
- 完全な得意先コードの構成要素を挙げてください。

---



---



---



---

- 完全な仕入先コードの構成要素を挙げてください。

---



---



---



---

### タスク 4:

#### 正誤問題

- 得意先/仕入先コードの更新は、常に集中更新である必要があります。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

次へ

2. 1つの番号範囲は1つの勘定グループにのみ割り当てることができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

### タスク 5:

次の文を完成させてください。

1. \_\_\_\_\_ 番号割当は、SAP ERP システムで自動的に番号を割り当てることです。  
空白に適切な答えを記入してください。
2. 財務会計セグメントだけでなく、受注管理/購買セグメントも登録する場合は、得意先/仕入先マスタレコードを \_\_\_\_\_ 更新します。  
空白に適切な答えを記入してください。
3. G/L 勘定では \_\_\_\_\_ 番号割当が使用されるのに対して、得意先/仕入先マスタレコードでは \_\_\_\_\_ および \_\_\_\_\_ 番号割当の両方を使用することができます。  
空白に適切な答えを記入してください。

## 解答 7: 得意先/仕入先コード

### タスク 1:

番号範囲はすべての会社コードに対して有効なため、番号範囲は変更しないでください。

1. 通常の得意先コード用に、“得意先 #”というテキストで勘定グループ D## を登録します。これは、勘定グループ KUNA をコピーし、ビジネスナリオの要件に従って D## を設定して実行します。この勘定グループに番号範囲 02 を割り当てます。
  - a) 得意先の勘定グループを登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 得意先コード → マスタデータ → 得意先マスタデータ登録準備 → 定義:得意先勘定グループ/画面レイアウト

“KUNA 一般得意先”を選択します。

編集 → 別名コピー...

以下のデータを上書きします。

項目名またはデータ型	値
勘定グループ	D##
名称	得意先 #

“会社コードデータ”をダブルクリックして、項目ステータスを編集します。

“支払処理”をダブルクリックします。

項目名またはデータ型	値
支払条件	必須入力

“保存”を選択します。

勘定グループに番号範囲を割り当てます。

IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 得意先コード → マスタデータ → 得意先マスタデータ登録準備 → 割当:番号範囲 -> 得意先勘定グループ

項目名またはデータ型	値
グループ	D##

次へ

番号範囲	02
------	----

“保存”を選択します。

2. 新しい勘定グループ D## を使用して、一般得意先コードを登録します。  
以下の項目にデータを入力します。

検索語句:	<b>GR##</b>
グループキー:	<b>4711</b>
統制勘定:	<b>売掛金 - 国内 140000</b>
支払条件:	<b>0002</b>

- a) 標準得意先コードを登録します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 債権管理 → マスタレコード → 登録

項目名またはデータ型	値
勘定グループ	得意先 ## (D##)
得意先	空白
会社コード	GR##
参照得意先	1000
参照会社コード	1000

“Enter”を選択します。

タブページ “住所”:

項目名またはデータ型	値
名称	任意。自由に作成してください。
検索語句 1/2	GR##
町名/番地	任意
郵便番号/市区町村名	任意
国/地域	JP (コース実施の国)

“管理データ”タブページを選択します。

次へ

項目名またはデータ型	値
グループキー	4711

“会社コードデータ”を選択します。

“勘定コード管理”タブを選択します。

項目名またはデータ型	値
統制勘定	入力ヘルプを選択し、売掛金-国内(140000)を選択します。

“支払処理”タブページを選択します。

項目名またはデータ型	値
支払条件	0002

“保存”を選択します。

得意先コードを記入します：000100262

3. 通常の仕入先コード用に“仕入先 #”というテキストで勘定グループ K## を登録します。これは、勘定グループ KRED をコピーし、ビジネスナリオの要件に従って K## を設定して実行します。この勘定グループに番号範囲 XX を割り当てます。



ヒント：XX は番号範囲です。グループ番号ではありません。

- a) 仕入先の勘定グループを登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備 → 定義: 仕入先勘定グループ/画面レイアウト

“KRED 仕入先”を選択します。

編集 → 別名コピー…。

以下のデータを上書きします。

項目名またはデータ型	値
勘定グループ	K##
名称	仕入先 ##

次へ

“一般データ”をダブルクリックして、項目ステータスを編集します。  
“住所”をダブルクリックします。

項目名またはデータ型	値
検索語句 B	必須入力

“前画面”(緑色の矢印)を選択します。  
“問い合わせ先”をダブルクリックします。

項目名またはデータ型	値
問い合わせ先	非表示

“保存”を選択します。  
勘定グループに番号範囲を割り当てます。  
IMG: 財務会計(新規)→債権管理および債務管理→仕入先コード→マスタデータ→仕入先マスタデータ登録準備→割当:番号範囲->仕入先勘定グループ

項目名またはデータ型	値
グループ	K##
番号範囲	XX

注記: XXは番号範囲です。グループ番号ではありません。  
“保存”を選択します。

- この新規勘定グループ K##を使用して、仕入先 ##という一般仕入先コードを登録します。参照の仕入先として、会社コード 1000 の仕入先 1000 を使用することができます。項目に以下のデータを入力します。

次へ

項目名またはデータ型	値
検索語句 1 (A)	GR##
検索語句 2 (B)	仕入先の一部

**ヒント:**

**質問:** 2つ目の検索語句を入力することができないことに気付きました。この理由は何ですか。回答は、タスク2で確認することができます。

**または:** 検索語句 2 (B) を入力することができました。この理由は、アクティビティ2のポイント3で説明します。

グループ ID:

**4711**

統制勘定:

**買掛金 160000**

計画グループ:

**A1**

支払条件:

**0001**

a) 一般仕入先コードを登録します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理  
→ マスターデータ → 登録

項目名またはデータ型	値
仕入先	Vendor##
会社コード	GR##
勘定グループ	K##

“Enter”を選択します。

タブページ“住所”:

項目名またはデータ型	値
名称	任意。自由に入力してください。
町名/番地	任意
検索語句 1 (A)	GR##
検索語句 2 (B)	仕入先の一部
郵便番号/市区町村名	任意

次へ

国/地域	JP (コース実施の国)
------	--------------

**質問:** 2つ目の検索語句を入力することができないことに気付きました。この理由は何ですか。回答は、タスク2で確認することができます。

**または:** 検索語句2を入力することができました。この理由は、アクティビティ2のポイント3で説明します。

ジャンプ → 次画面

項目名またはデータ型	値
グループ:	4711

ジャンプ → 次画面、“支払処理”

ジャンプ → 次画面、“会計情報 - 会計管理”

項目名またはデータ型	値
統制勘定	入力ヘルプを選択し、買掛金 - 国内(160000)を選択します。
資金管理グループ:	A1

ジャンプ → 次画面、“支払処理 - 会計管理”

項目名またはデータ型	値
支払条件	0001

“保存”を選択します。

次へ

## タスク 2:

さらにマスタレコードを確認したところ、要件の 1 つが満たされていないことがわかりました。両方の検索語句を仕入先マスタレコードに入力することができませんでした。

1. 検索語句の項目がマスタレコードで必須入力になっていることを確認します。
  - a) 検索語句の項目がマスタレコードで必須入力になっていることを確認します。

**SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理  
→ マスタデータ → 変更**

項目名またはデータ型	値
仕入先	Vendor##
会社コード	GR##
住所	✓

“Enter”を選択します。

画面の“検索語句”に、2 番目の検索語句が表示されません。画面の検索語句 2 が表示される場所が空白になっています。

2. 勘定グループで項目“検索語句 B”(検索語句 2)が必須入力項目として定義されているかどうかをチェックします。
  - a) 仕入先勘定グループの項目ステータスを確認します。項目が必須入力項目になっていることを確認します。

**IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備 → 定義: 仕入先勘定グループ/画面レイアウト**

勘定グループ K## をダブルクリックします。

“一般データ”をダブルクリックして、項目ステータスを照会します。

“住所”をダブルクリックします。

次のデータを確認します。

項目名またはデータ型	値
検索語句 B	必須入力

次へ

3. マスタレコードに項目が表示されていない理由は何ですか。仕入先マスタレコード登録のトランザクション依存項目のステータスを調べます。

- a) トランザクション別項目ステータスをチェックします。項目が必須入力項目として定義されているかどうかをチェックします。

**IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備 → 定義: トランザクション依存画面レイアウト(仕入先)**

“仕入先登録(会計)”をダブルクリックします。

“一般データ”をダブルクリックして、項目ステータスを照会します。

“住所”をダブルクリックします。

以下のデータをチェックします。項目“検索語句 2 (B)”に項目ステータス“非表示”が設定されていますか。設定されている場合は、以下のように修正します。

項目名またはデータ型	値
検索語句 B	必須入力

“保存”を選択します。

“仕入先変更”トランザクションでも同じ情報をチェックします。緑色の矢印を使用して、概要画面に戻ります。

仕入先変更(会計)をダブルクリックします。

一般データをダブルクリックして、項目ステータスを照会します。

住所をダブルクリックします。

検索語句 2 (B)が必須入力であることを確認します。

エントリを保存します。

**結果:**すべてのコース参加者が項目“検索語句 2 (B)”にデータを入力することができるようになりました。理由: トランザクション別項目ステータスの定義は、特定の会社コード固有ではありません。

4. この理由を調べます。

次へ

**ヒント:** 定義: トランザクション依存画面レイアウト(仕入先)の隣にあるIMG アクティビティの文書をクリックします。

- a) 項目の非表示はもつとも優先度が高いステータスです。その次に優先度が高い順序は、“表示”、“必須入力”、“任意入力”になります。  
この結果は以下のようになります。

勘定グループ	必須入力
トランザクション	非表示
結果	非表示

### タスク 3:

#### オプション:

会計管理責任者は、仕入先タイプを最初の検索語句に入力することに決定しました。この例では、これは供給や設備などになり、会社コードを第 2 検索語句に入力します。最初の検索語句は、要承認項目です。そのため、会計管理責任者はこの項目に対する変更すべてを確認する必要があります。

1. 検索語句 1 (A) を要承認項目として定義します。

- a) 検索語句 1 (A) を要承認項目として定義します。

**IMG:** 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備 → 定義:二重管理の要承認項目(仕入先)

“新規エントリ”を選択します。

“項目名”項目の入力ヘルプをクリックして、検索語句 1 (A) (ADRC-SORT1) をダブルクリックします。

“保存”を選択します。



**ヒント:** 要承認項目の定義は、会社コード固有ではありません。このため、この項目の設定はすでに講師や他の受講者によって行われている可能性があります。

次へ

2. 仕入先マスタレコードを新しい情報で更新します。

a) 仕入先マスタレコードを変更します。

**SAP Easy Access メニュー:** 会計管理 → 財務会計 → 債務管理  
→ マスタデータ → 変更

項目名またはデータ型	値
仕入先	Vendor##
会社コード	GR##
住所	✓

“Enter”を選択します。

項目名またはデータ型	値
検索語句 1	供給
検索語句 2	GR##

必要に応じて、“Enter”でメッセージを確認します。

変更内容を確認するように求めるメッセージが表示されたら、  
“Enter”を選択します。

“保存”を選択します。

次へ

3. 隣の席の人が加えた仕入先マスタレコードに対する変更を確認します。

a) 仕入先マスタレコードの変更を確認します。

**SAP Easy Access メニュー：会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタデータ → 変更確認 → 個別**

項目名またはデータ型	値
仕入先	隣の席の人の仕入先 #
会社コード	隣の席の人の GR##

“Enter”を選択します。

“要承認項目に対する変更”を選択して、変更内容をチェックします。項目名を何度かダブルクリックして、変更の詳細情報を照会します。

緑色の矢印を選択して、メイン画面に戻ります。

“確認”を選択して、隣の人の変更内容を確認します。

“保存”を選択します。

→ **注記：**以下の作業が終了しました。

- 得意先および仕入先マスタレコードの新規勘定グループの登録
- 新規得意先/仕入先マスタレコードの登録
- 仕入先マスタレコードの第1検索語句を要承認項目として定義
- 仕入先マスタレコードの変更
- 隣の席の人が行った仕入先マスタレコードに対する変更の確認

4. 完全な得意先コードの構成要素を挙げてください。

解答：

- 一般データ
- 会社コードレベル
- 販売エリアレベル

次へ

5. 完全な仕入先コードの構成要素を挙げてください。

**解答:**

- 一般データ
- 会社コードレベル
- 購買組織レベル

### タスク 4:

正誤問題

1. 得意先/仕入先コードの更新は、常に集中更新である必要があります。

**解答:** 誤

得意先/仕入先コードは、集中または個別のいずれでも更新することができます。

2. 1 つの番号範囲は 1 つの勘定グループにのみ割り当てることができます。

**解答:** 誤

1 つの番号範囲を複数の勘定グループに割り当てることができます。

### タスク 5:

次の文を完成させてください。

1. 内部番号割当は、SAP ERP システムで自動的に番号を割り当てるこ  
とです。

**解答:** 内部

2. 財務会計セグメントだけでなく、受注管理/購買セグメントも登録する場合  
は、得意先/仕入先マスタレコードを集中更新します。

**解答:** 集中

3. G/L 勘定では外部番号割当が使用されるのに対して、得意先/仕入先  
マスタレコードでは内部および外部番号割当の両方を使用することができます。

**解答:** 外部, 内部, 外部



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 得意先/仕入先コードの構造の説明
- G/L 勘定と得意先/仕入先コードの類似点と相違点の説明
- 得意先/仕入先コードの管理と更新
- 得意先コードと仕入先コード間の関係の説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 勘定コード表の定義と使用
- G/L 勘定の構造の説明
- G/L 勘定の書式の管理
- さまざまな種類の G/L 勘定の列挙と説明
- G/L 勘定の登録、更新、管理
- 同時に複数の G/L 勘定を変更する方法の説明
- グループ勘定コード表と国勘定コード表の利点と欠点の説明
- 利益センタおよびセグメントという用語の詳細な説明
- セグメントの誘導オプションの説明
- 得意先/仕入先コードの構造の説明
- G/L 勘定と得意先/仕入先コードの類似点と相違点の説明
- 得意先/仕入先コードの管理と更新
- 得意先コードと仕入先コード間の関係の説明

# 3 章

## 伝票管理

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 会計伝票の分類
- 会計伝票の照会
- 会計伝票の構造の説明
- 会計期間のオープン/クローズ
- 勘定タイプに応じた会計期間のオープン/クローズ
- 特定の記帳担当者グループに対して許可する転記金額の定義
- 最高額の許容範囲グループへのユーザの割当
- 財務会計での基本伝票の転記

### 章の内容

レッスン: 伝票構造 .....	136
演習問題 8: 伝票ヘッダ .....	145
演習問題 9: 明細 .....	155
レッスン: 会計期間 .....	163
演習問題 10: 会計期間 .....	169
レッスン: 転記権限 .....	176
演習問題 11: 転記権限 .....	179
レッスン: 財務会計の基本伝票 .....	183
演習問題 12: 財務会計の基本伝票 .....	187

## レッスン: 伝票構造

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 会計伝票の分類
- 会計伝票の照会
- 会計伝票の構造の説明

### ビジネスシナリオ

会社は、毎日何百もの会計伝票を登録しています。オリジナル伝票の保存を簡略化するために、伝票をいくつかのカテゴリに分類する必要があります。内部監査人は、承認済費用のすべての伝票が一意の伝票タイプによって識別され、異なる番号範囲から生成されるようにしたいと考えています。

1つの伝票内のさまざまなデータが、各種取引によって必要とされます。特別な転記の場合に必須となるデータもあります。

カスタマは、承認済費用の勘定の各明細に入力される費用の根拠を示す詳細な内容説明を必要としています。

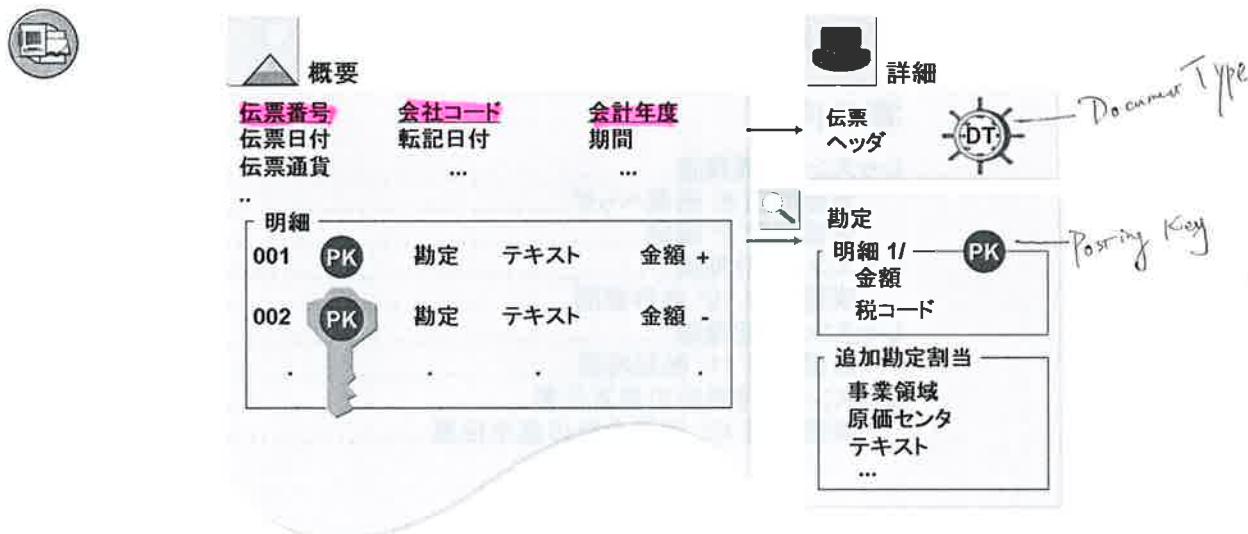


図 65: SAP ERP Financials の伝票

SAP システムでは、すべての転記は伝票の形で保存するという伝票の原則にもとづいて処理が実行されます。伝票は、アーカイブされるまで完全な単位としてシステムに存在します。

すべての伝票は、次の 3 つの項目によって一意に識別されます。

- 伝票番号
- 会社コード
- 会計年度

SAP ERP Financials の伝票には、以下のものが含まれています。

- **伝票ヘッダ** (伝票全体に適用される情報)。
- **2 ~ 999 件の明細** (明細固有の情報)。(販売管理、購買管理などのアプリケーションから) 財務/管理会計インターフェースを使用して伝票を転記すると、会計伝票に、ほぼすべての項目で同じ値を持つ明細が登録されます。会計伝票の集計方法については、SAP ノート 36353、および指定されたその他の関連する SAP ノートを参照してください。

伝票ヘッダと明細の詳細データを照会することができます。

2 つの重要な管理キー:

- **伝票タイプ** (伝票ヘッダで使用)
- **転記キー** (明細で使用)

SAP システムでは、取引ごとに少なくとも 1 件の伝票が生成されます。各伝票には、一意の伝票番号が割り当てられます。

伝票番号は、自動的に割り当てる (= 内部番号割当) ことも、伝票入力時にユーザが割り当てる (= 外部番号割当) ともできます。

業務トランザクションでは、1 つまたは複数の伝票を登録することができます。たとえば、仕入先から商品が納入されると、在庫管理で重要となるデータを記録するための入出庫伝票が登録されます。また、G/L 勘定や金額などの財務関連情報を記録するための会計伝票も登録されます。

さまざまな取引に対する伝票がシステムに生成されますが、会計管理は影響を受けないため会計伝票はこのときに同時に登録されることはありません。この例として、在庫/購買管理の購買発注などがあります。

システムでは、関連する伝票はリンクされているため、各取引の概要を把握することができます。

レポート RFBELJ00 を使用すると、要約伝票仕訳帳を作成することができます。要約伝票仕訳帳には、選択した伝票の伝票ヘッダおよび明細のもつとも重要なデータのテーブルが含まれています。

レポート RFBUEB00 と RFBUEB01 を使用すると、システム内の伝票を検索することができます。

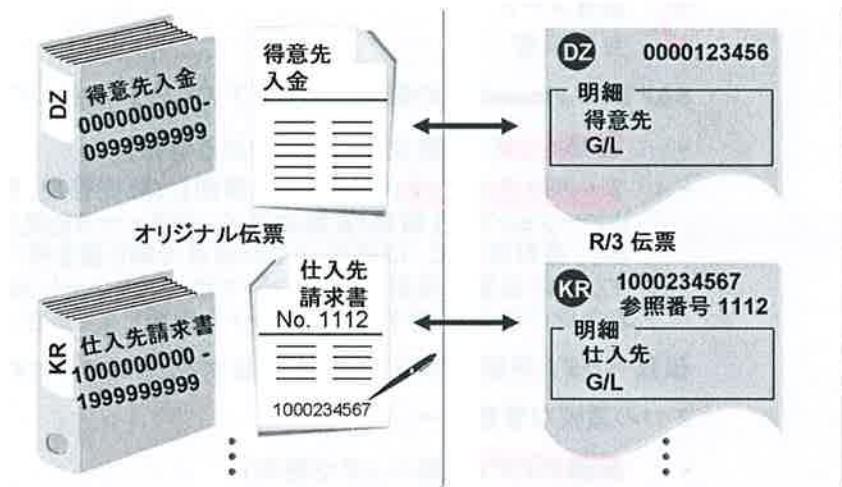


図 66: 伝票タイプ

伝票タイプは、**伝票ヘッダを制御**し、転記される**取引**(仕入先請求書、得意先支払など)を**区別**するために使用されます。伝票タイプはクライアントレベルで定義されるため、すべての会社コードで有効です。標準システムには、変更またはコピーが可能な伝票タイプが用意されています。

伝票タイプにより、以下のものが定義されます。

- **伝票番号の番号範囲**
- **転記可能な勘定タイプ**

伝票タイプにより、以下のものも定義されます。

- 伝票ヘッダの“伝票ヘッダテキスト”項目および“参照番号”項目の項目ステータス
- 請求書が正味額法で転記されるかどうか

オリジナル伝票の保管に関して推奨される方法は、伝票タイプによって伝票の保存を制御します。必ず、オリジナル伝票にシステムの伝票番号を付けて保存してください。オリジナル伝票が外部番号の場合は、次のようにしてください。

- オリジナル伝票の外部番号をシステム伝票のヘッダの“参照番号”項目に入力します。
- オリジナル伝票にシステム伝票の番号を記録します。

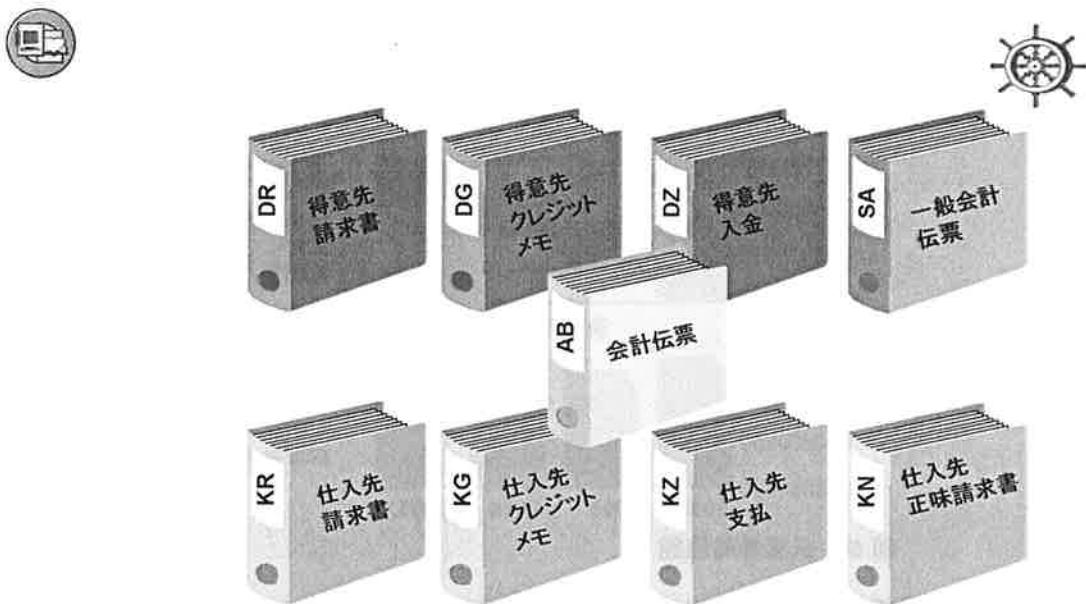


図 67: 重要な標準伝票タイプ

伝票タイプ AB は、すべての勘定タイプに転記することができます。

これ以外の伝票タイプはすべて、転記可能な勘定タイプが制限されています。たとえば伝票タイプ DG では、得意先 (D) と G/L 勘定 (S) への転記のみが可能です。

SAP ERP 請求システムから請求伝票を転送するには、以下のいずれかの伝票タイプを使用する必要があります。

- RV: 販売管理請求伝票 (得意先請求書) の初期伝票タイプ
- RE: 在庫/購買管理請求伝票 (仕入先請求書) の初期伝票タイプ

内部番号割当が使用される場合は、財務会計コンポーネントの各伝票に新しい番号が割り当てられます。外部番号割当の場合は、請求伝票番号が会計伝票に転送されます。ただし、この番号がまだ割り当てられていない場合に限ります。

支払プログラムでは、ほとんどの場合、伝票タイプ ZP を使用して自動転記が実行されます。

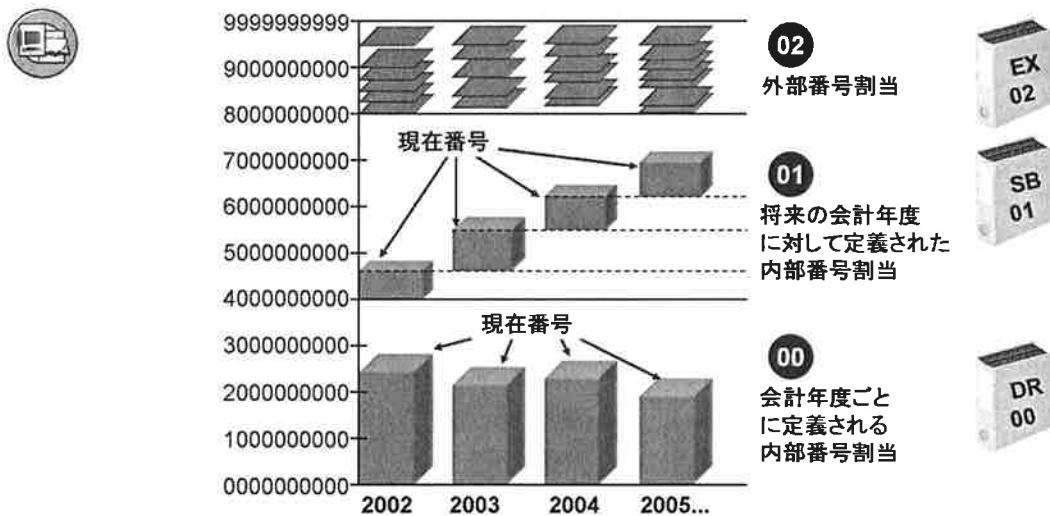


図 68: 伝票番号範囲

伝票番号範囲によって、伝票番号として割り当てられる必要がある番号の範囲が定義されます。これらの番号範囲は重複できません。

- **内部番号割当:** 番号範囲から最後に使用された伝票番号が**現在番号**項目に保存され、現在番号の次の番号が次の伝票番号として割り当てられます(図“伝票番号範囲”の例 00 と 01 を参照)。
- **外部番号割当:** ユーザがオリジナル伝票の番号を入力するか、または別のシステムから自動的に番号が転送されます。通常、これらの番号は連番ではないため、現在番号は保存されません(例 02)。番号には英数字を使用することができます。

伝票番号範囲は、それを使用する会計年度に対して定義する必要があります。2つのオプションがあります。

- **将来の会計年度にわたる定義:** 新会計年度になっても、現在番号の次の番号が引き続き次の番号として使用されます。番号範囲の最初の番号には戻りません。
- **会計年度ごとの定義:** 新会計年度の開始時に、番号範囲の先頭番号から再び割当が開始されます。これによって、番号範囲を十分に確保することができます。

追記: 新総勘定元帳で元帳ソリューションがマッピングされている場合は、異なる元帳で別々の会計年度バリエントを使用することができます。ただし、このような場合は非常にまれです。この場合は、これらの元帳に対して、カスタマイジングで特別な設定を行う必要があります。

- 伝票番号範囲は、総勘定元帳ビューに対して保存されます。
- 番号範囲は、総勘定元帳ビューの伝票タイプに対して割り当てられます。

これらの番号範囲に対しては、内部番号割当を設定する必要があります。

追記: 新総勘定元帳で元帳ソリューションが使用されている場合、非リーディング元帳での純粋な転記の伝票タイプには、異なる番号範囲を割り当てる必要があります。これは、リーディングビューの伝票番号割当てギャップが発生しないようにするためです。

1つの番号範囲を複数の伝票タイプに割り当てることができます。伝票番号範囲の間隔のある会社コードから別の会社コードにコピーしたり、ある会計年度から別の会計年度にコピーしたりすることができます。

レポート RFBNUM00 を使用すると、伝票番号割当てのギャップを検索することができます。

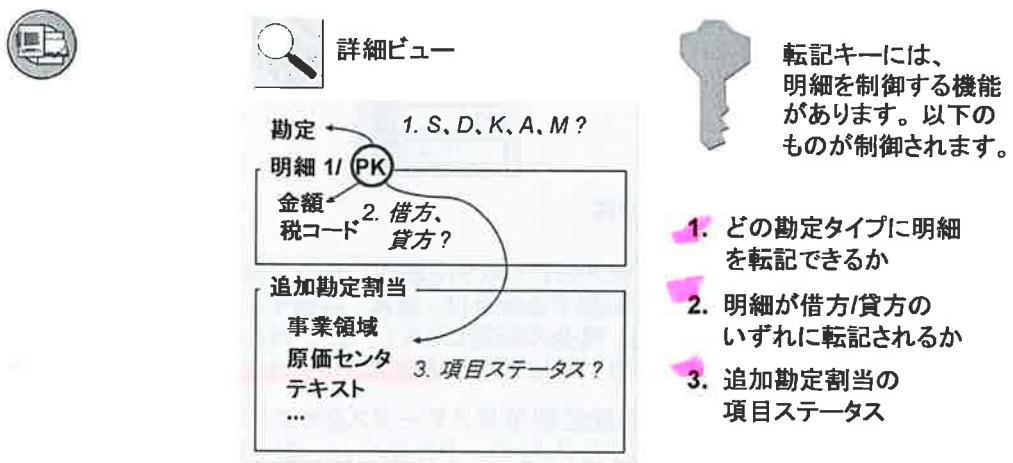


図 69: 転記キーの機能

伝票タイプと同様、転記キーもクライアントレベルで定義されます。

上記の制御機能以外に、転記キーによって以下の内容も指定されます。

- 明細が支払処理に関連するかどうか。この情報は、支払履歴の分析と支払通知の登録に必要です。
- 転記が売上関連であり、勘定の売上高がトランザクション(得意先請求書の転記など)によって更新されるかどうか。

転記キーは、Enjoy 伝票入力機能で拡張されています。標準取引では、転記キーには“借方”および“貸方”的ラベルが指定されています。SAP ERP システムのカスタマイジングでは、以下の初期値が指定されています。

- 一般転記：“借方”は転記キー 40、“貸方”は転記キー 50
- 得意先請求書：“借方”は転記キー 01、“貸方”は転記キー 50
- 得意先請求書：“借方”は転記キー 31、“貸方”は転記キー 40

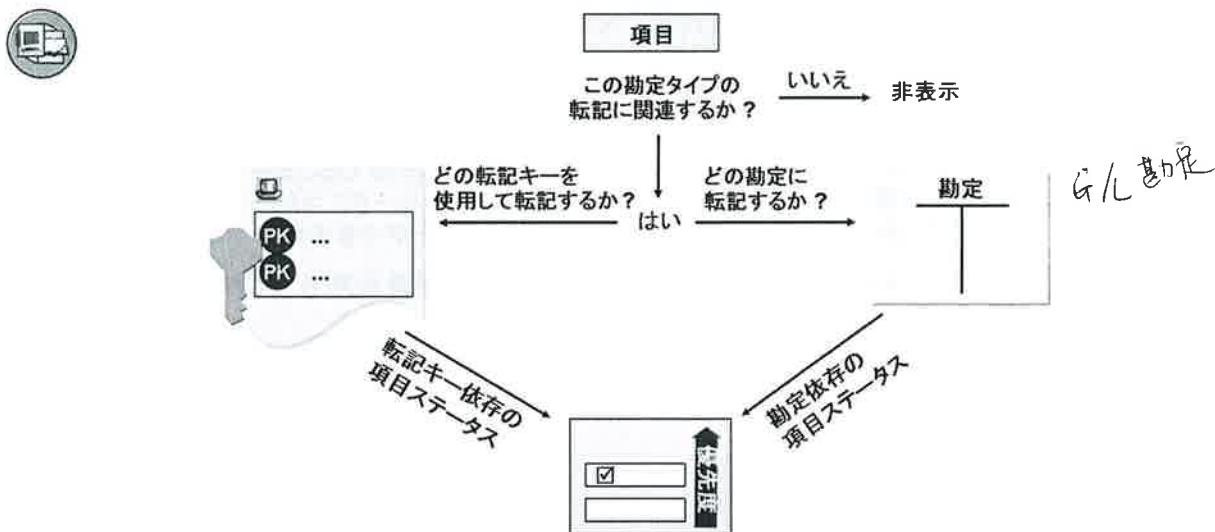


図 70: 伝票項目ステータス

伝票入力においては、使用される取引と勘定に応じて表示される項目が異なります。たとえば、費用を転記する場合は、通常、原価センタと税データを指定する必要があります。一方、現金の転記においては、これらの情報は必要ありません。伝票処理時に表示される情報は、**項目ステータス**によって制御されます。

原則として、G/L 勘定の勘定別項目ステータスをカスタマイジングで定義します。得意先データおよび仕入先データの場合は、要件に応じて転記キー別項目ステータスをカスタマイジングで定義します。

G/L 勘定の項目に定義された項目ステータスと同様に、**優先度の高い項目ステータス**が使用されます。この優先度は上に示してあります。

このルールの例外は、以下のとおりです。

- **事業領域**を使用する場合は、項目事業領域を入力可能にする必要があります。これは、会社コードに対して事業領域財務諸表を有効にすることによって有効化することができます。項目ステータスを使用して定義できるのは、その項目が必須入力または任意入力のいずれであるかのみです。
- **税項目**への入力は、G/L 勘定が税関連である場合にのみ可能です。

**非表示項目ステータス**と**必須入力項目ステータス**を組み合わせることはできません。この組合せはエラーになります。

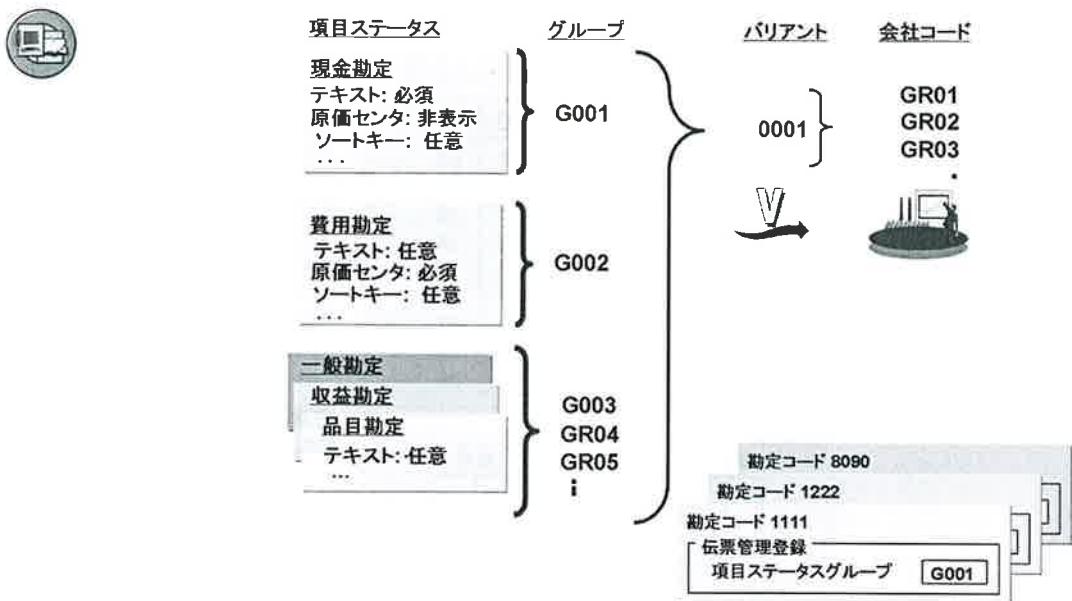


図 71: 項目ステータスグループ

G/L 勘定の種類(現金勘定、費用勘定など)ごとに、各伝票入力項目のステータスを定義する必要があります。これらのG/L 勘定に伝票が入力される場合にテキスト項目を必須、オプション、または非表示にする必要があるかや、これらのG/L 勘定に伝票が入力される場合に原価センタ項目を必須、オプション、または非表示にする必要があるかなどを定義します。

この情報は、G/L 勘定の種類ごとに項目ステータスグループとして分類します。

勘定コードマスタレコードで、各G/L 勘定に項目ステータスグループを割り当てます。

項目ステータスグループは、1つの項目ステータスバリアントにまとめられます。

項目ステータスバリアントは、会社コードに割り当てます。この処理が完了するまでは、転記を行うことはできません。一般には、すべての会社コードに同じ項目ステータスバリアントを割り当てて、会社コード間で同じ項目ステータス情報を適用できるようにします。

標準SAP ERPシステムでは、さまざまな項目ステータスグループを使用することができます。この標準項目ステータスグループをコピーし、必要に応じて修正することをお奨めします。

伝票が補助元帳勘定に転記される場合は、統制勘定の項目ステータスグループが使用されます。



得意先		仕入先		総勘定元帳	
01	11	21	31	40	50
02	12	22	32	80	90
03	13	23	33	81	91
04	14	24	34	83	93
05	15	25	35	84	94
06	16	26	36	85	95
07	17	27	37	86	96
08	18	28	38		
09	19	29	39		

資産		品目	
70	75	89	99

在庫/購買管理から  
G/L 勘定への転記用

図 72: 標準転記キー

SAP では、標準転記キーを使用することをお奨めします。標準転記キーを変更したり、新たに転記キーを定義する場合は、これらのキーを参照するテーブルもすべて更新する必要があります。

資産および品目の転記キーは、対応する SAP コンポーネントが導入されている場合にのみ使用します。

転記キーの項目ステータス定義、および項目ステータスグループを変更することによって、項目ステータスをトランザクション別または勘定別に設定することができます。

- 補助元帳勘定には項目ステータスグループがないため、転記は主に異なる転記キーによって区別されます。このため、補助元帳勘定には数多くの転記キーが用意されています。

G/L 勘定への転記は、主に異なる項目ステータスグループによって区別されます。したがって、一般転記に必要な転記キーは 40 と 50 の 2 つのみです。

追記: 転記の勘定別項目ステータスおよび転記キー別項目ステータスに加えて、伝票分割を使用する場合には、伝票分割オブジェクト(セグメントや利益センター)に対して必須項目が集中的に制御されます。これについては、“伝票分割”(転記管理)の章で詳細に説明します。

## 演習問題 8: 伝票ヘッダ

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 伝票タイプと番号範囲に関する知識の確認
- 伝票タイプと番号範囲の登録
- 伝票タイプに対する番号範囲の割当の確認
- 伝票分割用の新しい伝票タイプの準備

### ビジネスシナリオ

会社は、毎日何百もの会計伝票を登録しています。オリジナル伝票の保存を簡略化するために、伝票をいくつかのカテゴリに分類する必要があります。

内部監査人は、承認済費用のすべての伝票が一意の伝票タイプによって識別され、異なる番号範囲から生成されるようにしたいと考えています。会計部門責任者による権限番号を伝票ヘッダに入力する必要があります。

### タスク 1:

以下の質問に答えてください。

1. 伝票タイプによって管理されるもっとも重要なものは何ですか。

---



---



---



---

### タスク 2:

次の文を完成させてください。

1. ユーザがマニュアルで伝票番号を割り当てることを \_\_\_\_\_ 番号割当といいます。  
空白に適切な答えを記入してください。

### タスク 3:

次の文を完成させてください。

1. \_\_\_\_\_ 番号には、英数字を使用することができます。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

## タスク 4:

### 正誤問題

1. 会社コードごとに、独自の伝票タイプを定義することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
2. 会社コードごとに、独自の伝票番号範囲を定義することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
3. 新会計年度の開始時には、常に番号範囲の先頭から再び伝票番号割当が開始されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
4. 伝票の番号範囲は重複できません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

## タスク 5:

次の質間に答えてください。

1. 1つの伝票タイプに同時に割り当てられる番号範囲はいくつですか。

---



---



---



---

## タスク 6:

以下のタスクを実行します。

1. カスタマの会計管理責任者は、以下のものを必要としています。
  - システムで伝票をカテゴリにグループ化するために使用する伝票タイプ
  - 使用する内部番号割当

次へ

- 以下の番号範囲内の伝票番号:

SA	G/L 勘定の伝票	01	0100000000-0199999999
DG	得意先クレジットメモ	16	1600000000-1699999999
KG	仕入先クレジットメモ	17	1700000000-1799999999
DR	得意先請求書	18	1800000000-1899999999
KR	仕入先請求書	19	1900000000-1999999999

会社コードに対して一覧されている番号範囲で、次の項目が該当するかどうかを確認します。

- 登録済であること。
- 対応する伝票タイプに割り当てられていること。

伝票番号範囲が存在しない場合は、目標会計年度の会社コード 1000 または国固有の会社コードからコピーしてください。

## タスク 7:

以下のタスクを実行します。

1. 承認済費用伝票に使用する伝票タイプ ## を登録します (承認済費用 ## という名称のビジネスシナリオを参照してください)。反対仕訳伝票タイプは AB です。仕入先マスタレコードおよび G/L 勘定への転記が可能である必要があります。

この伝票タイプに、現会計年度の内部番号割当用の伝票番号範囲 85 (8500000000 - 8599999999) を割り当てます。伝票ヘッダの参照項目は、必須入力項目に設定します。

## タスク 8:

以下のタスクを実行します。

1. 後で新しい伝票タイプを使用して転記できるようにする必要があります。このためには、新総勘定元帳に追加のカスタマイジング設定が必要です。伝票分割用の伝票タイプを準備および分類する必要があります。

伝票分割の詳細については、転記管理の章の対応するレッスンを参照してください。

## 解答 8: 伝票ヘッダ

### タスク 1:

以下の質間に答えてください。

1. 伝票タイプによって管理されるもっとも重要なものは何ですか。

解答:

伝票番号の番号範囲

転記可能な勘定タイプ

### タスク 2:

次の文を完成させてください。

1. ユーザがマニュアルで伝票番号を割り当てるのを外部番号割当といいます。

解答: 外部

### タスク 3:

次の文を完成させてください。

1. 外部番号には、英数字を使用することができます。

解答: 外部

### タスク 4:

正誤問題

1. 会社コードごとに、独自の伝票タイプを定義することができます。

解答: 誤

伝票タイプはクライアントレベルで定義されるため、すべての会社コードで有効です。

2. 会社コードごとに、独自の伝票番号範囲を定義することができます。

解答: 正

伝票番号により、特定の会計年度における会社コードの各伝票が一意に識別されます。このため、伝票番号範囲は会社コードに応じて定義されます。

次へ

3. 新会計年度の開始時には、常に番号範囲の先頭から再び伝票番号割当が開始されます。

**解答:** 誤

新年度の開始時に番号割当が再び開始されるのは、伝票番号範囲が会計年度別に定義されている場合のみです。

4. 伝票の番号範囲は重複できません。

**解答:** 正

これにより、会計年度内で会社コードの伝票番号が常に一意になります。

## タスク 5:

次の質問に答えてください。

1. 1つの伝票タイプに同時に割り当てられる番号範囲はいくつですか。

**解答:** 伝票タイプごとに1つの番号範囲を指定します。ただし、1つの番号範囲を複数の伝票タイプに使用することもできます。

## タスク 6:

以下のタスクを実行します。

1. カスタマの会計管理責任者は、以下のものを必要としています。

- システムで伝票をカテゴリにグループ化するために使用する伝票タイプ
- 使用する内部番号割当
- 以下の番号範囲内の伝票番号:

SA	G/L 勘定の伝票	01	0100000000-0199999999
DG	得意先クレジットメモ	16	1600000000-1699999999
KG	仕入先クレジットメモ	17	1700000000-1799999999
DR	得意先請求書	18	1800000000-1899999999
KR	仕入先請求書	19	1900000000-1999999999

会社コードに対して一覧されている番号範囲で、次の項目が該当するかどうかを確認します。

- 登録済であること。
- 対応する伝票タイプに割り当てられていること。

次へ

伝票番号範囲が存在しない場合は、目標会計年度の会社コード 1000 または国固有の会社コードからコピーしてください。

- a) 番号範囲の定義を確認します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票番号範囲 → 入力ビューの伝票 → 定義: 入力ビューの伝票番号範囲

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##

#### 範囲 → 変更

番号範囲が正しく定義されているかどうかをチェックします(質問を参照してください)。正しく定義されていない場合は、会社コード 0001 の番号範囲をコピーします。

元会計年度から目標会計年度に番号範囲をコピーします。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票番号範囲 → 入力ビューの伝票 → 会社コードへのコピー

項目名またはデータ型	値
番号範囲番号	01 から ZZ
会計年度	1900 から 9999
ソース会社コード	0001 または国固有の会社コード
目標会社コード	GR##

“実行”を選択します。

伝票タイプへの番号範囲の割当を確認します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票タイプ → 定義: データ入力ビューの伝票タイプ

各伝票タイプをダブルクリックして、正しく番号範囲に割り当てられているかどうかをチェックします。

### タスク 7:

以下のタスクを実行します。

- 承認済費用伝票に使用する伝票タイプ ## を登録します(承認済費用 ## という名称のビジネスシナリオを参照してください)。反対仕訳伝票タイプは AB です。仕入先マスタレコードおよび G/L 勘定への転記が可能である必要があります。

次へ

この伝票タイプに、現会計年度の内部番号割当用の伝票番号範囲 85 (8500000000 - 8599999999) を割り当てます。伝票ヘッダの参照項目は、必須入力項目に設定します。

- a) 番号範囲を登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票番号範囲 → 入力ビューの伝票 → 定義: 入力ビューの伝票番号範囲

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##

範囲 → 変更

編集 → 間隔挿入

項目名またはデータ型	値
番号	85
年度	今年度
開始番号	8 500 000 000
終了番号	8 599 999 999
現在番号	0
外部	空白

“Enter”を選択します。

“保存”を選択します。

“Enter”を選択して“番号範囲間隔移送”ダイアログボックスを確認します。

伝票タイプを登録します。伝票タイプを登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票タイプ → 定義: データ入力ビューの伝票タイプ

編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
伝票タイプ	##
番号範囲	85
反対仕訳伝票タイプ	AB

次へ

許可された勘定タイプ:	
資産	選択しない
得意先	選択しない
仕入先	✓
品目	選択しない
総勘定元帳	✓
伝票入力時に必須:	
参照番号	✓

“保存”を選択します。

緑色の矢印を選択して1つ前の画面に戻り、名称を入力します。

項目名またはデータ型	値
テキスト	承認済費用##

“保存”を選択します。



ヒント: 新規伝票番号範囲と伝票タイプを登録しました。またこの番号範囲を伝票タイプに割り当てました。

## タスク 8:

以下のタスクを実行します。

- 後で新しい伝票タイプを使用して転記できるようにする必要があります。このためには、新総勘定元帳に追加のカスタマイジング設定が必要です。伝票分割用の伝票タイプを準備および分類する必要があります。

詳しい

次へ

伝票分割の詳細については、転記管理の章の対応するレッスンを参照してください。

- a) 伝票分割の伝票タイプ ## を準備します。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 伝票分割 →  
分類: 分割の伝票タイプ

“位置”ボタンを使用して伝票タイプ ## を選択します。

以下の値を入力します。

項目名またはデータ型	値
取引	0300(仕入先請求書)
バリアント	0001

エントリを“保存”します。



## 演習問題 9: 明細

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 転記キーと伝票項目ステータスに関する知識の確認
- 項目ステータスグループの登録と勘定への割当

### ビジネスシナリオ

会計取引に応じて、伝票に必要なデータは異なります。特別な転記の場合に必須となるデータもあります。

例: カスタマは、承認済費用の勘定の各明細に入力される費用の根拠を示す詳細な内容説明を必要としています。

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 転記キーによって管理されるもっとも重要なものは何ですか。

---

---

---

### タスク 2:

次の質間に答えてください。

1. 伝票項目の項目ステータスに影響を与える 2 つの要素を挙げてください。

---

---

---

### タスク 3:

次の質間に答えてください。

1. 次のシナリオの場合、伝票入力画面上のテキスト項目はどのように処理されますか。

次へ

	転記キー	項目ステータスグループ	伝票入力画面
1.	非表示	任意入力	
2.	任意入力	必須入力	
3.	必須入力	非表示	

---



---



---

#### タスク 4:

次の質間に答えてください。

1. G/L 勘定の標準転記キーは何ですか。また、それらは勘定の貸借いはずれに転記を行いますか。

---



---



---

#### タスク 5:

正誤問題

1. 転記キーはクライアントレベルで定義されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

#### タスク 6:

次の文を完成させてください。

1. \_\_\_\_\_ グループによって、伝票入力時の項目表示が制御されます。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

## タスク 7:

次の文を完成させてください。

1. 各 \_\_\_\_\_ は、1 つの項目ステータスグループに割り当てられます。  
空白に適切な答えを記入してください。

## タスク 8:

レンタルした車の車種を追跡するために、スポーツカーレンタル費用勘定の明細の "テキスト" 項目を必須入力にします。新規項目ステータスグループ FS## を登録し、テキスト "承認済費用 ##" を指定します。

1. 新規項目ステータスグループ FS## を登録するには、項目ステータスバリアント 1000 の項目ステータスグループ G001 をコピーします。
2. 項目 "テキスト" を必須入力に指定します。
3. スポーツカーレンタル費用 AE02## の G/L 勘定に、項目ステータスグループを割り当てます。

## 解答 9: 明細

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 転記キーによって管理されるもっとも重要なものは何ですか。

解答:

- 転記可能な勘定タイプの定義
- 勘定の貸借
- 追加勘定割当の項目ステータス

### タスク 2:

次の質間に答えてください。

1. 伝票項目の項目ステータスに影響を与える 2 つの要素を挙げてください。

解答: 項目ステータスグループと転記キー

### タスク 3:

次の質間に答えてください。

1. 次のシナリオの場合、伝票入力画面上のテキスト項目はどのように処理されますか。

	転記キー	項目ステータスグループ	伝票入力画面
1.	非表示	任意入力	
2.	任意入力	必須入力	
3.	必須入力	非表示	

解答:

1. 非表示
2. 必須入力
3. エラー

次へ

## タスク 4:

次の質間に答えてください。

1. G/L 勘定の標準転記キーは何ですか。また、それらは勘定の貸借いらずに転記を行いますか。

解答:

借方、転記キー 40  
貸方、転記キー 50

## タスク 5:

正誤問題

1. 転記キーはクライアントレベルで定義されます。

解答: 正

伝票タイプと同様に、転記キーもクライアントレベルで定義されます。

## タスク 6:

次の文を完成させてください。

1. 項目ステータスグループによって、伝票入力時の項目表示が制御されます。

解答: 項目ステータス

## タスク 7:

次の文を完成させてください。

1. 各 G/L 勘定は、1 つの項目ステータスグループに割り当てられます。

解答: G/L 勘定

次へ

## タスク 8:

レンタルした車の車種を追跡するために、スポーツカーレンタル費用勘定の明細の“テキスト”項目を必須入力にします。新規項目ステータスグループ FS## を登録し、テキスト“承認済費用 ##”を指定します。

1. 新規項目ステータスグループ FS## を登録するには、項目ステータスバリアント 1000 の項目ステータスグループ G001 をコピーします。

- a) 各自の会社コードに割り当てる項目ステータスバリアントを決定します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 会社コードのグローバルパラメータ → 登録: グローバルパラメータ*

(または、*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 項目 → 割当: 項目ステータスバリアント-> 会社コード*)

各自の会社コードをダブルクリックします。

各自の会社コードに割り当てられた項目ステータスバリアントを記録します。

新規項目ステータスグループをコピーします。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 項目 → 定義: 項目ステータスバリアント*

会社コードに割り当てる項目ステータスバリアントを選択します。

ダイアログ構造で、“項目ステータスグループ”をダブルクリックします。

G001 を選択します。

編集 → 別名コピー...

以下のデータを上書きします。

項目名またはデータ型	値
項目ステータスグループ	FS##
テキスト	承認済費用 ##

“Enter”を選択します。

“保存”を選択します。

この画面はまだ終了しないでください。

次へ

2. 項目 "テキスト" を必須入力に指定します。
- 項目ステータスグループの項目ステータスを変更します。  
“FS##”をダブルクリックします。  
“一般データ”をダブルクリックします。

項目名またはデータ型	値
テキスト	必須入力

- “保存”を選択します。
3. スポーツカーレンタル費用 AE02## の G/L 勘定に、項目ステータスグループを割り当てます。
- SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスタレコード → G/L 勘定 → 個別処理 → 会社コード  
または、トランザクションコード: FS00

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	AE02##
会社コード	GR##

勘定コード → 変更  
“登録/銀行/金利”タブページを選択します。

項目名またはデータ型	値
項目ステータスグループ	FS##

“保存”を選択します。



ヒント: 新規項目ステータスグループの登録と“スポーツカーレンタル費用”勘定への割当が完了しました。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 会計伝票の分類
- 会計伝票の照会
- 会計伝票の構造の説明

## レッスン：会計期間

### レッスンの概要

このレッスンでは、会計期間テーブルの機能について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

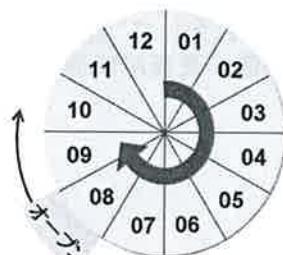
- 会計期間のオープン/クローズ
- 勘定タイプに応じた会計期間のオープン/クローズ

### ビジネスシナリオ

会計部門では、会計期間の終了時に補助元帳はクローズしますが、G/L 勘定はしばらくの間オープンにしておき、前期間の財務会計と管理会計の総勘定元帳を照合可能にすることを求めています。



会計年度中の  
オープンの会計期間



決算処理中のオープンの  
会計期間

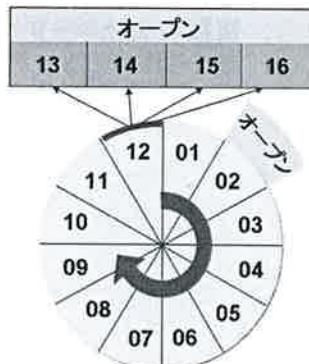


図 73: 会計期間

会計期間は、会計年度パリヤントで定義されます。

伝票が間違った会計期間に転記されるのを回避するために、特定の会計期間を遮断することができます。

通常、現在の会計期間をオープンし、他の期間はすべてクローズします。一般的には、期末にその期間をクローズして次の期間をオープンします。会計期間をオープンするには、会計期間バリアントにその会計期間を含む範囲を入力します。会計期間は、必要に応じていくつでもオープンすることができます。期末処理時には、決算転記のための**特別会計期間**をオープンします。

決算処理中には、同時に**2つの期間範囲**をオープンしておく必要があります。このため、2つの期間範囲を会計期間テーブルに入力することができます。

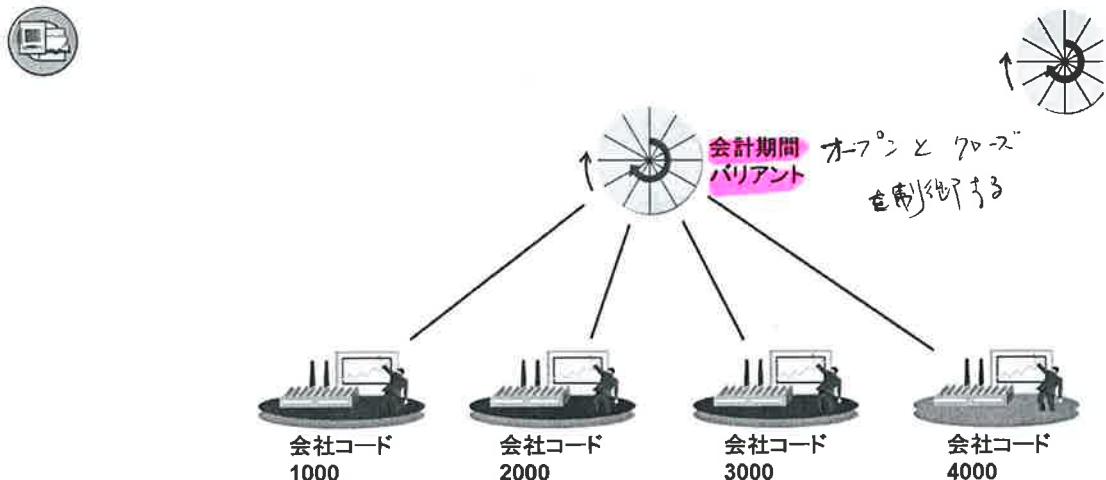


図 74: 会計期間バリアント

複数の会社コードで同じ**会計期間バリアント**を使用することができます。割り当てられているすべての会社コードに対して、会計期間が同時にオープン/クローズします。これにより、会計期間の更新が簡便化されます。

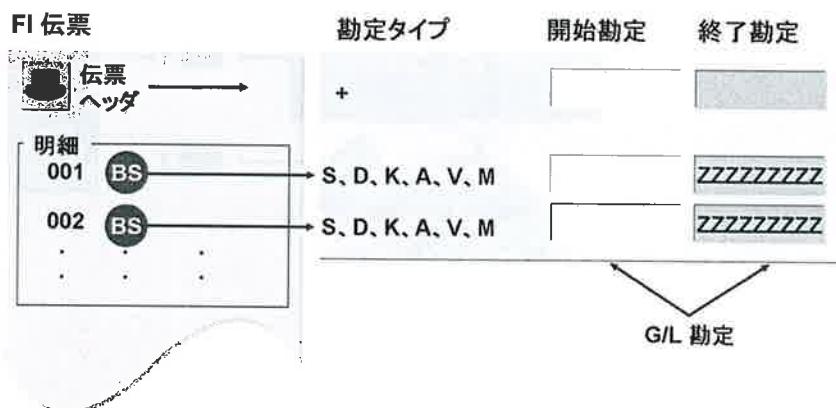


図 75: 勘定タイプごとの期間チェック

伝票ヘッダでは、勘定タイプ [ ] 割り当てられている期間がチェックされます。これが最初に行われるチェックです。したがって、他の勘定タイプでオープンする会計期間は、勘定タイプ“+”のオープンが必ず必要です。会計期間バリエントには、少なくとも勘定タイプ“+”が含まれていなければなりません。異なる勘定タイプの会計期間をすべて同じように処理する場合は、“+”エントリによる制御で十分です。

勘定タイプごとに会計期間の処理方法を変えることができます。つまり、ある会計期間において、得意先勘定への転記は可能にするが、仕入先勘定への転記は不可能にするなどの設定が可能です。

明細レベルでは、割り当てられた勘定タイプで会計期間がオープンされているかを確認するために、転記キーの勘定タイプがチェックされます。

勘定間隔には、常に G/L 勘定を設定しています。補助元帳の勘定タイプの後に統制勘定を入力することにより、統制勘定ごとにこれらの補助元帳の処理を変えることができます。

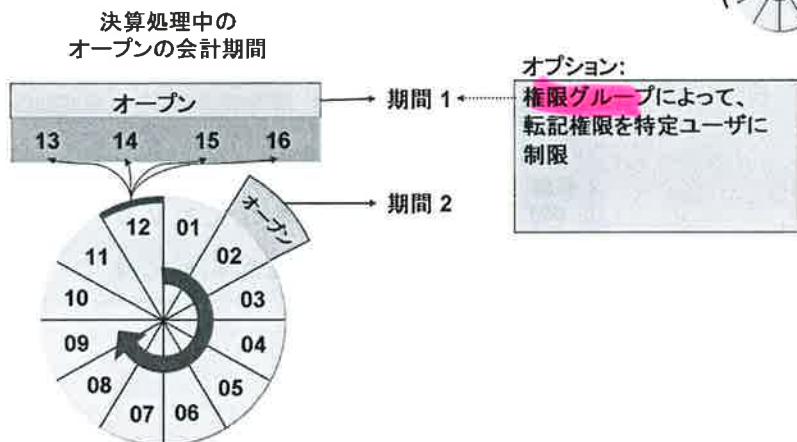


図 76: 最初の 2 つの期間範囲



**ヒント:** ERP 6.0 EHP4 以降、会計管理における**管理会計のリアルタイム統合**に**3 つ目の期間**が用意されています(これについては、このコースの後の方で詳細に説明します)。この期間は、勘定タイプ“+”でのみ使用することができます。

(COからFIへの流れについてのアート&ワーク)

**決算処理中**には、同時に**2 つの期間範囲**をオープンしておく必要があります。このため、2 つの期間範囲を会計期間テーブルに入力することができます。

\* **権限グループ**を**最初の期間範囲**に割り当てることができます。これで、この権限グループに属するユーザーのみに最初の期間範囲への転記が許可されます。最初の範囲を特別会計期間に使用し、決算処理を行う経理担当者のみにこの特別会計期間への転記権限を与えると合理的です。

会計期間テーブルと同じ値を項目“**権限グループ**”に設定した権限オブジェクト F\_BKPF\_BUP (会計伝票: 会計期間に関する権限) の権限をユーザーに割り当てる必要があります。

新総勘定元帳では、3 つ目の期間範囲が表示されます。この範囲には、CO から FI へのリアルタイム統合に対して、オープンされた期間が保存されます。リアルタイム統合については、後の章で詳細に説明します。

3 つ目の範囲は、CO からトリガされた FI 転記が対象期間に実際に転記可能であるかどうかを制御するために使用されます。3 つ目の範囲が入力されていない場合は、範囲 1 および 2 のエントリもこれらの転記で有効になります。

新総勘定元帳では、どの勘定割当オブジェクトのどの値をいつ転記することができるかをより正確に制御することができるオプションもあります。例: 利益センタ 1000 への転記は可能である必要がありますが、利益センタ 2000 の責任者はこれ以上転記されないようにすることを希望しています。カスタマイジングの新しいセクションでこのような設定を行うことができます。



**入力**

取引	請求書	残高
基本データ		
仕入先	仕入先 #	
請求書日付	11/06/2005	伝票タイプ CO
転記日付	11/12/2005	
参照		

**システムによる決定**

会計伝票		
伝票タイプ	CO	
期間	11	
会計年度	2005	

**期間に従って分割された勘定の取引金額レポート**

期間	借方	貸方
...		
10	0.00	0.00
11	2,412.00	15,411.00
12	0.00	0.00
...		

図 77: 転記中の会計期間の設定

伝票の明細入力の際は、特に**転記日付**の入力が重要で、ここに入力した日付を**基準にして会計期間と会計年度が自動決定されます。**

伝票概要には、転記日付、会計期間、会計年度が表示されます。決定された会計期間が伝票に入力され、この会計期間に該当する取引金額が更新されます。

勘定の残高を照会すると、この会計期間の取引金額が表示されます。



## 演習問題 10: 会計期間

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 会計期間バリアントに関する知識の確認
- 会計期間バリアントの登録と会社コードへの割当

### ビジネスシナリオ

会計部門では、会計期間の終了時に補助元帳はクローズしますが、G/L 勘定はしばらくの間オープンにしておき、前期間の財務会計と管理会計の総勘定元帳を照合可能にすることを求めています。

#### タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 会計期間バリアント “PP##” を登録し、“会計期間 GR##” という名称を指定します。このバリアントは、会計部門の要件を満たします。つまり、補助元帳は今月のみオープンし、総勘定元帳は今月と前月の両方でオープンするようにします。この会計期間バリアントを会社コードに割り当てます。

#### タスク 2:

次の文を完成させてください。

1. 会計期間バリアントは、\_\_\_\_\_に割り当てられます。  
空白に適切な答えを記入してください。
2. 会計期間バリアントには、\_\_\_\_\_行が少なくとも 1 つ含まれている必要があります。  
空白に適切な答えを記入してください。
3. 会計期間バリアントの勘定範囲は、\_\_\_\_\_で構成されます。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

### タスク 3:

#### 正誤問題

1. 会計期間は、自動的にオープン/クローズします。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
2. 同時に複数の会計期間をオープンにすることはできません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
3. 会計期間バリアントの権限グループは、特別会計期間での転記権限にのみ適用されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

## 解答 10: 会計期間

### タスク 1:

以下のタスクを実行します。

- 会計期間バリアント “PP##” を登録し、“会計期間 GR##” という名称を指定します。このバリアントは、会計部門の要件を満たします。つまり、補助元帳は今月のみオープンし、総勘定元帳は今月と前月の両方でオープンするようにします。この会計期間バリアントを会社コードに割り当てます。
  - オープン会計期間のバリアントを登録します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 会計期間 → 定義: 会計期間バリアント*

編集 → 新規エントリを選択します。

項目名またはデータ型	値
バリアント	PP##
名称	会計期間 GR##

“保存”を選択します。

バリアントの期間を定義します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 会計期間 → 会計期間オープン/クローズ*

この段階では、期間を定義することも既存の期間をコピーすることもできます。

登録: 編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
第1明細	
バリアント	PP##
A	+ 全勘定に有効
開始勘定	空白
終了勘定	空白
開始期間 1	前月
年度	前月の年度
終了期間 1	今月

次へ

年度	今年度
----	-----

項目名またはデータ型	値
<b>第 2 明細</b>	
バリアント	PP##
A	D
開始勘定	空白
終了勘定	ZZZZZZZZZZ
開始期間 1	今月
年度	今年度
終了期間 1	今月
年度	今年度

項目名またはデータ型	値
<b>第 3 明細</b>	
バリアント	PP##
A	K
開始勘定	空白
終了勘定	ZZZZZZZZZZ
開始期間 1	今月
年度	現会計年度
終了期間 1	今月
年度	今年度

“保存”を選択します。

既存の間隔をコピーするには、以下の手順に従います。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 会計期間 → 会計期間オープン/クローズ

会計期間 0001 の勘定タイプ D、K および S を選択します。

編集 → 別名コピー... を選択します。

各勘定タイプの情報を次のように上書きします。

次へ

項目名またはデータ型	値
バリアント	PP##

上記のデータを参照して、データが正しいかどうかを確認します。

“保存”を選択します。

オープン会計期間バリアントを会社コードに割り当てます。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間 → 会計期間 → 割当: バリアント-> 会社コード

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
バリアント	PP##

“保存”を選択します。

→ **注記:** 以下の作業が終了しました。

- ・ オープン会計期間のバリアントの登録
- ・ オープン期間の日付の定義
- ・ 各自の会社コードへの会計期間バリアントの割当

これはバリアント原則の一例です。

## タスク 2:

次の文を完成させてください。

1. 会計期間バリアントは、会社コードに割り当てられます。

解答: 会社コード

2. 会計期間バリアントには、全勘定に対して有効な行が少なくとも 1 つ含まれている必要があります。

解答: 全勘定に対して有効な

3. 会計期間バリアントの勘定範囲は、G/L 勘定で構成されます。

解答: G/L 勘定

次へ

### タスク 3:

#### 正誤問題

- 会計期間は、自動的にオープン/クローズします。

**解答: 誤**

オープン期間が組み込まれた会計期間バリアントは、マニュアルで更新する必要があります。

- 同時に複数の会計期間をオープンにすることはできません。

**解答: 誤**

間違い。必要に応じて任意の数の期間を同時にオープンすることができます。ただし、同時にオープンできる期間範囲は 2 つまでです。

- 会計期間バリアントの権限グループは、特別会計期間での転記権限にのみ適用されます。

**解答: 誤**

間違い。権限グループは、最初の期間範囲に適用されます。これは、通常会計期間の範囲の場合もあります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 会計期間のオープン/クローズ
- 勘定タイプに応じた会計期間のオープン/クローズ

## レッスン: 転記権限

### レッスンの概要

このレッスンでは、伝票転記時の **許容範囲** の設定に関する概要を説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 特定の記帳担当者グループに対して許可する転記金額の定義
- 最高額の許容範囲グループへのユーザの割当

### ビジネスシナリオ

会計管理責任者は、記帳担当者と自分自身に対して、それぞれ異なる転記上限額の権限を定義することを望んでいます。



転記上限額は、"許容範囲グループ" で会社コードごとに定義します。許容範囲グループでは、支払差額処理の制御も行います。

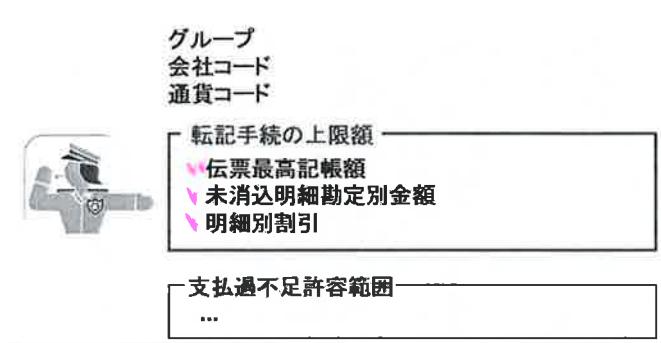


図 78: 上限額

このセクションでは、許容範囲グループ内の **転記手続の上限額** に焦点を当てます。

許容範囲グループで、以下の上限を入力することができます。

- 伝票ごとの **合計金額**
  - 得意先/仕入先 **明細ごとの金額**
  - この許容範囲グループのユーザが処理できる **現金割引率** (日本にはあまりない)
- 通貨は、**会社コードの国内通貨**で設定します。

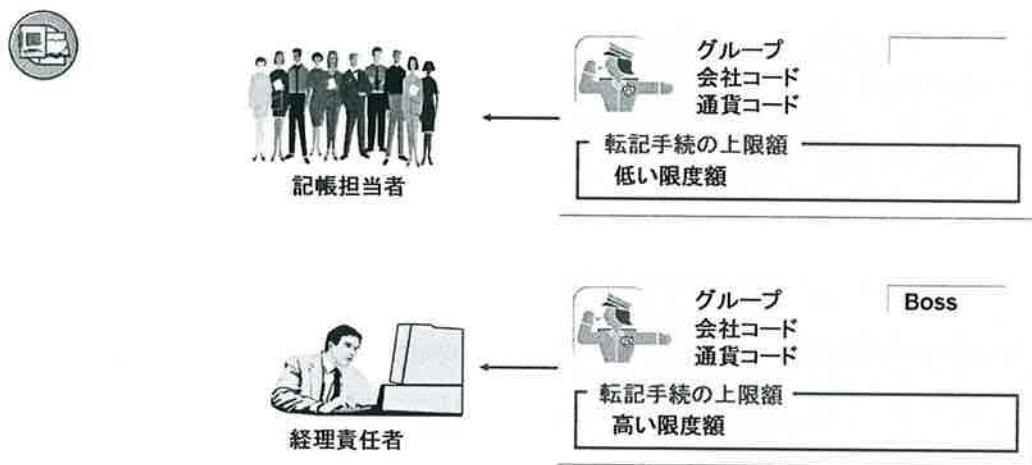


図 79: 転記権限の割当

許容範囲グループは必要な数だけ登録することができます。すべてのユーザを許容グループに明示的に割り当てることができます。

ユーザが特別な許容範囲グループに割り当てられていない場合は、許容範囲グループ“  ”のエントリが有効になります。

これは許容範囲グループの初期値です。

通常、許容範囲グループ“  ”には、ほとんどの従業員に適用される値が含まれています。

特に高い上限額や低い下限額が決められた従業員については、特別な許容範囲グループを登録して、ユーザのログオンIDに割り当てる必要があります。

〈許容範囲グループ〉

会社コード GR05	
“ ”	“SUPV”
—	1,000,000
500,000	500,000
100,000	10%
5%	10%
ユーザID : TFIN50-05	



## 演習問題 11：転記権限

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 許容範囲グループの登録
- ユーザへの許容範囲グループの割当

### ビジネスシナリオ

内部監査人は、会計部門に対して許可する権限の上限を以下のように設定することを要求しています。

- 記帳担当者
  - 伝票あたり国内通貨 500,000 単位
  - 未消込明細あたり国内通貨 100,000 単位
  - 現金割引 5%
- 会計管理責任者
  - 伝票あたり国内通貨 5,000,000 単位
  - 未消込明細あたり国内通貨 800,000 単位
  - 現金割引 10%

### タスク：

以下のタスクを実行します。

1. 記帳担当者の許容範囲グループは、“空白”の許容範囲グループです。上記のビジネスシナリオのデータを考慮して、会計管理責任者の許容範囲グループ SUPV を新たに登録する必要があります。
2. 各自のユーザにこの会計管理責任者の許容範囲グループを割り当ててください。

## 解答 11: 転記権限

### タスク:

以下のタスクを実行します。

- 記帳担当者の許容範囲グループは、“空白”の許容範囲グループです。上記のビジネスシナリオのデータを考慮して、会計管理責任者の許容範囲グループ SUPV を新たに登録する必要があります。

- “空白”の許容範囲グループを変更します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 許容範囲グループ → 定義: 従業員の許容範囲グループ*

自分の会社コード GR## をダブルクリックします。

項目名またはデータ型	値
伝票最高記帳額	500 000
未消込明細勘定別金額	100 000
明細別割引	5%

“保存”を選択します。緑色の矢印を使用して、概要画面に戻ります。

許容範囲グループ "SUPV" を登録します。

このためには、先ほど変更した許容範囲グループを選択します。

編集 → 別名コピー...

以下のデータを上書きします。

項目名またはデータ型	値
グループ	SUPV
会社コード	GR##
伝票最高記帳額	5 000 000
未消込明細勘定別金額	800 000
明細別割引	10%

“Enter”を選択します。

“保存”を選択します。

次へ

2. 各自のユーザにこの会計管理責任者の許容範囲グループを割り当ててください。

- a) ユーザに許容範囲グループを割り当てます。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 許容範囲グループ → 割当: ユーザ/許容グループ

編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
ユーザ名	各自のユーザ名
許容範囲グループ	SUPV

“保存”を選択します。

→ 注記: 以下の作業が終了しました。

- 管理者用の新規許容範囲グループの登録
- 管理者への新規許容範囲の追加
- 各自のユーザへの管理者用の許容範囲グループの割当

これはバリアント原則の一例です。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 特定の記帳担当者グループに対して許可する転記金額の定義
- 最高額の許容範囲グループへのユーザの割当

## レッスン：財務会計の基本伝票

### レッスンの概要

このレッスンでは、Enjoyトランザクションを使用して基本的な伝票を転記する方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 財務会計での基本伝票の転記

### ビジネスシナリオ

担当者は、ENJOYトランザクションが使いやすいことを聞き、これを実際に見て試してみたいと思っています。



#### ● 総勘定元帳勘定転記

FB50

現金	銀行
5000	5000

- 仕入先請求書 FB60  
および  
クレジットメモ転記 FB65  
返品処理  
債権減少額

費用	仕入先
1 1 100000   1000 2	2 1100   110000 1
2	仮払消費税

- 得意先請求書 FB70  
および  
クレジットメモ転記 FB75  
返品され  
債権減少額

得意先	売上
1 1 220000   5500	5000   200000 1
2	仮受消費税

図 80: SAP ERP Financials における単純な転記

SAP 財務会計コンポーネントでは、以下のようなさまざまな転記に対して 1 つの転記処理が使用されます。

- 総勘定元帳勘定転記
- 得意先請求書転記
- 得意先クレジットメモ転記
- 仕入先請求書転記
- 仕入先クレジットメモ転記



図 81: Enjoy 転記画面: ヘッダと第 1 明細

請求書日付、転記日付やテキストなど、転記伝票の一般データを、画面の伝票ヘッダ部分に入力します。請求書やクレジットメモの入力に対しては、トランザクションごとに伝票タイプを定義することができます。この伝票タイプは一般的な初期値として表示されます。この提案された伝票タイプは、伝票入力時に伝票タイプ項目が入力可能になっていれば、いつでも上書きすることができます。伝票タイプを定義しないと、標準伝票タイプ(仕入先請求書入力の場合は KR など)が提案されます。

重要な入力項目は最前面のタブページに含まれており、それほど頻繁には使用しない項目は後続のタブページに含まれています。

得意先請求書および仕入先請求書では、取引先の勘定データと、請求書またはクレジットメモの金額をこのセクションに入力します。Enter を選択すると、取引先名、住所、銀行詳細などの取引先マスターのデータも表示されます。“未消込明細一覧”ボタンを押すと、未消込明細一覧を照会することができます。

ヘッダおよび明細データ(次の図を参照)に加えて、入力画面には残高を示す情報領域があります。

ボタン“ツリーオン”を選択すると、テンプレートとして選択できる画面バリアント、勘定割当テンプレート、および仮伝票にアクセスすることができます。画面左のツリー構造からナビゲートすることもできます。

G/L 勘定	テキスト(短)	D/C	伝票通貨額	税コード
800200	売上	貸方	5 000	AN
		貸方		
		貸方		
			...	

図 82: Enjoy 転記画面: 追加明細

画面下部のセクションにあるテーブルに、伝票の追加明細を入力します。入力後、入力内容を確認すると勘定名が表示されます。

さまざまな項目や列を選択して、それらの列および項目の表示長や順序を変更することができます。また、明細をコピーすることもできます。

残高がゼロになったら、画面最上部で未転記、転記、仮伝票保存のいずれかを選択して、伝票入力トランザクションを完了することができます。

転記入力の標準トランザクションも引き続き利用可能です。

複雑な入力については、メニューから複合転記トランザクションにアクセスすることができます。この複合転記トランザクションから第一画面に戻ることはできません。

明細に説明用テキストを入力することができます。この明細テキストは内部および外部で使用することができます。連絡文書、督促状、支払明細通知書などでテキストを外部目的で使用する場合は、テキストの前に“\*”を入力します (“\*”自体は印刷時に削除されます)。

カスタマイジングで、4行のキーを使用してテキストテンプレートを定義することができます。伝票入力時、テキスト項目に該当のキーを入力すると、定義したテキストテンプレートが明細にコピーされます。



## 演習問題 12: 財務会計の基本伝票

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 財務会計での基本伝票の転記

### ビジネスシナリオ

クライアントの要件に従った伝票管理設定が完了しました。次に、この設定をテストするようクライアントから依頼されています。このため、SAP システムに基づ本伝票を転記する必要があります。

### タスク:



**注意:** 前の演習問題で、各ユーザに会計管理責任者の許容範囲グループを割り当てました。つまり、許容範囲グループ SUPV で定義されている金額しきい値があなたにも適用されます。

必要であれば、自分の許容範囲グループを BLANK に戻してください。

以下のタスクを実行します。

#### 1. 一般転記

取引銀行の口座から 5,000 円を引き出し、小口現金にします。この取引を転記します（現金勘定: 100000、銀行ポジション勘定: 113100、それぞれの利益センタ: 1000）。

伝票番号を書き留めます。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

#### 2. 仕入先請求書

会計管理責任者は、遠方での会議のためにレンタカーを借りました。110,000 円の仕入先請求書を、前に登録した仕入先コード (Vendor##) に転記します。オプション“税計算”を選択します。税コード 11 (仮払消費税 (コース) 10%) を使用します。参照項目に、会計管理責任者から受領した権限番号 A## を入力します。登録した“スポーツカーレンタル費用”の勘定 AE02## および利益センタ PR## にこの費用を転記します。伝票タイプ ## を使用して、明細の必須入力項目 “テキスト” にテキスト (“会議 ##”) を入力します。

次へ

伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** ボタン“ツリーオフ”を選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

伝票ヘッダに伝票タイプを入力することができない場合は、“編集オプション”ボタンを使用し、伝票タイプオプションでドロップダウンリストから“省略名で入力”を選択します。

### 3. 仕入先請求書

会議の際に、会計管理責任者はクライアントをディナーに招待しました。前の演習問題と同じ条件を使用して、330,000 円の追加請求書を“交際費勘定” AE01## に転記します。

新しい伝票番号を書き留めます。

### 4. 得意先請求書

220,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。“税計算”オプションを選択します。税コード 1O (仮受消費税(コース) 10%) を使用します。収益勘定 800200 に転記します。

伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

### 5. 得意先クレジットメモ

5,500 円の得意先クレジットメモを、前に登録した得意先コードに転記します。税コード 1O (仮受消費税 10%) および収益勘定 800200 を使用します。

伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

### 6. 得意先/仕入先の明細を照会して、転記内容を確認します。

## 解答 12: 財務会計の基本伝票

### タスク:



**注意:** 前の演習問題で、各ユーザに会計管理責任者の許容範囲グループを割り当てました。つまり、許容範囲グループ SUPV で定義されている金額しきい値があなたにも適用されます。

必要であれば、自分の許容範囲グループを BLANK に戻してください。

以下のタスクを実行します。

#### 1. 一般転記

取引銀行の口座から 5,000 円を引き出し、小口現金にします。この取引を転記します（現金勘定: 100000、銀行ポジション勘定: 113100、それぞれの利益センタ: 1000）。

伝票番号を書き留めます。 100000  
87



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

##### a) 一般転記

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 伝票入力 → G/L 勘定伝票入力 (Enjoy)

会社コードの入力を求められたら、GR## を入力し、“Enter”を選択します。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

項目名またはデータ型	値
<b>基本データ</b>	
伝票日付	現在日付
転記日付	現在日付
<b>第 1 明細</b>	
G/L 勘定	100000
D/C	借方

次へ

伝票通貨額	5 000
利益センタ	1000
<b>第 2 明細</b>	
G/L 勘定	113100
D/C	貸方
伝票通貨額	5 000
利益センタ	1000

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号を書き留めてください。

## 2. 仕入先請求書

会計管理責任者は、遠方での会議のためにレンタカーを借りました。110,000 円の仕入先請求書を、前に登録した仕入先コード (Vendor##) に転記します。オプション “税計算” を選択します。税コード 11(仮払消費税(コース) 10%) を使用します。参照項目に、会計管理責任者から受領した権限番号 A## を入力します。登録した “スポーツカーレンタル費用” の勘定 AE02## および利益センタ PR## にこの費用を転記します。伝票タイプ ## を使用して、明細の必須入力項目 “テキスト” にテキスト (“会議 ##”) を入力します。

伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** ボタン “ツリーオフ” を選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

伝票ヘッダに伝票タイプを入力することができない場合は、“編集オプション” ボタンを使用し、伝票タイプオプションでドロップダウンリストから “省略名で入力” を選択します。

### a) 仕入先請求書

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理  
→ 伝票入力 → 請求書 (Enjoy)

次へ

会社コードの入力を求められたら、GR##を入力し、“Enter”を選択します。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

項目名またはデータ型	値
<b>基本データ</b>	
仕入先	Vendor##
請求書日付	現在日付
参照伝票	A##
転記日付	現在日付
伝票タイプ	承認済費用 ##(伝票タイプが入力可能になっていない場合は、“編集オプション”ボタンを選択して、伝票タイプオプションで“省略名で入力”を選択します)。
金額	110 000
通貨	会社コード通貨
税計算	✓
税コード	11(仮払消費税(コース) 10%)
<b>明細</b>	
G/L 勘定	AE02##
D/C	借方
伝票通貨による金額	110 000
税コード	11(仮払消費税(コース) 10%)
テキスト	会議 ##
利益センタ	PR##

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

次へ

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** 関連する勘定の管理会計対象によって利益センタが指定されていないか、または誘導されない場合、IDES システムでは、デフォルトの利益センタ NGL\_4020 REWE トレンジングが自動的に代入によって設定されます。

### 3. 仕入先請求書

会議の際に、会計管理責任者はクライアントをディナーに招待しました。前の演習問題と同じ条件を使用して、330,000 円の追加請求書を“交際費勘定” AE01## に転記します。

新しい伝票番号を書き留めます。

- 上記のステップを繰り返して、国内通貨で 330,000 円の追加仕入先請求書を“交際費”勘定 AE01## に転記します。新しい伝票番号を書き留めます。

### 4. 得意先請求書

220,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。“税計算”オプションを選択します。税コード 1O (仮受消費税(コース) 10%) を使用します。収益勘定 800200 に転記します。

次へ

伝票番号を書き留めてください。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

#### a) 得意先請求書

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理  
→ 伝票入力 → 請求書(Enjoy)

会社コードの入力を求められたら、“会社コード”ボタンを使用して GR# を入力し、“Enter”を選択します。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

項目名またはデータ型	値
基本データ	
得意先	各自の得意先
請求書日付	現在日付
転記日付	現在日付
金額	220 000
通貨	会社コード通貨
税計算	✓
税コード	10 (仮受消費税(コース) 10%)
明細	
G/L 勘定	800200
D/C	貸方
伝票通貨額	220 000
税コード	10 (仮受消費税 10%)
利益センタ	PR##

伝票 → シミュレートを選択して、伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号を書き留めます。

#### 5. 得意先クレジットメモ

次へ

5,500 円の得意先クレジットメモを、前に登録した得意先コードに転記します。税コード 1O (仮受消費税 10%) および収益勘定 800200 を使用します。

伝票番号を書き留めてください。

 ヒント: “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

a) 得意先クレジットメモ

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → クレジットメモ (*Enjoy*)

会社コードの入力を求められたら、GR## を入力し、“Enter”を選択します。

 ヒント: “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

項目名またはデータ型	値
基本データ	
得意先	各自の得意先
伝票日付	現在日付
転記日付	現在日付
金額	5500
通貨	会社コード通貨
税計算	<input checked="" type="checkbox"/>
税コード	1O 1O (仮受消費税 10%)
明細	
G/L 勘定	800200
D/C	借方
伝票通貨額	5500
税コード	1O (仮受消費税 10%)
利益センタ	PR##

伝票 → シミュレート

次へ

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号を書き留めてください。

6. 得意先/仕入先の明細を照会して、転記内容を確認します。

- a) 得意先/仕入先の明細を照会して、転記内容を確認します。

得意先/仕入先明細照会:

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理/  
債務管理 → 勘定コード → 明細照会/変更

項目名またはデータ型	値
得意先/仕入先勘定	登録した得意先または仕入先の勘定コードを入力します。
会社コード	GR##

“実行”を選択します。

→ **注記:** 仕入先請求書 2 件、得意先クレジットメモ 1 件、および得意先請求書 1 件の転記が終了しました。明細を照会して、明細転記を確認しました。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計での基本伝票の転記



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 会計伝票の分類
- 会計伝票の照会
- 会計伝票の構造の説明
- 会計期間のオープン/クローズ
- 勘定タイプに応じた会計期間のオープン/クローズ
- 特定の記帳担当者グループに対して許可する転記金額の定義
- 最高額の許容範囲グループへのユーザの割当
- 財務会計での基本伝票の転記



# 4 章

## 転記管理

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 新総勘定元帳における伝票分割のコンセプトの説明
- 能動伝票分割と受動伝票分割の違いの説明
- カスタマイジングでの伝票分割の入力
- 初期値の定義
- ユーザ固有の初期値の設定
- システムでの初期値の設定
- 伝票変更を管理するルールの説明
- 伝票変更
- 伝票変更内容の分析
- 伝票の反対仕訳
- カスタマイジングでの反対仕訳理由の定義
- 支払条件の定義
- 現金割引の自動転記に対する勘定設定の説明
- SAP ERP Financials における税処理方法の説明
- 税コードの登録と税勘定の定義
- 会社間取引の説明
- 会社間取引の転記
- リアルタイム統合という用語およびその機能範囲の説明
- カスタマイジングでのリアルタイム統合の設定

### 章の内容

レッスン: 伝票分割 .....	201
演習問題 13: 伝票分割 .....	209
レッスン: 初期値 .....	219
演習問題 14: 初期値 .....	223

レッスン: 変更管理 .....	227
演習問題 15: 伝票変更ルール .....	231
レッスン: 反対仕訳伝票 .....	236
演習問題 16: 反対仕訳伝票 .....	239
レッスン: 支払条件と現金割引 .....	244
演習問題 17: 支払条件と現金割引 .....	255
レッスン: 税 .....	265
演習問題 18: 税 .....	279
レッスン: 会社間取引 .....	287
演習問題 19: 会社間取引 .....	293
レッスン: リアルタイム統合 .....	302
演習問題 20: リアルタイム統合 .....	305

## レッスン：伝票分割

New GL からの内容

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 新総勘定元帳における伝票分割のコンセプトの説明
- 能動伝票分割と受動伝票分割の違いの説明
- カスタマイジングでの伝票分割の入力

### ビジネスシナリオ



新総勘定元帳では、財務会計伝票には常に 2つのビューがあります。

つまり、入力ビューと総勘定元帳ビューです。

総勘定元帳ビューには、リーディング元帳以外に非リーディング元帳の伝票が表示されます。

#### 定義:

入力ビュー: 伝票登録者に伝票がどのように表示されるか、および  
補助元帳 (AP/AR/AA) でどのように表示されるかを示すビュー。  
→ 入力ビュー

総勘定元帳ビュー: 総勘定元帳 (のみ) での伝票の表示方法を示す  
ビュー。 → カスタマビュー

図 83: 入力ビューと総勘定元帳ビュー (新総勘定元帳)

入力ビューおよび総勘定元帳ビューでの伝票の表示は新総勘定元帳で定義されており、カスタマイジングを使用してオンとオフを切り替えることはできません。

(カスタマが従来の総勘定元帳を使用する場合、伝票は 1 つのビューのみで表示されます。このビューは、新総勘定元帳の入力ビューに相当します。)



標準システムでは、セグメントレポートなど、会社コードの下での特性分析のために、以下の機能が新総勘定元帳に備えられています。

- ... セグメント、利益センタ、および事業領域項目。これらは、デフォルトで、新総勘定元帳の集計テーブル (*FAGLFLEXT*) のコンポーネントです。
- ... FI ドリルダウンレポート。集計テーブル *FAGLFLEXT* に基づいています。

FAGLFLEXT						
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

要件:すべての転記行が、異なるセグメントに割り当てられる必要があります。

会社コード	明細	BS	勘定	テキスト	金額	通貨	セグメント
AA00	1	31	1000	仕入先 X	11,000	EUR	
	2	40	417000	購買サービス	4,000	EUR	SEG A
	3	40	417000	購買サービス	6,000	EUR	SEG B
	4	40	154000	仮払消費税	1,000	EUR	

ソリューション: 伝票分割

図 84: 伝票分割

利益センタ、事業領域、またはセグメントごとの損益計算書を表示することは難しくはありません。関連するポジションでは、元の管理会計対象によって一意の対応するオブジェクトが常に指定されるためです。ただし、これらのオブジェクトに対して貸借対照表を作成する場合は、明細(スライドの例では債務および税)を入力ビューで分割することができないという問題があります。これは、伝票分割を使用する総勘定元帳ビューでのみ問題となります。



ヒント: 注記: 伝票分割は、会社コードに加えて他の特性(セグメントなど)を貸借対照表に入力する必要があるカスタマ固有のものです。



### マッピングされた取引:

#### ■ 複数の費用明細と異なる勘定割当のある仕入先請求書(税 10%)

##### 入力ビュー:

会社コード	P	BS	勘定	テキスト	金額	通貨	個	原価センタ	PC	セグメント
AA00	1	31	1000	Miller Inc.	11,000.00-	EUR	1I			
	2	40	477000	広告宣伝費	1,000.00	EUR	1I	1000	1000	SEG A
	3	40	417000	購買サービス	9,000.00	EUR	1I	4140	1402	SEG B
	4	40	154000	仮払消費税	1,000.00	EUR	1I			

##### 総勘定元帳ビュー:

会社コード	P	BS	勘定	テキスト	金額	通貨	個	原価センタ	PC	セグメント
AA00	1	31	160000	仕入先債務	1,100.00-	EUR	1I		1000	SEG A
	2	40	477000	広告宣伝費	1,000.00	EUR	1I	1000	1000	
	4	40	154000	仮払消費税	100.00	EUR	1I		1000	
	1	31	160000	仕入先債務	9,900.00-	EUR	1I		1402	SEG B
	3	40	417000	購買サービス	9,000.00	EUR	1I	4140	1402	
	4	40	154000	仮払消費税	900.00	EUR	1I		1402	

セグメントで昇順ソートされたレイアウト

図 85: 伝票分割 - 能動分割

分割特性として定義されたエンティティは、勘定割当のない転記行に継承されます。スライドに示されているように、選択された特性の残高はゼロです。

総勘定元帳ビューの仕入先明細と税明細(明細1と4)が、費用明細(明細2と3、費用勘定477000と417000)に従って分割されます。

伝票分割(オンライン分割とも呼ばれます)によって、会社では、目的とするオブジェクトの完全な貸借対照表を作成することができます。

伝票分割が有効化されていない場合には、通常は入力ビューと総勘定元帳ビューに違いはありません。

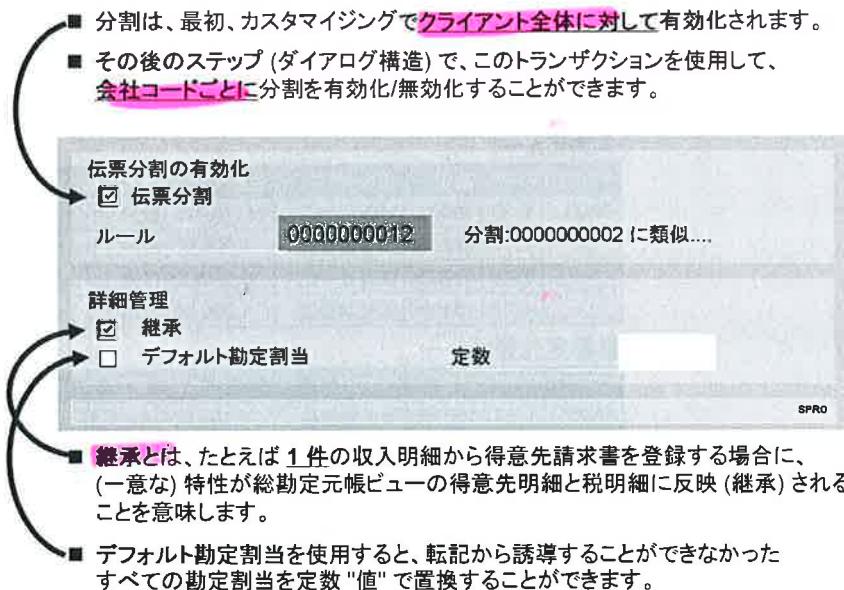


図 86: 伝票分割の有効化

伝票分割は、カスタマイジングで有効化されます。

分割方法 0000000012 は、SAP が提供するデフォルトの手順であり、通常はクライアントエンタリ (Z000000012 など) にコピーされます。

注記: 伝票分割は、クライアントごとに有効化され、会社コードごとに無効化されるため、伝票を分割するかどうかの決定は、会社コードレベルで行われます。ただし、クライアントのすべての会社コードでは、1 つの伝票分割手順のみを使用することができます。つまり、会社コードごとに異なる手順を割り当てることはできません。

#### 継承のコンセプト:

伝票内で勘定割当オブジェクトが一意である場合は、指定されていないすべてのポジションで勘定割当オブジェクトがオンラインで継承されます。この区分は、伝票分割を有効化する場合は常に設定する必要があります。

#### デフォルト勘定割当のコンセプト:

デフォルト勘定割当を使用することができます。つまり、何らかの理由で必要なオブジェクトが指定されていないポジションには、初期値 (利益センタやセグメントなど) を自動的に設定することができます。

そのようなデフォルト勘定割当を使用するには、まずカスタマイジングに定数を定義する必要があります。

初期値を使用すると、データの品質が低下することがあります。すべての不足オブジェクトがこの定数で置換されるため、伝票分割ルールが誤っている場合でもそのことに気付かないままとなります。デフォルト勘定割当を使用する場合には、初期値なしでテストを実行し、エラーがないかどうかを確認してください。

仕入先請求書	支払
金額 400 税 600 合計 1000	仕入先 1000 預金 1000
G/L 支 付	買掛金 400 S1 .. 600 S2 合計 1000 預金 400 S1 .. 600 S2
	(仕入先分割) (支票分割)

レッスン：伝票分割

下へ



伝票分割プロセスは、3つの(簡略化された)ステップに分割することができます。

#### 受動伝票分割:

カスタマに表示されない

- 消込時(支払時など)に、消込対象の明細の勘定割当が消込明細(債務明細など)に転送されます。
- このステップは、カスタマ固有ではありません。

#### 能動(ルールベース)伝票分割:

カスタマに表示されない

- (標準またはカスタマ定義の)分割ルールに従って特定の伝票分割が処理されます。
- 分割ルールは設定可能です。

#### 各財務諸表特性(および伝票)に対する消込明細/貸借一致の登録:

- 正確な伝票分割を実現するための新たな消込明細が登録されます。
- このプロセスは、(伝票分割カスタマイジングの)貸借一致区分によって制御することができます。

図 87: 伝票分割のステップ(および注記)

#### 受動分割

“消込時”に、消込対象伝票のエンティティ(セグメントなど)がそのまま消込伝票にコピーされます。

例: 複数の勘定に割り当てられた仕入先請求書の支払を行います。仕入先請求書は、60:40の比率で2つのセグメントAおよびBに分割されています。消込時に、支払が60:40の比率でこれらのセグメントに分割されます(総勘定元帳ビューのみ)。

#### 能動分割

“消込を表示しない”伝票では、カスタマイジングで、伝票のどのポジションをどの基本ポジションに従って分割するかを決定するための個別の分割ルールを登録することができます。伝票タイプがルールの基礎となります。

例: 複数の勘定に割り当てられた仕入先請求書。

消込明細登録/貸借一致は、合計伝票以外に、伝票“内部の”貸借一致オブジェクト(利益センタやセグメントなど)の残高を0にする必要がある場合には常に使用されます。

例: この機能がない場合は、同じ勘定でセグメントAからセグメントBに転記しても2件の明細が登録されるだけです。貸借一致が行われると、さらに2件の消込明細が登録され、これらの明細はこれら2つのセグメント間の関係であると理解することができます(セグメントAからBへの債権、およびセグメントBからAへの債務)。

伝票分割は常に、スライドで示した順序で処理されます。

1.09-1-2 S1 600 420   630   1050	2. 支払ヘッダー 仕入先 1050 / 預金 1050 S3	3. 1.09-1-3 1.09-1-2 ④ 貸借一致 買掛金 420 S1 .. 630 S2 預金 1050 S3 調整 1050 S3 .. 630 S2
--	------------------------------------	---



**注意:** SAP ノート 1085921 では、伝票分割について詳細に説明されており、例を含むさまざまな PDF 添付文書が含まれています。伝票分割は、後で既存のデータを移行することによって有効化することができます (シナリオ 6)。通常、伝票分割設定は、この後に変更することはできません (ステータス 2009/02、非常に重要なノート: 891144: 新総勘定元帳/伝票分割: 後続変更でのリスク)。FAGLFLEX\* および FAGL SPLINFO という複数のテーブル (集計テーブル、オブジェクトテーブル、および分割テーブル) に情報が保存される複雑なしくみになっているため、会計管理の他のトピックとは異なり、プログラムを使用して修正することはできません。



最初に、カスタマイジングで、伝票分割を実行する (FI) 特性を指定する必要があります。

#### 標準分割特性:

- 事業領域
- 利益センタ
- セグメント

注記: ユーザ定義特性も配分に使用することができます。

総勘定元帳の分割特性				
項目	貸借一致	必須入力項目	...	
PRCTR 利益センタ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	...	
SEGMENT セグメント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...	

SPRO

図 88: 伝票分割特性 (FI)

伝票分割特性によって、伝票分割が使用される対象のオブジェクトが決定されます (分割対象、貸借一致対象)。

特性についての財務諸表を作成する場合には、常に貸借一致区分を設定します。これにより、定義されたエンティティの残高が“すべての転記”に対して常に 0 になり、エンティティの貸借一致が保証されます。

必須項目区分には 2 つの意味があります。

- 1 つ目の意味は、伝票入力中に特性を“入力”することができない勘定、または項目ステータスを使用して管理することができない勘定に対する項目ステータスの拡張です (例: 仕入先明細に、常に利益センタまたはセグメントを含める必要がある場合)。
- 2 つ目の意味は、ビジネスプロセスに対応する取引バリアントが選択されているかどうか (これにより、分割ルールを見つけることができるかどうかが決まります) のチェックです。

必須項目区分は、勘定または転記キーの項目ステータス制御への追加設定として機能します。



↑能動分割↓

- 取引：伝票の種類。
- 取引バリアント：“取引”的細分化
- 明細カテゴリ：明細の種類。
- G/L勘定割当はこのものでなく、  
カウントドウトであります。

#### 仕入先請求書を例として使用した伝票分割ロジック：

=> 基本用語は黒字のボールドで示しています。  
=> 具体例のデータは青字のイタリックで示しています。

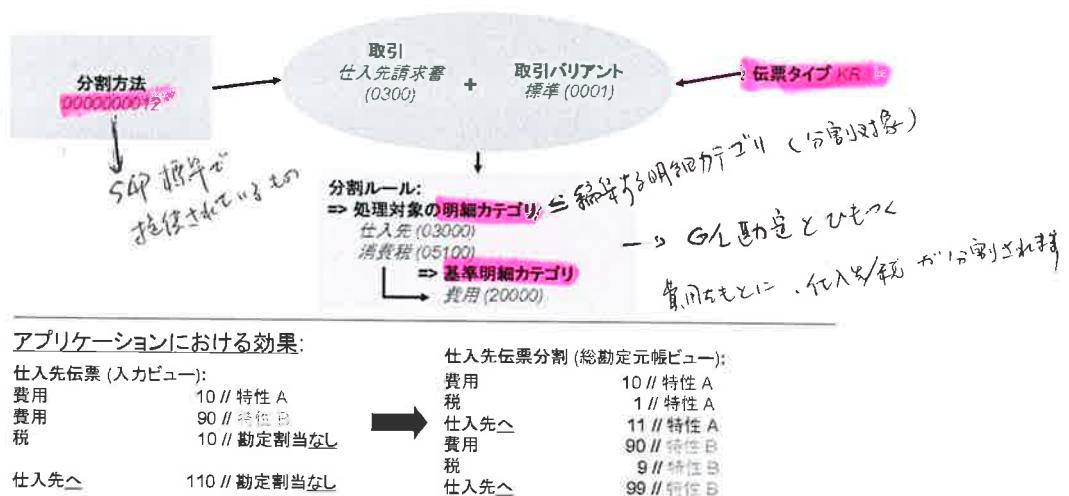


図 89: 分割 - 分割ロジック、能動分割

(IV-IV)  
簡単に説明すると、分割方法とはすべての取引に対するすべての分割ルールを集計したもので、したがって、分割方法により、分割の実行方法とその実行環境が定義されます。詳細に説明すると、各分割方法により、個別取引における各明細カテゴリの処理方法が定義されます。たとえば、得意先明細の勘定割当を収益明細から得意先請求書にコピーするかどうかなどです(→ルールベース分割を参照してください)。

- ・ **取引**とは、SAP が提供する実際のビジネスプロセスを一般的に分類したものであり、さまざまな明細カテゴリが割り当てられます。
- ・ **取引バリアント**は、SAP が提供する事前定義された取引を具体化したものであり、伝票分割に関する実際のビジネスプロセスを(技術的に)モデル化したものです。
- ・ **明細カテゴリ**は、転記済明細の(技術的な)マッピングです。これは、伝票(取引)内に表示される明細を記述します。明細カテゴリは、たとえば **G/L 勘定カテゴリ**などから誘導されます。
  - つまり、明細カテゴリは伝票分割の意味を説明するものです。
- ・ 個別の**分割ルール**では、どの明細カテゴリを分割することができるか、または分割する必要があるかが定義され(**処理対象明細カテゴリ**)、同時にどの基盤(基準)を使用することができるか(**基準明細カテゴリ**)も定義されます。



## 演習問題 13: 伝票分割

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 伝票分割機能の説明
- カスタマイジングでの伝票分割の入力

### ビジネスシナリオ

得意先請求書は、さまざまなオブジェクト(2つの利益センタおよびさまざまなセグメント)に分割されて割り当てられます。債権および税は、収益明細に従って分割する必要があります。

### タスク:

1. 伝票分割は、会社コードごとに有効化することができます。コピーされた会社コード GR## の参照会社コード 1010 では、能動伝票分割が使用されます。会社コードのコピー時に、区分もコピーされているかどうかをチェックします。  
伝票分割を有効化すると(分割: 0000000002(追加原価オンライン)として)、すべての会社コード(これはクライアント全体の設定です)で伝票分割方法 0000000012(設定済)が使用されます。継承が有効化されていることを確認します(クライアント全体の設定)。定数を使用して標準勘定割当を設定する必要はありません。
2. 以下のデータを使用して、他の収益の得意先請求書を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
得意先	登録した得意先
請求書日付と転記日付	現在日付
金額	110,000 会社コード通貨
税額計算	選択を解除
税額	10,000 会社コード通貨
税コード	1O 1O (仮受消費税 10%)
テキスト:	他の営業グループ ##
G/L 勘定明細 1	
G/L 勘定	800200

次へ

伝票通貨による金額	60 000
CO 関連勘定割当: 利益センタ	PR## (セグメント SERV)
G/L 勘定明細 2	
G/L 勘定	800200
伝票通貨による金額	40 000
CO 関連勘定割当: 利益センタ	1000 (セグメント CONS)

保存する前に、伝票をシミュレートします。

最初に、従来のシミュレーションオプションを使用します。FI 伝票の(後続)入力ビューが表示されます(アプリケーションツールバー: シミュレートボタン)。

次に、総勘定元帳ビューをシミュレートします(メニュー: 伝票 → 総勘定元帳のシミュレーション)。特性利益センタおよびセグメントが、すべての伝票明細に表示されます。

総勘定元帳シミュレーションからエキスパートモードにナビゲートして(エキスパートモードボタン)、以下のパラメータおよび情報を検索します。

- 使用されている伝票タイプ。
- 使用されている取引。
- 使用されている取引バリアント。
- 費用明細/基準明細の明細タイプ。
- 債権勘定(勘定 140000)は、どの転記明細にもとづいて分割されるか。

エキスパートモードおよび総勘定元帳シミュレーションを終了して、伝票を保存および転記します。

3. 最初に入力ビューで、次に総勘定元帳ビューで伝票を照会します。セグメント特性が債権明細と税明細に表示されます。
4. 伝票分割が有効になっています。以下の順序で、カスタマイジングで設定を行います。すべてのグループで同じ設定を使用するため、設定は変更しないでください。

すべての必要なカスタマイジング項目は、伝票分割の下のディレクトリに集中的にまとめられています。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 伝票分割

ステップ 1:

次へ

どの G/L 勘定が伝票分割に分類されているかをチェックします。

G/L 勘定 140000、175000、および 800200 はどの明細カテゴリに割り当てられていますか。

ステップ 2:

どの伝票タイプが伝票分割に分類されているかをチェックします。

伝票タイプ CI(得意先請求書)がどの取引およびどのバリアントに割り当てられているかを特定します。

ステップ 3:

取引バリアントのプロパティを照会します。

得意先請求書(0200)の設定を行います。

伝票で必要なエントリはどれですか。

得意先請求書に対して複数の得意先を転記することはできますか。

ステップ 4:

得意先請求書の伝票分割ルールを照会します(分割方法 0000000012、取引 0200、取引バリアント 0001)。

どの明細カテゴリが処理されますか。

得意先にどの基準明細カテゴリが割り当てられていますか(カテゴリ 02000)。

## 解答 13: 伝票分割

### タスク:

1. **伝票分割**は、会社コードごとに有効化することができます。コピーされた会社コード GR## の参照会社コード 1010 では、能動伝票分割が使用されます。会社コードのコピー時に、区分もコピーされているかどうかをチェックします。

伝票分割を有効化すると(分割: 0000000002 (追加原価オンライン)として)、すべての会社コード(これはクライアント全体の設定です)で**伝票分割方法 0000000012**(設定済)が使用されます。**継承**が有効化されていることを確認します(クライアント全体の設定)。定数を使用して標準勘定割当を設定する必要はありません。

- a) IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 分割 → 有効化: 分割

伝票分割プロセス 0000000012 が定義されており、継承が有効であり、定数が使用されていないことを確認することができます。

“会社コードごとの無効化”を使用すると、会社コード GR## では能動伝票分割が使用されていることを確認することができます。

**設定は変更しないでください。**

2. 以下のデータを使用して、他の収益の得意先請求書を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
得意先	登録した得意先
請求書日付と転記日付	現在日付
金額	110,000 会社コード通貨
税額計算	選択を解除
税額	10,000 会社コード通貨
税コード	1O 1O (仮受消費税 10%)
テキスト:	他の営業グループ ##
G/L 勘定明細 1	
G/L 勘定	800200
伝票通貨による金額	60 000
CO 関連勘定割当: 利益センタ	PR## (セグメント SERV)

次へ

G/L 勘定明細 2	
G/L 勘定	800200
伝票通貨による金額	40 000
CO 関連勘定割当: 利益センタ	1000 (セグメント CONS)

保存する前に、伝票をシミュレートします。

最初に、従来のシミュレーションオプションを使用します。FI 伝票の(後続)入力ビューが表示されます(アプリケーションツールバー: シミュレートボタン)。

次に、総勘定元帳ビューをシミュレートします(メニュー: 伝票→総勘定元帳のシミュレーション)。特性利益センタおよびセグメントが、すべての伝票明細に表示されます。

総勘定元帳シミュレーションからエキスパートモードにナビゲートして(エキスパートモードボタン)、以下のパラメータおよび情報を検索します。

- 使用されている伝票タイプ。
- 使用されている取引。
- 使用されている取引バリアント。
- 費用明細/基準明細の明細タイプ。
- 債権勘定(勘定 140000)は、どの転記明細にもとづいて分割されるか。

次へ

エキスパートモードおよび総勘定元帳シミュレーションを終了して、伝票を保存および転記します。

- a) SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理  
→ 伝票入力 → 請求書 (Enjoy)

会社コードの入力を求められたら、“会社コード”ボタンを使用して GR## を入力し、“Enter”を選択します。



**ヒント:** ツリーボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

- b) 保存する前に、伝票をシミュレートします。最初に、従来のシミュレーションオプションを使用します。FI 伝票の(後続)入力ビューが表示されます。
- c) 次に、総勘定元帳ビューをシミュレートします。特性利益センタおよびセグメントが、すべての伝票明細に表示されます。
- d) この概要で必要な情報を得ることができない場合は、金額列を選択し、Σ を使用して、全体の合計を表示します。次に、セグメント列を選択し、Σ を使用して小計を表示します。
- e) 設定 → レイアウト → 保存を使用して、これを個別に保存します。

レイアウト保存	GR##
テキスト	各セグメントの小計



“ユーザ固有”および“デフォルト設定”を選択します。

- f) エキスパートモードのシミュレーションで、以下の詳細な情報を得ることができます。

(これらの項目を確認することができない場合は、レイアウト変更の下の アイコンの右側をクリックすると表示されます(明細カテゴリ、割当元など))。

- 使用されている伝票タイプ: **CI**
- 使用されている取引: 得意先請求書 **0200**
- 使用されている取引バリアント: **0001 標準**
- 収益明細/基準明細の明細カテゴリ: **3000 収益**
- 債権勘定(勘定 **140000**)は、どの転記明細にもとづいて分割されるか: 収益 **800200 (30000)** および税 **175000 (05100)**

次へ

3. 最初に入力ビューで、次に総勘定元帳ビューで伝票を照会します。セグメント特性が債権明細と税明細に表示されます。

- a) 得意先請求書入力画面を表示した状態で、伝票→照会を選択します。

入力ビューで、収益がすでに分割されていることを確認することができます。次に、総勘定元帳ビューに切り替えます。ここでは、4件の転記明細ではなく、6件の明細が表示されています。

- b) この概要で必要な情報を得ることができない場合は、金額列を選択し、を使用して、全体の合計を表示します。次に、セグメント列を選択し、を使用して小計を表示します。
- c) レイアウト保存アイコンの右側をクリックして、これを独自のバリエントとして保存します。

レイアウト保存	GR##
テキスト	各セグメントの小計

✓ “ユーザ固有”および“デフォルト設定”を選択します。

4. 伝票分割が有効になっています。以下の順序で、カスタマイジングで設定を行います。すべてのグループで同じ設定を使用するため、設定は変更しないでください。

すべての必要なカスタマイジング項目は、伝票分割の下のディレクトリに集中的にまとめられています。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 伝票分割

ステップ 1:

どの G/L 勘定が伝票分割に分類されているかをチェックします。

G/L 勘定 140000、175000、および 800200 はどの明細カテゴリに割り当てられていますか。

ステップ 2:

どの伝票タイプが伝票分割に分類されているかをチェックします。

伝票タイプ CI(得意先請求書) がどの取引およびどのバリエントに割り当てられているかを特定します。

ステップ 3:

取引バリエントのプロパティを照会します。

得意先請求書(0200) の設定を行います。

伝票で必要なエントリはどれですか。

次へ

得意先請求書に対して複数の得意先を転記することはできますか。

ステップ 4:

得意先請求書の伝票分割ルールを照会します (分割方法 0000000012、取引 0200、取引バリアント 0001)。

どの明細カテゴリが処理されますか。

得意先にどの基準明細カテゴリが割り当てられていますか (カテゴリ 02000)。

a) ステップ 1:

明細カテゴリへの G/L 勘定の割当 → 分類: 分割の G/L 勘定。

勘定コード表 = INT

勘定 140000、範囲 113200 ~ 153999: 01000 貸借対照表勘定

勘定 175000、範囲 175000 ~ 175000: 消費税

勘定 800200、範囲 800000 ~ 819999: 30000 収益

b) ステップ 2:

伝票タイプの取引 (固定) および取引バリアント (カスタマイジングを使用して変更可能) への割当 → 分類: 分割の伝票タイプ。

シ ャ ル	得意先請求書	リンク先
取引:	0200	得意先請求書
バリアント:	0001	標準

c) ステップ 3:

取引バリアントのチェック: 拡張伝票分割 → 定義: 取引バリアント

- 最上位レベルの取引 0200 を選択します。
- 第 2 レベルの取引バリアント 0001 を選択します。
- 最下位レベルの関連明細カテゴリを選択します。

ここでは、特定のポジションが必須であるかどうか (ここでは定義より得意先)、伝票で明細カテゴリを 1 回のみ表示することができるかどうかなどを制御することができます。

d) ステップ 4:

伝票分割ルールのチェック: 拡張伝票分割 → 定義: 分割ルール

- 最上位レベルで、プロセス 0000000012、取引 0200、およびバリアント 0001 を選択します。

次へ

- 第2レベルで、処理する明細カテゴリ 02000 得意先を選択します。



**注意:** 統制勘定 140000 (勘定タイプ D) が認識されて、明細カテゴリ 02000 得意先が自動的に取得されます。

- 最下位レベルの関連基準明細カテゴリを選択します。

債権は、以下の基準明細に従って分割されます。

01000	貸借対照表勘定
01100	会社コード消込
05100	消費税
05200	源泉徴収税
07000	資産
20000	費用
30000	収益



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 新総勘定元帳における伝票分割のコンセプトの説明
- 能動伝票分割と受動伝票分割の違いの説明
- カスタマイジングでの伝票分割の入力

## レッスン：初期値

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP ERP システムにおけるさまざまな初期値の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 初期値の定義
- ユーザ固有の初期値の設定
- システムでの初期値の設定

### ビジネスシナリオ

ユーザは、データを何度も入力したくありません。そのため、システムで初期値を定義します。

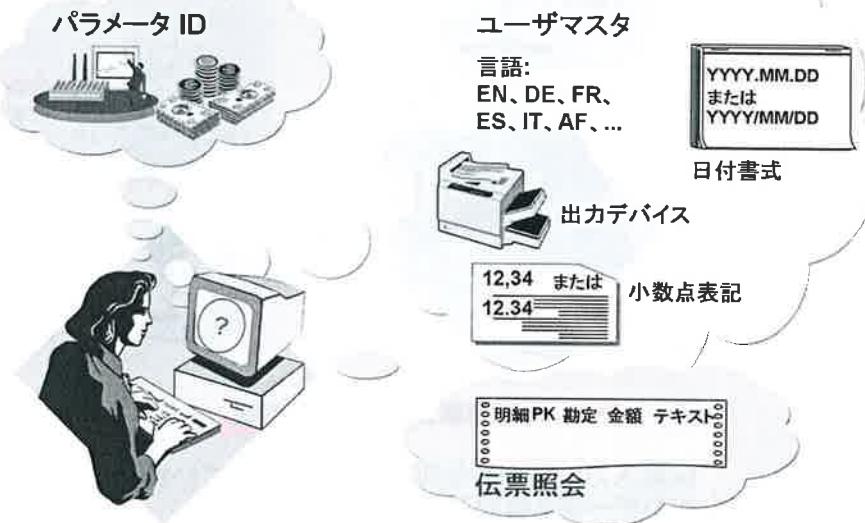


図 90: ユーザ設定の初期値

パラメータ ID を使用して、値が頻繁に変更されない項目（会社コード、通貨など）の初期値を設定することができます。トランザクションを実行すると、これらの値が対応する項目に自動的に表示されます。このため、これらの値をマニュアルで入力せずに済み、入力ミスを回避することができます。

編集オプションを使用して、以下の領域の画面を設定することができます。

- 伝票入力: 外貨や会社間取引など、自分の業務に関連のない項目を“非表示”にすることができます。また、ENJOY トランザクションでは特別な編集オプションを使用することもできます。
- 伝票照会: リストビューアを使用して、伝票照会時にさまざまな表示オプションを選択することができます。
- 未消込明細: 未消込明細処理に使用する明細レイアウトの表示および転記オプションを選択することができます。つまり、一部入金/支払の金額や新規未消込明細の残高を入力することができます。

SAP ERP システムにログオンするときには、ログオン言語、日付書式、小数点表記など、特定のプロパティがユーザ ID に設定されています。この設定は、このユーザに対してシステム全体で適用されます。また、各自のプリンタの初期値を設定することもできます。最初にダミーユーザを登録し、会計要件に応じて値を更新してから個別ユーザにコピーすることによって、ユーザ更新作業を簡略化することができます。

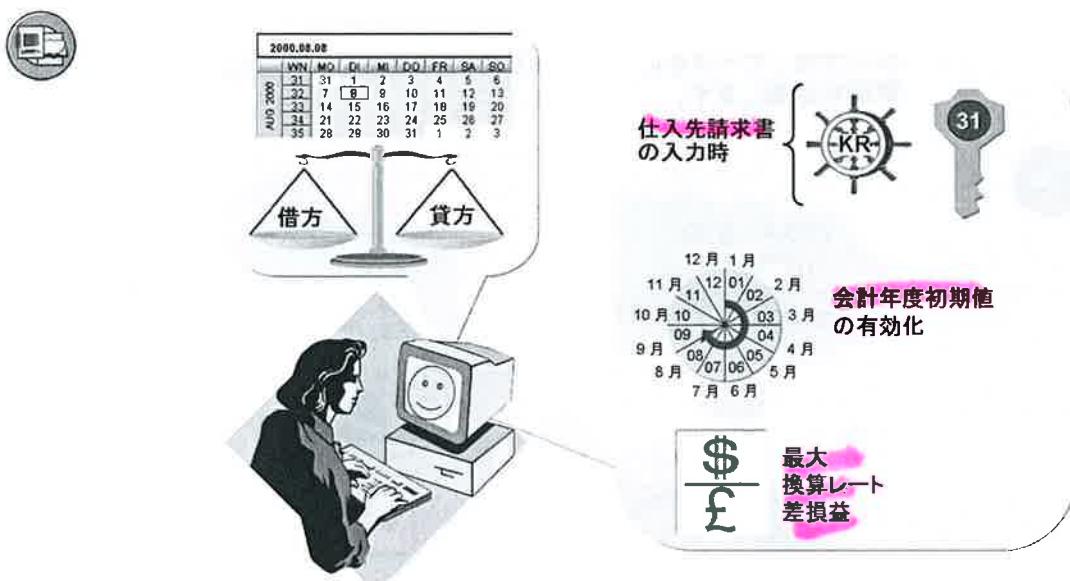


図 91: システム初期値と会計管理初期値

伝票入力の基本的な初期値が設定されています。たとえば、伝票入力時に現在のデータが転記日付として提案されます。

すでに入力済の伝票がある場合は、直前の伝票に入力した会社コードが次の伝票の入力時に提案されます。

システムは、伝票残高がゼロになっていないと伝票を転記することができないという“伝票の原則”に従います。

会計管理でさまざまな会計取引を入力するために、事前定義された伝票タイプと転記キーが設定されています。たとえば、仕入先請求書には伝票タイプ KR が指定され、貸方転記は転記キー 31 を使用して実行されます。

伝票の照会または変更時に、会計年度がシステムによって提案されるようするかどうかを設定することができます。年度固有の伝票番号割当のある会社コード（ほとんどの会社コード）では、会計年度が提案されると便利です。これにより、最後に処理した伝票の伝票番号とその会計年度が提案されます。また、起算日として CPU 日付（現在日付）が提案されるよう設定することもできます。

会計取引の伝票ヘッダに入力された換算レートと換算レートテーブル内の換算レートとの間で許容される差額上限を会社コードレベルで入力します。このペーセント差額上限を超えたとシステムで判断されると、警告メッセージが表示されます。このため、入力ミスをすぐに発見して修正することができます。



## 演習問題 14: 初期値

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 初期値のソースの説明
- 初期値の定義

### ビジネスシナリオ

ユーザは、データを 2 度も入力したくありません。そのため、システムで初期値を定義します。

### タスク：

次の質問に答えて、対応する初期値をシステムで設定してください。

1. 伝票入力時にシステムによって設定される初期値のソースをいくつか挙げてください。

---

---

---

2. ユーザが伝票入力中に誤って伝票タイプを変更することができないようにするには、どこで設定を行いますか。
3. 起算日は、資金管理に取引を反映させるために必要です。伝票処理時に起算日を初期表示する機能を有効化してください。
4. 換算レートの差異の上限が 10% に設定されています。経理担当者はこの率が高すぎることを懸念しています。会社の換算レート差異上限を 5% に設定してください。

## 解答 14: 初期値

### タスク:

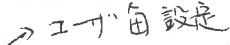
次の質間に答えて、対応する初期値をシステムで設定してください。

- 伝票入力時にシステムによって設定される初期値のソースをいくつ挙げてください。

### 解答:

- ユーザマスタレコード
- パラメータメモリ
- システムデータ
- 勘定マスタレコード
- 会計管理機能

- ユーザが伝票入力中に誤って伝票タイプを変更することができないようにするには、どこで設定を行いますか。

- G/L、債務、または債権の伝票入力画面で、**編集オプション**ボタンを選択します。 

項目名またはデータ型	値
伝票 typeoption	伝票タイプ非表示 (伝票タイプオプションを選択)

“保存”を選択します。

- 起算日は、資金管理に取引を反映させるために必要です。伝票処理時に起算日を初期表示する機能を有効化してください。

- 起算日提案を有効化します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 初期値 → 定義: 起算日初期値

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
起算日初期値	

“保存”を選択します。

次へ

4. 換算レートの差異の上限が 10% に設定されています。経理担当者はこの率が高すぎることを懸念しています。会社の換算レート差異上限を 5% に設定してください。
- a) 換算レート差異の上限を変更します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 会社コードのグローバルパラメータ → 通貨 → 換算差損益上限 → 定義: 会社コード別の換算差損益上限

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
換算差損益上限	5%

“保存”を選択します。

→ **注記:** 今後の会計取引に反映されるシステム初期値の設定を行いました。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 初期値の定義
- ユーザ固有の初期値の設定
- システムでの初期値の設定

## レッスン：変更管理

### レッスンの概要

このレッスンでは、伝票変更の管理機能について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 伝票変更を管理するルールの説明
- 伝票変更
- 伝票変更内容の分析

### ビジネスシナリオ

会計管理責任者は、SAP ERPへの伝票転記後も変更可能な項目の一部を変更不可にしたいと考えています。

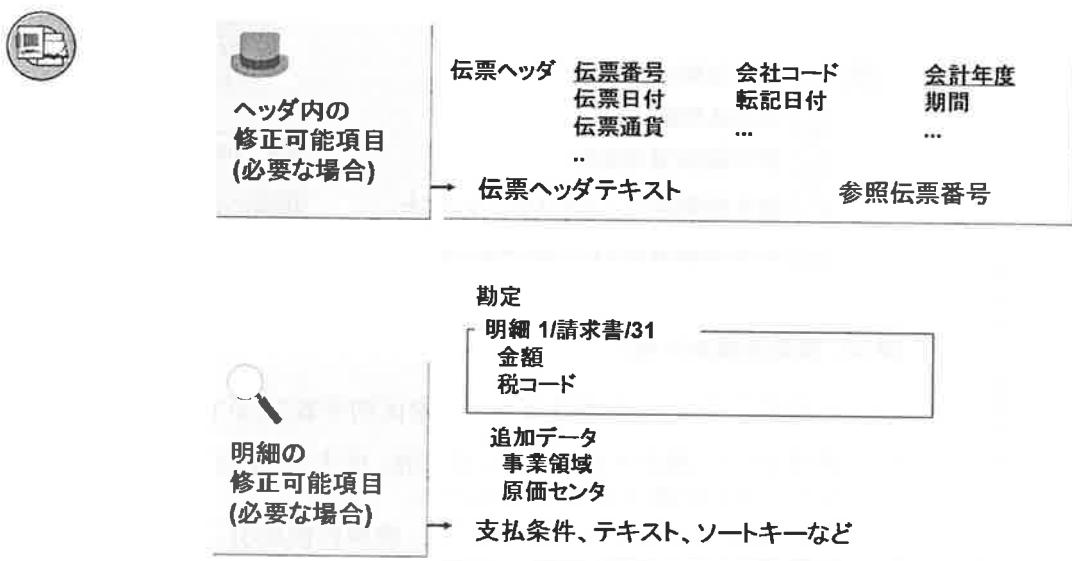


図 92: 伝票の変更

ユーザは転記済の伝票を変更することができます。ただし、変更可能な項目はさまざまなルールによって制限されます。これらのルールには、システムで事前定義されたものとユーザが独自に定義するものがあります。

伝票ヘッダと明細の両方で特定の項目を変更することができます。

- **伝票ヘッダ:** 参照番号と伝票ヘッダテキストのみが変更可能です。
- **明細:** 金額、転記キー、勘定、または転記の照合に影響を与える他の項目は変更することができません。

ユーザが伝票を変更すると、以下の情報が記録されます。

- 変更された項目
- 変更前と後の値
- 変更者
- 変更日時

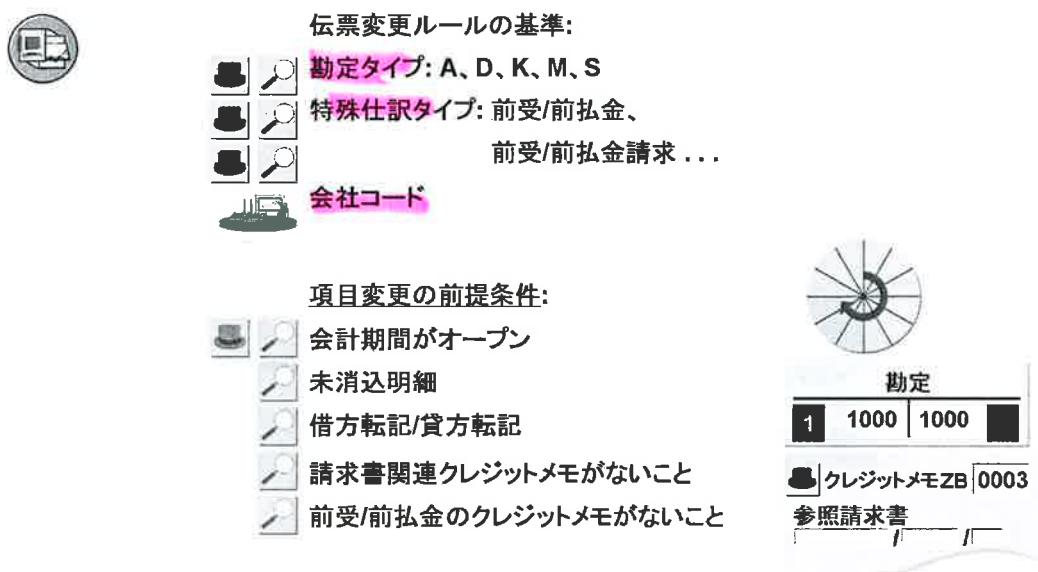


図 93: 伝票変更ルール

以下の基準に従って、伝票変更ルールを区別することができます。

- **勘定タイプ:** 勘定タイプにより、得意先、仕入先、および G/L 勘定に対するルールを定義することができます。
- **特殊仕訳タイプ:** 特殊仕訳タイプは、特殊仕訳取引、手形、および前受/前払金にのみ使用します。
- **会社コード:** この項目が空白の場合、ルールはすべての会社コードに適用されます。

項目変更の条件は事前定義されています。これは、以下の場合に変更することができます。

- 会計期間がオープンであること
- 明細が未消込であること
- 明細が得意先コードの借方か、仕入先コードの貸方であること
- 伝票が請求書のクレジットメモではないこと
- 伝票が前受/前払金のクレジットメモではないこと

レポート RFBABL00 を使用すると、すべての伝票に対する伝票変更を照会することができます。このレポートでは、会社コード、伝票番号、会計年度、変更日付、変更者などによる選択オプションがあります。



## 演習問題 15: 伝票変更ルール

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 伝票変更ルールの適用

### ビジネスシナリオ

割当項目により、受注管理のどの伝票が会計伝票の基礎となるかが決定されます。内部監査人から、取引の登録によってこの割当項目が変更されることを防ぐよう依頼されました。

### タスク:

割当項目を修正不可能に設定します。

1. 前の演習問題で転記した伝票のうちの 1 つで、割当項目が変更可能であるかどうかを確認します。変更可能な場合は、勘定タイプ "D"、"K"、および "S" の変更ルールを変更して、割当項目を変更不可能にします。その後、割当項目が変更不可能になったことを確認します。



ヒント: 割当項目の項目名は "BSEG-ZUONR" です。

## 解答 15: 伝票変更ルール

### タスク:

割当項目を修正不可能に設定します。

- 前の演習問題で転記した伝票のうちの 1 つで、割当項目が変更可能であるかどうかを確認します。変更可能な場合は、勘定タイプ "D"、"K"、および "S" の変更ルールを変更して、割当項目を変更不可能にします。その後、割当項目が変更不可能になったことを確認します。



**ヒント:** 割当項目の項目名は "BSEG-ZUONR" です。

- 割当項目は変更できますか。

*SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票  
→ 変更*

項目名またはデータ型	値
伝票番号	前章のものを使用
会社コード	GR##
会計年度	今年度

“続行”を選択します。

得意先明細をダブルクリックして、割当項目が変更可能であることを確認します。

新規変更ルールを登録します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票  
変更ルール → 伝票変更ルール - 明細 → 新規エントリ*

項目名またはデータ型	値
項目名	BSEG-ZUONR
勘定タイプ	S
特殊仕訳タイプ	空白
会社コード	GR##
項目修正可能	空白

“保存”を選択します。

緑色の矢印を選択して、概要画面に戻ります。

次へ

登録したルールを強調表示します。

編集 → 別名コピー…

項目名またはデータ型	値
項目名	BSEG-ZUONR
勘定タイプ	D
特殊仕訳タイプ	空白
会社コード	GR##
項目変更可能	空白

“Enter”を選択します。

登録したルールを強調表示します。

編集 → 別名コピー…

項目名またはデータ型	値
項目名	BSEG-ZUONR
勘定タイプ	K
特殊仕訳タイプ	空白
会社コード	GR##
項目変更可能	空白

“Enter”を選択します。

“保存”を選択します。

項目が修正可能でなくなっていることを確認するために、最初のステップを繰り返して伝票を呼び出し、それを変更します。

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票  
→ 変更

項目名またはデータ型	値
伝票番号	前章のものを使用
会社コード	GR##
会計年度	当年度

“続行”を選択します。

次へ

得意先明細をダブルクリックして、割当項目が変更不可能になったことを確認します。

➡ **注記:** 得意先、仕入先、および一般転記に適用される伝票変更ルールを登録し、転記後に割当項目を修正できないようにしました。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 伝票変更を管理するルールの説明
- 伝票変更
- 伝票変更内容の分析

## レッスン: 反対仕訳伝票

### レッスンの概要

このレッスンでは、システム内で伝票の反対仕訳を行う2つの方法を説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

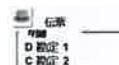
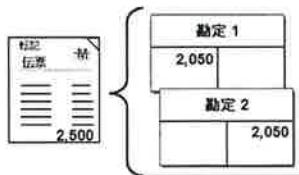
- 伝票の反対仕訳
- カスタマイジングでの反対仕訳理由の定義

### ビジネスシナリオ

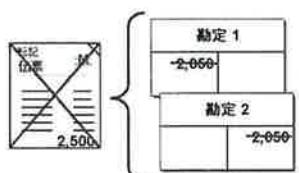
伝票が間違って入力かつ転記されることがあります。この場合、その伝票を反対仕訳して正しく再入力する必要があります。管理部門は、伝票の反対仕訳時に取引金額も修正されることを望んでいます。



誤) 電力料 2,050 / 預金 2,050  
又) 預金 2,050 / 電力料 2,050  
正) 電力料 2,500 / 預金 2,500

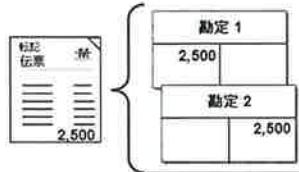


#### ● 間違って入力された伝票



#### ● 反対仕訳による伝票の修正

- 標準反対仕訳
- マイナス転記による反対仕訳



#### ● 正しく再入力された伝票

図 94: 伝票反対仕訳

ユーザが間違えて伝票を入力する場合があります。この場合、登録された伝票には不正な情報が含まれています。修正内容を記録するために、まず、間違った伝票を反対仕訳する必要があります。次に、伝票を正しく再入力します。

システムには、個別または一括で、G/L 伝票、得意先伝票、および仕入先伝票を反対仕訳する機能が用意されています。

伝票の反対仕訳は、以下の方法で行うことができます。

- 標準の反対仕訳転記
- マイナス転記

伝票を反対仕訳する際、反対仕訳について説明する**反対仕訳理由**を入力しなければなりません。反対仕訳理由によって、反対仕訳日付が元の転記日付と異なってもかまわないかどうかを制御されます。

消込済明細を含む伝票は、反対仕訳できません。最初に、伝票をリセットする必要があります。

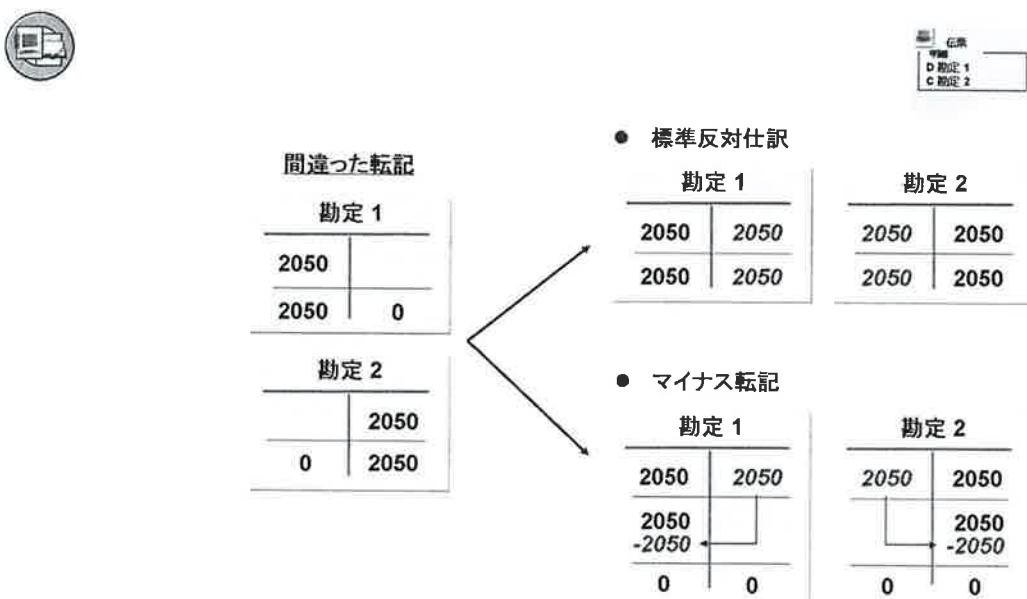


図 95: 標準反対仕訳転記とマイナス転記

標準反対仕訳転記では、誤った借方転記を貸方に転記し、誤った貸方転記を借方に転記します。そのため、標準反対仕訳転記では、**その分だけ取引金額が増加します**。

マイナス転記でも、誤った借方転記を貸方に転記し、誤った貸方転記を借方に転記します。ただし、転記金額は取引金額に加算されず、勘定の反対側の取引金額から減算されます。この結果、**取引金額は誤った転記が行われる前の状態に戻されます**。

通常、システムでは標準反対仕訳を使用します。マイナス転記を行うには、以下の前提条件を満たしている必要があります。

- 会社コードでマイナス転記が許可されていること
- マイナス転記用として反対仕訳理由が定義されていること

マイナス転記を使用して、間違った明細の振替転記を実行することもできます。マイナス転記によってこの明細を間違った勘定の残高から取り消し(取引残高を元に戻す)、通常の転記によって適切な勘定に転記します。この方法は、マイナス転記が許可されている伝票タイプでのみ行うことができます。

## 演習問題 16: 反対仕訳伝票

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 伝票の反対仕訳
- 会社コードをマイナス転記可能にする設定

### ビジネスシナリオ

伝票が不正に入力または転記されることがあります。このような場合、それを反対仕訳して正しく入力し直す必要があります。管理部門は、伝票の反対仕訳時に取引金額も修正できるようにすることを望んでいます。

### タスク:

以下の質問に答えてください。

1. SAP ERP Financials で伝票を反対仕訳する方法を 2 つ挙げてください。

---

---

---

2. マイナス転記の処理を可能にするために満たす必要のある 2 つの前提要件を挙げてください。

---

---

---

3. 会社コードでマイナス転記が許可されているかどうかを確認します。
4. マイナス転記による反対仕訳の実行に使用される反対仕訳理由を確認してください。
5. 演習問題 “財務会計の基本伝票” の現金勘定 (100000) の残高をチェックします。転記された伝票を照会して、使用されている伝票タイプおよび伝票番号を書き留めます。
6. 照会した G/L 伝票を反対仕訳して、勘定残高にこのマイナス転記が反映されているかどうかを確認します。

## 解答 16: 反対仕訳伝票

### タスク:

以下の質間に答えてください。

- SAP ERP Financials で伝票を反対仕訳する方法を 2 つ挙げてください。

### 解答:

- 標準の反対仕訳転記
  - マイナス転記による反対仕訳
- マイナス転記の処理を可能にするために満たす必要のある 2 つの前提要件を挙げてください。

### 解答:

- 1. 会社コードでマイナス転記が許可されていること
  - 2. マイナス転記に対する反対仕訳理由が定義されていること
- 会社コードでマイナス転記が許可されているかどうかを確認します。

- 会社コードでマイナス転記を許可する設定をします。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 調整転記/反対仕訳 → 許可: マイナス転記

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
マイナス転記可	✓

“マイナス転記可”区分を設定した場合は、“保存”を選択します。

- マイナス転記による反対仕訳の実行に使用される反対仕訳理由を確認してください。

- IMG: 財務会計 → 総勘定元帳 → 取引 → 調整転記/反対仕訳  
→ 定義: 反対仕訳理由  
理由コードをチェックします。

“マイナス転記”区分は、反対仕訳理由 03、04、05、06、07、RE に対して設定されています。

次へ

5. 演習問題“財務会計の基本伝票”の現金勘定(100000)の残高をチェックします。転記された伝票を照会して、使用されている伝票タイプおよび伝票番号を書き留めます。
- a) 勘定残高、伝票タイプ、および伝票番号を照会します。

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 勘定コード → 残高照会

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	100000
会社コード	GR##
会計年度	今年度

実行を選択します。

現会計期間の残高を記録してください。

借方: \_\_\_\_\_

貸方: \_\_\_\_\_

現会計期間の借方残高をダブルクリックします。残高の明細が表示されます。

伝票タイプは SA: 一般転記です。

6. 照会した G/L 伝票を反対仕訳して、勘定残高にこのマイナス転記が反映されているかどうかを確認します。

- a) 反対仕訳を実行します。

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 伝票 → 反対仕訳 → 個別反対仕訳

項目名またはデータ型	値
伝票番号	書き留めておいた G/L 勘定の伝票
会社コード	GR##
会計年度	今年度
反対仕訳理由	03 (またはマイナス転記を実行する他の理由コード)

ジャンプ → 反対仕訳前に照会

緑色の矢印を選択して、概要画面に戻ります。

次へ

転記を選択して伝票を保存します。

勘定残高をチェックします。

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 勘定コード → 残高照会

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	100000
会社コード	GR##
会計年度	当年度

実行を選択します。

現会計期間の残高を記録してください。

借方	貸方

これらの値を反対仕訳の前に記録した残高と比較します。

→ 注記: 以下の作業が終了しました。

- 会社コードをマイナス転記可能にする設定
- マイナス転記が可能な伝票タイプのチェック
- マイナス転記で使用可能な反対仕訳理由コードの確認



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 伝票の反対仕訳
- カスタマイジングでの反対仕訳理由の定義

## レッスン: 支払条件と現金割引

### レッスンの概要

このレッスンでは、さまざまな支払条件と、現金割引の自動仕訳に対する各支払条件の影響について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 支払条件の定義
- 現金割引の自動転記に対する勘定設定の説明

### ビジネスシナリオ

この会社では、さまざまな支払条件を使用します。現金割引は、システムで自動的に転記されるようにします。会社は、現在も仕入先と新しい支払条件について交渉しており、これらをシステムに反映させる予定です。



支払条件を使用して、以下のものが定義されます。

- 支払期日計算の基準日
- 現金割引期間
- 現金割引率

支払条件は、以下のように処理されます。

- 得意先/仕入先マスタレコードに割り当てられます。
- システムで初期値が指定されるか、ユーザがマニュアルで入力します。
- 取引明細において支払条件を決定するために使用されます。

図 96: 支払条件

支払条件は、ビジネスパートナーとの間で請求書支払に関する取り決められた条件です。この条件によって、支払期日とその請求書の早期支払に適用される現金割引が定義されます。

いくつかの支払条件がシステムで事前定義されています。必要に応じて新しい条件を追加することができます。

支払条件によって、現金割引と請求書支払期日が計算されます。

これを行うには、次のデータが必要になります。

- 支払基準日：支払期日の起算日。
- 現金割引条件：割引が適用される条件。
- 現金割引率：現金割引の計算に使用するパーセント。

伝票の処理時に、必要な支払条件が計算できるように支払条件を入力します。

マスタレコードに支払条件が入力されている場合は、その条件が提案されます。処理中に条件を入力または変更することもできます。

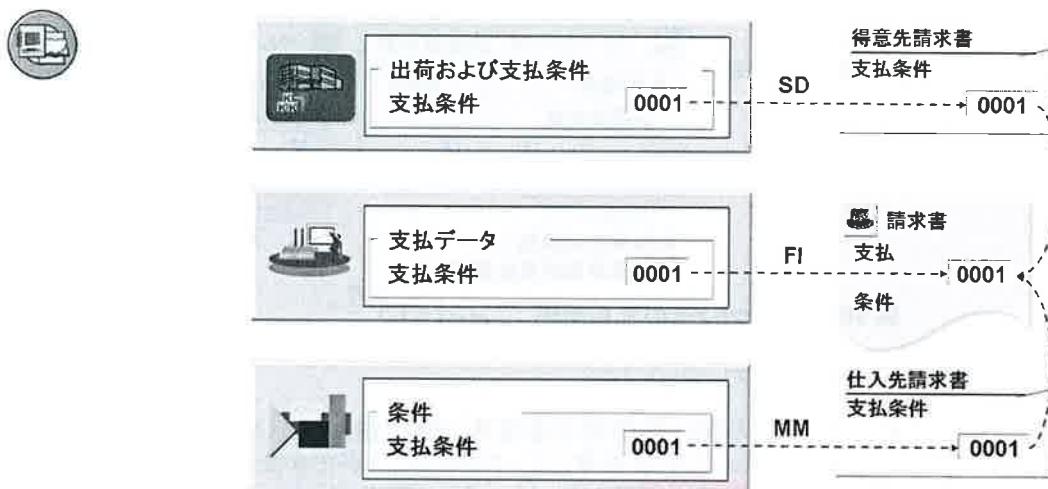


図 97: 請求書の支払条件

支払条件は、得意先/仕入先マスタレコードの会社コードセグメント、販売エリアセグメント、および購買組織セグメントで入力することができます。

請求書の転記時に初期設定される支払条件は、請求書の登録元によって決まります。

- Financials で請求書が登録された場合は、会社コードセグメントの支払条件が初期値となります。
- 受注管理で得意先請求書が登録された場合は、販売エリアセグメントの支払条件が初期値となります。受注管理請求書を転記すると、(自動的に登録された) FI 請求書に支払条件がコピーされます。
- 購買で仕入先請求書が登録された場合は、購買組織セグメントの支払条件が初期値となります。この請求書を転記すると、支払条件が会計伝票に自動的にコピーされます。

仕入先請求書の入力時に、固定の現金割引額や現金割引率を設定することもできます。これで、支払期間/日付に関係なく現金割引を適用することができます。このためには、項目“現金割引”に適切な値を入力する必要があります。

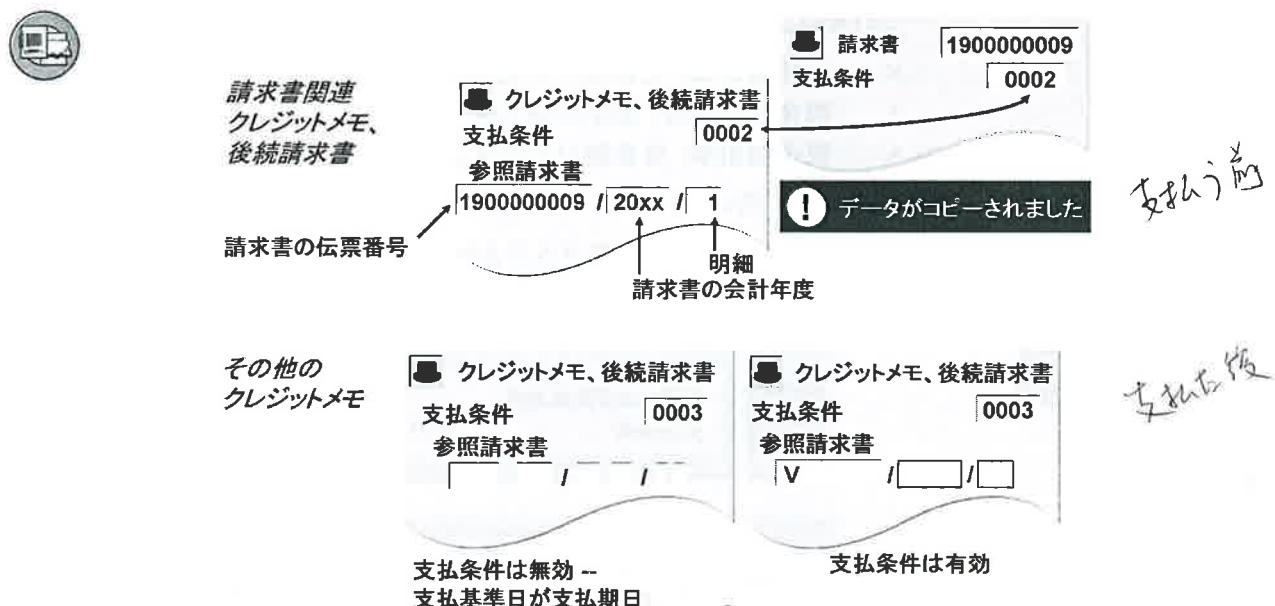


図 98: クレジットメモの支払条件

請求書関連クレジットメモ:

- 伝票入力時に参照請求書項目に請求書番号を入力すると、クレジットメモをオリジナル請求書にリンクすることができます。このようにすると、支払条件が請求書からコピーされ、請求書とクレジットメモの支払期日が同じになります。

その他のクレジットメモ:

- 他のクレジットメモの支払条件は無効です。これらのクレジットメモは、いずれも支払基準日が支払期日になります。このような請求書関連でないクレジットメモの支払条件を有効にするには、伝票入力時に項目 "参照請求書" に "V" を入力します。



一般

## ● 期限

支払条件 0009  
期限 15支払条件 0009  
期限 31

## ● テキスト

15 日期限の場合: 翌月 15 日までは 2% の現金割引  
翌月末までは割引なし31 日期限の場合: 翌月末までは 2% の現金割引  
翌々月 15 日までは割引なし

## ● 勘定タイプ



得意先



仕入先

図 99: 支払条件・基本データ

## 一般:

- 期限は、支払条件の有効期間となるカレンダ日です。期限を使用して、单一または複数の支払条件を支払条件キーに保存することができます(この図では支払条件キー 0009)。
- 支払条件のテキストには、ユーザ定義の支払条件テキストで置換可能な、自動生成された説明と、請求書に印刷される受注管理テキストが含まれています。
- 勘定タイプは、支払条件を使用できる補助元帳を定義します。仕入先と得意先の両方に対して支払条件を使用する場合は、個別の支払条件キーを使用してこれらを定義し、それぞれを適切な 1 つの勘定タイプでのみ使用する必要があります。これにより、得意先の支払条件に対して行った変更(現金割引率を 3% から 2% に変更するなど)が仕入先への転記に影響するのを回避することができます。



図 100: 支払条件 – 支払管理

#### 支払管理:

- **保留キー**を使用すると、明細または勘定の支払と回収を**ブロック**することができます。このキーは、明細または勘定に入力することができます。保留キーは、支払条件に入力することもできます。
- **支払方法**は明細または勘定に入力されます。システムでは国ごとに使用できる**支払方法**が定義されています。支払保留と同様、支払方法は支払条件にも入力することができます。

支払条件に定義された保留キーと支払方法は、支払条件の使用時に初期値として明細に設定されます。受注管理を使用している場合は、ノート 132701 と 217021 を参照してください。

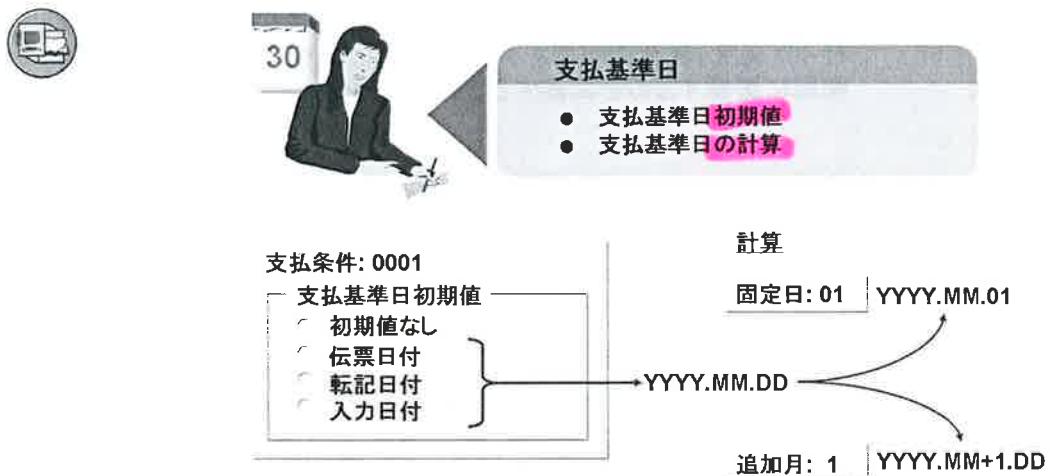


図 101: 支払基準日

### 支払基準日

支払基準日は、請求書支払期日の計算に使用される開始日付です。支払基準日の計算時には、以下のルールが適用されます。

- 支払基準日として設定が可能な初期値は、初期値なし、伝票日付、転記日付、またはです。入力日付 → 汎用日付
- 支払基準日の計算の指定では、**固定日**を使用して基準日のカレンダ日が上書きされます。

支払基準月のカレンダ月に指定した月数を**加算**します。

支払基準日の初期値による処理と、月数を追加して支払期日を変更する方法の詳細については、ノート 162885 を参照してください。

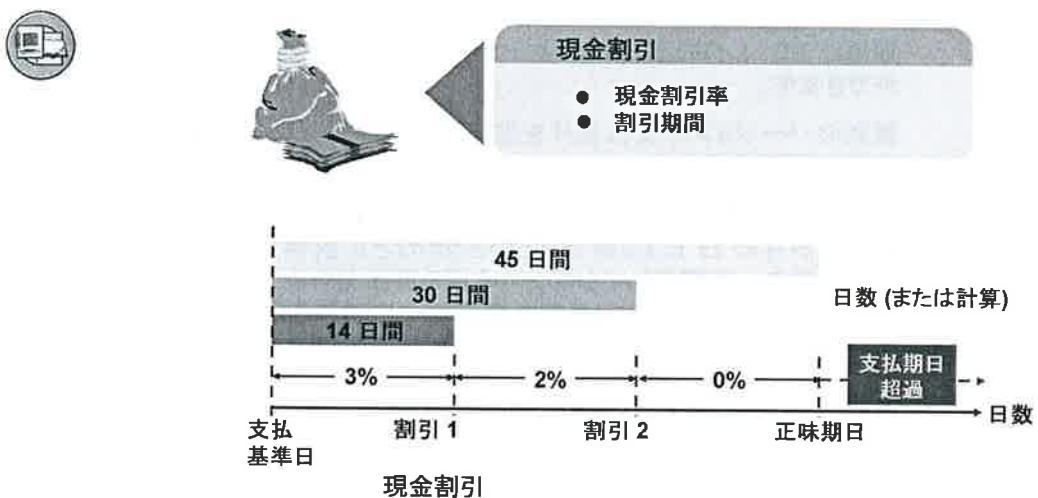


図 102: 現金割引

現金割引を計算するには、支払条件に割引率を入力します。また、その率が適用される日数も同じ行に入力します。固定日数と月数を追加することもできます。

支払条件で指定された日数および月数と支払基準日を使用して、支払日における正確な割引額が計算されます。

現金割引期間は 3 つまで入力することができます。



図 103: 期限

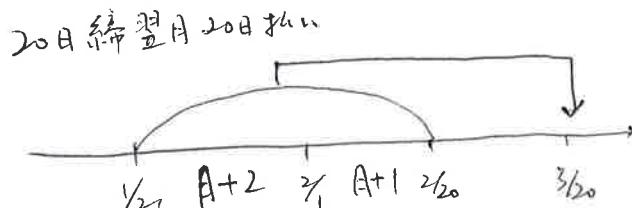
期限により、1つの支払条件キーで日付固有の支払条件を定義することができます。

複数のバージョンの支払条件を定義して、各バージョンに異なる期限を指定することができます。

期限は、その支払条件バージョンが適用される支払基準日を表します。支払基準日が月の 15 日よりも前であるかどうかなどに依存する支払条件では、同じ支払条件キーを使用して2部分から成る支払条件を入力することができます。指定された期限のエントリが支払条件キーに追加されます。これにより、支払条件の異なる2つのエントリを定義することができます。

以下の支払条件では、期限の指定が必要です。

- 請求書日付が月の 15 日以前で、翌月の最終日が支払期日となる伝票
- 請求書日付が後半の日付で、翌月の 15 日が支払期日となる伝票



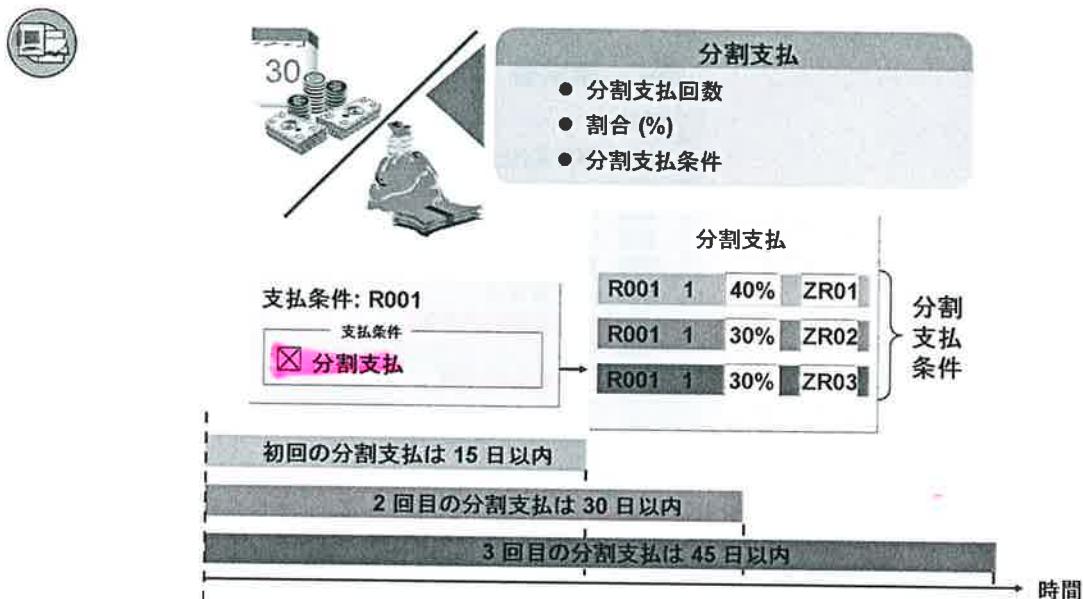


図 104: 分割支払

分割支払計画を使用して、1つの請求書に対する支払を数か月に分けたり、請求金額の一部の支払を保留して後から支払ったりすることができます。

請求合計金額は、異なる期日を持つ部分金額に分割されます。

支払条件でこの分割支払が定義されている場合には、この分割は自動的に実行されます。

このためには、分割支払を選択し、現金割引期間と現金割引率は割り当てないようにします。

各分割支払に対して、分割支払番号、パーセント、および支払条件を定義します。

指定したパーセントの合計が 100% になる必要があります。

指定した分割部分ごとに 1 つの明細が登録されます。

明細額は、合計金額のパーセントに対応します。明細額の合計は合計金額に一致します。

明細の支払条件は、各分割支払に対して定義された支払条件です。

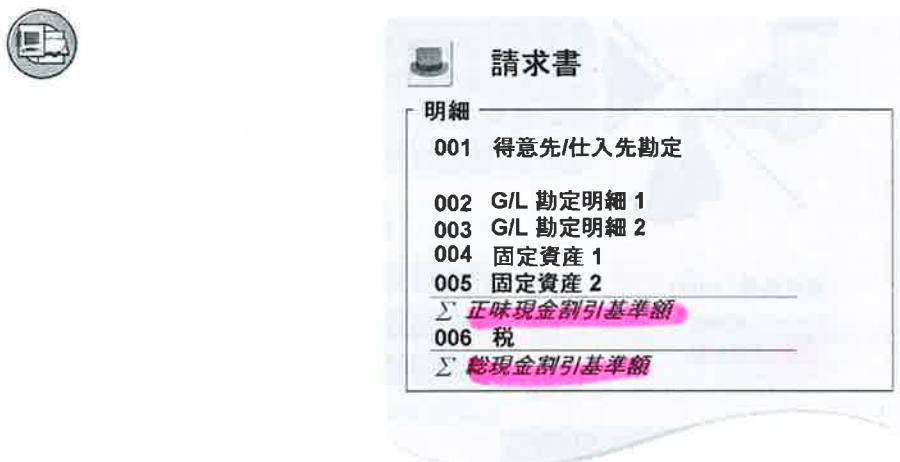


図 105: 現金割引基準額

各国の法令に応じて、現金割引基準額として正味額(税を含まない G/L 勘定と固定資産明細の合計(アメリカなど))または総額(税を含む(ドイツなど→日本))が使用されます。会社コードまたは税管轄コードごとに、現金割引基準としていずれの値を使用するかを指定します。この設定は、会社コードのグローバルパラメータに含まれます。

		( 現金 )	
債権			T
	債務者		収益
	1 1000   1000 2		1000 1
	現金割引許容額		入金
	30		970
債務			
	仕入先		費用
	3 1000   1000 1		1000
	現金割引適用額		銀行支払
	30		970

図 106: 現金割引の転記 - 全処理

現金割引額は、マニュアルで入力するか、支払条件のパーセントを使用して自動的に入力されます。請求書を転記した後でも、現金割引を変更することができます。

得意先コードまたは仕入先コードの未消込明細が消し込まれると、許容される現金割引が "現金割引費用" または "受取済現金割引" の各勘定に自動的に転記されます。

設定時に、**現金割引費用勘定**または**現金割引収益勘定**を定義します。

現金割引期間内の支払 (正味)		
仕入先	費用	失効現金割引額
2 1000   1000 1	1 970	
現金割引消込	銀行支払	
1 30   30 2		970 2

現金割引期日後の支払		
仕入先	費用	失効現金割引額
2 1000   1000 1	1 970	2 10
現金割引消込	銀行支払	
1 30   30 2		980 2

**1 正味伝票タイプ KN  
による転記**

図 107: 正味処理 - 請求書 (1) と支払 (2)

正味処理の伝票タイプで仕入先請求書を転記すると、費用勘定や貸借対照表勘定に転記された金額から、現金割引金額が差し引かれます。これと同じ金額が現金割引消込勘定に転記され、転記が消し込まれます。

正味処理を使用する場合、請求書の転記時に現金割引額が自動的に転記されます。

請求書の支払を行うと、現金割引消込勘定への消込転記が実行されます。請求書に対する支払を現金割引期間後に行った場合は、失効現金割引が別の勘定に転記されます。

現金割引消込勘定は、未消込明細を基準に管理する必要があります。



## 演習問題 17: 支払条件と現金割引

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 支払条件の設定
- 現金割引の自動転記

### ビジネスシナリオ

この会社では、さまざまな支払条件を使用します。現金割引は自動的に転記されるようにします。この会社では、仕入先と新たな支払条件を取り決めました。

#### タスク 1:

新規支払条件キーの登録

- 新たな支払条件キー AC## を導入して、それが正しく機能することを確認する必要があります。仕入先との間で取り決められた新たな条件は以下のとおりです。

即時支払の場合 5% 割引

14 日以内の支払の場合 2% の現金割引

30 日以内の支払には控除なし

転記日付は支払基準日

#### タスク 2:

新たな支払条件を仕入先に割り当てます。

- 新たな支払条件を仕入先に割り当てます。

#### タスク 3:

次回請求書を入力する際に、新しい支払条件キーを使用します。

- 50,000 円 (国内通貨) の請求書を転記して、新たな支払条件をテストします。借方転記には、交際接待費勘定 (AE01##)、利益センタ PR##、および仮払消費税コード V0 (0%) を使用します。

次へ

## タスク 4:

正誤問題

1. 請求書とクレジットメモの支払期日が同じ日付になるように、クレジットメモを請求書に関連づけることができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
2. 期限によって、現金割引期間の日付が定義されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
3. 分割支払計画の各分割支払には、独自の支払条件を割り当てておく必要があります。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

## タスク 5:

次の質間に答えてください。

1. “支払条件”は、得意先マスタレコードの \_\_\_\_\_ セグメントと \_\_\_\_\_ セグメントの項目です。  
空白に適切な答えを記入してください。

## タスク 6:

次の質間に答えてください。

1. \_\_\_\_\_ は、請求書の支払期日を決定するために使用される日付です。  
空白に適切な答えを記入してください。

次へ

### タスク 7:

次の質間に答えてください。

1. 正味処理では、どのような現金割引勘定が使用されますか。

---

---

---

### タスク 8:

次の質間に答えてください。

1. 全処理では、どのような現金割引勘定が使用されますか。

---

---

---

## 解答 17: 支払条件と現金割引

### タスク 1:

新規支払条件キーの登録

1. 新たな支払条件キー AC## を導入して、それが正しく機能することを確認する必要があります。仕入先との間で取り決められた新たな条件は以下のとおりです。

即時支払の場合 5% 割引

14 日以内の支払の場合 2% の現金割引

30 日以内の支払には控除なし

次へ

転記日付は支払基準日

- a) 支払条件を登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払請求/クレジットメモ → 更新: 支払条件

編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
支払条件	AC##
<b>勘定タイプ</b>	
得意先	空白
仕入先	✓
支払基準日初期値	転記日付
<b>支払条件</b>	
<b>条件 1</b>	
パーセント	5%
日数	空白
<b>条件 2</b>	
パーセント	2%
日数	14
<b>条件 3</b>	
日数	30

“続行”を選択します。

“説明”領域には、支払条件が自動的にテキストで記述されます。  
支払条件を正しく考慮したかどうかを確認します。

“保存”を選択します。

次へ

## タスク 2:

新たな支払条件を仕入先に割り当てます。

- 新たな支払条件を仕入先に割り当てます。

- 仕入先マスタレコードに支払条件を入力します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタレコード → 変更

項目名またはデータ型	値
仕入先	Vendor##
会社コード	GR##
会社コードデータ	
支払処理	✓

"Enter" を選択します。

項目名またはデータ型	値
支払条件	AC##

“保存”を選択します。

## タスク 3:

次回請求書を入力する際に、新しい支払条件キーを使用します。

- 50,000 円 (国内通貨) の請求書を転記して、新たな支払条件をテストします。借方転記には、交際接待費勘定 (AE01##)、利益センタ PR##、および仮払消費税コード V0 (0%) を使用します。

- 仕入先請求書の転記

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 請求書 (Enjoy)

会社コードの入力を求められたら、GR## を入力し、“Enter”を選択します。

項目名またはデータ型	値
基本データ	
仕入先	Vendor##
請求書日付	現在日付

次へ

転記日付	現在日付
金額	50 000
通貨	国内通貨
税計算	✓
税コード	V0 (トレーニング用仮払消費税 0%)
明細	
G/L 勘定	AE01##
D/C	借方
伝票通貨額	50 000
税コード	V0 (トレーニング用仮払消費税 0%)
明細テキスト	スタッフの会食
利益センタ	PR##

“支払”タブページをクリックして、仕入先マスタレコードから支払条件が提案されるかどうかをチェックします。

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。

→ **注記:** 以下の作業が終了しました。

- 新しい支払条件の登録
- 仕入先マスタレコードへの支払条件の割当

請求書の転記時に、仕入先マスタレコードから新規支払条件が初期値として取得されました。以下のメニューパスを選択し、明細を照会して、このことをチェックします。会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 勘定コード → 明細照会/変更。

選択画面に仕入先コードと会社コードを入力して、レポートを実行します。個別支払条件を照会する明細をダブルクリックします。

次へ

## タスク 4:

正誤問題

1. 請求書とクレジットメモの支払期日が同じ日付になるように、クレジットメモを請求書に関連づけることができます。

**解答: 正**

クレジットメモをオリジナル請求書に関連付けることにより、支払条件が請求書からコピーされ、請求書とクレジットメモの支払期日が同じになります。

2. 期限によって、現金割引期間の日付が定義されます。

**解答: 誤**

期限は、同じ支払条件キーで複数の支払条件バージョンを保存するために使用します。

3. 分割支払計画の各分割支払には、独自の支払条件を割り当てておく必要があります。

**解答: 正**

明細の支払条件は、各分割支払に対して定義された支払条件です。

## タスク 5:

次の質間に答えてください。

1. “支払条件”は、得意先マスタレコードの会社コードセグメントと販売エリアセグメントの項目です。

**解答: 会社コード, 販売エリア**

支払条件は、得意先マスタレコードの会社コードセグメントと販売エリアセグメントで定義することができます。請求書/請求伝票を登録する際には、支払請求元アプリケーション原則が適用されます。

## タスク 6:

次の質間に答えてください。

1. 支払基準日は、請求書の支払期日を決定するために使用される日付です。

**解答: 支払基準日**

現金割引期間を計算するためには、開始日として支払基準日にアクセスできなければなりません。

次へ

### タスク 7:

次の質間に答えてください。

1. 正味処理では、どのような現金割引勘定が使用されますか。

解答:

- 現金割引消込勘定
- 失効割引勘定

### タスク 8:

次の質間に答えてください。

1. 全処理では、どのような現金割引勘定が使用されますか。

解答:

- 現金割引収益勘定
- 現金割引費用勘定



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 支払条件の定義
- 現金割引の自動転記に対する勘定設定の説明

## レッスン：税

### レッスンの概要

このレッスンでは、システムでの税コードの設定について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials における税処理方法の説明
- 税コードの登録と税勘定の定義

### ビジネスシナリオ

管理者から、時間的な制約があるため、国の税に関する基本的な要求事項をプロトタイプとして示すよう要求されました。SAP ERP の国別税テンプレートを使用するよう提案されました。



請求書の転記時に、以下の税額を請求書金額に課税することができます。



- 消費税
- US 売上税
- 追加税
- 源泉徴収税



以下の 2 つの課税タイプを使用することができます。

- 連邦/国レベル
- 州/税管轄区レベル

図 108: 税

SAP では、各国の税システムをサポートしています。

- 消費税
- US 売上税
- 追加税 (国固有、たとえばノルウェーの投資税やベルギーの決済税など)
- 源泉徴収税 (このコースでは扱いません)

SAP ERP システムで処理することができる 2 つの基本的な課税タイプがあります。

- 国レベルで一律の税率で賦課される税。
- 州/税管轄レベルで賦課され、州/税管轄ごとに税率が定められる税。このタイプの課税は非常に複雑であるため(USA には 67,000 を超える税管轄があります)、多くの場合はサードパーティ製のソフトウェアを使用して税配分が決定されます。SAP では、これをサポートするための汎用インターフェースソフトウェアを提供しています。

一部の国では(カナダ、インド、ブラジルなど)、これら両方のレベルで課税されます。

売上税と使用税は、国より下位レベルで賦課される税の典型的な例です。



以下の機能が用意されています。



- 税額計算
- 定義された税勘定への転記
- 税調整の実行
- 税レポート

以下のデータから税額が自動計算されます。

- 現金割引を含むまたは除外した課税基準額
- 税額の確認/計算するための税コード

**図 109: 税 - 支援機能**

税処理は、システムで次のようにサポートされます。

- 入力された税額のチェック、または税の自動計算
- 税勘定への税額の転記
- 現金割引やその他の控除に応じた税調整の実行

費用または収益の金額が基準額になります。基準額には、現金割引を含めることも(課税基準 = 総額)、除外することもできます(課税基準 = 正味額)。

税コードを使用して、SAP システムの税処理機能に必要な計算が処理されます。

課税基準額は、国によって次のいずれかに定められています。

- 正味額(課税対象の費用または収益明細から現金割引を控除)
- 総額(課税対象の費用または収益明細に現金割引を算入)
- いずれの基準額を使用するかは、会社コードごと、または最上位レベルの税管轄コードごとに指定する必要があります。

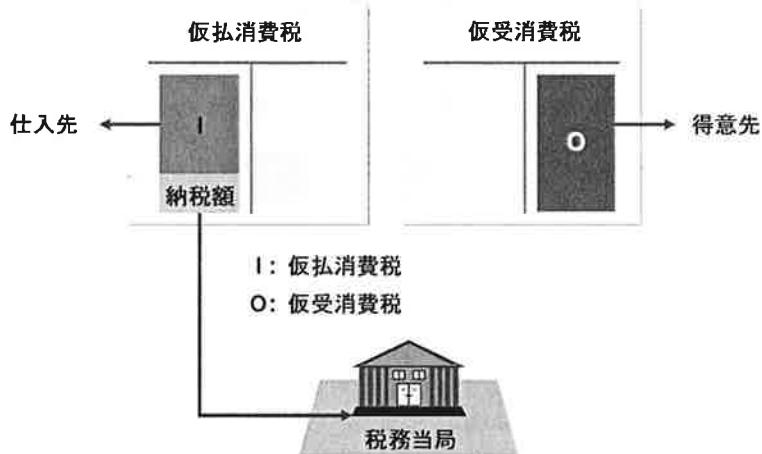


図 110: 消費税

消費税は、売上税 (SAP 用語: 仮受消費税) と仕入に伴い事前に支払う税 (SAP 用語: 仮払消費税) の差額です。

- ・ **仮受消費税**は、商品の正味額に対して徴収され、得意先に請求します。これは、税務当局に対する会社の債務になります。
- ・ **仮払消費税**は、正味請求額に対して徴収され、仕入先から請求されます。仮払消費税は、会社の税務当局に対する債権になります。

特定の状況において、会社は仮受消費税から支払済の仮払消費税を控除することができます。つまり、税務当局には、商品の付加価値に対して徴収される税のみを支払えばよいことになります。仮受消費税から仮払消費税を差し引いたものが未払消費税になります。

税務当局は、仮払消費税の一部を非控除税額として定義することができます。この税額は、個別の費用勘定に転記することも、該当する G/L 勘定と資産明細に付け替えることもできます。

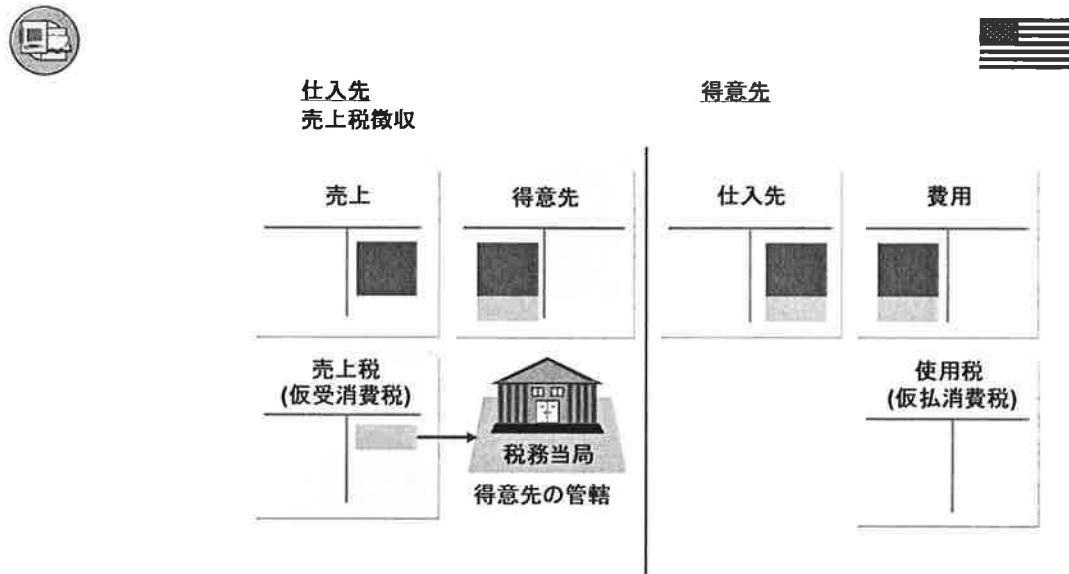


図 111: US 消費税 - 売上税

USA では、**売上税**と**使用税**が区別されます。どちらの税も、得意先によって消費される商品が対象になります。生産や第三者への再販に使用される商品は、課税されません。課税対象の商品が販売されると、売上税または使用税のいずれかが賦課されます。したがって、どの商品も 1 度しか課税されません。

この図は、**売上税**の転記方法を示しています。売上税は、販売時に仕入先によって徴収され、得意先の税管轄区に納付されます。

システムでは、品目と得意先の所在地にもとづいて売上税が計算され、販売管理と購買管理で転記されます。得意先が納税を免除されている場合は、その得意先のマスタレコードに適切なフラグを入力して指定することができます。

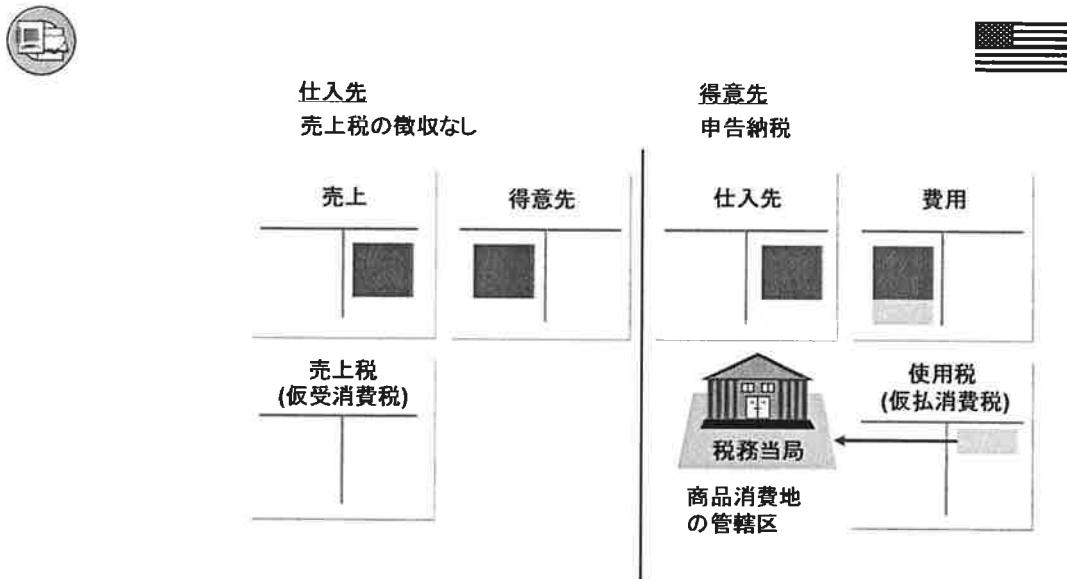


図 112: US 消費税 - 使用税

USA では、売上税と使用税が区別されます。どちらの税も、得意先によって消費される商品が対象になります。生産や第三者への再販に使用される商品は、課税されません。課税対象の商品が販売されると、売上税または使用税のいずれかが賦課されます。したがって、どの商品も 1 度しか課税されません。

この図は、使用税の転記方法を示しています。得意先は、仕入先から売上税を請求されていない場合にのみ、使用税を納付する必要があります。これは、仕入先が得意先のある州に "所在" していないか、得意先が "申告納税許可" を得ている場合などに発生します。得意先は使用税額を申告し、商品が消費される税管轄区に納付します。



図 113: 税計算表

税計算実行用の税計算表がそれぞれの国に割り当てられています。SAP ERP システムには、ほとんどの国の税計算表があらかじめ設定されています。

税計算表には以下のものが含まれています。

- 税計算表で実行する必要のあるステップの順序 ("開始ステップ" は、その "ステップ" で使用する基準値をどのステップから取得するかを示しています)。
- その国で有効な税タイプ (条件タイプ)。システムには、税計算表の各タイプで必要となる条件タイプが用意されています。税計算表には、適切な条件タイプがすでに設定されています。
- 勘定キー/内部処理キー**は、追加の指定に対処するためのキーで、関連する税の自動勘定設定で使用されます。SAP ERP システムには、事前定義された勘定キーが用意されています。これらの標準勘定キーを使用することをお奨めします。

アメリカの場合、以下の 2 つの税計算表が関連します。

- TAXUSJ: 税管轄コードの使用を含む標準税計算表
- TAXUSX: 外部税計算パッケージを使用する場合の税計算表

条件タイプは、その国に有効な税計算ルールです。

基準額は、費用または収益明細の金額です。

TAXJP : 日本用  
JP : 国コード



図 114: 税管轄コード

税管轄コードは、個別の税率で商品の移動に対する課税権を有する税務当局コードの組合せです。国の中には、都道府県/州、地域、市区町村、および地域の4レベルがあります。

税管轄コードの使用には、以下の2つのステップが含まれます。

- 税管轄コードの書式に対して、コードの個別エレメントの長さを定義する必要があります。この作業を実行すると、この税計算表の税処理が税管轄コード方法に切り替えられます。
- 以下のように、税管轄コードを各レベルで定義する必要があります。
  - 25 000 0000 0 州レベル
  - 25 022 0000 0 郡レベル
  - 25 022 1105 0 市レベル
  - 25 022 1105 1 準市レベル

税管轄コードを使用して税を転記する場合は、税管轄コードまたは税レベルごとに税を入力することができます。

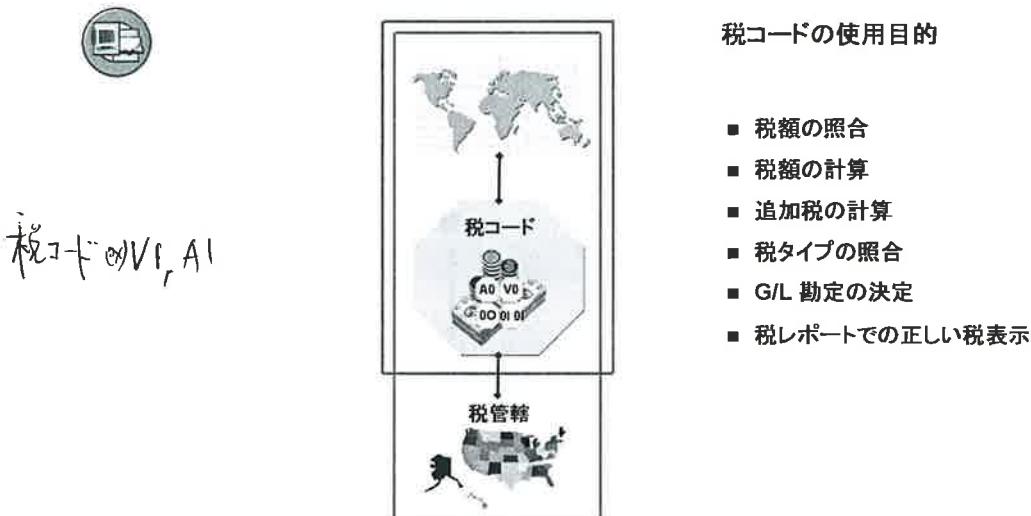


図 115: 税コード

伝票転記時に税コードを入力します。これが、税計算への主なリンクになります。このリンクは、国が税管轄コードを含む税計算表を使用するかどうかによって異なります。税コードは、以下のいずれかにリンクしています。

- 国コード
- 国コードと税管轄コードの組合せ
- 管轄課税方法の場合、税コードは日付依存です。システム設定で、伝票日付と転記日付のいずれを税計算で有効にするかを選択することができます。

税タイプ	勘定キー	税率	レベル	開始レベル	条件タイプ
基準額			100	0	BASB
仮受消費税	MWS	10.000	110	100	MWAS
仮払消費税	VST		120	100	MWVS
その他の税	XXX		nnn	nnn	xxxx

図 116: 税率

税コードには、税率などのさまざまな情報が含まれています。税率は、税計算表で使用される税タイプに割り当てられます。1つの明細が複数の税タイプを使用して課税される場合など、1つの税コードに税タイプの異なる複数の税率を入力する場合がありますが、通常、税率は1つだけ入力します。

税コードに複数の税率を入力するのは、次のような場合です。

- 明細に 10% の仮払消費税が課税され、税額の 40% が非控除税額である場合(税率にすると、これは 6% の仮払消費税と 4% の非控除税額です)。

税関連の G/L 勘定への転記を、税率 0 で行わなければならない場合があります。たとえば、以下のような場合です。

- 非課税だが、税務当局への提出が必要な明細。このような明細のために、税率 0 の特別な税コードを登録します。
- 出庫、在庫移動などの課税対象外取引によって登録された明細。これらの取引には、カスタマイジングで特別な税コードを割り当てておく必要があります。

税タイプの定義によって、基準額が "税率込" または "税率別" のいずれであるかが決定されます。

計算された税額と入力された税額が異なると、エラーメッセージ(チェックフラグ設定時)または警告メッセージ(チェックフラグ非設定時)が表示されます。仮払消費税コードにはこのフラグを設定しないでください。これは、請求書の税額が正確かどうかに関わらず、ユーザはその税額を転記しなければならないためです。



#### ● 個別明細として転記 (標準的なケース)



- 関連する費用/収益明細に転記  
(未払売上税や他の非控除仮払消費税の NVV 处理)



図 117: 税転記

## 税転記

- 通常、システムで計算される税は、個別の明細として固有の税勘定に転記されます。これが標準的なシナリオです。
- NVVのような特定の内部処理キー/勘定キーが設定された税は、関連する費用/収益勘定に配分されます。これは、未払売上税やその他の非控除仮払消費税の処理で行われます。

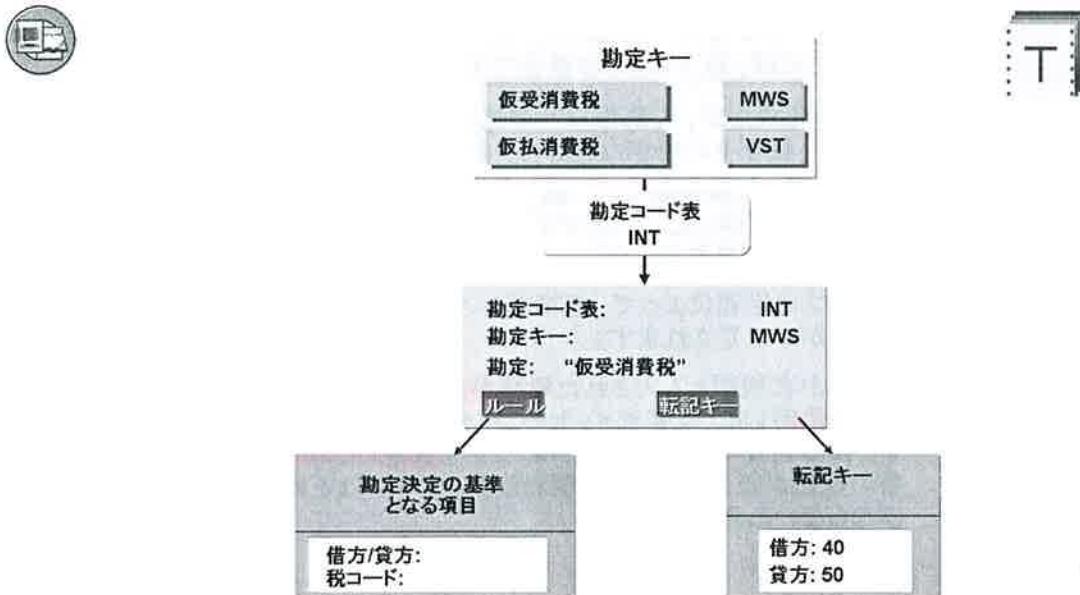


図 118: 税勘定設定

税勘定の自動仕訳を有効にするには、転記中に税明細を生成するための勘定キー/内部処理キーに以下のデータを割り当てる必要があります。

- 転記キー (40 と 50 を推奨)
- 勘定設定の基準となる項目を決定するルール (勘定設定の基準として税コードまたは勘定キーを指定することができます)
- 税勘定

外貨による税調整で換算差損益が発生した場合、通常はこれを通常の換算差損益勘定に転記します。ただし、税明細の換算レートをマニュアルでも入力可能にするか、転記日付や伝票日付によって決定するかを会社コードごとに指定することもできます。この場合に生じる差損益は特殊な勘定に転記されます。

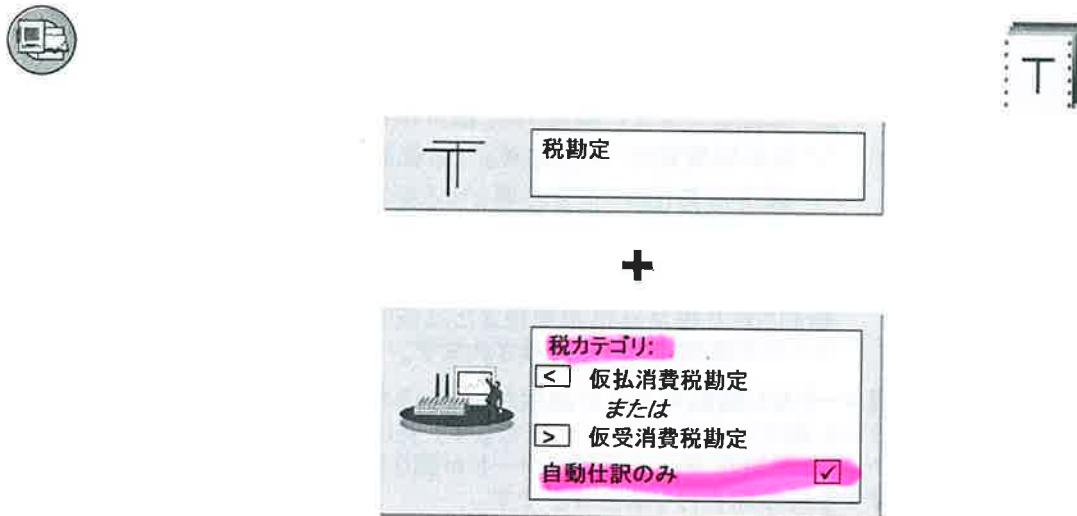


図 119: 税勘定

項目**税カテゴリ**に以下のいずれかの符号を入力して、税明細の転記先となる**税勘定**を定義します。

- < 仮払消費税の場合
- > 仮受消費税の場合
- 転記された税が仮払消費税または仮受消費税のいずれであるかは、税コードの属性によって定義されます。

税の**マニュアル転記を禁止する**場合は、「**自動仕訳のみ**」を選択する必要があります。

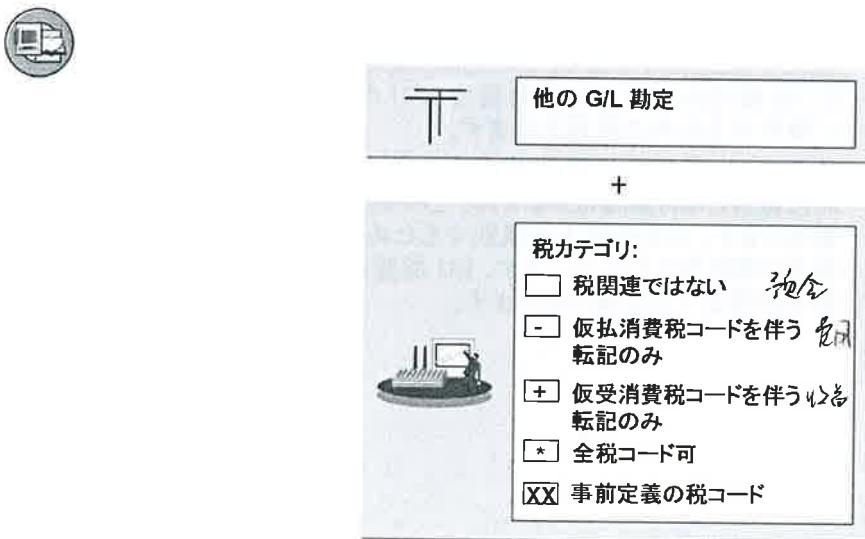


図 120: 他の G/L 勘定

その他すべての G/L 勘定では、項目 "税カテゴリ" に以下のいずれかの入力を行います。

- „ “ 税関連ではない転記 (例: 銀行転記)
- " - " 仮払消費税コードを必要とする転記 (例: 費用)
- " + " 仮受消費税コードを必要とする転記 (例: 収益)
- " \*\* " 任意の税コードを必要とする転記
- " xx " 事前定義された税コード xx による転記
- 転記された税が仮払消費税または仮受消費税のいずれであるかは、税コードの属性によって定義されます。

**税コードなし転記可**項目が選択されている場合は、税コードを指定しないでこの G/L 勘定に転記することができます。特にこれが必要になるのは、税管轄コードの税計算表内で税管轄コードが割り当てられていない海外の得意先に対する税転記を行う場合などです。



**ヒント:** 税調整転記を行う場合は、現金割引勘定の**税カテゴリ**項目に入力がされている必要があります。

EU 加盟国以外の得意先への出荷は、非課税 (仮受消費税 0%) になります。得意先は、通常、国内の仮払消費税と同額の輸入税を支払う必要があります。

EU 単一市場内部では、一般に仕向国原則が適用されます。つまり、出荷は免税 (仮受消費税 0%) となり、仕向国では取得税が賦課されます。

EU 加盟国間では、輸出入に関する制約がなくなった代わりに、出荷に関してより詳細な報告書が義務づけられるようになりました。

- 得意先は取得税を評価して、拡張消費税レポートとして税務当局に申告する必要があります。このレポートでは、取得税を仮払消費税として請求することができます。このため、会社は商品の取得時に税金を支払う必要はありません。取得税は、EU 内での商品の取得を税務当局に報告するために使用されます。
- 仕入先は、免税の出荷/在庫移動を、EU 売上一覧として所轄の税務当局に報告しなければなりません。この売上一覧には、商品の受取人も記載されます。この受取人を識別するため、すべての会社に消費税登録番号が割り当てられています。EU 加盟国間の請求書には、必ずこの番号を明記する必要があります。



T

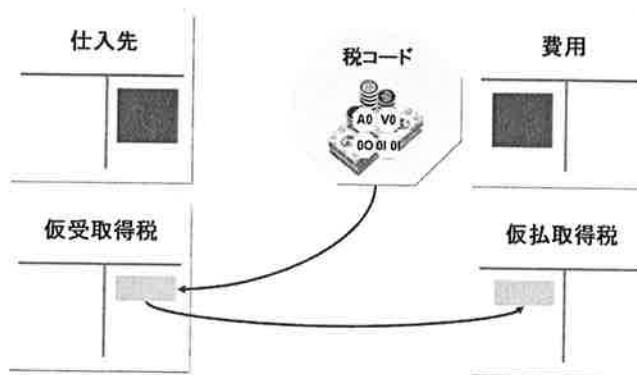


図 121: 取得税コード

(説明)

#### 特別税コード:

- 取得税コードによって、2つの転記明細が生成されます。つまり、取得税が仮受取得税勘定の貸方に転記され、同じ金額が仮払取得税勘定の借方に転記されます。
- 免税出荷に関する仮受消費税コードには、EU 内部での商品、サービス、および外注に対する EC コードを指定する必要があります。これは、EU 売上一覧に関する売上を特定するために使用されます。技術上の理由により、税を転記しない場合でも、税勘定を税コードに割り当てる必要があります。



## 演習問題 18: 税

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 新規税コードの登録
- 税を含む仕入先請求書の転記

### ビジネスシナリオ

管理者から、時間的な制約があるため、国の税に関する基本的な要求事項をプロトタイプとして示すよう要求されました。SAP ERP の国別税テンプレートを使用するよう提案されました。

#### タスク 1:

次の質間に答えてください。

- SAP ERP システムでマッピング可能な課税タイプを 2 つ挙げてください。

---

---

---

---

#### タスク 2:

次の質間に答えてください。

- 税額の自動勘定設定に必要となるデータは何ですか。

---

---

---

---

#### タスク 3:

新規税コードを登録します。国の要件に従って、タスク 3-1 または 3-2 を完了してください。

- 税管轄以外: 国により税制改革が行われ、消費税率が 20% に設定されました。新たな税の要件に合わせて、新しい仮受消費税コード # を登録してください。

次へ

2. 管轄固有の税: 税管轄コードについては講師の指示に従ってください。この管轄では、売上税率が 5% に変更されたばかりです。あなたの会社コードはこの管轄内にあり、したがって売上税を徴収する義務を負っています。新たな税の要件に合わせて、新しい仮受消費税コード # を登録してください。
3. 新しい税勘定コードを“財務会計請求書受領”関連に指定して、Enjoy ランザクションの入力ヘルプで表示されるようにします。

#### タスク 4:

得意先請求書を入力して、新しい税コードをテストします。

1. 300,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。オプション "税計算" を選択します。登録した税コードを使用します(必要な場合はその税管轄コードも使用します)。収益勘定 800200 および利益センタ PR## に転記します。



ヒント: 伝票番号をデータシートに記入してください。

## 解答 18: 税

### タスク 1:

次の質問に答えてください。

- SAP ERP システムでマッピング可能な課税タイプを 2 つ挙げてください。

解答:

- 国レベルの課税
- 地域/管轄区レベルの課税

### タスク 2:

次の質問に答えてください。

- 税額の自動勘定設定に必要となるデータは何ですか。

解答:

- ルール
- 転記キー
- 税勘定

### タスク 3:

新規税コードを登録します。国の要件に従って、タスク 3-1 または 3-2 を完了してください。

- 税管轄以外: 国により税制改革が行われ、消費税率が 20% に設定されました。新たな税の要件に合わせて、新しい仮受消費税コード ## を登録してください。

- 新規税コードを登録します。

税管轄以外: 税コードを登録します。

*IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 消費税 → 計算 → 定義: 消費税コード*

項目名またはデータ型	値
国	JP (コース実施の国)

“Enter”を選択します。

項目名またはデータ型	値
税コード	##

次へ

“Enter” を選択します。

項目名またはデータ型	値
税コード	##
テキスト	仮受消費税 20%
税タイプ	A

続行を選択します。

項目名またはデータ型	値
税タイプ	仮受消費税
勘定キー	MWS
税率	20

“Enter” を選択します。

税勘定の割当:

“税勘定” 押ボタンを選択します。

項目名またはデータ型	値
勘定コード表	INT

続行を選択します。

項目名またはデータ型	値
MWS	175000

“保存” を選択します。

2. 管轄固有の税: 税管轄コードについては講師の指示に従ってください。  
 この管轄では、売上税率が 5% に変更されたばかりです。あなたの会社  
 コードはこの管轄内にあり、したがって売上税を徴収する義務を負って  
 います。新たな税の要件に合わせて、新しい仮受消費税コード ## を  
 登録してください。

- a) 管轄固有の税: 税コードを登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 消費税 → 計  
 算 → 定義: 消費税コード

DA 2010/09/28

次へ

項目名またはデータ型	値
国	JP (コース実施の国)

続行を選択します。

項目名またはデータ型	値
税コード	##
税管轄コード	この情報は講師が提供します。

“Enter”を選択します。

項目名またはデータ型	値
税コード	##
テキスト	売上税 5%
税タイプ <sup>°</sup>	A
チェック	✓

“Enter”を選択します。

項目名またはデータ型	値
税タイプ <sup>°</sup>	A/R 売上税 3
勘定キー	MW3
税率	5

税勘定を割り当てます。

“税勘定”押ボタンを選択します。

項目名またはデータ型	値
勘定コード表	INT

続行を選択します。

項目名またはデータ型	値
MW3	税債務の勘定は講師が指示します。

次へ

"保存" を選択します。

3. 新しい税勘定コードを "財務会計請求書受領" 関連に指定して、Enjoy トランザクションの入力ヘルプで表示されるようにします。
- a) Enjoy トランザクションに税コードを定義します。

*IMG: → 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金請求書/クレジットメモ → 入金請求書/クレジットメモ - Enjoy → 定義: 税コード(処理別)*

項目名またはデータ型	値
国キー	JP (コース実施の国)

続行を選択します。

"新規エントリ" を選択します。

項目名またはデータ型	値
税コード	##
取引	財務会計請求書受領

"保存" を選択します。

#### タスク 4:

得意先請求書を入力して、新しい税コードをテストします。

1. 300,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。オプション "税計算" を選択します。登録した税コードを使用します(必要な場合はその税管轄コードも使用します)。収益勘定 800200 および利益センタ PR## に転記します。



ヒント: 伝票番号をデータシートに記入してください。

- a) SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → 請求書(Enjoy)

項目名またはデータ型	値
基本データ	
得意先	各自の得意先
請求書日付	現在日付

次へ

転記日付	現在日付
金額	300 000
通貨	国内通貨
税計算	✓
税コード	## (新しく登録した税コード)
明細	
G/L 勘定	800200
D/C	貸方
伝票通貨額	300 000
税コード	新しく登録した税コード
利益センタ	PR##

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。

→ **注記:** 以下の作業が終了しました。

- 新規税コードの登録
- 自動仕訳を可能にするための税コードへの G/L 勘定の割当
- Enjoy トランザクションで使用する税コードの定義
- 自動税転記のデモのための得意先請求書の転記



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP ERP Financials における税処理方法の説明
- 税コードの登録と税勘定の定義

## レッスン：会社間取引

### レッスンの概要

このレッスンでは、会社間取引の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 会社間取引の説明
- 会社間取引の転記

### ビジネスシナリオ

経営陣は、国内に新しい子会社の設立を検討しており、SAP ERP で会社間取引転記を処理することができるかどうかを知りたいと考えています。

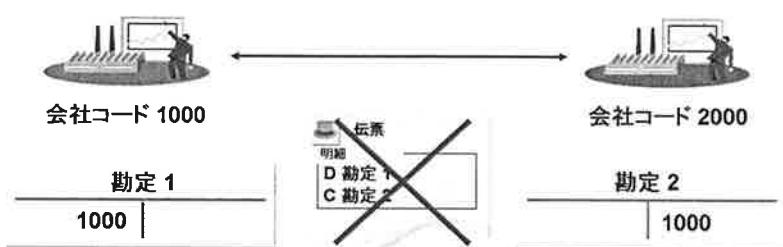


図 122: 会社間取引 (1)

会社間取引 … 2つの会社コード間での取引を1つの伝票転記で実現する機能

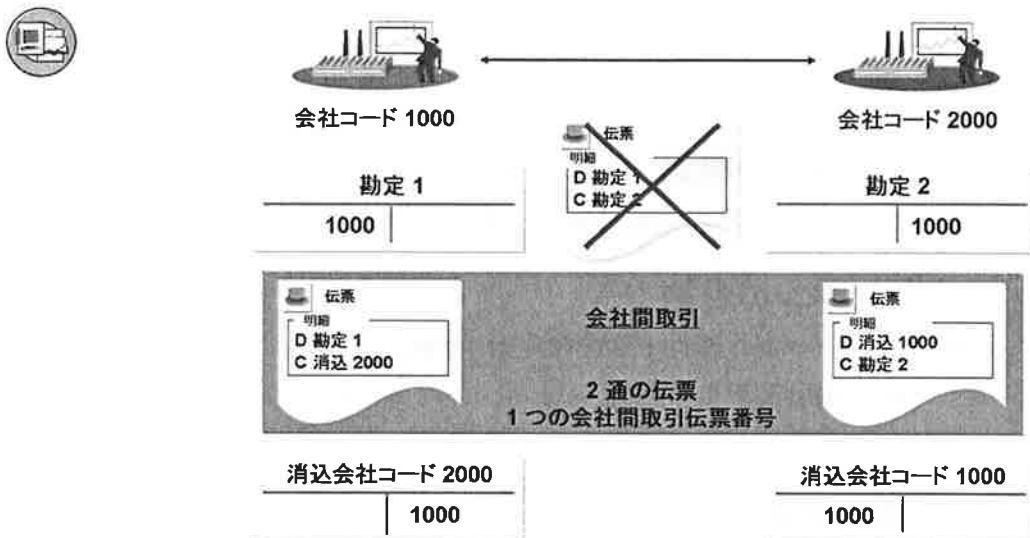


図 123: 会社間取引 (2)

会社間取引では、1つの会計取引に2つ以上の会社コードが関与します。たとえば次のような取引があります。

- 1つの会社コードが他の会社コードの購買を行う場合 (集中購買)
- 1つの会社コードが他の会社コードの請求書の支払を行う場合 (集中支払)
- 1つの会社コードが他の会社コードに商品を販売する場合

会社間取引では、複数の会社コードの勘定に転記が行われます。この転記は、1つの伝票を転記するだけはできません。これは、1つの伝票は1つの会社コードにしか割り当てられないためです。このため、会社間取引では、関連する会社コードごとに個別の伝票が転記されます。

これらの伝票の貸借を一致させるため、**消込勘定** (債務または債権) に転記する明細が自動的に生成されます。

1つの会社間取引に属する伝票は、共通の**会社間取引伝票番号**によって関連付けられます。

レポート RFBVOR00 を使用して、会社間取引を照会することができます。

The screenshot shows two invoices side-by-side:

会社コード 1000 の転記		会社コード 2000 の転記	
会社間取引番号 1500000010 1000 XX			
伝票番号 1500000010	仕入先 110	伝票番号 2000000030	費用 20
費用 80	仮払消費税 10	CC1000 20	— 消込勘定
CC2000 20	— 消込勘定	— 消込勘定	

図 124: 集中購買 (例)

図“集中購買 (例)”は、会社間取引の例を示しています。仕入先から、ある商品が会社コード 1000 に、別の商品が会社コード 2000 に納入されます。ただし、請求書はすべての商品を含む 1 通のみが会社コード 1000 に送付されます。この場合、会社コード 1000 の仕入先コードに費用の一部を入力して請求書を転記します。請求書を入力する際に、残りの費用を会社コード 2000 に転記する必要があります。消込勘定と税勘定は自動的に登録されます。

税は、費用に応じた会社コード間での配賦が行われません。このため、この機能を使用できるのは、取引自体が税関連でないか、取引に関連する複数の会社コードで 1 つの課税法人を形成している場合のみです。

計算された税は、常に伝票ヘッダの明細の会社コードに転記されます。したがって、税が必ず請求書と同じ会社コードに転記されるようにするには、請求書の会社コードを伝票ヘッダに入力する必要があります。

たとえば日本やデンマークのように、費用が発生した会社コードに税額を転記することが税法で定められている国もあります。この場合、各会社コードの費用の金額に応じて、税金を最初の会社コードから他の会社コードに配賦する必要があります。これは、レポート RFBUST10 を使用して実行することができます。

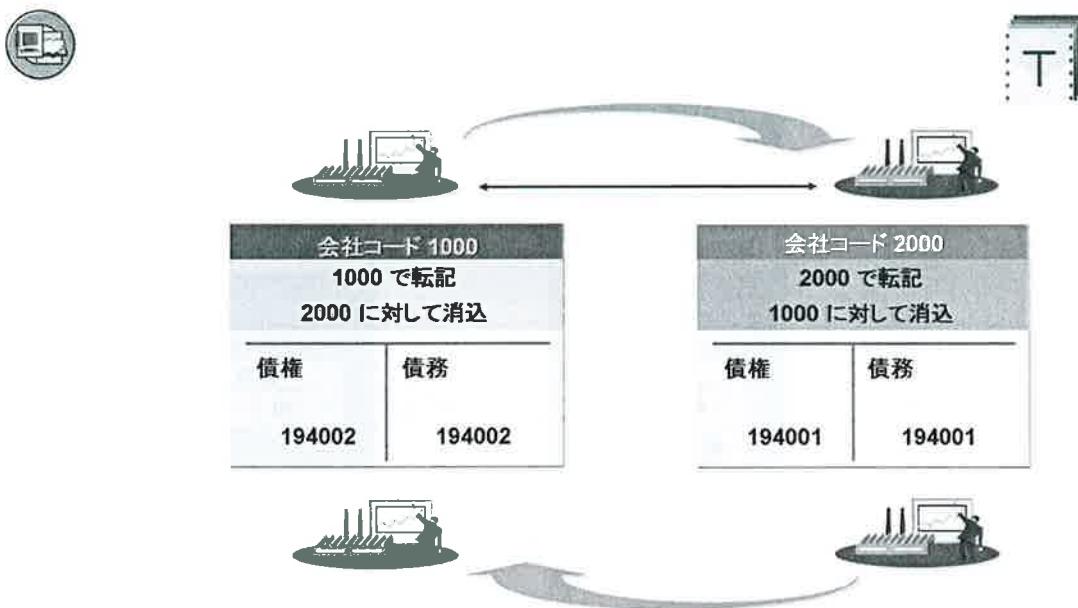


図 125: 消込勘定

会社間取引を実行する前に、すべての会社コードで消込勘定を定義する必要があります。消込勘定には、G/L 勘定、得意先コード、または仕入先コードを使用することができます。

システム設定で、考えられるすべての 2 つの会社コードの組合せに消込勘定を割り当てて、その会社コード間での転記ができるようにする必要があります。3 つの会社コードの場合は、 $3 * 2 = 6$  個の消込勘定が必要です。

消込勘定の個数を減らすには、1 つの会社コードのみを消込会社コードとして使用することができます。この場合、この消込会社コードと他の会社コードの組合せごとに消込勘定を割り当てればよいことになります。つまり、3 つの会社コードに必要な消込勘定は、 $2 * 2 = 4$  個になります。

消込勘定には、勘定タイプを識別するために転記キーを割り当てる必要があります。

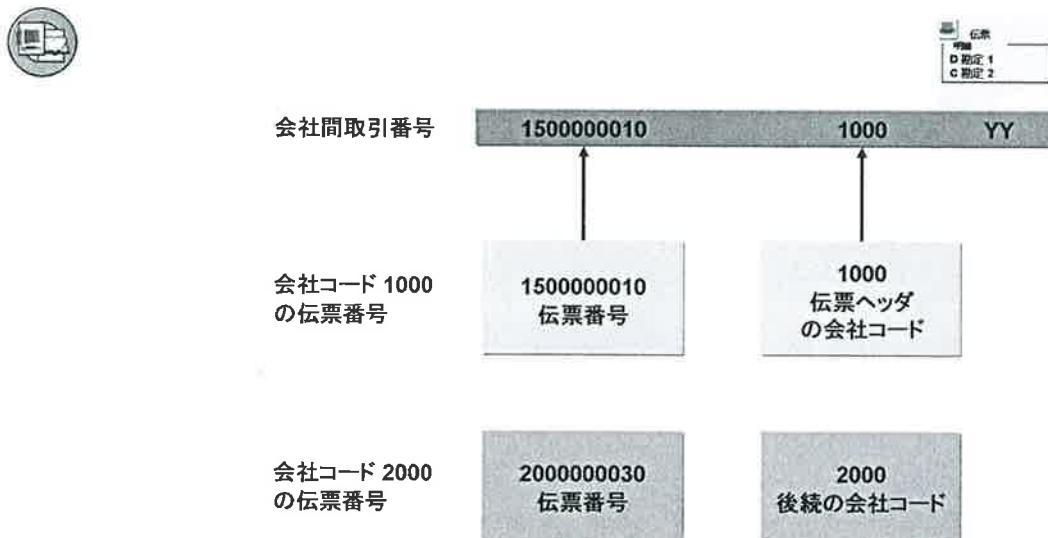


図 126: 会社間取引番号

会社間取引伝票を転記すると、会社間取引番号が生成され、新たに登録されるすべての伝票が関連付けられます。

この伝票番号は、最初の会社コードの伝票番号 + 最初の会社コード + 会計年下水印度で構成されます。完全な監査証跡となるよう、この会社間取引番号は関連するすべての伝票の伝票ヘッダに保存されます。

会社間取引伝票を反対仕訳することができます。このためには、会社間取引の反対仕訳機能を使用します。



## 演習問題 19: 会社間取引

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ・ 会社間取引の実行に必要な会社コードの設定
- ・ 会社間取引の転記

### ビジネスシナリオ

経営陣は、海外に新しい子会社の設立を検討しており、SAP ERP で会社間取引転記を処理することができるかどうかを知りたいと考えています。

#### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 会社間取引の例を 2 つ挙げてください。

---

---

---

---

#### タスク 2:

##### 正誤問題

1. 1 つの会社間取引は、少なくとも 2 件の伝票で構成されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
2. 会社間取引の税額は、費用/収益が発生した会社コードに自動的に配賦されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
3. 会社間消込勘定は、G/L 勘定である必要があります。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

次へ

4. 国内通貨が異なる会社コード間でも、会社間取引を行うことができます。  
この文章の内容は正しいですか。

正  
 誤

### タスク 3:

次の質間に答えてください。

1. 会社間取引伝票番号の登録に使用される構成要素を説明してください。

---



---



---



---

### タスク 4:

各自の会社コード GR## と講師の会社コード(通常は GR00)との間の会社間取引の自動仕訳を設定します。会社コード ## に対して勘定 194610 を定義し、講師の会社コードに対して勘定 194620 を定義します(それぞれ債権と債務に対応します)。

 ヒント: この設定は、リアルタイム統合の演習問題の前提条件です。

1. 指定した両方の勘定を会社間取引のカスタマイジングに定義します。

### タスク 5:

 ヒント: 許容範囲グループ SUPV へのユーザ割当を削除します。削除しないと、コース講師の会社コードへの転記権限がありません。

許容範囲グループへのユーザ割当を確認するには、IMG で財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 許容範囲グループ → 定義: 従業員の許容範囲グループおよび割当: ユーザ/許容範囲グループを選択します。

集中購買の取引の例を転記します。

1. 各自の会社コードと講師の会社コードで購入した品目に対する 55,000 円の請求書を仕入先から受け取ります。品目全体の 5 分の 2 を講師の会社コードで注文しました。税コード 11(仮払消費税(コース) 10%) を使用します。各自の会社コードで請求書を入力し、講師の会社コード(両方

次へ

の会社コードの費用勘定 470000)、原価センタ COCE##(各自の会社コード)、および原価センタ COCE00(講師の会社コード)に原価を入力するため、会社コード間請求書を転記します。伝票番号をメモします。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

必要な項目がすべて表示されない場合は、水平スクロールバーを使用します。

### タスク 6:

転記をチェックします。

1. 会社間取引伝票を再び照会します。

## 解答 19: 会社間取引

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 会社間取引の例を 2 つ挙げてください。

**解答:**

- 集中購買
- 集中支払

### タスク 2:

正誤問題

1. 1 つの会社間取引は、少なくとも 2 件の伝票で構成されます。

**解答: 正**

会社間取引では、複数の会社コードの勘定に転記が行われます。1 件の伝票は常に 1 つの会社コードにのみ割り当てられるため、1 件の伝票の転記で会社間取引を表すことはできません。

2. 会社間取引の税額は、費用/収益が発生した会社コードに自動的に配賦されます。

**解答: 誤**

税は、全額が最初の会社コードに転記されます。デンマーク、日本、ベルギーなど、一部の国では、各会社コードに対して比例的に配賦された税額を個別に記載する必要があります。これは、レポート RFBUST10 を使用して実行することができます。

3. 会社間消込勘定は、G/L 勘定である必要があります。

**解答: 誤**

会社間消込勘定には、G/L 勘定、および得意先/仕入先コードを使用することができます。

4. 国内通貨が異なる会社コード間でも、会社間取引を行うことができます。

**解答: 正**



**ヒント:** 以前の SAP リリースでは、関連するすべての会社コードに同じ国内通貨を指定しなければなりませんでした。現在では、その必要はありません。

次へ

### タスク 3:

次の質間に答えてください。

1. 会社間取引伝票番号の登録に使用される構成要素を説明してください。

**解答:** 会社間取引番号は、最初の会社コードの伝票番号、最初の会社コード、および会計年度で構成されています。

### タスク 4:

各自の会社コード GR## と講師の会社コード (通常は GR00)との間の会社間取引の自動仕訳を設定します。会社コード ## に対して勘定 194610 を定義し、講師の会社コードに対して勘定 194620 を定義します (それぞれ債権と債務に対応します)。

 **ヒント:** この設定は、リアルタイム統合の演習問題の前提条件です。

1. 指定した両方の勘定を会社間取引のカスタマイジングに定義します。
- a) 以下のように選択します。

IMG: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 準備: 会社コード間取引

項目名またはデータ型	値
会社コード 1	各自の会社コード (通常は GR##)
会社コード 2	講師の会社コード (通常は GR00)

“続行”を選択します。

画面にさまざまな入力項目が表示されます。上部にある各自の会社コード (GR##) のエントリ、および下部にある 2 つ目の会社コードのエントリを入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード 1	
債権- 借方転記キー - 借方勘定	40 194610

次へ

債務- 貸方転記キー - 貸方勘定	50 194610
会社コード 1 債権- 借方転記キー - 借方勘定	40 194620
債務- 貸方転記キー - 貸方勘定	50 194620

エントリを保存します。

## タスク 5:



**ヒント:** 許容範囲グループ SUPV へのユーザ割当を削除します。削除しないと、コース講師の会社コードへの転記権限がありません。

許容範囲グループへのユーザ割当を確認するには、IMG で財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 許容範囲グループ → 定義: 従業員の許容範囲グループおよび割当: ユーザ/許容範囲グループを選択します。

集中購買の取引の例を転記します。

- 各自の会社コードと講師の会社コードで購入した品目に対する 55,000 円の請求書を仕入先から受け取ります。品目全体の 5 分の 2 を講師の会社コードで注文しました。税コード 11(仮払消費税(コース) 10%) を使用します。各自の会社コードで請求書を入力し、講師の会社コード(両方の会社コードの費用勘定 470000)、原価センタ COCE##(各自の会社コード)、および原価センタ COCE00(講師の会社コード)に原価を入力するため、会社コード間請求書を転記します。伝票番号をメモします。



**ヒント:** “ツリーオフ”ボタンを選択して、伝票入力ウィンドウを画面全体に表示します。

必要な項目がすべて表示されない場合は、水平スクロールバーを使用します。

次へ

## a) 会社間請求書

SAP Easy Access 画面で、以下のように選択します。会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 請求書(Enjoy)

項目名またはデータ型	値
<b>基本データ</b>	
仕入先	Vendor##
請求書日付	現在日付
伝票タイプ	仕入先請求書
転記日付	現在日付
金額	55 000
通貨/換算レート	国内通貨
税額計算	チェックボックスは選択しない
税額	5 000
税 ID	11 (10% 仮払消費税)
<b>明細 - 第 1 明細/行</b>	
G/L 勘定 (費用勘定)	470000
D/C	借方
伝票通貨金額	30 000
税コード	1I (10 % 仮払消費税)
会社コード	自分の会社コード
原価センタ	COCE##
<b>明細 - 第 2 明細/行</b>	
G/L 勘定 (費用勘定)	470000
D/C	借方
伝票通貨金額	20 000
税コード	1I (10 % 仮払消費税)
会社コード	講師の会社コード (通常は GR00)
原価センタ	講師の原価センタ

伝票 → シミュレート

次へ

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。会社間消込勘定のエントリを確認します。

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号:

### タスク 6:

転記をチェックします。

1. 会社間取引伝票を再び照会します。

a) 会社間取引伝票を照会します。

SAP Easy Access 画面で、以下のように選択します。会計管理→財務会計→債務管理→伝票→会社間取引→照会

必要に応じて会社間取引伝票番号を入力します。

“Enter”を選択して伝票を照会します。

→ 注記: 以下の作業が完了しました。

- 会社間取引の G/L 勘定の登録
- 講師の会社コードとの間の会社コード間消込の自動仕訳の設定
- 会社間取引伝票の転記



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ 会社間取引の説明
- ・ 会社間取引の転記

## レッスン: リアルタイム統合

*New G/L 関連*

### レッスンの概要



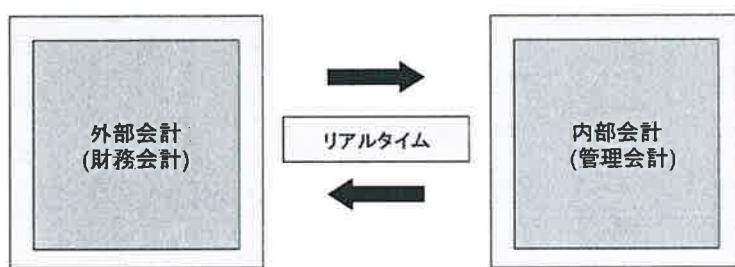
### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- リアルタイム統合という用語およびその機能範囲の説明
- カスタマイジングでのリアルタイム統合の設定

### ビジネスシナリオ

会社では、原価が会社コード間で転記されます。



管理会計と財務会計のリアルタイム統合によって、必要に応じてその場でレポートを作成することができるようになります。

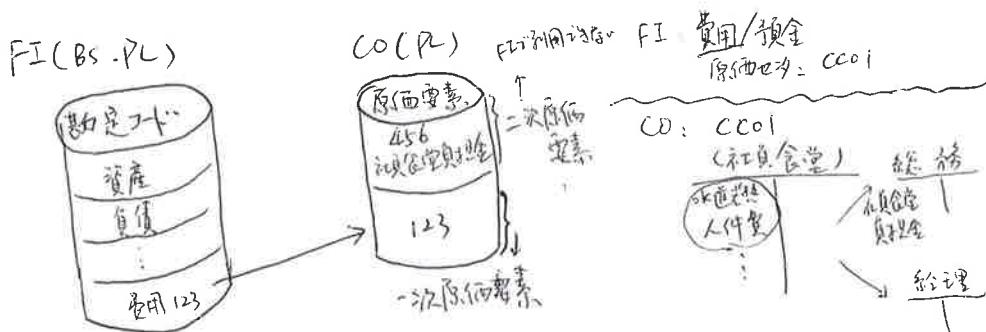
これにより、コーポレートガバナンスに必要な透過性要件に完全に順守することができます。

注記: リアルタイム統合は、会計管理の管理会計関連エンティティに対して処理されている場合にのみ可能です (たとえば、売上原価会計や、管理会計対象による機能領域の誘導を使用して)。

図 127: CO から FI へのリアルタイム統合

*FI → CO . 従来よりも*

多くの管理会計転記で、財務会計対象に対して処理されています。このようなケースは、財務会計における CO から FI へのリアルタイム統合を使用して実装されます。カスタマイジングで定義されたバリエントは、この種類の転記をどのオブジェクトに対して登録するかを決定するために使用されます。



リアルタイム統合は、主に以下のような場合に使用されます。

1. 管理会計対象間の転記の際に、財務会計対象(利益センタ、セグメント、事業領域、または機能領域)に対する変更の結果が管理会計対象に保存される場合。
2. 会社コード間原価計算において、原価が会社コード間で転記される場合。この場合、このような転記は、会計管理にも適切にマッピングされる必要があります。

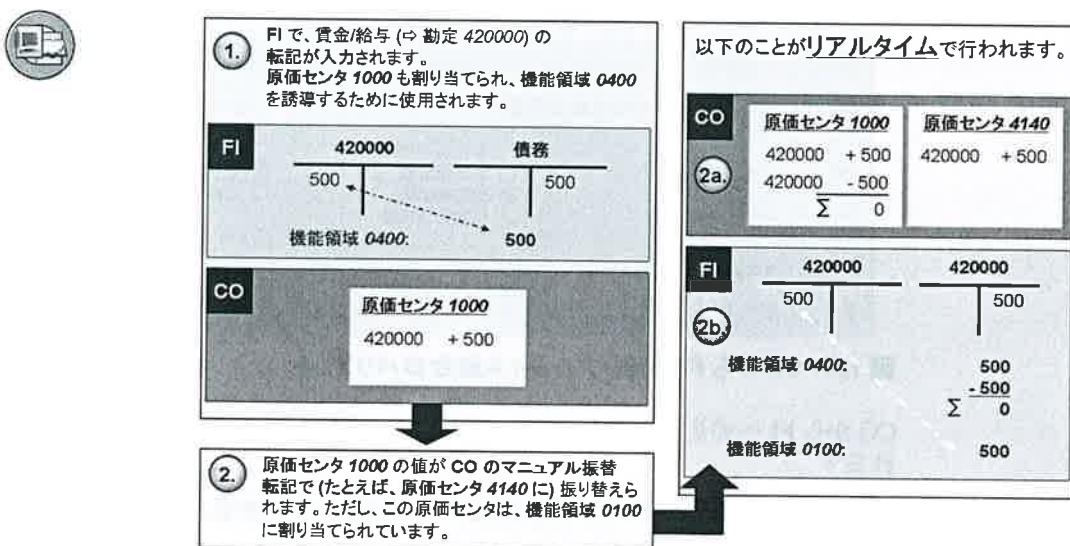


図 128: CO から FI へのリアルタイム統合: 例の図

このスライドは、CO から FI へのリアルタイム統合の例を、機能領域特性/エンティティにもとづいて示しています。

わかりやすくするために、この例では、利益センタ特性、セグメント特性、および事業領域特性は省略されています。

#### 財務会計伝票 (2b) の特別機能:

- 転記は (CO 伝票ごとに) リアルタイムで行われます。
- この場合、FI 後続伝票に消込勘定はありません。消込明細が必要となるのは、管理会計/CO (2) における活動によって貸借一致エンティティが変更される場合のみです。
- リアルタイムの財務会計後続伝票から管理会計伝票にナビゲートすることができ (2/2a)、この逆も可能です。ここでは、会計伝票のトレーサビリティを確保することが主な目的です。



バリアントを使用すると、リアルタイム統合のカスタマイジングで以下の内容を設定することができます。

■ リアルタイム統合を行う基準

■ いつからリアルタイム統合を有効にするか

CO から FI へのリアルタイム統合のバリアント	
<input checked="" type="checkbox"/> リアルタイム統合有効	基準日: 有効開始日付: MM/DD/YYYY
<input checked="" type="checkbox"/> 勘定設定有効	
CO から FI への統合の伝票明細行の選択:	
<input checked="" type="radio"/> チェックボックス使用	<input checked="" type="checkbox"/> 会社コード間 <input type="checkbox"/> 事業領域間 <input checked="" type="checkbox"/> 機能領域間 <input type="checkbox"/> 補助金領域間
	<input type="checkbox"/> 利益セントタ間 <input checked="" type="checkbox"/> セグメント間 <input type="checkbox"/> 資金間
...  <input type="checkbox"/> トレース有効	

図 129: CO から FI へのリアルタイム統合のバリアント

CO から FI へのリアルタイム統合のバリアントは、カスタマイジングで定義されます。

追加のステップで、バリアントを会社コードに割り当てます。

チェックボックスを使用するか、プール規則を定義するか、または独自のプログラムロジックを使用した BAdI を実装することによって、どの特性変更によって FI 明細がリアルタイムで生成されるかを決定することができます。

シナリオでどの元帳にも割り当てられていない特性を選択しても無意味であることに注意してください。

有効化基準日によって、リアルタイム統合による CO と FI 間の照合がいつ (CO 伝票のどの転記日付以降) 可能になるかが定義されます。

新総勘定元帳を有効化する前に入力された CO 伝票に対して財務会計伝票を登録することもできます。

## 演習問題 20: リアルタイム統合

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- リアルタイム統合の理解

### ビジネスシナリオ

#### タスク:

CO から FI へのリアルタイム統合のカスタマイジング

1. **CO と FI との間のリアルタイム統合**を設定し、テストします。このために、ID *V##*を使用して、リアルタイム統合のための独自のバリアントを定義します。リアルタイム統合は、今年度の最初から有効にします。勘定設定は有効にします。伝票タイプ CO および元帳グループ (FI) 0L を使用します (会社コード間、利益センタ間、およびセグメント間)。ログ (トレース) を出力し、伝票を集約します。



**注意:** バリアントで必ずしもトレース (ログ) 機能を有効化する必要はありません。必要に応じていっても有効化することができます。

2. 会社コードへのリアルタイム統合バリアントの割当:  
新しいバリアント *V##* を会社コード *GR##* に割り当てます。
3. 例を使用したカスタマイジングの効果の確認:  
誤った原価センタから EUR 10,000 が貸方転記されました。CO で修正が行われます。この金額が、原価センタ間で振替転記されます。  
会社コード *GR##* の原価センタ *COCE##* から、講師の会社コード (通常は *GR00*) の原価センタ (通常は *COCE00*) に金額 EUR 10,000 を転記します。どちらの会社コードも、管理領域 1000 に属しています。
4. 管理会計伝票、およびリアルタイムで登録された会計伝票を照会します。
5. オプション: ログ - CO から FI への統合

リアルタイム統合でトレースが有効化されている場合には、トランザクション *FAGLCOFIRACEADMIN* を使用して、CO と FI との間のリアルタイム統合が機能しているかどうか、どの伝票が登録されたか、およびどのエンティティが変更されたかを確認することができます。

トレース照会 (任意選択) を選択します。

項目選択ダイアログボックスで、会社コード (FI) を選択して、データを採用します (Enter)。

次へ

作業領域決定: エントリダイアログボックスで、会社コード、GR##を入力して、データを適用します(Enter)。

ログによってエントリが生成されます。

トレース詳細を照会して以下の質問に答えるには、一覧から伝票番号をダブルクリックします。

伝票は転送されましたか。

どの転記モードが使用されましたか。

## 解答 20: リアルタイム統合

### タスク：

CO から FI へのリアルタイム統合のカスタマイジング

1. **CO と FI との間のリアルタイム統合を設定し、テストします。**このために、ID V## を使用して、リアルタイム統合のための独自のバリエントを定義します。リアルタイム統合は、今年度の最初から有効にします。勘定設定は有効にします。伝票タイプ CO および元帳グループ (FI) OL を使用します (会社コード間、利益センタ間、およびセグメント間)。ログ (トレス) を出力し、伝票を集約します。

次へ



**注意:** バリアントで必ずしもトレース(ログ)機能を有効化する必要はありません。必要に応じていつでも有効化することができます。

- a) IMG: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 管理会計と財務会計のリアルタイム統合 → 定義: リアルタイム統合のバリアント

“新規エントリ”を選択します。

以下の値を入力します。

項目名またはデータ型	値
リアルタイム統合有効	フラグを設定
基準日: 有効開始日付	現会計年度/01/01
勘定設定有効	フラグを設定
伝票タイプ	CO
元帳グループ(FI):	0L
テキスト	リアルタイム統合のバリアント、 グループ##
画面領域: “リアルタイム統合 CO -> FI の伝票明細の選択”:	
チェックボックス使用	フラグを設定
会社コード間	フラグを設定
利益センタ間	フラグを設定
セグメント間	フラグを設定
画面領域: “技術設定”:	
トレース有効(ログ)	フラグを設定
伝票集計なし	フラグは設定しない

“保存”ボタンを選択して、データを保存します。

2. 会社コードへのリアルタイム統合バリアントの割当:

次へ

新しいバリアント *V##* を会社コード *GR##* に割り当てます。

- a) カスタマイジング: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 管理会計と財務会計のリアルタイム統合 → 割当: リアルタイム統合のバリアント-> 会社コード

“位置” 押ボタンを使用して、会社コード *GR##* を呼び出します。

“リアルタイム統合のバリアント” 項目に、新しいバリアントを入力します。データを保存します。

### 3. 例を使用したカスタマイジングの効果の確認:

誤った原価センタから EUR 10,000 が貸方転記されました。CO で修正が行われます。この金額が、原価センタ間で振替転記されます。

会社コード *GR##* の原価センタ *COCE##* から、講師の会社コード(通常は *GR00*)の原価センタ(通常は *COCE00*)に金額 EUR 10,000 を転記します。どちらの会社コードも、管理領域 1000 に属しています。

- a) アプリケーション: 会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → 実績転記 → 原価のマニュアル再転記 → 入力 (KB11N)

表に指定された振替転記のデータを入力します。

b)

項目名またはデータ型	値
伝票日付と転記日付	本日の日付
原価センタ(旧)	<i>COCE##</i>
原価要素	470000
金額	10000
通貨	EUR
原価センタ(新規)	通常は <i>COCE00</i> (講師の原価センタ)
テキスト	原価の再転記

- c) データを保存して転記します。

次へ

4. 管理会計伝票、およびリアルタイムで登録された会計伝票を照会します。

- a) SAP Easy Access: 会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → 実績転記 → 原価のマニュアル再転記 → 照会 (KB13N)

前の演習問題の伝票が表示されます。ジャンプ → FI/CO 伝票を選択すると、会社コードごとに 1 件の伝票が登録されていることを確認することができます。



**ヒント:** システムで従来の利益センタ会計が有効になってい るため、別途利益センタ伝票も登録されます。

5. オプション: ログ - CO から FI への統合

リアルタイム統合でトレースが有効化されている場合には、トランザクション FAGLCOFITRACEADMIN を使用して、CO と FI との間のリアルタイム統合が機能しているかどうか、どの伝票が登録されたか、およびどのエンティティが変更されたかを確認することができます。

トレース照会(任意選択)を選択します。

項目選択ダイアログボックスで、会社コード(FI)を選択して、データを採用します (Enter)。

作業領域決定: エントリダイアログボックスで、会社コード、GR##を入力して、データを適用します (Enter)。

ログによってエントリが生成されます。

トレース詳細を照会して以下の質問に答えるには、一覧から伝票番号をダブルクリックします。

伝票は転送されましたか。

どの転記モードが使用されましたか。

- a) コマンドフィールドに /nfaglcofitracedmin と入力します。
- b) 伝票は転送されましたか。はい
- c) どの転記モードが使用されましたか。オンライン転記



**ヒント:** このトランザクションは、会計管理すべての必要な変更が行われていることを確認するために使用されます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- リアルタイム統合という用語およびその機能範囲の説明
- カスタマイジングでのリアルタイム統合の設定



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 新総勘定元帳における伝票分割のコンセプトの説明
- 能動伝票分割と受動伝票分割の違いの説明
- カスタマイジングでの伝票分割の入力
- 初期値の定義
- ユーザ固有の初期値の設定
- システムでの初期値の設定
- 伝票変更を管理するルールの説明
- 伝票変更
- 伝票変更内容の分析
- 伝票の反対仕訳
- カスタマイジングでの反対仕訳理由の定義
- 支払条件の定義
- 現金割引の自動転記に対する勘定設定の説明
- SAP ERP Financials における税処理方法の説明
- 税コードの登録と税勘定の定義
- 会社間取引の説明
- 会社間取引の転記
- リアルタイム統合という用語およびその機能範囲の説明
- カスタマイジングでのリアルタイム統合の設定

# 5 章

## 消込

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 消込プロセスの説明
- 勘定消込
- 消込転記
- 入金と支払の転記
- 消込の再登録
- 支払過不足の転記
- 許容範囲グループとその支払差額転記における役割の説明
- 一部入金/支払と残余明細の転記
- 支払差額理由コードの登録と使用
- システムでの換算差損益の処理方法の説明

### 章の内容

レッスン: 未消込明細の消込 .....	314
演習問題 21: 未消込明細の消込 .....	319
レッスン: 入金と支払 .....	326
演習問題 22: 消込転記 .....	333
レッスン: 支払差額 .....	337
演習問題 23: 支払差額 .....	345
レッスン: 換算差損益 .....	353
演習問題 24: 換算差損益 .....	355

## レッスン: 未消込明細の消込

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 消込プロセスの説明
- 勘定消込
- 消込転記

### ビジネスシナリオ

取引を完了させるには、未消込明細を消し込む必要があります。SAP ERPには、消込用の2種類の基本的なトランザクションがあり、この両方が会社にとって役立ちます。

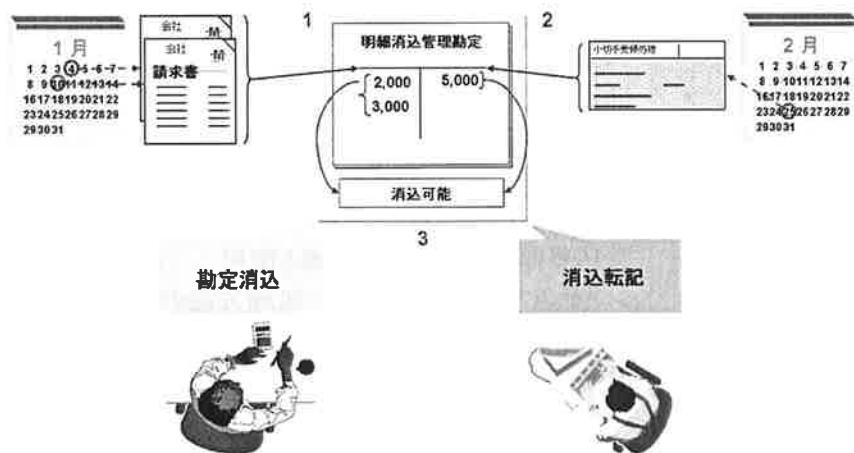


図 130: 未消込明細の消込

未消込明細は、未払の請求書など、まだ完了していない取引を表します。

取引を完了したと見なすには、**消込**を行う必要があります。取引の消込は、明細または明細グループに対して相手勘定を割り当てそれらの明細を貸借一致させることによって行います。

未消込明細が含まれる伝票はアーカイブできず、すべての明細が消し込まれるまでシステムに残ります。

### 消込転記の例 (上の図を参照):

- 得意先コードに請求書が転記されます。この時点ではまだ入金されていないので、この請求書は未消込明細とみなされます。
- 得意先がこの請求書の入金を行い、これを未消込明細に割り当てます。
- この入金によって請求書が消し込まれ、貸借が一致します。

### 勘定消込の例:

- 未処理請求書を、関連するクレジットメモや支払によってマニュアルで消し込みます。

消込処理を行うと、必ず消込伝票が登録されます。

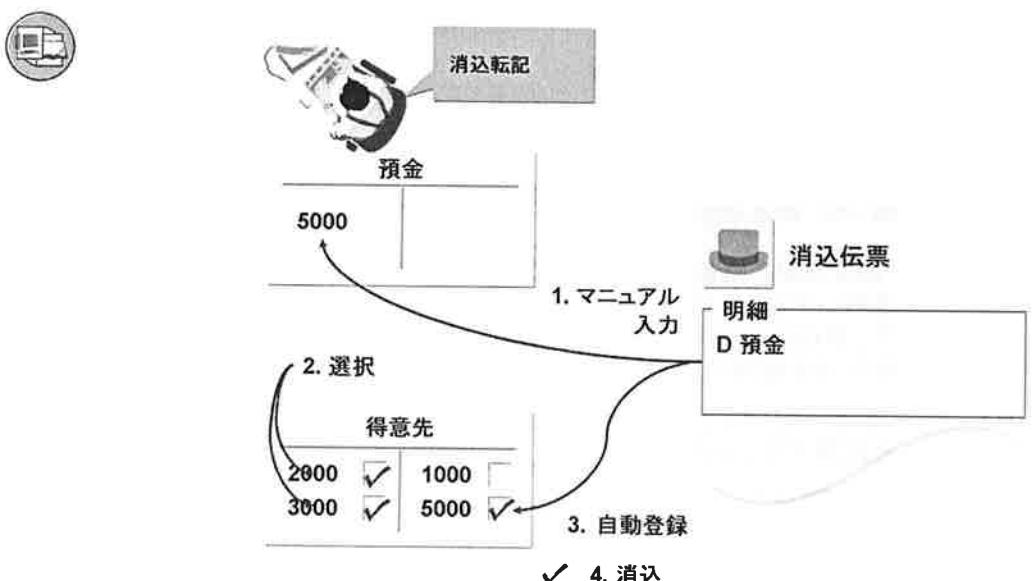


図 131: 消込転記

消込転記機能を使用する場合は、消込伝票の金額を入力して、消込対象の未消込明細を選択します。

- 選択した未消込明細の合計金額が相手勘定の金額と一致すると、1つまたは複数の消込明細が登録されて、未消込明細が消し込まれます。
- 選択した未消込明細の合計金額が相手勘定の金額と一致しない場合は、差額を転記することができます。

“消込転記”は、同時に複数の勘定および勘定タイプに対して実行することができます。また、どの通貨でも実行することができます。

“消込転記”トランザクションは、マニュアルで実行することも、自動支払プログラムを使用して自動実行することもできます。

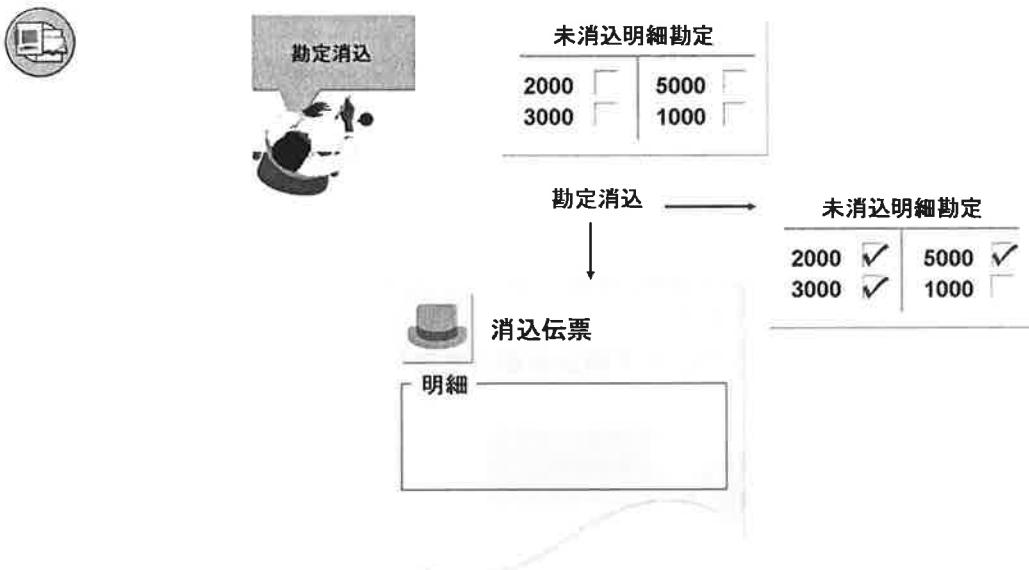


図 132: 勘定消込

“勘定消込”機能を使用する場合は、貸借が一致する未消込明細を勘定から選択します。選択した明細が消込済としてマークされ、消込伝票が登録されます。消込伝票番号と消込日付が消込済明細に入力されます。消込日付は、現在日付を使用することも、ユーザが決定することもできます。

“勘定消込”機能は、総勘定元帳と補助元帳の任意の未消込明細管理勘定で使用することができます。

“勘定消込”トランザクションは、マニュアルで実行することも、消込プログラムを使用して自動実行することもできます。

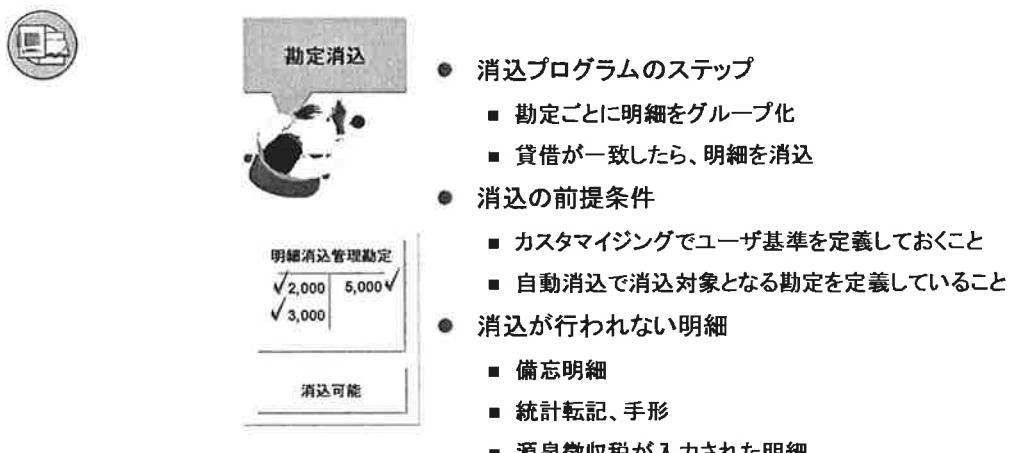


図 133: 消込プログラム

自動消込プログラムを使用して、G/L 勘定と補助元帳勘定の未消込明細を消し込むことができます。

このプログラムでは、1つの勘定内で以下の項目に同じエントリを持つ明細がグループ化されます。

- 統制勘定コード
- 通貨
- 特殊仕訳コード
- 伝票ヘッダまたは明細の項目から指定したユーザ定義の5つの基準(ソートキー項目、参照番号など)

グループ内の明細の国内通貨での貸借が一致すると、それらが自動的に消し込まれて、消込伝票が登録されます。

自動消込が必要となる勘定は、すべてカスタマイズで定義しておく必要があります。

自動消込プログラムでは、以下は消し込まれません。

- 備忘明細
- 統計転記、および手形関連の特定の特殊仕訳取引
- 前受/前払金は、同じ金額の前受/前払金明細がすでに転記されている場合にのみ消し込むことができます。
- 源泉徴収税が入力された明細

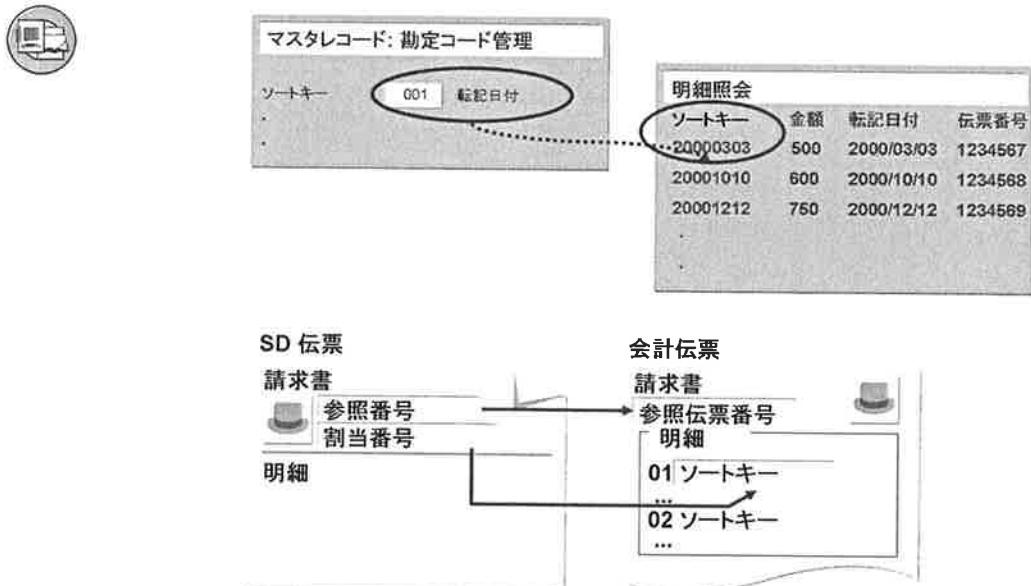


図 134: ソート項目としての割当項目

明細を転記する場合、マスタレコードの“ソート項目”エントリに従って、明細の割当項目が自動的に入力されます。

ソートキー項目は、18 文字以内で、最大 4 つまでの項目を組み合わせることができます。たとえば、伝票番号(10 文字)と転記日付(6 文字)を表示する場合は、この 2 つの項目名をソートキー項目定義に組み込みます。

たとえば、取引先マスタレコードでソートキーとして購買発注番号が設定されている場合、取引先明細のソートキー項目には購買発注番号が入力されます。

ただし、総勘定元帳マスタレコードでソートキーとして原価センタが設定されている場合は、総勘定元帳明細のソートキー項目には、その G/L 勘定の使用時に原価センタ番号が入力されます。

明細照会や消込機能では、このソートキー項目にもとづいて明細がソートされます。以下に適用例を示します。

- 受注管理で請求書を転記すると、財務会計で会計伝票が登録されます。通常、会計伝票の伝票番号は、受注管理の請求書番号とは異なります。参照と割当を使用することによって、会計伝票の基礎となる受注管理伝票を追跡することができます。会計伝票の参考伝票番号とソートキーは、販売管理の請求伝票の参考番号と割当番号からコピーされます。販売管理伝票のどの番号(購買発注、受注、出荷、または請求伝票番号)を参考番号または割当番号としてコピーし、財務会計に転送するかを定義することができます。その後、これらの項目を財務会計で選択基準として使用することができます。

## 演習問題 21: 未消込明細の消込

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 未消込明細の消込に関する両方のオプションの説明
- 勘定の消込

### ビジネスシナリオ

実行される取引で、未消込明細が消し込まれます。SAP ERP Financials には、このために使用することができる 2 つのトランザクションがあります。

#### タスク 1:

次の質間に答えてください。

- 未消込明細の消込に使用される基本トランザクションを 2 つ挙げてください。

---

---

---

#### タスク 2:

正誤問題

- 未消込明細は取引がまだ未完了であることを表しているため、未消込明細のある伝票をアーカイブすることはできません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
- 自動消込プログラム (SAPF124) で自動仕訳を行うことはできません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

次へ

### タスク 3:

以下の質間に答えてください。

1. クレジットメモと未処理請求書との消込は、\_\_\_\_\_の一例です。  
空白に適切な答えを記入してください。
2. 未処理請求書の入金転記による貸借一致は、\_\_\_\_\_の一例です。  
空白に適切な答えを記入してください。

### タスク 4:

“勘定消込”に関する以下の演習問題を実行します。

1. 5,500 円の得意先請求書を転記します。この得意先請求書の入力時に、提案される支払条件キーを“0001”(即時支払)に変更します。税コード 1O (仮受消費税 10%)、収益勘定 800200、および利益センタ PR## を使用します。次に、同じ金額で登録したクレジットメモを使用してこの明細を消し込み、消込の前後における得意先コードの明細をチェックします。



**ヒント:** すべての未消込明細が処理対象に選択されています。各明細は、いくつかの方法で無効化することができます。

- 各明細の金額(総額)をダブルクリックします。
- 画面下部で 全選択を選択します。  
次に、 明細無効化を選択して、すべての明細を無効化します。  
一緒に消込を行う各明細の金額をダブルクリックします。
- “編集オプション”ボタンを選択して、追加の取引を処理します。  
“選択明細初期値無効化”フラグを選択します。これにより、次回その会計取引を処理する際にすべての明細が無効化されます。



**ヒント:** 現金割引を消し込むには、項目“現金割引”に値 0(ゼロ)を入力します。

## 解答 21: 未消込明細の消込

### タスク 1:

次の質間に答えてください。

1. 未消込明細の消込に使用される基本トランザクションを 2 つ挙げてください。

**解答:**

- 勘定消込
- 消込転記

### タスク 2:

正誤問題

1. 未消込明細は取引がまだ未完了であることを表しているため、未消込明細のある伝票をアーカイブすることはできません。

**解答:** 正

2. 自動消込プログラム (SAPF124) で自動仕訳を行うことはできません。

**解答:** 誤

R/3 リリース 4.0 以降、自動消込プログラムで自動仕訳を行うことができます。

### タスク 3:

以下の質間に答えてください。

1. クレジットメモと未処理請求書との消込は、勘定消込の一例です。

**解答:** 勘定消込

“勘定消込”トランザクションは、未消込明細の消込に使用することができるオプションの 1 つです。

2. 未処理請求書の入金転記による貸借一致は、消込転記の一例です。

**解答:** 消込転記

“消込転記”トランザクションは、未消込明細の消込に使用することができる 2 つ目のオプションであり、入金の入力時に実行されます。

次へ

## タスク 4:

“勘定消込”に関する以下の演習問題を実行します。

1. 5,500 円の得意先請求書を転記します。この得意先請求書の入力時に、提案される支払条件キーを“0001”(即時支払)に変更します。税コード 10 (仮受消費税 10%)、収益勘定 800200、および利益センタ PR## を使用します。次に、同じ金額で登録したクレジットメモを使用してこの明細を消し込み、消込の前後における得意先コードの明細をチェックします。



**ヒント:** すべての未消込明細が処理対象に選択されています。各明細は、いくつかの方法で無効化することができます。

- 各明細の金額(総額)をダブルクリックします。
- 画面下部で 全選択を選択します。  
次に、 明細無効化を選択して、すべての明細を無効化します。
- 一緒に消込を行う各明細の金額をダブルクリックします。
- “編集オプション”ボタンを選択して、追加の取引を処理します。  
“選択明細初期値無効化”フラグを選択します。これにより、次回その会計取引を処理する際にすべての明細が無効化されます。



**ヒント:** 現金割引を消し込むには、項目“現金割引”に値 0(ゼロ)を入力します。

### a) 得意先請求書

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理  
→ 伝票入力 → 請求書(Enjoy)

項目名またはデータ型	値
基本データ	
得意先	各自の得意先
請求書日付	現在日付
転記日付	現在日付
金額	5 500
通貨	国内通貨

次へ

税計算	<input checked="" type="checkbox"/>
税 ID	10 (仮受消費税(コース) 10%)
支払条件	0001
<b>明細 - 第 1 詳細行</b>	
G/L 勘定	800200
D/C	貸方
伝票通貨額	5 500
税 ID	10 (仮受消費税(コース) 10%)
利益センタ	PR##

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

“転記”を選択して伝票を保存します。

得意先コードの明細を照会します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定コード → 明細照会/変更

項目名またはデータ型	値
G/L 勘定	各自の得意先
会社コード	GR##
明細選択	“全明細”を選択します。

“実行”を選択して、各自の得意先勘定に転記されているすべての値を照会します。5500 円の請求書とクレジットメモの両方が未消込明細です。

勘定の消込

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定コード → 消込

項目名またはデータ型	値

次へ

勘定	各自の得意先
会社コード	GR##

“未消込明細処理”を選択します。



**ヒント:** すべての未消込明細が処理対象に選択されています。各明細は、いくつかの方法で無効化することができます(5500 円の請求書とクレジットメモの消込を除く)。

- 各明細の金額(総額)をダブルクリックします。
- 画面下部で 全選択を選択します。

次に、 明細無効化を選択して、すべての明細を無効化します。

一緒に消込を行う各明細の金額をダブルクリックします。

- “編集オプション”を選択して、追加の会計取引を処理します。

“選択明細初期値無効化”フラグを選択します。これにより、次回この取引を呼び出した際にすべての明細が無効化されます。



**ヒント:** 現金割引を消し込むには、項目“現金割引”に値 0(ゼロ)を入力します。

“転記”を選択して伝票を保存します。

得意先勘定の明細を照会します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定コード → 明細照会/変更

項目名またはデータ型	値
得意先勘定	各自の得意先
会社コード	GR##
明細選択	“全明細”を選択します。

“実行”を選択して、各自の得意先勘定に転記されているすべての原価を照会します。5500 円の請求書とクレジットメモの両方が消込済明細になっています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 消込プロセスの説明
- 勘定消込
- 消込転記

## レッスン: 入金と支払

### レッスンの概要

このレッスンでは、入金と支払のマニュアル転記方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 入金と支払の転記
- 消込の再登録

### ビジネスシナリオ

得意先は、現金割引が適用される未処理請求書を支払います。現金割引が自動的に転記されるように設定します。

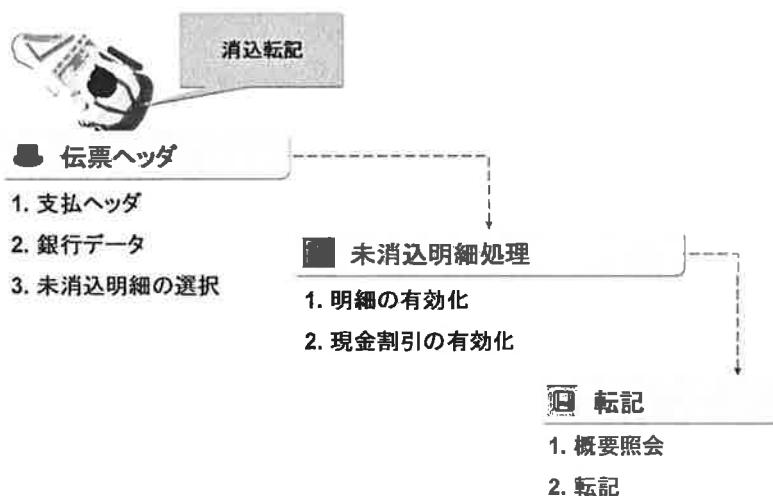


図 135: マニュアル支払処理

マニュアル支払とは、相手勘定をマニュアルで割り当てて未消込明細(通常は請求書)を消し込む処理です。

入金は主に債権管理で使用され、借方の未消込を消し込みます。

支払は主に債務管理で使用され、貸方の未消込を消し込みます。

マニュアル支払は、以下の3つのステップで処理されます。

- 伝票ヘッダにデータを入力します。
- 消込対象となる未消込明細を選択します。
- 取引を保存します。

支払差額については、次のレッスンで取り上げます。

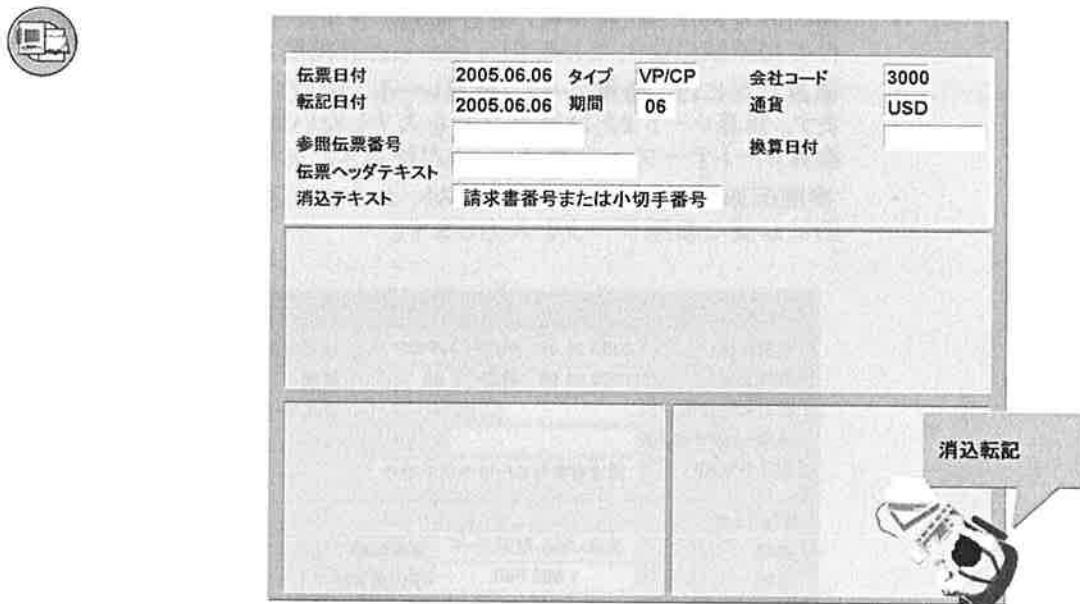


図 136: 伝票ヘッダ - 支払ヘッダ

伝票ヘッダに入力するデータは、請求書を転記するときに入力するデータと同様です。伝票ヘッダには、支払ヘッダ、銀行データ、および未消込明細選択の3つのセクションがあります。

伝票ヘッダの支払ヘッダセクションに、以下の情報を入力します。

- **伝票日付**を入力します。これは物理的な伝票の日付です。
- 呼び出されたトランザクションに応じて**伝票タイプ**が提案されます(レッスン“初期値”を参照してください)。
- 会社コードが提案されない場合は、マニュアルで入力します(レッスン“初期値”を参照してください)。
- 期間設定には、**転記日付**と**会計期間**が含まれます。現在日付が転記日付の初期値になり、この転記日付から会計期間が誘導されます。
- 通貨設定には、**通貨コード**、**換算レート**、および**通貨換算日付**が含まれます。換算レートまたは換算日付を入力しない場合は、転記日付時点の換算レートテーブルの換算レートが使用されます。
- **参照伝票番号**、**伝票ヘッダテキスト**、および**消込テキスト**には、入金の識別に必要な参照データを入力します。

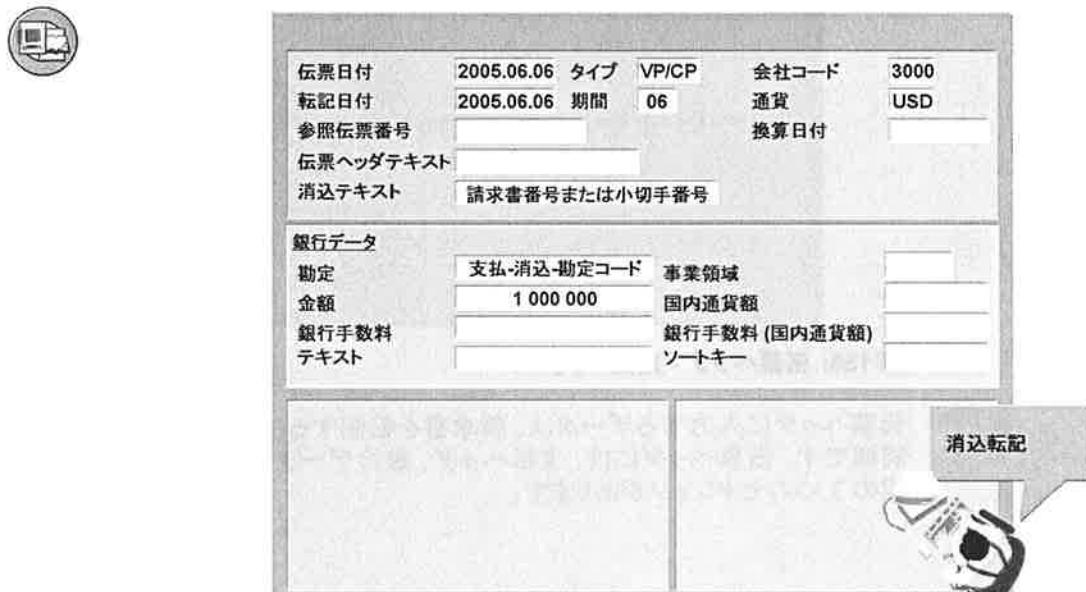


図 137: 伝票ヘッダ - 銀行データ

伝票ヘッダの次のセクションに、以下の銀行データを入力します。

- 勘定は、入金または支払で使用する G/L 勘定です。
- 金額は、入金または支払の合計額です。
- 銀行は、処理業務に対する銀行手数料を請求する場合があります。この銀行手数料は、特別な費用勘定に自動的に転記されます。入金の場合は、入金額に銀行手数料を足したものが消込額になります。銀行支払の場合は、支払金額から銀行手数料を差し引いたものが消込額になります。
- 起算日は、資金管理でポジションの評価に使用する日付です。この項目には初期値が表示されます(レッスン“初期値”を参照してください)。
- テキストは、明細の任意のテキストです。先頭に “\*\*” を付けると、外部連絡文書にもテキストを印刷することができます。また、テキストテンプレートを使用することもできます。この場合、標準テキスト一覧から入力値を選択することができます。
- ソートキー番号は、システムで登録されるか、またはマニュアルで入力することができます。

未収入明細処理					
伝票日付	2005.06.06	タイプ	VP/CP	会社コード	3000
転記日付	2005.06.06	期間	06	通貨	USD
参照伝票番号					
伝票ヘッダテキスト					
消込テキスト	請求書番号または小切手番号				
<b>銀行データ</b>					
勘定	支払消込勘定コード		事業領域		
金額	1 000 000		国内通貨額		
銀行手数料			銀行手数料(国内通貨額)		
テキスト	ソートキー				
<b>未消込明細選択</b>			<b>追加選択項目</b>		
勘定コード	取引先		なし		
勘定タイプ	D または K		<input type="radio"/> なし		
支払通知番号			<input type="radio"/> 金額		
<input type="checkbox"/> 古い明細より割当	<input checked="" type="checkbox"/> 標準未消込明細		<input type="radio"/> 伝票番号		
<input type="checkbox"/> 新規一時明細割当	<input type="checkbox"/> 他勘定コード		<input type="radio"/> 転記日付		
			<input type="radio"/> その他		

図 138: 伝票ヘッダ - 未消込明細選択

伝票ヘッダの次のセクションに、以下の "未消込明細選択" データを入力します。

- 勘定コードと勘定タイプ:** この領域の “勘定コード” は、取引先の勘定コードとその勘定の勘定タイプを表します。勘定と勘定タイプは、未消込明細を含む勘定を特定するために必要です。
- 標準未消込明細と特殊仕訳取引:** 処理対象として、標準未消込明細または特殊仕訳取引 (あるいは両方) を選択することができます。
- 支払明細通知番号:** (マニュアル登録または自動登録された) 支払明細通知番号を使用して、未消込明細を選択することができます。
- 他勘定コード:** 同時に未消込明細の処理を行う他の勘定を選択することができます。
- 追加選択項目:** 設定で定義した追加選択基準を使用して、未消込明細を選択することができます。選択処理を高速にするために、“古い明細より割当” や “金額一致明細割当” 機能を使用することができます。

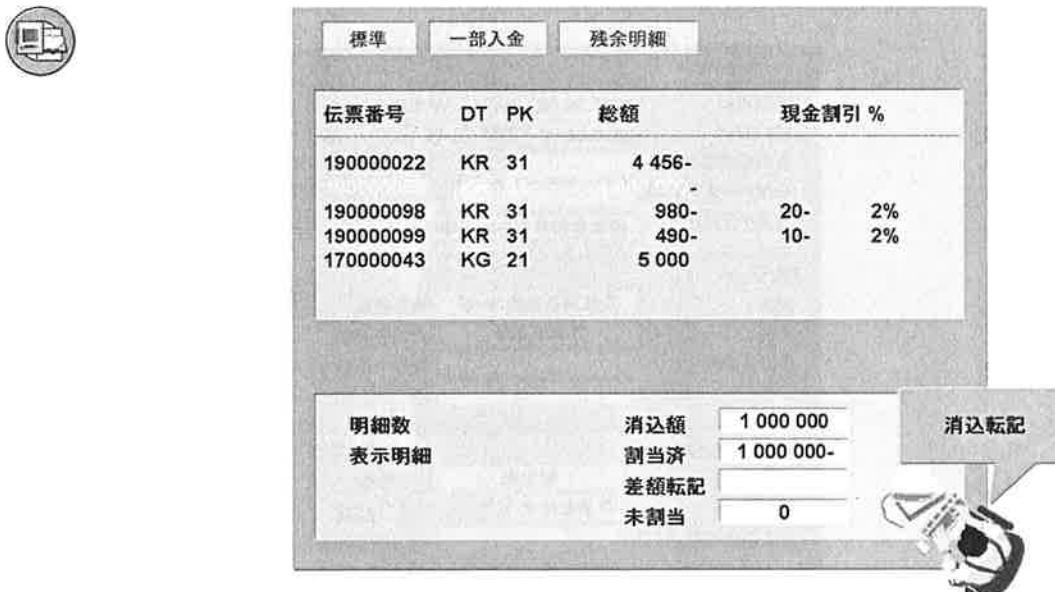


図 139: 未消込明細の処理

次の画面には、未割当の未消込明細がすべて一覧表示されます。これら未消込明細には、支払、デビットメモ、クレジットメモ、請求書などがあります。設定に応じて、すべての明細が有効化または無効化の状態で表示されます。

未消込明細処理の最初のステップとして消込みたい明細を有効化する必要があります。

消込額が、適切な明細とその現金割引に割り当てられます。

明細の有効化/無効化には、いくつかのオプションがあります。

- 未消込明細の編集オプション：“選択明細初期値無効化”区分を設定します。
- 金額をダブルクリックします。
- アクションメニューとファンクションキーの選択：さまざまなメニューとキーを使用することができます。

消込額が割当済額と同じ場合、伝票を転記することができます。

現金割引額は、明細の支払条件によって決定されます。現金割引は、割当済額の計算に反映されます。

現金割引額を上書きするか、または現金割引率を変更することによって現金割引を変更することができます。許容範囲に設定されている限度を超えることはできません。

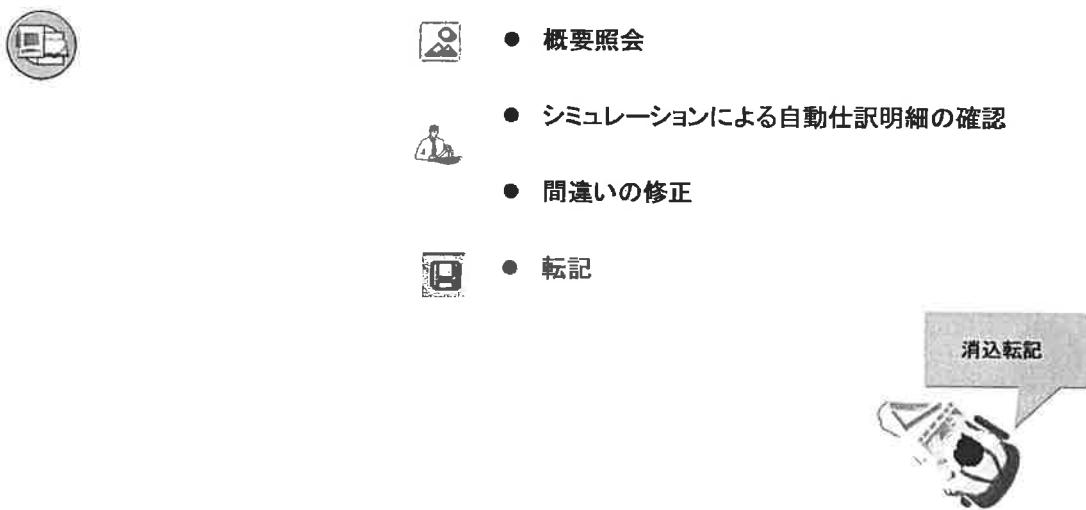


図 140: 支払の転記

これで、入力した伝票をチェックすることができます。

**伝票→シミュレート**を選択すると、自動仕訳された明細も含むすべての明細を照会することができます。

貸借が一致している場合は、完成した伝票を**転記**することができます。

後になって伝票に間違いが見つかり、修正を要する場合は、消込済明細を再登録してから伝票を反対仕訳します。その後、元の転記を正しく入力し直す必要があります。



図 141: 未消込明細消込の自動仕訳

必要に応じて、消込時に自動仕訳が行われます。これまでのレッスンで、これらの自動仕訳に関する設定はすでに説明しました。

銀行データの入力時に銀行手数料を入力することができ、これらは自動的にG/L 勘定に転記されます。

マニュアル会社コード間支払を実行するには、支払会社コードと支払を受ける会社コードの組合せに対して消込処理 (“入金” または “支払”) を割り当てる必要があります。その後、未消込明細を選択すると、各会社コードからの未消込明細が表示されます。

支払過不足の処理については、レッスン “支払差額” で説明します。

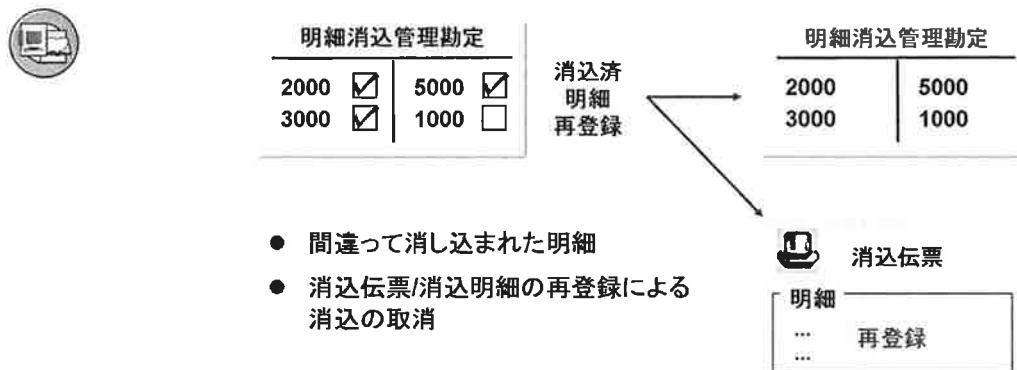


図 142: 消込の再登録

個別伝票に対する消込を取り消すことができます。消込の再登録を行うと、明細から消込データが削除されます。

変更はログに記録され、変更伝票内で照会することができます。債権管理の場合は、支払履歴と与信限度が必要に応じて修正されます。

## 演習問題 22: 消込転記

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 現金割引のある入金の転記

### ビジネスシナリオ

得意先は、現金割引が適用される未処理請求書を支払います。

#### タスク 1:

“消込転記”に関する以下の演習問題を実行します。

- レッスン“財務会計の基本伝票”で転記した 220,000 円の未消込明細に対して、得意先から 213,400 円の入金を受け取りました。請求書の入力時に現金割引を許可していなかった場合は、6,600 円の現金割引をマニュアル入力します。銀行仮勘定 113108 を使用します。

#### タスク 2:

オプション: 伝票分割

- オプション: 伝票分割

伝票分割の演習問題のタスクの 110,000.00 EUR の未消込明細に対する支払金額 106,700.00 EUR を使用して、今実行した演習問題と同じ条件で繰り返すと、受動分割のしくみを確認することができます。支払の転記では、収益明細の利益センタおよびセグメントに従った債権の分割が採用されます。

## 解答 22: 消込転記

### タスク 1:

“消込転記”に関する以下の演習問題を実行します。

- レッスン“財務会計の基本伝票”で転記した 220,000 円の未消込明細に対して、得意先から 213,400 円の入金を受け取りました。請求書の入力時に現金割引を許可していなかった場合は、6,600 円の現金割引をマニュアル入力します。銀行仮勘定 113108 を使用します。

#### a) 入金

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票  
入力 → 入金

項目名またはデータ型	値
伝票ヘッダ	
伝票日付	現在日付
伝票タイプ	DZ
会社コード	GR##
転記日付	現在日付
通貨	国内通貨
銀行データ	
勘定	113108
金額	213 400
起算日	現在日付
未消込明細選択	
勘定	登録した得意先

“未消込明細処理”を選択します。

220,000 円の請求書を選択します。必要に応じて、6,600 円の現金割引を入力します。

“未割当”の値が 0 になると、以下の処理を行うことができます。

伝票 → シミュレート

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

次へ

“転記”を選択して伝票を保存します。

→ **注記:**これまでに、2つの消込オプションについて学習しました。

- **勘定消込:** レッスン“未消込明細の消込”で、未処理請求書と未消込クレジットメモの消込を実行しました。
- **消込転記:** このレッスンで、未処理請求書に対して得意先からの入金を転記しました。

## タスク 2:

オプション: 伝票分割

### 1. オプション: 伝票分割

伝票分割の演習問題のタスクの 110,000.00 EUR の未消込明細に対する支払金額 106,700.00 EUR を使用して、今実行した演習問題と同じ条件で繰り返すと、受動分割のしくみを確認することができます。支払の転記では、収益明細の利益センタおよびセグメントに従った債権の分割が採用されます。

a) 前の演習問題に従ってください。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 入金と支払の転記
- 消込の再登録

## レッスン：支払差額

### レッスンの概要

このレッスンでは、支払差額の転記方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 支払過不足の転記
- 許容範囲グループとその支払差額転記における役割の説明
- 一部入金/支払と残余明細の転記
- 支払差額理由コードの登録と使用

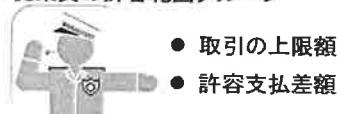
### ビジネスシナリオ

得意先は、請求書に対し会社の許容限度を超える差額で支払を行うことがしばしばあります。



#### 許容範囲：転記の際に許容される差額を定義するルール

##### 従業員の許容範囲グループ



##### G/L 勘定の許容範囲グループ



##### 得意先/仕入先の許容範囲グループ

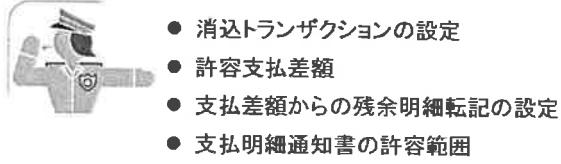


図 143: 許容範囲グループ

会計管理には、3種類の許容範囲グループがあります。従業員許容範囲グループ、G/L 勘定許容範囲グループ、および得意先/仕入先許容範囲グループです。

従業員許容範囲グループは、以下を制御するために使用します。

- 転記処理の上限額(レッスン "転記権限" を参照)
- 許容支払差額

G/L 勘定許容範囲グループは、以下を制御するために使用します。

- 許容支払差額(自動消込処理の場合など)

得意先/仕入先許容範囲グループは、以下の設定に使用します。

- 消込トランザクション
- 許容支払差額
- 支払差額の残余明細転記
- 支払明細通知書の許容範囲

#### 許容範囲グループの設定

- 従業員の許容範囲グループの例:
  - 経理担当者 I
  - 経理担当者 II
  - 会計管理責任者
- 得意先/仕入先の許容範囲グループの例:
  - 優良得意先/仕入先
  - 通常の得意先/仕入先
  - 現金取引のみの得意先/仕入先
- G/L 勘定の許容範囲グループの例:
  - 消込勘定(外部調達)
  - 消込勘定(内部生産)

許容範囲を使用して、許容支払差額を定義します。

許容範囲グループを以下のものに割り当てます。

- ユーザ
- 勘定コードマスタレコード
- 得意先/仕入先マスタレコード

許容範囲グループを使用するには、次の 2 つのステップを実行する必要があります。

- **グループ定義**

- 許容範囲グループは、グループキー、会社コード、および通貨コードによって定義されます。
- グループキーは、4 文字の英数字です。
- キー "\_\_\_\_" (空白) は、標準許容範囲グループであり、最小の許容範囲グループとして必要です。

- **グループ割当**

- 従業員許容範囲グループは、従業員に割り当てます。
- G/L 勘定許容範囲グループは、勘定コードマスタレコードに割り当てることができます。
- 得意先/仕入先許容範囲グループは、得意先または仕入先マスタレコードに割り当てます。
- 許容範囲グループが割り当てられていない場合は、許容範囲グループ初期値 "\_\_\_\_" (空白) が適用されます。

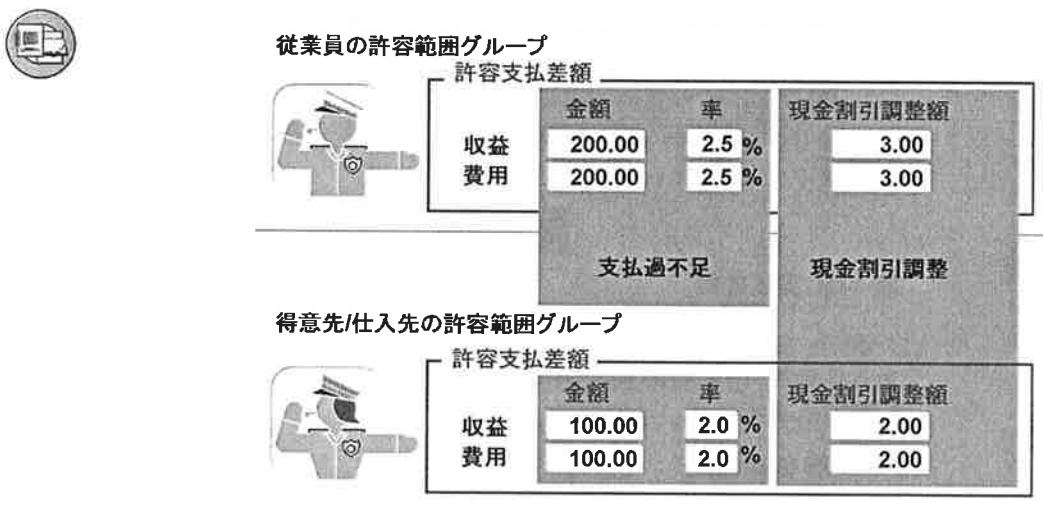


図 144: 許容支払差額

許容支払差額は、いずれの許容範囲グループにも設定することができます。これにより、現金割引調整と支払過不足の自動仕訳が制御されます。

消込時に、両方のグループの設定が考慮されます。支払差額を自動的に処理するには、この差額が両方の許容範囲内である必要があります。

- 現金割引調整として自動仕訳するには、支払差額が 3.00 かつ 2.00 通貨単位未満である必要があります。
- 支払過不足として自動仕訳するには、支払差額が 200.00 かつ 100.00 通貨単位未満であり、さらに未消込金額の 2.5% かつ 2.0% 未満である必要があります。2つの許容範囲内の低い方が常に適用されます。たとえば、未消込金額 1,000 通貨単位の場合、これは 20 通貨単位の未承認得意先控除になり、未消込金額 100,000 通貨単位の場合、これは 100 通貨単位の未承認得意先控除になります。

許容範囲グループへの入力は、常に国内通貨で行います。

請求書	1000	1000	1000
入金	968	967	949
現金割引	30	30	30
<b>差額</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>21</b>
現金割引:	32	30	
支払過不足:	0	3	

図 145: 支払差額

一般に、支払差額は未消込明細の消込時に発生します。この差額が、従業員と得意先/仕入先の許容範囲グループの設定と比較され、それに応じて処理されます。

- 許容範囲内**  
現金割引調整または支払過不足として自動仕訳されます。
- 許容範囲外**  
マニュアルで処理します。

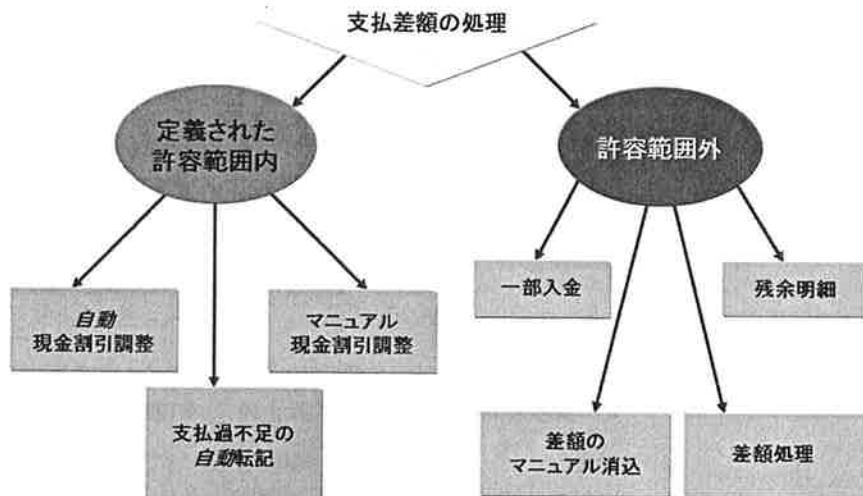


図 146: 支払差額の処理

支払差額が少額の場合は、指定金額までを現金割引として調整したり、特別な勘定で費用化したりすることで自動処理することができます。少額と見なす支払差額の限度については、許容範囲グループで定義します。従業員の許容範囲グループでは、定義した限度内の現金割引の調整を許可して、従業員に調整を実行する権限を与えることができます。

支払差額が少額ではない場合は、マニュアルで処理する必要があります。以下のいずれかの方法で、支払を転記することができます。

- 一部入金/支払
- 支払差額を残余明細として転記
- 支払差額を、理由コードに割り当てられた勘定に転記するか、または新しい明細のマニュアル登録によって費用化
- 差額転記

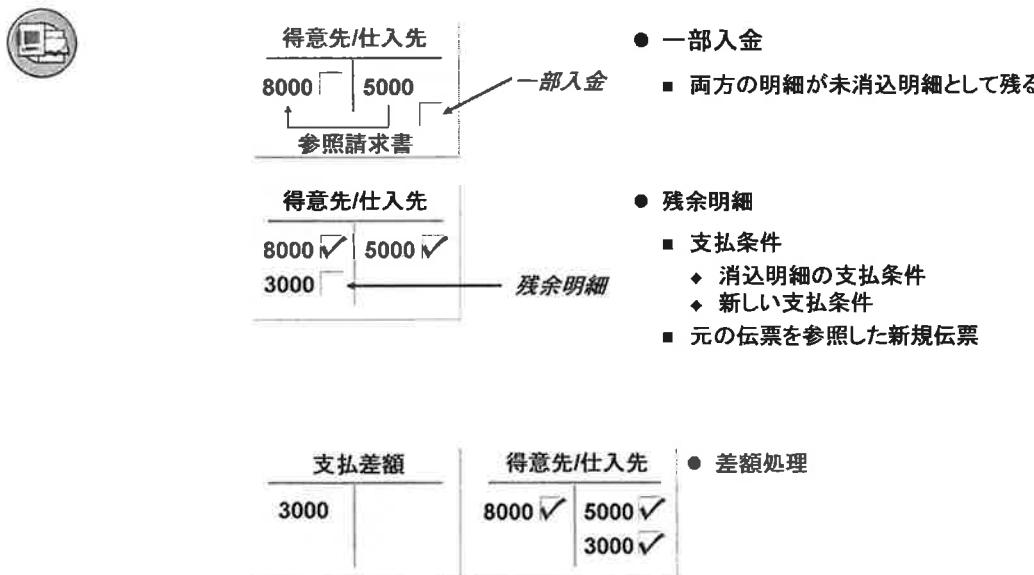


図 147: 一部入金と残余支払

支払差額が許容範囲を超える場合は、マニュアルで処理する必要があります。以下のいずれかの方法で処理します。

- 一部入金として転記し、すべての明細を未消込明細として勘定に残します。
- 支払差額を残余明細として転記し、この残余明細のみを勘定に残し、元の明細と入金明細を消し込みます。元の伝票を参照して新規伝票番号が登録されます。
- 理由コードと自動勘定設定を使用して、支払差額を他の勘定に転記します。
- 差額を費用処理します(マニュアル勘定割当)。

得意先/仕入先許容範囲グループには、残余明細の制御を行う設定があります。この設定によって、以下のことが指定されます。

- 残余明細の支払条件が消込済明細の支払条件と同じであるか、または固定支払条件であるかどうか。
- 現金割引が(総額ではなく)金額の一部にのみ適用されるかどうか。
- 督促キーを指定することで、残余明細に最大督促レベルが設定されるか、あるいは個別に印刷するか。

支払差額の理由がわかっている場合は、理由コードを入力することができます。



The screenshot shows a table with five columns: コード (Code), テキスト (Text), 連絡文書 (Communication Document), 差額処理 (Difference Processing), and クレーム (Claim). There is also a small icon of a computer monitor in the top-left corner.

コード	テキスト	連絡文書	差額処理	クレーム
DDG	クームを受けた商品	SAP01		X
DG	退済品	SAP01		
FR	運賃	SAP01		
MD	その他	SAP01	X	

A callout box labeled "理由コード別支払差額" (Reason Code by Payment Difference) is overlaid on the table, showing a breakdown of differences for reason codes 800201, 880200, 800201, 880220.

図 148: 理由コード

理由コードは、支払差額の理由の説明に使用されます。1つの支払差額に複数の理由コードを割り当てるには、“配賦差異”をクリックします。

理由コードは、以下に割り当てることができます。

- 差額転記
- 一部入金/支払
- 残余明細

理由コードを使用すると、支払差額の分析と後処理を行うことができます。追加のオプション機能として、以下のものがあります。

- 得意先に送付する連絡文書タイプの制御
- 残余明細が転記される勘定の制御
- 指定された G/L 勘定への残余明細の自動仕訳
- 異議申立による、与信限度チェックからの残余明細の除外



## 演習問題 23: 支払差額

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 一部入金/支払の入力
- 損傷品の理由コードの登録
- 現金割引と理由コードを伴う入金の転記

### ビジネスシナリオ

一部の得意先は、未処理請求書を一部入金のみで入金します。債権管理でこれらの支払不足を転記する必要があります。

### タスク:

以下の質問に答えてください。

1. \_\_\_\_\_により、請求書と支払の消込が行われ、未消込明細が新たに登録されます。  
空白に適切な答えを記入してください。
2. \_\_\_\_\_が行われると、未処理請求書と入金が得意先コードに未消込明細として残されます。  
空白に適切な答えを記入してください。
3. 得意先は、キャッシュフローの問題で請求書を全額支払うことができません。  
入金の基準として、100,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。“税計算”オプションを選択します。税コード 1O (仮受消費税(コース) 10%) を使用します。収益勘定 800200 および利益センタ PR01 に転記します。  
先ほど転記した 100,000 円の未消込明細に対して、得意先から 40,000 円の入金を受け取りました(銀行仮勘定 113108)。この入金を一部入金として得意先コードに転記します。  
この得意先の明細を照会して、転記内容を確認します。
4. オプション: 得意先は、輸送中の品目の損傷によって支払額を減らしました。これらの金額を記録する必要があります。理由コード “輸送中の商品損傷” Z## を登録して、この差額を償却します。

次へ

5. オプション: 得意先から 250,000 円の入金を受け、これを 300,000 円の未消込明細に対して転記します。得意先は、商品が輸送中に損傷していたため、残額に対する値引を求めていました。登録した理由コード Z## を使用して、この差額を残余明細として転記します。(銀行仮勘定 113108)

## 解答 23: 支払差額

### タスク：

以下の質問に答えてください。

1. 残余明細により、請求書と支払の消込が行われ、未消込明細が新たに登録されます。

**解答:** 残余明細

2. 一部入金/支払が行われると、未処理請求書と入金が得意先コードに未消込明細として残されます。

**解答:** 一部入金/支払

3. 得意先は、キヤッシュフローの問題で請求書を全額支払うことができません。

入金の基準として、100,000 円の得意先請求書を得意先コードに転記します。“税計算”オプションを選択します。税コード 1O (仮受消費税(コース) 10%) を使用します。収益勘定 800200 および利益センタ PR01 に転記します。

先ほど転記した 100,000 円の未消込明細に対して、得意先から 40,000 円の入金を受け取りました(銀行仮勘定 113108)。この入金を一部入金として得意先コードに転記します。

この得意先の明細を照会して、転記内容を確認します。

- a) SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → 請求書 (Enjoy)

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
得意先	各自の得意先
請求書日付	現在日付
転記日付	現在日付
金額	100.000
税計算	✓
税コード	1O (仮受消費税(コース) 10%)
明細	
G/L 勘定 (売上勘定)	800200
伝票通貨額	100.000

次へ

税コード	1O (仮受消費税(コース) 10%)
利益センタ	PR01

“転記”を選択します。

- b) SAP Easy Access メニュー: 会計管理→財務会計→債権管理→伝票入力→入金

項目名またはデータ型	値
伝票ヘッダ	
伝票日付	現在日付
会社コード	GR##
転記日付	現在日付
通貨	国内通貨
銀行データ	
勘定 (G/L 勘定/銀行仮勘定):	113108
金額	40 000
起算日	現在日付
未消込明細選択	
勘定	各自の得意先

“未消込明細処理”を選択します。

100,000 円の未消込明細を選択します。

次に、タブページ“一部入金/支払”を選択します。

“支払額”項目の金額をダブルクリックして、一部入金額の値を更新します。

“転記”を選択します。

- c) SAP Easy Access メニュー: 会計管理→財務会計→債権管理→勘定コード→明細照会/変更

項目名またはデータ型	値
得意先勘定	登録した得意先
会社コード	GR##
明細選択	

次へ

未消込明細	選択
基準日の未消込明細	現在日付

結果：一部入金と割り当てられた請求書が未消込明細に残ります。

一部入金をダブルクリックして、項目“支払対象”的参照請求書を照会します。

4. オプション：得意先は、輸送中の品目の損傷によって支払額を減らしました。これらの金額を記録する必要があります。理由コード“輸送中の商品損傷”Z##を登録して、この差額を償却します。
  - a) IMG: 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → 銀行入金共通設定 → 支払過不足 → 定義: 理由コード

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##

“Enter”を選択します。

編集 → 新規エントリ

項目名またはデータ型	値
理由コード	Z##
テキスト(短)	輸送の損傷(例)
テキスト(長)	輸送中の商品損傷
C	(別勘定からの差額処理)

“保存”を選択します。

支払差額勘定のチェック

IMG: 財務会計 → 債権管理/債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → 銀行入金共通設定 → 支払過不足 → 定義: 支払差額勘定 勘定コード表を選択します。

“続行”を選択します。

勘定設定を変更しないで、“前画面”を選択します。

5. オプション：得意先から 250,000 円の入金を受け、これを 300,000 円の未消込明細に対して転記します。得意先は、商品が輸送中に損傷していたため、残額に対する値引を求めています。登録した理由コード Z## を使用して、この差額を残余明細として転記します。(銀行仮勘定 113108)

次へ

## a) 差額のある入金

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → 入金

項目名またはデータ型	値
伝票ヘッダ	
伝票日付	現在日付
会社コード	GR##
転記日付	現在日付
通貨	国内通貨
銀行データ	
勘定	113108
金額	250 000
起算日	現在日付
未消込明細選択	
勘定	登録した得意先

“未消込明細処理”を選択します。

300,000 円の未消込明細を選択します。

現金割引額を削除するか、または 0% と入力します。“続行”を選択します。

残余明細の登録:

タブページ “残余明細”を選択します。

以下の値を入力するか、または項目 “残余明細”をダブルクリックして、支払金額を入力します。

項目名またはデータ型	値
残余明細	50 000
RCd (理由コード)	Z##

伝票 → シミュレート

結果: 理由コード Z##を使用して残余明細が消し込まれます。

伝票をチェックします。明細をダブルクリックして、データを照会または変更します。

次へ

“転記”を選択して伝票を保存します。伝票番号を書き留めてください。

→ **注記:** 以下の作業が終了しました。

- 支払差額理由コードの登録
- 差額のある入金の転記
- 残余明細の登録
- 支払差額理由コードの割当



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 支払過不足の転記
- 許容範囲グループとその支払差額転記における役割の説明
- 一部入金/支払と残余明細の転記
- 支払差額理由コードの登録と使用

## レッスン：換算差損益

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- システムでの換算差損益の処理方法の説明

### ビジネスシナリオ

会社は、海外を拠点とする多数の仕入先と取引を行っています。会計管理部門は、会計管理での実現換算差損益の把握を望んでいます。

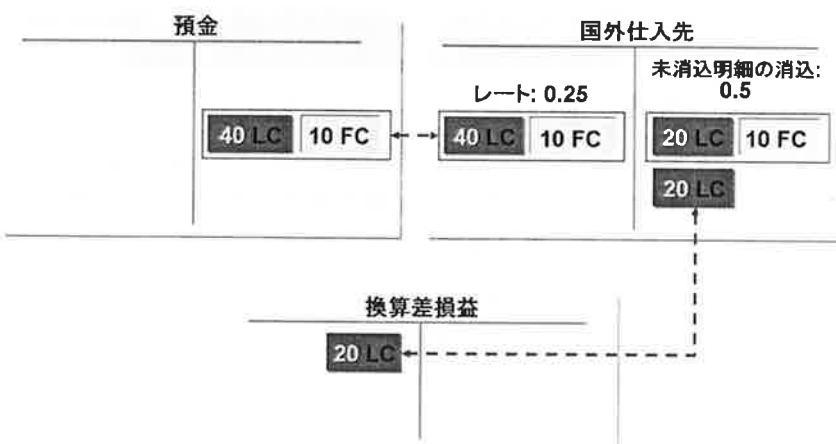


図 149: 実現換算差損益

外貨建の未消込明細を消し込む場合、換算レートの変動によって換算差損益が生じることがあります。

これらの**換算差損益**は、実現換算差損益として自動的に転記されます。

これらの差損益は、設定時に定義した換算差損益用の収益/費用勘定に自動的に転記されます。これにより、入力ミスを回避することができます。

この実現換算差損益は、消込済明細に保存されます。

換算差損益は、貸借対照表作成時に未消込明細を評価する際にも転記されます。この評価による換算差損益は、評価用の換算差損益勘定と貸借対照表調整勘定に転記されます。評価済の未消込明細を消し込むと、貸借対照表調整勘定が反対仕訳され、残りの換算差損益が実現換算差損益勘定に転記されます。

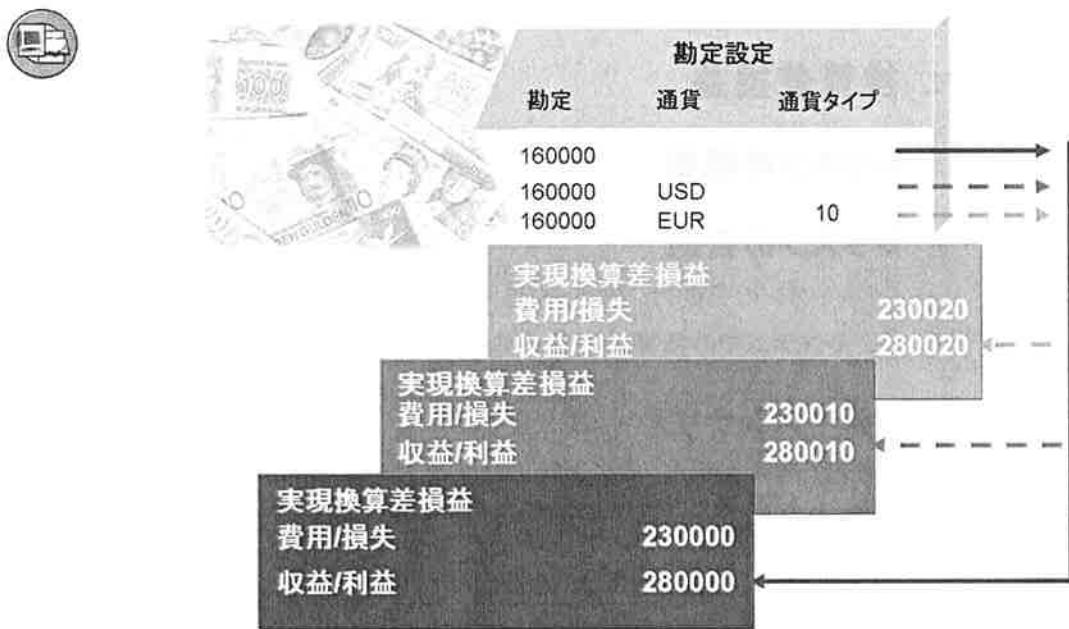


図 150: 勘定設定

外貨建の未消込明細を処理するすべての統制勘定と G/L 勘定に対して、実現換算差損益用の収益/費用勘定を割り当てる必要があります。

1 つの収益/損失勘定は、次のように割り当てるすることができます。

- すべての通貨と通貨タイプ
- 通貨および通貨タイプ別
- 通貨別
- 通貨タイプ別

## 演習問題 24: 換算差損益

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ・ 換算差損益の基本の説明

### ビジネスシナリオ

会社の管理部門は、外国からの商品の購入を検討しており、発生する換算差損益を転記したいと考えています。

#### タスク 1:

正誤問題

1. SAP ERP システムでは、換算差損益は自動的に生成されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
2. 換算差損益用の G/L 勘定を定義する必要があります。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

#### タスク 2:

次の質間に答えてください。

1. 換算差損益用の G/L 勘定の設定方法をいくつか挙げてください。

---

---

---

---

## 解答 24: 換算差損益

### タスク 1:

正誤問題

- SAP ERP システムでは、換算差損益は自動的に生成されます。

**解答:** 正

外貨建の未消込明細を消し込む場合、換算レートの変動によって換算差損益が生じることがあります。これらの差損益は、実現収益または損失として自動的に転記されます。

- 換算差損益用の G/L 勘定を定義する必要があります。

**解答:** 正

これらの差損益は、収益/費用勘定に自動的に転記されます。このため、設定時にこれらの勘定を定義する必要があります。

### タスク 2:

次の質問に答えてください。

- 換算差損益用の G/L 勘定の設定方法をいくつか挙げてください。

**解答:** すべての通貨および通貨タイプに单一 G/L 勘定を使用することができます。

- 通貨および通貨タイプごとに単一 G/L 勘定を使用することができます。
- 通貨ごとに単一 G/L 勘定を使用することができます。
- 通貨タイプごとに単一 G/L 勘定を使用することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- システムでの換算差損益の処理方法の説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 消込プロセスの説明
- 勘定消込
- 消込転記
- 入金と支払の転記
- 消込の再登録
- 支払過不足の転記
- 許容範囲グループとその支払差額転記における役割の説明
- 一部入金/支払と残余明細の転記
- 支払差額理由コードの登録と使用
- システムでの換算差損益の処理方法の説明

# 6 章

## 小口現金出納帳

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 小口現金出納帳の登録と G/L 勘定の割当
- 会計取引タイプの説明
- 会計取引の登録
- 小口現金出納帳への会計取引の保存と転記

### 章の内容

レッスン: 小口現金出納帳の設定 .....	360
演習問題 25: 小口現金出納帳の設定および取引の登録 .....	365
レッスン: 小口現金出納帳取引 .....	372
演習問題 26: 小口現金出納帳のその他の取引 .....	375

## レッスン: 小口現金出納帳の設定

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 小口現金出納帳の登録と G/L 勘定の割当
- ・ 会計取引タイプの説明
- ・ 会計取引の登録

### ビジネスシナリオ

会計管理部門は、小口現金出納帳を処理するための特別な仕訳勘定を必要としています。この勘定への転記が自動的に行われるよう設定します。

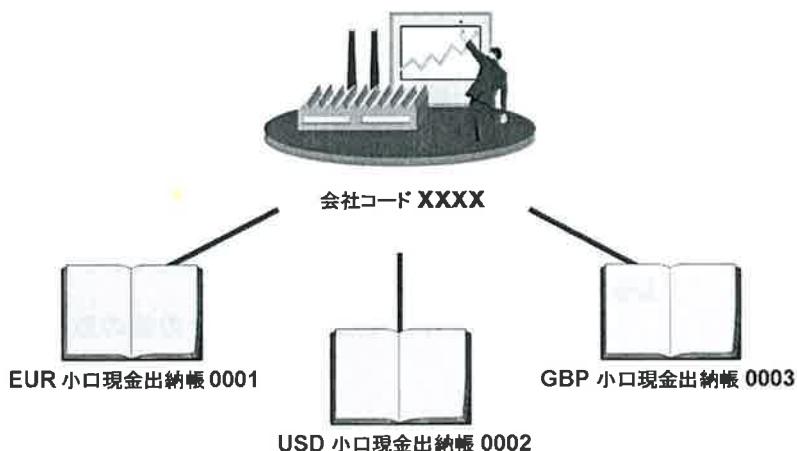


図 151: 小口現金出納帳の割当

小口現金出納帳は、R/3 リリース 4.6 で導入された現金管理ツールです。小口現金出納帳は、現金受領と現金支払をサポートしています。

このツールは以下のように使用できます。

- ・ **通貨ごとに個別の小口現金出納帳を使用**
- ・ 得意先コード、仕入先コード、および G/L 勘定への転記
- ・ **各会社コードで複数の小口現金出納帳を使用**
- ・ 小口現金出納帳 ID として任意の番号を選択 (4 文字の英数字キー)

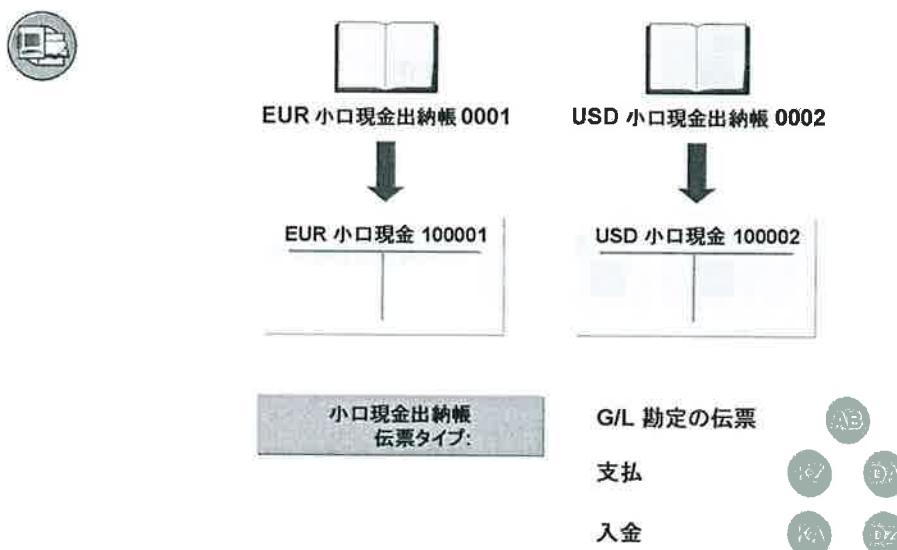


図 152: 小口現金出納帳の設定

会社コードに新たに小口現金出納帳を設定するには、以下の項目に適切な値を入力する必要があります。

- 小口現金出納帳を使用する会社コード
- 小口現金出納帳の4桁のIDと名称
- 小口現金出納帳取引を転記するG/L勘定
- 小口現金出納帳で使用する通貨
- 以下で使用する伝票タイプ
  - 一般転記
  - 仕入先への支払
  - 仕入先からの入金
  - 得意先への支払
  - 得意先からの入金

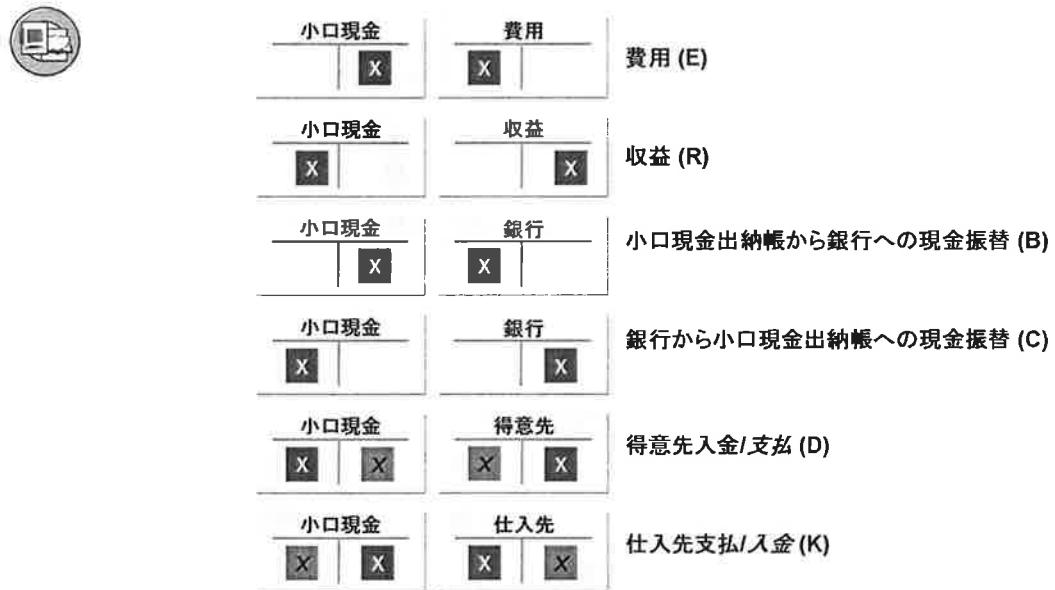


図 153: 取引タイプ

小口現金出納帳では、会計取引タイプを使用して事前に設定したさまざまな取引を処理します。標準会計取引タイプとその仕訳を以下に示します。

- **費用 (E)**  
費用/小口現金
- **収益 (R)**  
小口現金/収益
- **現金振替:**
- **小口現金出納帳から銀行へ (B)**  
銀行/小口現金
- **銀行から小口現金出納帳へ (C)**  
小口現金/銀行
- **得意先 (D)**  
得意先入金 小口現金/得意先  
得意先支払 得意先/小口現金
- **仕入先 (K)**  
仕入先支払 仕入先/小口現金  
仕入先入金 小口現金/仕入先



図 154: 会計取引の登録

小口現金出納帳自身およびカスタマイジング (IMG) の 2 カ所で、新しい小口現金出納帳取引を定義することができます。会計取引に名称を指定する際、会計取引の種類に応じて命名することができます。たとえば、現金売上の転記を登録する会計取引には“現金売上”という名称を割り当てることができます。

会計取引を登録するには、以下の設定を行います。

- 会計取引を登録する会社コード。
- 取引タイプ (注記: 会計取引タイプ D および K の G/L 勘定項目には入力することができません)。
- 会計取引 (E (費用) および R (収益)) の税コードを指定します。
- 会計取引タイプ E, R, C, および B については、伝票の入力時に会計取引の G/L 勘定の変更を可能にするフラグを設定することができます。この場合、G/L 勘定は初期値扱いになります。
- 会計取引タイプ E と R については、伝票の入力時に会計取引の税コードの変更を可能にするフラグを設定することができます。税コードが定義されていない場合は、伝票の登録時に指定する必要があります (勘定で必須の場合)。
- 会計取引を保存すると、自動的に番号が割り当てられます。伝票入力時に、会計取引をその取引名または番号によって呼び出すことができます。
- 会計取引の転記をロックするフラグを設定することができます。



## 演習問題 25: 小口現金出納帳の設定および取引の登録

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 小口現金出納帳の設定
- 小口現金出納帳の取引の登録

### ビジネスシナリオ

将来、会社では、小口現金出納帳機能を使用して現金取引をマッピングしたいと考えています。そこで、小口現金出納帳および必要な取引を設定する必要があります。

### タスク 1:

カスタマイジングで、各自の会社コードに対する小口現金出納帳の設定を行います。

1. コースで使用される通貨を使用して、各自の会社コードに小口現金出納帳 20## を登録します。小口現金出納帳に対して、すでに G/L 勘定が登録されています (100010 小口現金 (小口現金出納帳あり))。一般転記に “AB”、仕入先支払/入金に “KZ”、得意先支払/入金に “DZ” の伝票タイプを使用します。この小口現金出納帳に “現金 ##” という名称を付けて、小口現金出納帳伝票の番号範囲 01 が登録されているかどうかを確認します。

### タスク 2:

小口現金出納帳の取引の設定

1. 各自の会社コードで、取引 “現金受領” を登録します。適切な取引タイプを選択し、銀行へのこの活動の転記には G/L 勘定 113100 を使用します。  
もう 1 つの取引 “事務用品の現金仕入” を登録します。この取引では、G/L 勘定および税コードがアプリケーションで変更可能である必要があります (事務用品勘定 476000、税コード 1I)。  
さらに取引 “広告商品の現金仕入” を登録します (勘定 477100、税コード 1I)。この取引でも、G/L 勘定および税コードがアプリケーションで変更可能である必要があります。
2. 銀行勘定 (利益センタ PR##) から小口現金 1000 円を引き出します。エントリをローカルで小口現金補助元帳に保存します。照会期間の残高照会をチェックします。保存した小口現金出納帳エントリを G/L 勘定に転記し、会計伝票をチェックします。

次へ

事務用品の購入で、小口現金から 120 円を引き出します(原価センタ COCE##)。最初に小口現金出納帳にローカルで、次に総勘定元帳で金額を転記します。

## 解答 25: 小口現金出納帳の設定および取引の登録

### タスク 1:

カスタマイジングで、各自の会社コードに対する小口現金出納帳の設定を行います。

1. コースで使用される通貨を使用して、各自の会社コードに小口現金出納帳 20## を登録します。小口現金出納帳に対して、すでに G/L 勘定が登録されています (100010 小口現金 (小口現金出納帳あり))。一般転記に “AB”、仕入先支払/入金に “KZ”、得意先支払/入金に “DZ” の伝票タイプを使用します。この小口現金出納帳に “現金 ##” という名称を付けて、小口現金出納帳伝票の番号範囲 01 が登録されているかどうかを確認します。

- a) 小口現金出納帳を登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 銀行関連会計 → 取引 → 小口現金出納帳 → 設定: 小口現金出納帳

“新規エントリ”を選択して、以下の情報を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
小口現金出納帳番号	20##
勘定コード	100010 (小口現金 (小口現金出納帳あり))
通貨	国内通貨
伝票タイプ: 一般転記	AB
一般支払転記の伝票タイプ	空白のまま
伝票タイプ: 仕入先への支払	KZ
伝票タイプ: 仕入先からの入金	KZ
伝票タイプ: 得意先からの入金	DZ
伝票タイプ: 得意先への支払	DZ
分割区分	空白のまま
名称	現金 ##

“保存”を選択します。

番号範囲間隔 01 が事前定義されているかどうかを確認します。

次へ

IMG: 財務会計 → 銀行関連会計 → 取引 → 小口現金出納帳 →  
定義: 小口現金出納帳伝票の番号範囲間隔

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##

“番号範囲照会”を選択します。

番号範囲間隔 01 が事前定義されていない場合は、以下のようにします。

“番号範囲変更”を選択します。

“間隔挿入”を選択します。

項目名またはデータ型	値
番号	01
開始	0 000 000 001
終了	0 000 999 999

挿入を選択します。

“保存”を選択します。

番号範囲移送に関する情報メッセージが表示されたら、“ENTER”を選択します。

## タスク 2:

### 小口現金出納帳の取引の設定

- 各自の会社コードで、取引 “現金受領” を登録します。適切な取引タイプを選択し、銀行へのこの活動の転記には G/L 勘定 113100 を使用します。

もう 1 つの取引 “事務用品の現金仕入” を登録します。この取引では、G/L 勘定および税コードがアプリケーションで変更可能である必要があります (事務用品勘定 476000、税コード 1I)。

さらに取引 “広告商品の現金仕入” を登録します (勘定 477100、税コード 1I)。この取引でも、G/L 勘定および税コードがアプリケーションで変更可能である必要があります。

- 小口現金出納帳の取引を登録します。

IMG: 財務会計(新規) → 銀行関連会計 → 取引 → 小口現金出納帳 → 登録/変更/削除: 取引

“新規エントリ”押ボタンを選択して、以下の情報を入力します。

次へ

項目名またはデータ型	値
現金受領の取引	
会社コード	GR##
取引タイプ <sup>¶</sup>	C
G/L 勘定	113100
取引名	銀行から出納帳への振替 ##
事務用品の現金仕入の取引	
会社コード	GR##
取引タイプ <sup>¶</sup>	E (費用)
G/L 勘定	476000
税コード	11 (仮払消費税 - コース 10%)
取引名	事務用品の現金仕入 ##
勘定変更可	フラグを設定
税コード変更可	フラグを設定
広告商品の現金仕入の取引	
会社コード	GR##
取引タイプ <sup>¶</sup>	E (費用)
G/L 勘定	477100
税コード	11 (仮払消費税 - コース 10%)
取引名	広告商品の現金仕入 ##
勘定変更可	フラグを設定
税コード変更可	フラグを設定

“保存”を選択します。

2. 銀行勘定(利益センタ PR##)から小口現金 1000 円を引き出します。エントリをローカルで小口現金補助元帳に保存します。照会期間の残高照会をチェックします。保存した小口現金出納帳エントリを G/L 勘定に転記し、会計伝票をチェックします。

次へ

事務用品の購入で、小口現金から 120 円を引き出します(原価センタ COCE##)。最初に小口現金出納帳にローカルで、次に総勘定元帳で金額を転記します。

- a) 小口現金出納帳における取引の入力:

*SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 銀行 → 入金 → 小口現金出納帳*

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
小口現金出納帳	20##

“続行”を選択します。

小口現金出納帳に現金振替を入力します。

“現金受領”タブを選択して、以下の情報を入力します。

項目名またはデータ型	値
取引	銀行から出納帳への振替##
金額	1,000 円
テキスト	小口現金出納帳への現金振替
利益センタ	PR##

“保存”を選択します。

小口現金出納帳に費用を入力します(税管轄コードのない会社コードに対してのみ)。

タブページ“現金支払”を選択して、以下の情報を入力します。

項目名またはデータ型	値
取引	事務用品の現金仕入##
金額	120 円
テキスト	購入した事務用品の現金
原価センタ	COCE##

“保存”を選択します。

エントリを補助元帳に保存して、これを同時に総勘定元帳に転送するには、“転記”ボタンを選択します。会計伝票を照会するには、取引を選択して、ジャンプ→FI 後続伝票を選択します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 小口現金出納帳の登録とG/L勘定の割当
- 会計取引タイプの説明
- 会計取引の登録

## レッスン: 小口現金出納帳取引

### レッスンの概要

このレッスンでは、小口現金出納帳に会計取引を転記する方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 小口現金出納帳への会計取引の保存と転記

### ビジネスシナリオ

この部門では、現在もさまざまな種類の取引を現金で処理しています。このような取引を現場で保存し、総勘定元帳への転記/振替を日次で行う必要があります。

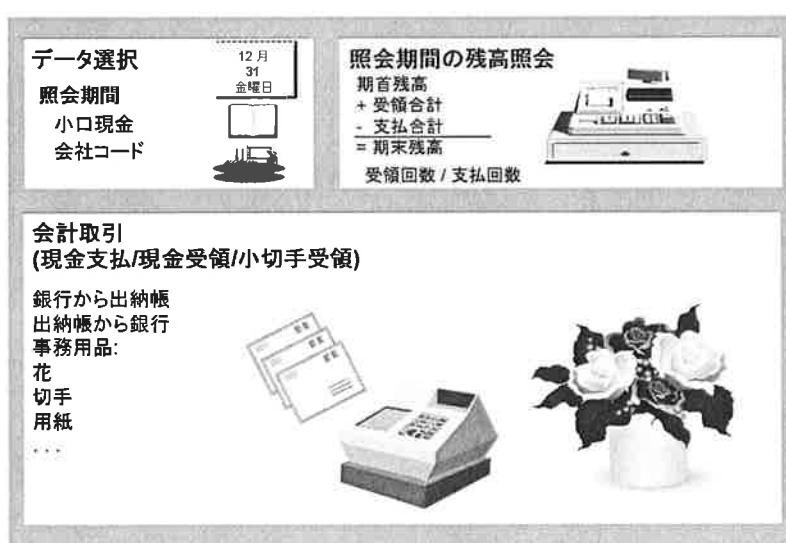


図 155: 小口現金出納帳での会計取引の転記

小口現金出納帳は、単一画面で処理できる Enjoy ランザクションの 1 つです。この画面で、小口現金出納帳への入力、照会、および変更を行うことができます。

小口現金出納帳への入力を小口現金補助元帳のみに保存したり、コピーまたは削除したりすることができます。保存された小口現金出納帳の入力内容は、たとえば 1 日の終わりなどに総勘定元帳に転記します。

保存した小口現金出納帳の入力内容(受領)を印刷することができます。また、照会期間に転記された小口現金出納帳への入力内容も印刷することもできます。印刷書式の選択は、カスタマイジングで行います。

小口現金出納帳から転記された後続伝票が表示されます。

転記された小口現金出納帳の入力をコピーおよび削除したり、削除した小口現金出納帳の入力内容を照会したりすることもできます。

リリース 4.6C 以降は、小口現金出納帳に小切手も入力できるようになりました。

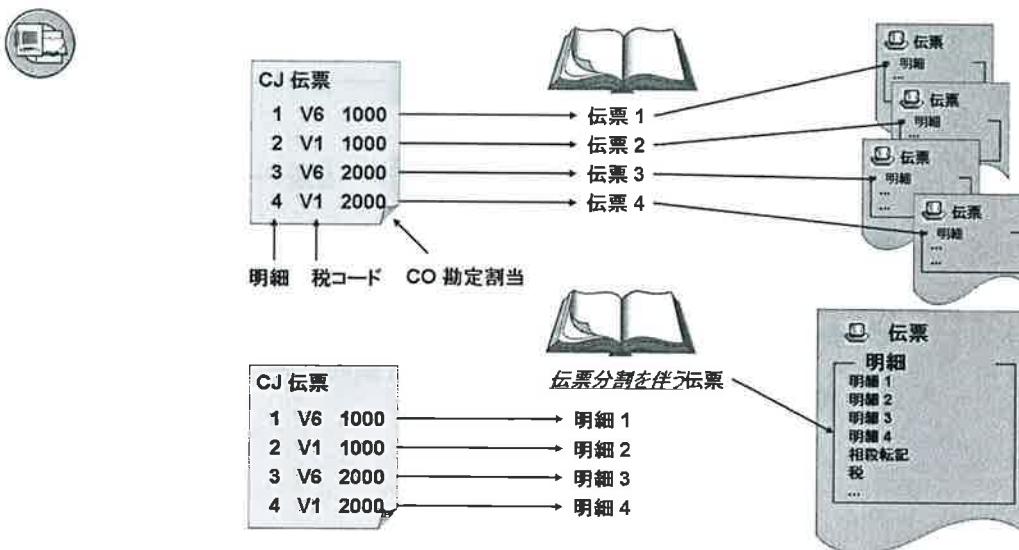
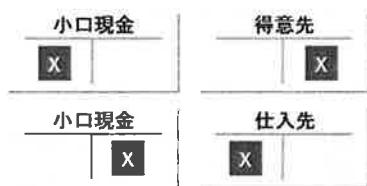


図 156: 伝票分割を伴う小口現金出納帳伝票

SAP システムでは、**伝票分割**を使用して小口現金出納帳伝票を入力することができます。つまり、1つの小口現金出納帳伝票に、税コードや管理会計の勘定割当が異なる複数の明細を含めることができます。このような小口現金出納帳伝票が財務会計に転送されると、1つの会計伝票のみが登録されます。



## マスタレコードを使用した得意先/仕入先転記



## ワンタイム勘定への得意先/仕入先転記

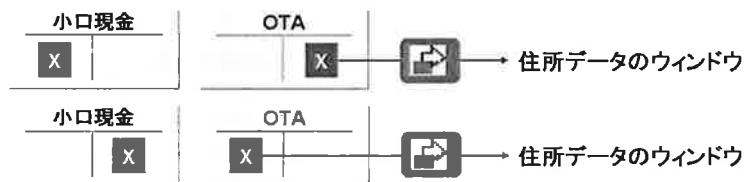


図 157: ワンタイム勘定を含む小口現金出納帳伝票

小口現金出納帳で、ワンタイム勘定に関連した会計取引を入力することができます。小口現金出納帳でワンタイム勘定を使用すると、ワンタイムデータを入力するためのダイアログボックスが自動的に呼び出され、入力値が小口現金出納帳に保存されます。

## 演習問題 26: 小口現金出納帳のその他の取引

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 伝票分割を使用した現金支払の転記
- 小口現金出納帳を使用した、ワンタイム仕入先との取引の処理

### ビジネスシナリオ

事務用品および広告商品の購入に対して現金での支払を行います。

得意先は、応接エリアに用意されているお菓子を気に入っています。お菓子がなくならないように、定期的にさまざまな週市で購入しています。担当部門は、小規模な仕入先からのお菓子の現金仕入取引を小口現金出納帳にワンタイムビジネスパートナとして記録したいと考えています。

#### タスク 1:

取引は、小口現金出納帳アプリケーションで入力および転記されます。まず、事務用品および広告商品の調達に対して現金での支払を行います。

- オプション: 他の現金支払も小口現金出納帳により行われます。100 単位(国内通貨)が“事務用品の現金仕入”に、200 単位(国内通貨)が“広告商品の現金仕入”に転記されます。どちらの活動も、原価センタ COCE01 に転記されます。入力および転記を実行します(伝票分割)。

#### タスク 2:

ワンタイム仕入先のマスタレコードを登録して、取引を転記します。

- 各自の会社コードで、ワンタイム仕入先の勘定を登録します。テンプレートとして、会社コード 1000 の仕入先 1960 を使用します。
- お菓子の現金仕入の会計取引を 50 通貨単位の金額で入力します。この取引には、訪問販売員 Mr. S. Ugar から購入した品質クラス A のお菓子が含まれています。この訪問販売員の住所は、Sweet Street 11, Candytown (郵便番号 12345) です。既存の取引を使用します。まず、小口現金出納帳にこの取引を保存します。次に、この取引を転記して、会計伝票を確認します。

## 解答 26: 小口現金出納帳のその他の取引

### タスク 1:

取引は、小口現金出納帳アプリケーションで入力および転記されます。まず、事務用品および広告商品の調達に対して現金での支払を行います。

1. オプション: 他の現金支払も小口現金出納帳により行われます。100 単位(国内通貨)が“事務用品の現金仕入”に、200 単位(国内通貨)が“広告商品の現金仕入”に転記されます。どちらの活動も、原価センタ COCE01 に転記されます。入力および転記を実行します(伝票分割)。
- a) 小口現金出納帳における取引の入力:

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 銀行 → 入金 → 小口現金出納帳

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
小口現金出納帳	20##

“続行”ボタンを選択します。

タブページ“現金支払”を選択して、以下の情報を入力します。

項目名またはデータ型	値
取引名	事務用品の現金仕入 ##
金額	100 単位(国内通貨)

“分割”押ボタンを選択します。

項目名またはデータ型	値
明細 1:	
会計取引	事務用品の現金仕入 ##
金額	100 単位(国内通貨)
原価センタ	COCE##
明細 2:	
取引	広告商品の現金仕入 ##
金額	200 単位(国内通貨)
原価センタ	COCE##

次へ

コピー押ボタンを選択します。

保存押ボタンを選択します。

転記押ボタンを選択します。

転記した明細を選択し、後続伝票押ボタンをクリックして、会計伝票を選択します。

エントリを補助元帳に保存して、これを同時に総勘定元帳に転送するには、“転記”ボタンを選択します。会計伝票を照会するには、取引を選択して、ジャンプ→FI 後続伝票を選択します。

## タスク 2:

ワンタイム仕入先のマスタレコードを登録して、取引を転記します。

- 各自の会社コードで、ワンタイム仕入先の勘定を登録します。テンプレートとして、会社コード 1000 の仕入先 1960 を使用します。

- ワンタイム仕入先を登録します。

*SAP Easy Access: 会計管理→財務会計→債務管理→マスタレコード→登録*

項目名またはデータ型	値
仕入先	1960
会社コード	GR##

テンプレート

項目名またはデータ型	値
仕入先	1960
会社コード	1000

テンプレート仕入先のデータを受け入れて、保存を選択します。

- お菓子の現金仕入の会計取引を 50 通貨単位の金額で入力します。この取引には、訪問販売員 Mr. S. Ugar から購入した品質クラス A のお菓子が含まれています。この訪問販売員の住所は、Sweet Street 11, Candytown (郵便番号 12345) です。既存の取引を使用します。まず、小口現金出納帳にこの取引を保存します。次に、この取引を転記して、会計伝票を確認します。

次へ

- a) お菓子の現金支払を入力します。

SAP Easy Access: 会計管理 → 財務会計 → 銀行 → 銀行支払  
→ 小口現金出納帳

項目名またはデータ型	値
会社コード	GR##
小口現金出納帳	20##

Enter を選択します。

現金支払タブページを選択します。

項目名またはデータ型	値
取引	仕入先への支払
金額	50
テキスト	お菓子
仕入先	1960

Enter を選択します。

Mr. S. Ugar の住所を入力します。

項目名またはデータ型	値
敬称	Mr.
名称	S. Ugar
地名	11 Sweet Street
郵便番号	12345
市区町村	Candytown

Enter を選択します。

保存押ボタンを選択します。

転記押ボタンを選択します。

後続伝票押ボタンを選択して、転記伝票を選択します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 小口現金出納帳への会計取引の保存と転記



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- ・ 小口現金出納帳の登録とG/L勘定の割当
- ・ 会計取引タイプの説明
- ・ 会計取引の登録
- ・ 小口現金出納帳への会計取引の保存と転記

# 7 章

## 後続の内容: 追加のトピック

### 章の概要



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ・ 新総勘定元帳における“配分”と“計画”という用語の理解
- ・ “元帳グループ”という用語の理解

### 章の内容

レッスン: 新総勘定元帳のその他のトピック ..... 382

## レッスン: 新総勘定元帳のその他のトピック

### レッスンの概要

- 計画
- 配分



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 新総勘定元帳における“配分”と“計画”という用語の理解
- “元帳グループ”という用語の理解

### ビジネスシナリオ



**SAP ERP ソリューション**を使用して、たとえば FI で利益センタの配分(配賦または付替、あるいはその両方)を実行することができます(CO のみではありません)。

#### FI で配分が必要な理由

新総勘定元帳では利益センタ会計もモデル化することができるため、たとえば期間の終了時にある利益センタ(集計利益センタやダミー利益センタなど)から別の利益センタに利益センタ金額(収益や残高など)を付け替える場合などに、配分が必要になります。

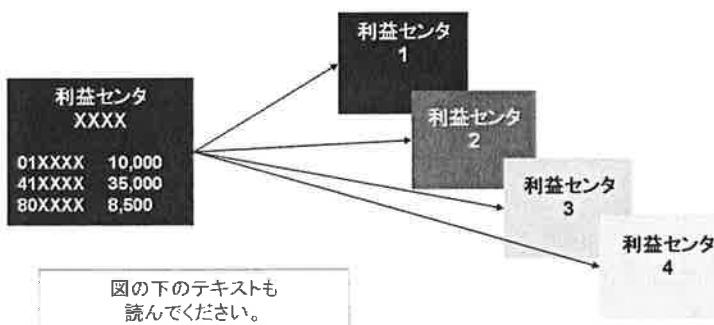


図 158: 実績配分

配分の一般的な期末処理では、以下のようなステップが実行されます(配分順序)。

- (従来と同様) **CO** における原価センタの配分
- **FI** での期末処理(外貨評価)
- **FI** での利益センタ(またはセグメント)の配分



**注意:** たとえば、原価センタに“トランザクション”は存在しなくなりました。対応する利益センタに複数のセグメントが割り当てられている場合は、それらのセグメントに対しても配分が実行されます。

新総勘定元帳が有効である場合、さまざまなコンポーネントの配分は、FI にどのように統合されていますか。

- **CO-OM** における実績配分: CO から FI へのリアルタイム統合が有効な場合、変更内容は、New G/L でも更新されます。
- 従来の利益センタ会計での実績配分: FI への更新は行われません。純粋な EC-PCA 伝票が登録されます。
- 新総勘定元帳における実績配分: 他のコンポーネントには統合されません。純粋な FI 伝票が登録されます。

値(たとえばデフォルトの利益センタの値)が、配賦(配賦勘定を使用)または付替(元の勘定を使用)を使用して、対象オブジェクトに対して決済されます。これは、**周期セグメント技法**のセンダ/レシーバ関係を使用して行われます。



通常、転記伝票は、最初はすべての元帳に表示されます。

1つまたは選択した元帳のみ(たとえばパラレル会計の場合など)で修正仕訳および調整転記を行うことができるよう、2つの特別なトランザクションが用意されています。

■ FB01L

■ FB50L →

GL Account	Debit Field	Credit Field	Amount in GL Acct	Amount in Journal	T-Account Code	Wk Assignment No.
			2,00	2,00		
			1,00	1,00		
			0,50	0,50		
			0,25	0,25		
			0,10	0,10		
			0,05	0,05		
			0,02	0,02		
			0,01	0,01		

元帳グループ項目では、特定の元帳(元帳OL、N1など)、または元帳グループ(N99など)を入力することができます。

注意: この項目を空白にすると、すべての元帳に(再度)転記されます。

図 159: 元帳グループ - 新しいトランザクション

新総勘定元帳の複数元帳アプローチを使用する場合、価額差異は異なる勘定ではなく、同じ勘定の異なる元帳を使用して示されます。たとえば、固定資産管理、外貨評価、または資金引当では、パラレル決算報告において価額差異が発生します。

価額差異は元帳にどのように転記されますか。

特定の元帳の勘定は、元帳グループというオブジェクトを使用して参照されます。ほとんどの取引は、すべての元帳に転記されます。これらの伝票(請求書や支払など)に対しては、元帳グループは指定されません。ただし、価額差異が存在する場合には、カスタマイジングで割当を行うことによって決算処理プログラム(償却記帳実行、外貨評価など)で適切な元帳グループが割り当てられるか、または別のトランザクションを使用してマニュアルで元帳グループを指定します。これらの場合には、その元帳グループの元帳にのみ値が転記されます。

(講師のメモ) メニューパス: カスタマイジング → 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 定義: 元帳グループ

これは、1:n 関係になっています。つまり、元帳グループには 1 つ以上の元帳を割り当てることができます。



新総勘定元帳では利益センタ会計を表現することができるため、  
計画データを入力したいと考えています。

**注意:** 利益センタ計画データ以外にも、FI の他の特性  
(セグメントや機能領域など) も計画することができます。

このことを行うには、特定の設定 (ほとんどはカスタマイジングの設定) を(一度) 実行する必要があります。

- 集計テーブル FAGLFLEXT の有効化 (計画用)
- 計画レイアウトのインポート (クライアント 000 から) (=> New G/L での計画用に、計画レイアウト OFAGL... が用意されています。詳細については、次のスライドを参照してください。)
- 計画プロファイル設定 (SAPFAGL)
- 提供されていない場合は、計画伝票タイプ (P0 など) および対応する番号範囲 (会社コードごとの登録 - 注意: この設定は、(この伝票タイプで) 計画明細を入力しない場合にも必要となります。)
- 計画バージョンの定義 - 履歴上の観点からは、FI には計画バージョン 1 を使用することが理にかなっています。CO との計画統合 (このコースの後の方で説明します) では、FI と CO との計画バージョンを同じ名称にする必要があるため、バージョン 0 を使用することをお奨めします。
- 会計年度への計画バージョンの割当\*

=> これで、計画データを集計テーブル FAGLFLEXT に保存することができるようになります。また、計画データを (FI で) 入力することができるようになりました。アプリケーション: 総勘定元帳 → 定期処理 → 計画 → 計画値 → 入力 (新規)

図 160: 計画 (FI)

**集計テーブルの有効化:** カスタマイジング → 財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 計画 → 技術ヘルプ → インストール: 集計テーブル

**計画レイアウトのインポート:** カスタマイジング → 財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 計画 → 技術ヘルプ → インポート: 計画レイアウト

**計画プロファイルの設定:** アプリケーション → 総勘定元帳 → 定期処理 → 計画 → 定義: 計画プロファイル

**計画伝票タイプの登録:** カスタマイジング → 財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 計画 → 定義: 計画の伝票タイプ

**計画バージョンの定義:** カスタマイジング → 財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 計画 → 計画バージョン → 定義: 計画バージョン

**会計年度への計画バージョンの割当:** カスタマイジング → 財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 計画 → 計画バージョン → 会計年度依存バージョンパラメータ → 割当/有効化: 計画バージョン-> 会計年度

新総勘定元帳における計画のトランザクションコードは GP12N です。

\* この後、別のステップで、計画明細の書込を定義または有効化することができます。詳細については、このコースの後の方で説明します。

**計画および配分のトピックについては、コース AC612 利益センタ会計により  
詳細に説明します。**



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 新総勘定元帳における“配分”と“計画”という用語の理解
- “元帳グループ”という用語の理解



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 新総勘定元帳における“配分”と“計画”という用語の理解
- “元帳グループ”という用語の理解



## コースのまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計の組織単位の登録
- マスターデータの更新
- 転記処理の入力の制御
- 転記処理の分析と説明

# 付録 1

## メニュー・パス

章: 基本設定	トランザクションコード
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → SAP NetWeaver → 一般設定 → 通貨	
チェック: 通貨コード	OY03
設定: 通貨の小数点以下桁数	OY04
定義: 換算レートの標準呼び値	ONOT
入力: 直接/間接呼び値の換算レート接頭辞	OPRF
チェック: 換算レートタイプ	OB07
定義: 外貨換算の換算比率	OBBS
入力: 換算レート	OB08
更新: 換算レートスプレッド	OBD6
定義: 通貨丸めルール	OB90
定義: 換算レート入力ワークリスト	
割当: 換算レート → ワークリスト	
→ 企業構造 → ローカライズ: サンプル組織ユニット	O035
→ 企業構造 → 定義 → 財務会計	

章: 基本設定	トランザクションコード
会社の定義	
編集/コピー/削除/チェック: 会社コード	EC01
定義: 事業領域	
定義: セグメント	
→ 企業構造 → 割当 → 管理会計	
管理領域に対する会社コードの割当	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間	
更新: 会計年度バリアント(短縮会計年度更新)	OB29
割当: 会社コード -> 会計年度バリアント	OB37

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → 準備	
更新: 勘定コード表一覧	OB13
割当: 会社コード -> 勘定コード表	OB62
定義: 勘定グループ	OBD4
定義: 損益繰越勘定(未処分利益勘定)	OB53
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → 準備 → 追加処理	
定義: 処理別の画面レイアウト	OB26

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → G/L 勘定登録/処理	
参照登録: G/L 勘定	OB_GLACC01
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → G/L 勘定登録/処理 → G/L 勘定一括変更	
変更: 勘定コード表データ	OB_GLACC11
変更: 会社コードデータ	OB_GLACC12
変更: 勘定名	OB_GLACC13
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → G/L 勘定登録/処理 → 編集: G/L 勘定(個別処理)	
共通編集: G/L 勘定	FS00
編集: 勘定コード表データ	FSP0
編集: 会社コードデータ	FSS0
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → マスタデータ → G/L 勘定 → G/L 勘定登録/処理 → 代替方法 → G/L 勘定コピー	
コピー: 勘定コード表	OBY7
コピー: 会社コード	OBY2
→ 企業構造 → 定義 → 財務会計	
定義: セグメント	
SAP Easy Access: → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → マスタレコード → 利益センター → 個別処理	
登録	KE51

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
アプリケーション: → 会計管理→ 管理会計→ 原価センタ会計→ マスタデータ→ 原価センター→ 個別処理	
登録	
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 得意先コード → マスタデータ → 得意先マスタデータ登録準備	
定義: 得意先勘定グループ/画面レイアウト	OBD2
定義: 会社コード別の画面レイアウト(得意先)	OB21
定義: 処理別の画面レイアウト(得意先)	OB20
登録: 得意先コードの番号範囲	XDN1
割当: 番号範囲 -> 得意先勘定グループ	OBAR
定義: 二重管理の要承認項目(得意先)	(V_T055F)
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備	
定義: 仕入先勘定グループ/画面レイアウト	OBD3
定義: 会社コード別の画面レイアウト(仕入先)	OB24
定義: 処理別の画面レイアウト(仕入先)	OB23
登録: 仕入先コードの番号範囲	XKN1
割当: 番号範囲 -> 仕入先勘定グループ	OBAS
定義: 二重管理の要承認項目(仕入先)	(V_T055F)

章: 伝票管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド(IMG) → 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 会計年度および会計期間	
定義: 会計期間バリアント	
G/L 勘定割当オブジェクトによる会計期間オープン/クローズ	
会計期間オープン/クローズ	
割当: バリアント->会社コード	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票番号範囲 → 入力ビューの伝票	
定義: 入力ビューの伝票番号範囲	FBN1
会社コードへのコピー	OBH1
会計年度へのコピー	OBH2
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票タイプ	
定義: 入力ビューの伝票タイプ	OBA7
定義: 元帳の入力ビューの伝票タイプ	
定義: 総勘定元帳ビューの伝票タイプ	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票	
定義: 転記キー	OB41
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 項目	
定義: 項目ステータスバリアント	(V_T004F)
割当: 会社コード->項目ステータスバリアント	OBC5

章: 伝票管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 許容範囲グループ	
定義: 従業員の許容範囲グループ	OBA4
割当: ユーザ -> 許容範囲グループ	OB57
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 仕入先請求書/クレジットメモ → 仕入先請求書/クレジットメモ - Enjoy	
定義: Enjoy トランザクションの伝票タイプ	OBZO
定義: 税コード(取引別)	OBZT
定義: 仕入先請求書/クレジットメモの転記キー	OBXJ
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 得意先請求書/クレジットメモ → 得意先請求書/クレジットメモ - Enjoy	
定義: Enjoy トランザクションの伝票タイプ	OBZO
定義: 税コード(取引別)	OBZT
定義: 得意先請求書/クレジットメモの転記キー	OBXJ

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 分割	
有効化: 分割	

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 分割	
分類: 分割の G/L 勘定	
分類: 分割の伝票タイプ	
拡張伝票分割 → 定義: 取引バリアント	
拡張伝票分割 → 定義: 分割ルール	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票変更ルール	
伝票変更ルール - 伝票ヘッダ	
伝票変更ルール - 明細	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 会社コードのグローバルパラメータ → 通貨 → 換算差損益上限	
定義: 会社コード別の換算差損益上限	
定義: 通貨別の換算差損益上限	
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票	
定義: 明細テキスト	OB56
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 初期値	
定義: 初期値	OBU1
有効化: 会計年度初期値提案	OB63
起算日初期値	OB68
変更: 伝票処理のメッセージ制御	(V_T100C)
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 消費税 → 基本設定	
チェック: 税計算表	OBQ3

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
割当: 国コード -> 税計算表	(V_005_E)
チェック/変更: 税処理設定	OBCN
定義: 税管轄コード構造	OBCO
定義: 税管轄	OBCP
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 消費税 → 計算	
定義: 消費税コード	FTXP
定義: 基準額	OB96
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 消費税 → 転記	
定義: 税勘定	OB40
定義: 換算差損益転記勘定	OBYY
割当: 非課税取引の税コード	OBCL
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引	
準備: 会社コード間取引	OBYA
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 仕入先請求書/クレジットメモ	
更新: 支払条件	OBB8
定義: 分割支払の支払条件	OBB9
定義: 仕入先請求書の現金割引基準	OB70
定義: 正味額転記勘定	OBXA
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払 → 銀行支払共通設定	
定義: 現金割引勘定	OBXU

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
定義: 失効割引勘定	OBXV
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 得意先請求書/クレジットメモ	
更新: 支払条件	OB8B
定義: 分割支払の支払条件	OB9B
定義: 得意先請求書の現金割引基準	OB70
定義: 得意先請求書の税勘定	OB40
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → 入金共通設定	
定義: 現金割引許可勘定	OBXI
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 調整転記/反対仕訳	
許可: マイナス転記	(V_001_NP)
定義: 反対仕訳理由	(T_041C)
→ 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 管理会計と財務会計のリアルタイム統合	
定義: リアルタイム統合のバリアント	
割当: リアルタイム統合のバリアント -> 会社コード	
アプリケーション: 会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → 実績転記 → 原価のマニュアル再転記	
入力	KB11N

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 未消込明細消込	
定義: 消込転記キー	OBXH
定義: 換算差損益勘定	OB09
準備: 自動消込処理	(V_TF123)
→ 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 取引 → 未消込明細消込 → 差額消込	
定義: G/L 勘定の許容範囲グループ	(T043ST)
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ -> 許容範囲グループ	(V_T043)
登録: 差額決済勘定	OBXZ
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払 → 銀行支払共通設定	
定義: 支払過不足勘定	OBXL
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 丸め差異の勘定	OB00
定義: 銀行手数料勘定(仕入先)	OBXK
定義: 消込転記キー	OBXH
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払 → マニュアル銀行支払	
定義: 許容範囲(仕入先)	OBA3
準備: 会社コード間マニュアル支払	(V_T041B)
チェック: 支払保留理由	(V_T008)

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払 → マニュアル銀行支払 → 支払過不足	
定義: 理由コード(マニュアルでの銀行支払)	(V_T053R)
定義: 支払差額勘定(マニュアル銀行支払)	OBXL
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → 入金共通設定	
定義: 支払過不足勘定	OBXL
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 丸め差異の勘定	OB00
定義: 銀行手数料勘定(得意先)	OBXK
定義: 消込転記キー	OBXH
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → 入金共通設定 → 入金過不足	
定義: 理由コード	(V_T053R)
定義: 支払差額勘定	OBXL
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 入金 → マニュアル入金	
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ -> 許容範囲グループ	(V_T043)
定義: 許容範囲(得意先)	OBA3
準備: 会社コード間マニュアル支払	(V_T041B)

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 未消込明細消込	
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 未消込明細消込の転記キー	OBXH
準備: 自動消込	(V_TF123)
→ 財務会計(新規) → 債権管理および債務管理 → 会計トランザクション → 未消込明細消込 → 差額消込	
定義: 得意先/仕入先の許容範囲	OBA3
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ -> 許容範囲グループ	(V_T043)
定義: 消込差額勘定	OBXL

章: 小口現金出納帳	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計(新規) → 銀行関連会計 → 取引 → 小口現金出納帳	
登録: 小口現金出納帳の G/L 勘定	FS00
定義: 小口現金出納帳の伝票タイプ	OBA7
定義: 小口現金出納帳伝票の番号範囲間隔	FBCJC1
設定: 小口現金出納帳	FBCJC0
登録/変更/削除: 取引	FBCJC2
設定: 小口現金出納帳の印刷パラメータ	FBCJC3

# 付録 2

## 従来の総勘定元帳から新総勘定元帳 (New G/L) への変更点

この付録では、新総勘定元帳に関する追加資料を提供します。この資料は TFIN50 コース自体には含まれていません。

以下の図は、SAP ERP における新総勘定元帳のもっとも重要な利点を簡単にまとめたものです。



SAP ERP ソリューションにより、SAP システムでは、財務会計領域の総勘定元帳に代わる便利な機能が提供されます。

### 新総勘定元帳\* (=> New G/L)

重要な質問: 新総勘定元帳を使用する必要があるのですか。

- 使用するかどうかは、既存のカスタマが自由に選択することができます。  
必ずしも新総勘定元帳の有効化が必要というわけではありません。  
アップグレードしても、従来の総勘定元帳 (⇒ 集計テーブル GLT0) は有効なままになります。  
ただし、新総勘定元帳には、さまざまな利点があります。
- 新規インストールの場合、SAP ERP では、デフォルトで新総勘定元帳が有効化されています。

図 161: 新総勘定元帳 (New G/L)

SAP ノート 756146 でも、新総勘定元帳を使用することの利点についての概要が示されています。

SAP トレーニングコースで新総勘定元帳について学習するには、AC210 (新総勘定元帳 (SAP ERP)) コースおよび AC050 (財務/管理会計のプロセス) コースにご参加ください。

従来の総勘定元帳を使用している場合: 以下のスライドでまとめられている利点が自社にとって不可欠であると判断した場合は、ご使用のシステムの SAP ERP のアップグレードのフォローアッププロジェクトで新総勘定元帳に切り替えることができます。

SAP ERP 2005 には、履歴値を新総勘定元帳に転送するための標準の移行ツールが備えられています。



**SAP ERP ソリューションの新総勘定元帳には、R/3 Enterprise の従来の総勘定元帳と比較して、以下のような利点があります。**

- 新総勘定元帳には、デフォルトで拡張データ構造が含まれています。さらに、総勘定元帳に独自の項目を追加することもできます。
- (リアルタイムの) 伝票分割 (⇒ オンライン分割) により、セグメントなどのエンティティに対する財務諸表を作成することができます。
- 管理会計 (⇒ CO) と財務会計 (⇒ FI) のリアルタイム照合を実行することができます。“CO から FI へのリアルタイム統合”により、時間のかかる照合タスクが不要になります。
- New G/L では、勘定元帳内で複数の元帳を管理することができます。この方法は、SAP システム内でパラレル会計をマッピングするための方法の 1 つです。

図 162: FI-GL (新) の利点 – 新総勘定元帳の 4 本柱

新総勘定元帳を使用すると、以下のことが可能になります。

- 法的外部会計管理に関するあらゆる要件に、1 つのデータセットから対応することができます。
- 伝票分割により、会社コード以外のオブジェクト(利益センタやセグメントなど)に対して勘定の残高処理を行うことができます。
- 財務会計と管理会計が、リアルタイムな統合により双方向に結合されます。
- 新総勘定元帳内の異なる元帳間でパラレル会計を行うことができます。つまり、各勘定単位のみでなく各元帳(ビュー)単位で取引金額を管理することができます。

以降のスライドでは、利点を個別に説明します。

新総勘定元帳を簡単に説明すると、以下のようになります。新総勘定元帳には、従来の総勘定元帳と特別目的元帳を結合した機能が含まれています。



**注意:** 数々の新機能が説明されていますが、データの入力および転記を行うための“インターフェース”は、ユーザの便宜をはかり、ほとんどが旧リリースと同じように維持されています。



データベーステーブルを見ると、データ構造の標準拡張を瞬時に確認することができます。

従来の総勘定元帳 集計テーブル GL70 利用可能な項目選択:			新総勘定元帳 集計テーブル FAGLFLEXT 利用可能な項目選択:		
項目	...	テキスト(短)	項目	...	テキスト(短)
...	...	...	...	...	...
BUKRS	...	会社コード	RYEAR	...	会計年度
RYEAR	...	会計年度	RACCT	...	勘定コード
RACCT	...	勘定コード	COST_ELEM	...	原価要素
RBUSA	...	事業領域	BUKRS	...	会社コード
...	...	...	RCNTR	...	原価センタ
...	...	...	PRCTR	...	利益センタ
...	...	...	RFAREA	...	機能領域
...	...	...	RBUSA	...	事業領域
...	...	...	SEGMENT	...	セグメントレポートのセグメント
...	...	...	...	...	...

図 163: 利点の詳細 - 拡張データ構造

機能領域項目が、総勘定元帳にも保存されるようになりました。これにより、売上原価会計の損益計算書を作成するために、売上原価元帳 OF を有効化する必要がなくなりました。

項目利益センタ(および項目パートナ利益センタ)も総勘定元帳で更新されます。このため、総勘定元帳を使用して管理分析を実行することができます。

SAP ERP Central Component では、総勘定元帳で管理会計の簡易バージョン(=> “CO ライト”)を作成することができます。原価センタと(一次)原価要素のオブジェクトが利用可能になりました。

新規エンティティ(特性/カテゴリ)として、セグメント項目が使用可能になりました。セグメントを使用すると、セグメントレポートを実行することができます。

新総勘定元帳のテーブル構造は、柔軟に拡張することができます。カスタマ項目を追加し、それらの合計を更新することができるようになりました。

標準レポートを、上記のすべての処理のために使用することができます。



### 対象の会計取引:

- 11,000 ユーロ (税 10% を含む) の仕入先請求書があります。
- ただし、この費用を 2 つのセグメントに割り当てる必要があります (または 2 つの原価センタ、2 つの利益センタ、2 つの事業領域)。
- 以下の図は、入力ビューを示しています。

The screenshot shows the SAP Display Document: Data Entry View interface. At the top, there are tabs for Taxes, Display Currency, and General Ledger View. Below the tabs, there is a header row with fields for Document Number (1900000003), Company Code (1000), Fiscal Year (2009), Document Date (02.07.2009), Posting Date (02.07.2009), Period (7), Reference (Cross-CC no.), Currency (EUR), Texts exist (unchecked), and Ledger Group (empty). The main area is a table with columns: Co., Item PK, Account, Description, Amount, Curr., Tx, Functional Area, Cost Center, and Segment. The data rows are:

Co.	Item PK	Account	Description	Amount	Curr.	Tx	Functional Area	Cost Center	Segment
1000	1 31	1000	C E B BERLIN	11.000,00	EUR	11			
1000	2 40	417000	Purchased services	6.000,00	EUR	11 0400	COCE00	SEGA	
1000	3 40	417000	Purchased services	4.000,00	EUR	11 0100	COCE01	SEGB	
1000	4 40	154000	Input tax	1.000,00	EUR	11			

図 164: 利点の詳細 - 伝票分割 (オンライン分割) I

インターフェースの外観およびユーザが会計伝票を入力する方法は、旧リリースの場合とまったく同じです。

当例では、仮払消費税 10% を採用しています。

SAP は、現在、**利益センタ**からのセグメントの誘導をサポートしています。また、利益センタは、原価センタ、CO 内部指図、プロジェクトなどから誘導することができます。



The screenshot shows the SAP Display Document: General Ledger View interface. At the top, there are tabs for Taxes, Display Currency, Entry View, and Other Ledger. Below the tabs, there is a header row with fields for Document Number (1900000003), Company Code (1000), Fiscal Year (2009), Document Date (02.07.2009), Posting Date (02.07.2009), Period (7), Reference (Cross-CC no.), Currency (EUR), Texts exist (unchecked), and Ledger Group (empty). The main area is a table with columns: Doc., Item PK, Account, Description, Amount, Curr., Tx, Functional Area, Cost Center, and Segment. The data rows are:

Doc.	Item PK	Account	Description	Amount	Curr.	Tx	Functional Area	Cost Center	Segment
1900000003									
1000	1 31	160000	AP-domestic	6.600,00	EUR	11			SEGA
1000	2 40	417000	Purchased services	6.000,00	EUR	11 0400			
1000	4 40	154000	Input tax	600,00	EUR	11			
				0,00	EUR				SEGA
1000	1 31	160000	AP-domestic	4.400,00	EUR	11			SEGB
1000	3 40	417000	Purchased services	4.000,00	EUR	11 0100			
1000	4 40	154000	Input tax	400,00	EUR	11			
				0,00	EUR				SEGB
				**	0,00	EUR			

注記: 伝票のレイアウト/表示バリエントは、セグメント列に小計のあるセグメント別に(昇順で)ソートできます。

図 165: 利点の詳細 - 伝票分割 (オンライン分割) II

セグメント特性(またはその他のエンティティ)の一貫した分割が常に行われるよう、**伝票分割**を有効化する必要があります。整合性のあるセグメント管理とは、該当するエンティティの各伝票の“貸借一致”が実現されることです。

上図には、エンティティセグメントがどのように**分割**されるかだけでなく、伝票の仕入先明細と税明細にどのように**継承**されるかについても明確に示されています。

オンライン分割(および継承)では、期末処理活動の“貸借対照表調整”(=> SAPF180)および“損益調整”(=> SAPF181)は不要になりました。

**注意:** 伝票分割はその性質上、“後処理プロセス”(支払など)にも有効です。現金割引の支払条件による割引用の損益勘定は、オリジナル転記の金額に応じてエンティティごとに配賦されます(仕入先請求書など)。

収益が各エンティティに配賦される得意先請求書も、上記の仕入先請求書と同じ方法で処理されます。

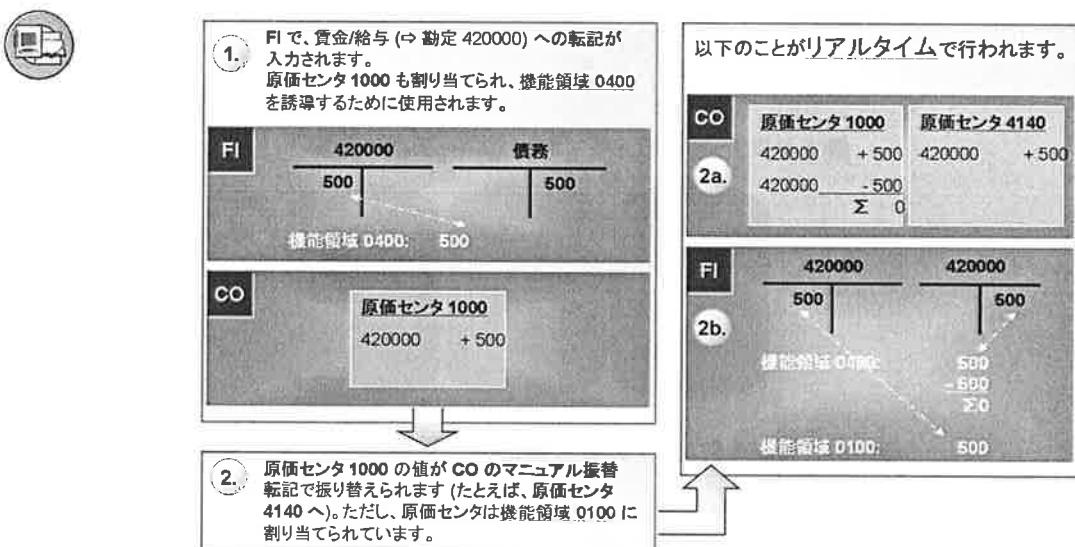


図 166: 利点の詳細 - CO → FI のリアルタイム統合

この図は、特性/基準として機能領域を使用した CO → FI のリアルタイム統合を示しています。ただし、会社コード、事業領域、利益センター、セグメント、ブランド、および補助金を基準としたリアルタイム統合を定義することもできます。この選択は、“択一”形式ではありません。これらの特性をすべて一度に選択して、リアルタイム統合を有効化することができます。

### 財務会計伝票 の特別機能 (=> 2b.):

- 転記がリアルタイム (伝票別) で行われます。原価要素請求書で、照合元帳と照合する (トランザクション KALC) 必要がなくなりました (=> 費用勘定/原価要素別の集計 [のみ])。
- FI 伝票で消込勘定が不要になりました。ただし SAP ERP でも、たとえば会社間取引には引き続き消込勘定が必要です。
- ユーザはリアルタイムで作成された財務会計伝票に、管理会計からアクセスすることができます (=> 2./2a.)。これによって、会計伝票の透過性が確保されます。

トレースを使用して CO → FI のリアルタイム統合の伝票をログに記録し、分析することができます。



- 各クライアントには、必ず 1つのリーディング元帳があります。
- ただし、リーディング元帳に加えて非リーディング元帳も使用することができます。
- 通常、リーディング元帳は、グループ財務諸表を登録するために利用される主要な会計原則が反映されます (キーワード: リーディング評価)。

### 例: 1つのリーディング元帳 + 3 つの非リーディング元帳



図 167: 利点の詳細 - パラレル会計

新総勘定元帳の 1 つの元帳は、“リーディング”元帳としての役割を持ちます。通常、リーディング元帳はグループ会計を定義するために使用されます。

新総勘定元帳のパラレル会計には、リーディング元帳以外の元帳も使用されます。

- SAP ERP では、これは新総勘定元帳の複数元帳アプローチと呼ばれます。
- 



**注意:** これらの元帳は、R/3 Enterprise リリースの 特別目的元帳コンポーネントに含まれる元帳とは異なります。

ただし、従来どおり(複数勘定アプローチ)、追加勘定を使用してパラレル会計の処理をすることもできます。この場合、総勘定元帳には1つの元帳のみが存在します(つまり、リーディング元帳)。

SAP ERP では、(新総勘定元帳の)リーディング元帳と複数勘定アプローチは同じと見なされます(SAP ノート 779251 も参照)。

特別目的元帳アプローチや会社コードアプローチなど、これまでのリリースの表示オプションを引き続き使用することができます。ただし、SAP ERP の前にこれらのアプローチがすでに設定されている必要があります。ただし、このようなソリューションの拡張は SAP ERP に組み込まれていません。



# 付録 3

## 従来の総勘定元帳のメニュー・パス

章: 基本設定	トランザクションコード
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → SAP NetWeaver → 一般設定 → 通貨	
チェック: 通貨コード	OY03
設定: 通貨の小数点以下桁数	OY04
定義: 換算レートの標準呼び値	ONOT
入力: 換算レートの直接/間接呼び値	OPRF
チェック: 換算レートタイプ	OB07
定義: 外貨換算の換算比率	OBBS
入力: 換算レート	OB08
更新: 換算レートスプレッド	OBD6
定義: 通貨の丸めルール	OB90
定義: 換算レート入力用ワークリスト	
割当: 換算レート → ワークリスト	
→ 企業構造 → サンプル組織単位のローカライズ	O035
→ 企業構造 → 定義 → 財務会計	
編集/コピー/削除/チェック: 会社コード	EC01

章: 基本設定	トランザクションコード
定義: 事業領域	
→ 財務会計 → 財務会計 → 共通設定 → 会計年度	
更新: 会計年度バリアント(短縮会計 年度更新)	OB29
割当: 会社コード -> 会計年度バリアント	OB37

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → 貢務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタデータ → 準備	
更新: 勘定コード表一覧	OB13
割当: 会社コード -> 勘定コード表	OB62
定義: 勘定グループ	OBD4
定義: 損益繰越勘定(未処分利益勘定)	OB53
→ 貢務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタデータ → 準備 → 追加処理	
定義: 処理別の画面レイアウト	OB26
→ 貢務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタデータ → G/L 勘定の登録 および編集	
参照登録: G/L 勘定	OB_GLACC01
データ転送ワークベンチ	SXDA
→ 貢務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタデータ → G/L 勘定の登録 および編集 → G/L 勘定一括変更	

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
変更: 勘定コード表データ	OB_GLACC11
変更: 会社コードデータ	OB_GLACC12
変更: 勘定名	OB_GLACC13
→ 財務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタデータ → G/L 勘定の登録および編集 → G/L 勘定編集(個別処理)	
共通編集: G/L 勘定	FS00
編集: 勘定コード表データ	FSP0
編集: 会社コードデータ	FSS0
→ 財務会計 → 総勘定元帳 → G/L 勘定 → マスタークード → G/L 勘定登録 → 代替方法 → G/L 勘定コピー	
コピー: 勘定コード表	OBY7
コピー: 会社コード	OBY2
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 得意先コード → マスタデータ → 得意先マスタデータ登録準備	
定義: 得意先勘定グループ/画面レイアウト	OBD2
定義: 会社コード別の画面レイアウト(得意先)	OB21
定義: 処理別の画面レイアウト(得意先)	OB20
登録: 得意先コードの番号範囲	XDN1
割当: 番号範囲 -> 得意先勘定グループ	OBAR
定義: 二重管理の要承認項目(得意先)	(V_T055F)
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 仕入先コード → マスタデータ → 仕入先マスタデータ登録準備	

章: マスタデータ	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
定義: 仕入先勘定グループ/画面レイアウト	OBD3
定義: 会社コード別の画面レイアウト(仕入先)	OB24
定義: トランザクション依存画面レイアウト(仕入先)	OB23
登録: 仕入先コードの番号範囲	XKN1
割当: 番号範囲 -> 仕入先勘定グループ	OBAS
定義: 二重管理の要承認項目(仕入先)	(V_T055F)

章: 伝票管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド(IMG) → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 会計期間	
定義: 会計期間バリアント	OBBO
会計期間オープン/クローズ	OB52
割当: バリアント -> 会社コード	OBPP
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票番号範囲	
定義: 伝票番号範囲	FBN1
会社コードへのコピー	OBH1
会計年度へのコピー	OBH2
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票ヘッダ	
定義: 伝票タイプ	OBA7
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票明細 → 管理	

章: 伝票管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
定義: 転記キー	OB41
定義: 項目ステータスバリアント	(V_T004F)
割当: 会社コード -> 項目ステータスバリ アント	OBC5
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票明細	
定義: 従業員の許容範囲グループ	OBA4
割当: ユーザ/許容範囲グループ	OB57
→ 財務会計 → 債権管理および債務管 理 → 取引 → 仕入先請求書/クレジッ トメモ → 仕入先請求書/クレジットメモ - Enjoy	
定義: Enjoy トランザクションの伝票タ イプ	OBZO
定義: 税コード(取引別)	OBZT
定義: 仕入先請求書/クレジットメモの 転記キー	OBXJ
→ 財務会計 → 債権管理および債務管 理 → 取引 → 得意先請求書/クレジッ トメモ → 得意先請求書/クレジットメモ - Enjoy	
定義: Enjoy トランザクションの伝票タ イプ	OBZO
定義: 税コード(取引別)	OBZT
定義: 得意先請求書/クレジットメモの 転記キー	OBXJ

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票ヘッダ	
伝票変更ルール - 伝票ヘッダ	(V_TBAER)
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票ヘッダ → 換算レート誤差上限	
定義: 会社コード別の換算レート誤差上限	OB64
定義: 通貨別の換算レート誤差上限	(V_TCURD)
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票明細	
定義: 明細テキスト	OB56
伝票変更ルール - 明細	(V_TBAER)
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 伝票処理初期値	
定義: 初期値	OBU1
有効化: 会計年度初期値提案	OB63
起算日初期値	OB68
変更: 伝票処理のメッセージ制御	(V_T100C)
→ 財務会計 → 財務会計共通設定 → 消費税 → 基本設定	
チェック: 税計算表	OBQ3
割当: 国コード -> 税計算表	(V_005_E)
チェック/変更: 税処理設定	OBCN

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
→ 財務会計→ 財務会計共通設定→ 消費税→ 計算	
定義: 消費税コード	FTXP
割当: 会社コード-> 税決定の伝票日付	(V_001_Z)
指定: 基準額(税基準)	OB96
→ 財務会計→ 財務会計共通設定→ 消費税→ 転記	
定義: 税勘定	OB40
定義: 換算差損益転記勘定	OBYY
割当: 非税関連取引の税コード	OBCL
→ 財務会計→ 総勘定元帳→ 取引	
準備: 会社間取引	OBYA
→ 財務会計→ 債権管理および債務管理→ 取引→ 仕入先請求書/クレジットメモ	
更新: 支払条件	OB88
定義: 分割支払の支払条件	OB89
定義: 仕入先請求書の現金割引基準	OB70
定義: 正味額転記勘定	OBXA
→ 財務会計→ 債権管理および債務管理→ 取引→ 銀行支払→ 銀行支払→ 基本設定	
定義: 現金割引適用勘定	OBXU
定義: 失効割引勘定	OBXV
→ 財務会計→ 債権管理および債務管理→ 取引→ 得意先請求書/クレジットメモ	

章: 転記管理	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
更新: 支払条件	OB8B
定義: 分割支払の支払条件	OB9B
定義: 得意先請求書の現金割引基準	OB70
定義: 得意先請求書の税勘定	OB40
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 入金 → 入金共通設定	
定義: 現金割引許可勘定	OBXI
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 調整転記/反対仕訳	
許可: マイナス転記	(V_001_NP)
定義: 反対仕訳理由	(T_041C)

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → 財務会計 → 総勘定元帳 → 会計トランザクション → 未消込明細消込	
定義: 消込転記キー	OBXH
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 消込ルール	(V_TFAG)
割当: 消込ルール -> 勘定タイプ	(V_TFAGM)
準備: 自動消込処理	(V_TF123)
→ 財務会計 → 総勘定元帳 → 会計トランザクション → 未消込明細消込 → 消込差額	
定義: G/L 勘定の許容範囲グループ	(T043ST)

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ -> 許容範囲グループ	(V_T043)
登録: 消込差額勘定	OBXZ
→ 財務会計 → 債権管理/債務管理 → 会計トランザクション → 銀行支払 → 銀行支払 → 基本設定	
定義: 支払過不足勘定	OBXL
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 丸め差異の勘定	OB00
定義: 銀行手数料勘定(仕入先)	OBXK
定義: 消込転記キー	OBXH
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 銀行支払 → マニュアル銀行支払	
定義: 許容範囲(仕入先)	OBA3
準備: 会社コード間マニュアル支払	(V_T041B)
チェック: 支払保留理由	(V_T008)
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 銀行支払 → 支払過不足	
定義: 理由コード(マニュアル銀行支払)	(V_T053R)
定義: 支払差額勘定(マニュアル銀行支払)	OBXL
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 入金 → 入金共通設定	
定義: 支払過不足勘定	OBXL
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 丸め差異の勘定	OB00
定義: 銀行手数料勘定(得意先)	OBXK

章: 消込	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
定義: 消込転記キー	OBXH
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 入金 → 入金共通設定 → 支払過不足	
定義: 理由コード	(V_T053R)
定義: 支払差額勘定	OBXL
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 入金 → マニュアル入金	
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ/許容範囲グループ	(V_T043)
定義: 許容範囲(得意先)	OBA3
準備: 会社コード間マニュアル支払	(V_T041B)
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 未消込明細消込	
定義: 換算差損益勘定	OB09
定義: 未消込明細消込の転記キー	OBXH
準備: 自動消込	(V_TF123)
→ 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 未消込明細消込 → 差額消込	
定義: 得意先/仕入先の許容範囲グループ	OBA3
定義: 従業員の許容範囲グループ	(V_T043T)
割当: ユーザ → 許容範囲グループ	(V_T043)
定義: 消込差額勘定	OBXL

章: 小口現金出納帳	トランザクションコード(またはトランザクション SM30 を選択してからテーブル/ビュー)
SAP ERP カスタマイジングの導入ガイド (IMG) → 財務会計 → 銀行関連会計 → 取引 → 小口現金出納帳	
登録: 小口現金出納帳の G/L 勘定	FS00
定義: 小口現金出納帳の伝票タイプ	OBA7
定義: 小口現金出納帳伝票の番号範囲間隔	FBCJC1
設定: 小口現金出納帳	FBCJC0
登録/変更/削除: 取引	FBCJC2
設定: 小口現金出納帳の印刷パラメータ	FBCJC3



# 目次

## 数字/記号

- 支払明細通知番号, 330
- 小口現金出納帳, 360
  - 設定, 361
  - 転記, 372
- 損益計算書勘定, 67
- 未処分利益勘定, 67
- 貸借対照表勘定, 67
- 二重管理原則, 112
- 会計年度提案, 221
- 反対仕訳理由, 237
- 明細消込管理, 72
- 特別会計期間, 34
- 現金割引基準, 252
- 現金割引期間, 249
- 現金割引調整, 339
- 通常会計期間, 34
- 仮受消費税, 267
- 仮払消費税, 267
- 得意先控除
  - 未承認, 339
- 換算差損益, 221
  - 実現換算差損益, 353
- 支払基準日, 249
- 税勘定設定, 274
- 要承認項目, 112
  - 以下も参照してください。二重管理原則
- 銀行手数料, 329
- 一括処理, 77
- 一部入金, 342
- 事業領域, 9
- 会計年度, 34
- 会計期間, 163
  - 2つの期間範囲, 166
  - 権限グループ, 166
  - 会計期間バリエント, 164
- 伝票変更, 227
- 伝票番号, 140
- 個別更新, 105–106

- 以下も参照してください。仕入先コード; 得意先コード  
共通更新, 105–106
- 以下も参照してください。仕入先コード; 得意先コード  
分割支払, 251
- 割当項目, 318
- 以下も参照してください。ソートキー  
勘定設定
- 換算差損益, 354
- 勘定通貨, 73
- 反対仕訳, 236
- 取引番号
- 会社コード間, 288, 291
- 取引金額, 71
- 国内通貨, 6, 73
- 基準通貨, 48
- 換算係数, 45
- 支払処理
- マニュアル, 326
- 支払差額
- 許容範囲内, 340
- 許容範囲外, 340
- 許容, 339
- 支払条件, 244
- 支払方法, 248
- 保留キー, 248
- 明細照会, 71
- 検索語句, 107
- 以下も参照してください。仕入先コード; 得意先コード  
機能領域, 9
- 残余明細, 342
- 消込伝票, 315
- 消込勘定, 288, 290
- 現金割引
- 全処理, 252
- (仕入先) 正味処理, 253
- 番号範囲, 108
- 内部番号割当, 108
- 外部番号割当, 108
- 税計算表, 270
- 管理領域, 11
- 統制勘定, 70
- 課税法人, 289
- 転記権限, 176
- 許容範囲グループ, 176
- 使用税, 269
- 初期値, 220

- 受取人
  - 代理, 114
- 基準額
  - 税, 266
- 売上税, 268
- 支払人
  - 代理, 114
  - 未払税, 267
  - 税転記, 274
    - 以下も参照してください。税勘定設定
- 会社, 9
- 伝票, 137
- 取引
  - 登録, 363
  - 外貨, 73, 76
  - 支店, 115
  - 明細, 137
    - 未消込, 314
  - 期限, 247, 250
  - 本店, 115
  - 消込
    - 自動仕訳, 332
    - 再登録, 332
    - 勘定, 315–316
    - 転記, 315
  - 税率, 273
  - 逆算, 46
- Enjoy 転記画面, 184
- あ**
- 支払請求元アプリケーション原則, 245
- お**
- 編集オプション, 220
- か**
- 税カテゴリ, 275
- き**
- 勘定キー, 270
  - 以下も参照してください。内部処理キー
- 転記キー, 141
- く**
- クライアント, 3
- 許容範囲グループ, 337
- 従業員, 338

- G/L 勘定, 338
  - 得意先と仕入先, 338
- 勘定グループ, 67, 108
  - グループ勘定コード表, 78
- クレジットメモ
  - 請求書関連, 246
  - その他, 246
- ニ**
  - 仮受消費税コード
    - EU, 277
  - 仕入先コード, 102
    - 検索語句, 107
    - 会社コードレベルデータ, 104
    - 一般データ, 104
  - 購買組織レベル, 103
- 勘定コード表, 60
- 取得税コード
  - EU, 277
- 得意先コード, 102
  - 検索語句, 107
  - 販売エリアレベル, 102
  - 会社コードレベルデータ, 103
  - 一般データ, 103
- 税管轄コード, 271
- 会社コード, 4
- 理由コード, 342
- 通貨コード, 45
- 税コード, 272
  - 分割, 273
  - EU, 276
- 勘定コード表レベル, 62
- 会社コードレベル, 64
- す**
  - 伝票項目ステータス, 142
  - 項目ステータス, 68–69, 111
  - 項目ステータスグループ, 143
  - 項目ステータスバリアント, 143
- せ**
  - セグメント, 9
  - 利益センタ, 9
- そ**
  - ソートキー, 318
    - 以下も参照してください。割当項目

**た**

- 伝票タイプ, 138
- 取引タイプ, 362
- 条件タイプ, 270
  - 以下も参照してください。税タイプ
- 課税タイプ, 266
- 税タイプ, 270
  - 以下も参照してください。条件タイプ

**ち**

- チェックフラグ, 273

**て**

- 国別テンプレート, 7
- 銀行データ, 329

**の**

- 未消込明細の消込, 113
- 国内通貨残高のみ, 74

**は**

- パラメータ ID:, 219
- バリアント原則, 31
- 会計年度バリアント, 35

**ひ**

- 直接呼び値, 49
- 間接呼び値, 49

**ふ**

- 消込プログラム, 317

**へ**

- 伝票ヘッダ, 137
- 支払ヘッダ, 327

**ま**

- マイナス転記, 237
- 勘定割当マニュアル, 63

**る**

- 伝票変更ルール, 228

**れ**

- 換算レート, 46
- 換算レートスプレッド, 47
- 換算レートタイプ, 45

**わ**

- ワンタイム仕入先, 109

以下も参照してください。ワンタイム勘定  
ワンタイム得意先, 109

以下も参照してください。ワンタイム勘定  
ワンタイム勘定, 109

# フィードバック

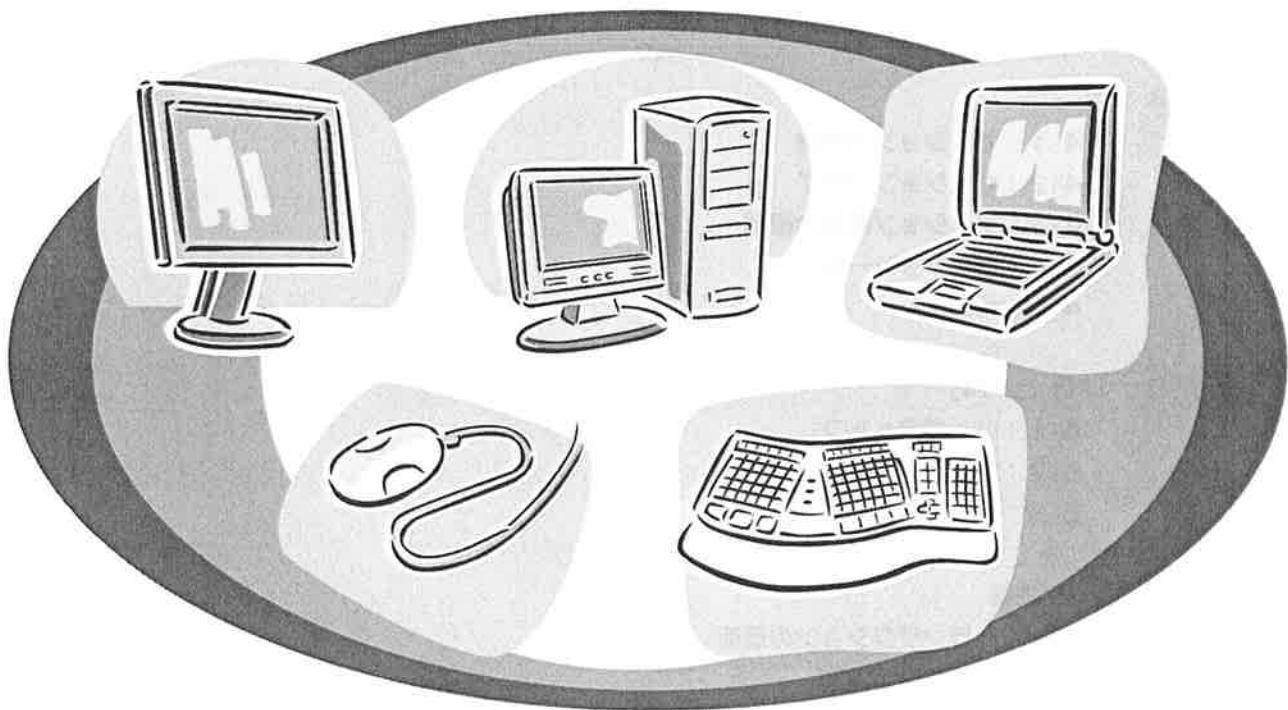
SAP AG 社は、本コース開発において、内容の正確さに尽力しております。ご意見/ご質問等がございましたら、コース評価の該当箇所にご記入ください。





SAP ERP (SAP ECC 6.0)

## オペレーションマニュアル



本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは  
伝達することを、電子的、機械的、フォトコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。

# 内容とトピック

## 1：ログオン

- 1-1：ログオンパットの起動
- 1-2：ログオン画面
- 1-3：新規パスワードの登録

## 2：メニューパスとトランザクション

- 2-1：メニューパスの展開
- 2-2：トランザクション
- 2-3：トランザクションコード
- 2-4：トランザクションコードの確認
- 2-5：/nXXXX

## 3：画面要素

- 3-1：コマンドフィールドの表示/非表示
- 3-2：コマンドフィールドの履歴
- 3-3：コマンドフィールドへのカーソル移動
- 3-4：挿入/上書の切り替え
- 3-5：ステータスバーの表示/非表示

## 4：セッション

- 4-1：セッションの開始
- 4-2：セッションの終了
- 4-3：セッション番号の確認
- 4-4：セッション一覧
- 4-5：/oXXXX

## 5：「F1」と「F4」

- 5-1：F1：項目ヘルプ
- 5-2：F4：入力可能値
- 5-3：F4：検索ヘルプ

## 6：ユーザ定義

- 6-1：トランザクションの追加
- 6-2：フォルダの追加

## 7：ユーザプロファイル

- 7-1：デフォルト
- 7-2：パラメータ

## 8：便利な機能

8-1：クリックカット&ペースト

8-2：項目の入力履歴

8-3：キーの表示

8-4：技術名称の表示

## 9：ログオフ

9-1：ログオフ

◇付録：コンポーネントの名称

# 1. ログオン

1-1. 【ログオンパットの起動】ログオンパットを起動します。

Windows「スタート」ボタン>プログラム>SAP Front End>SAPlogon

- ①「システム」タブに表示されているサーバー観の中から、ログオンするサーバを選択し、「ログオン」ボタンを選択します。（または、サーバを選択し、ダブルクリックします。）

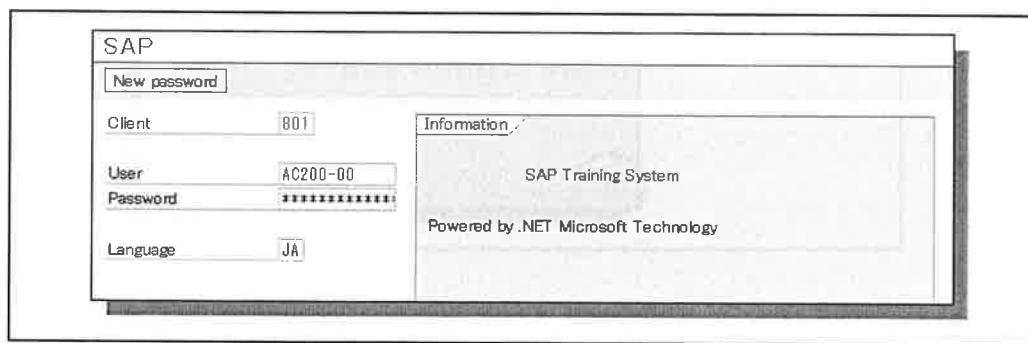
※ログオンする具体的なサーバーは、講師の指示に従って下さい。



---

1-2. 【ログオン画面】クライアント、ユーザ、パスワード、言語を入力します。

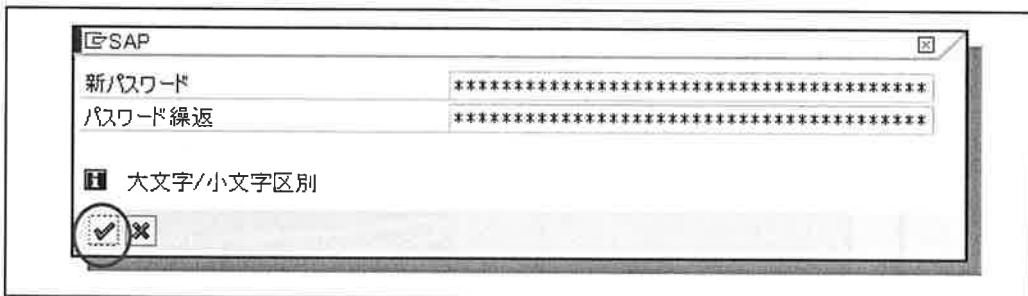
- ①項目「Client」に、（講師から指示された）クライアント番号を入力します。「Tab」キーを押下します。
- ②項目「User」に、（講師から指示された）ユーザ名を入力します。（大文字/小文字どちらでも可）。「Tab」キーを押下します。
- ③項目「Password」に、（講師から指示された）初期パスワードを入力します。（大文字/小文字を識別します。また、項目は、常時「\*」でマスキングされています。）「Tab」キーを押下します。
- ④項目「Language」に「JA」（Japanese の意）と入力します。
- ⑤「Enter」キーを押下します。



1-3. 【新規パスワードの登録】ログオンユーザに対する、新規パスワードを登録します。

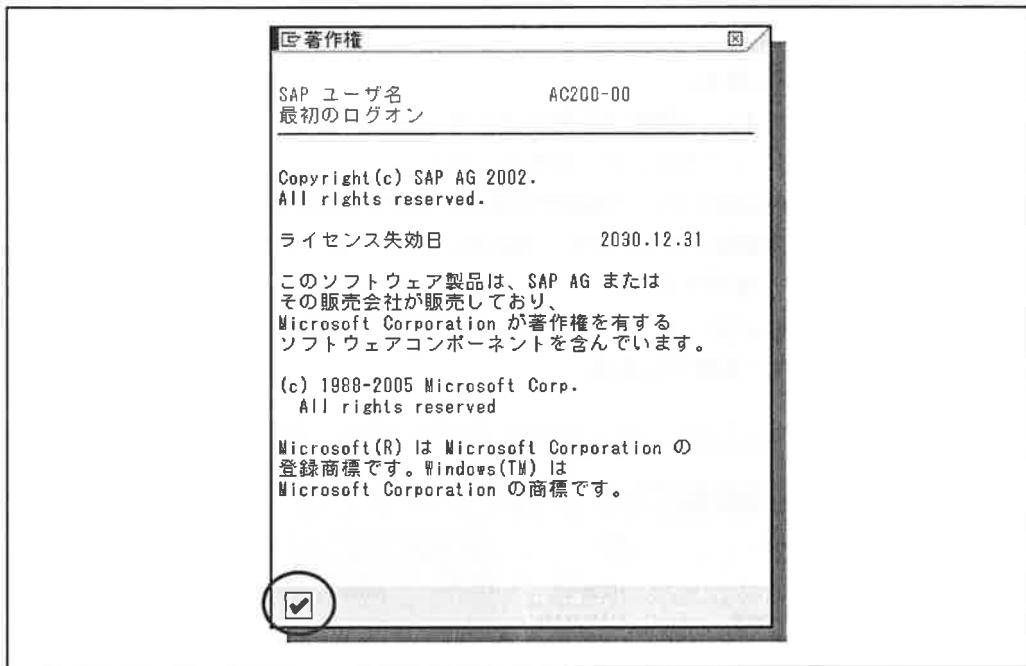
- ①項目「新パスワード」と「パスワード繰返」に、任意の同じパスワードを入力します。

※パスワードの制限：6 文字以上（40 文字以内）、大文字/小文字を識別します。  
※項目は、常時「\*」でマスキングされています。

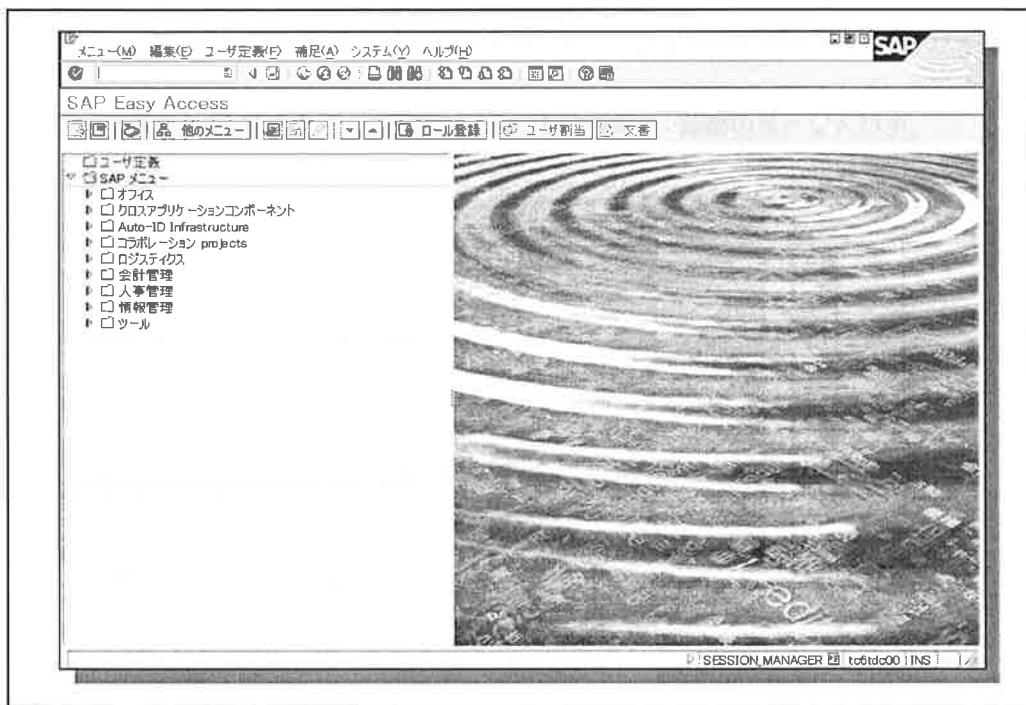


- ②「確認」ボタンを選択します。（あるいは、「Enter」キーを押下します。）

③「続行」ボタンを選択します。（あるいは、「Enter」キーを押下します。）



※その他のメッセージが表示された場合は、すべて、「続行」ボタンを選択します。  
(あるいは、「Enter」キーを押下します。)

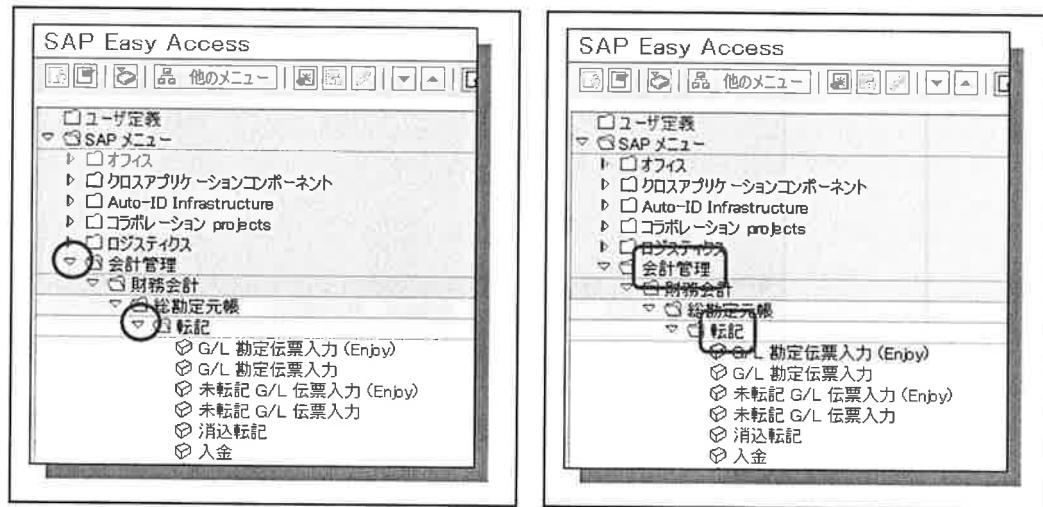


【ログオン直後の画面】

## 2. メニューパスとトランザクション

2-1. 【メニューパスの展開】SAP Easy Access 画面から、メニューパスを展開します。

- ①メニューを展開するには、フォルダ左横の三角のアイコンをクリックするか、フォルダのテキストをダブルクリックします。（展開したメニューを閉じる場合も同じです。）



【三角のアイコンをクリック】

【テキストをダブルクリック】

2-2. 【トランザクション】メニューを展開し、「G/L 勘定伝票入力」のトランザクションを起動します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力



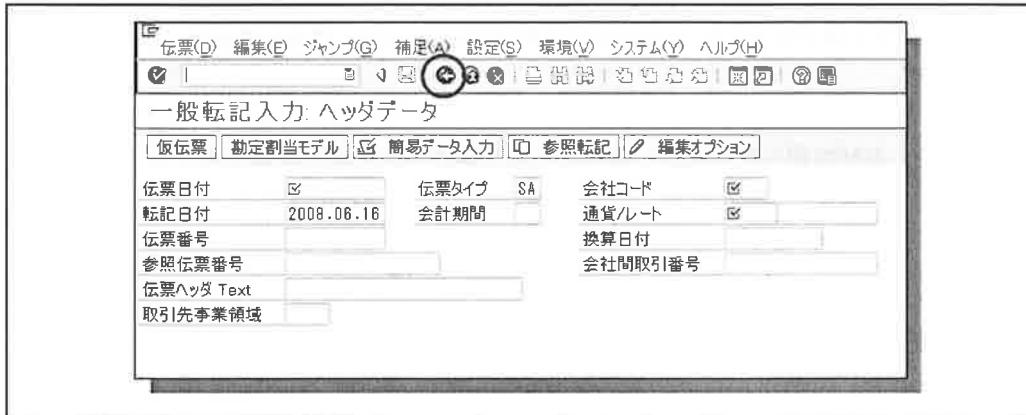
①トランザクション「G/L 勘定伝票入力」をダブルクリックします。

②「一般転記入力：ヘッダデータ」の画面が表示されるのを確認します。

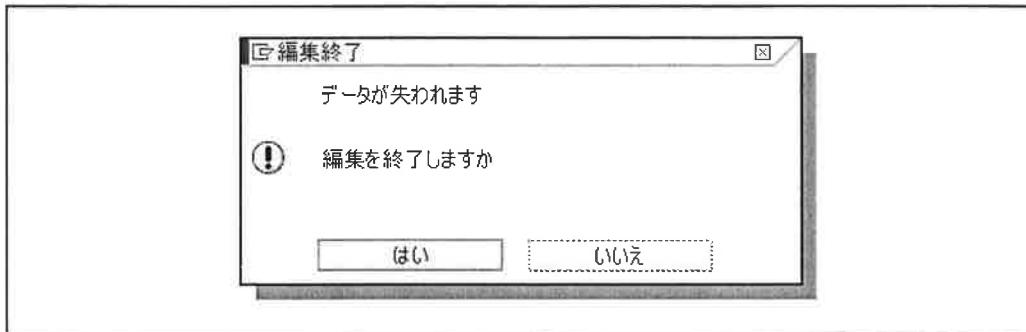


※上記のトランザクションは、G/L 勘定を使った伝票登録（転記）を行うためのトランザクションです。

③標準ツールバーの「前画面」ボタン（または「終了」ボタン）を選択します。



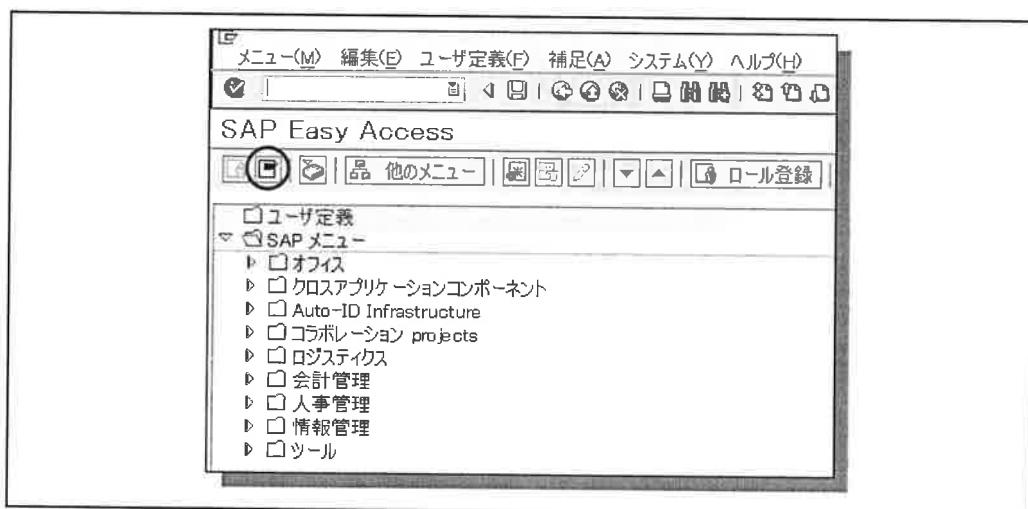
④編集終了のダイアログで「はい」ボタンを選択します。



※特定のトランザクションから、SAP Easy Access の画面に戻るためには、標準ツールバーの「前画面」「終了」ボタンを選択します。また、入力処理を途中で中止するような場合には、「中止」ボタンを選択します。

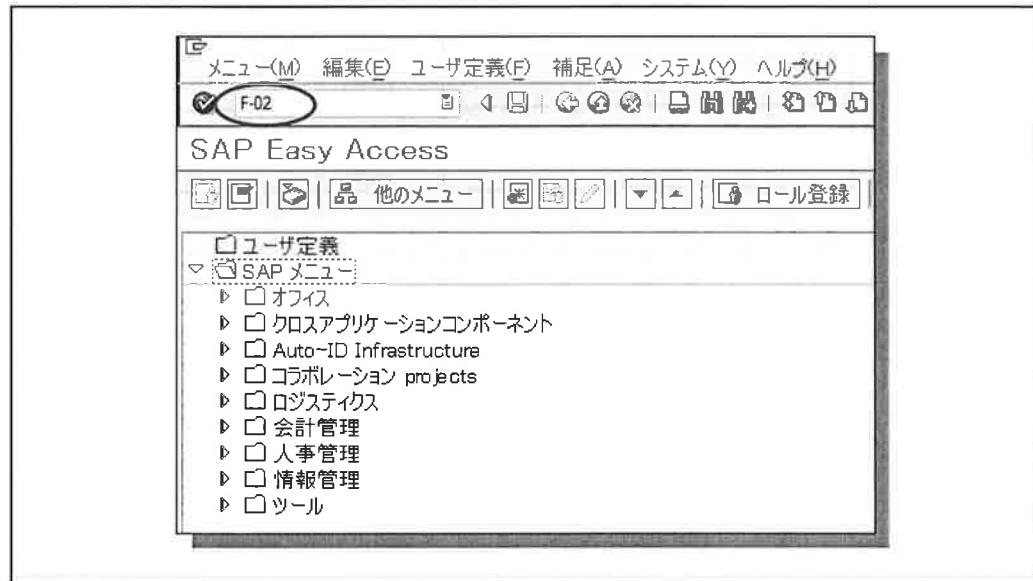
ボタン	アイコン	
前画面ボタン		緑のボタン
終了ボタン（ログオフボタン）		黄のボタン
中止ボタン		赤のボタン

⑤アプリケーションツールバーの「SAP メニュー」ボタンを選択します。（展開していたメニューのフォルダがすべて閉じます。）

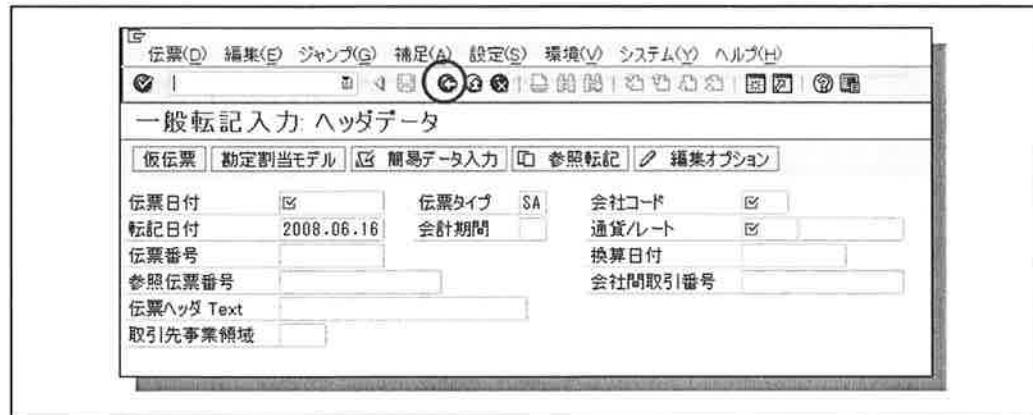


2-3. 【トランザクションコード】標準ツールバーの「コマンドフィールド」にトランザクションコードを入力して、「G/L 勘定伝票入力」のトランザクションを起動します。

①SAP Easy Access の画面で、標準ツールバーの項目「コマンドフィールド」に「F-02」（小文字でも可）（エフ ハイフン ゼロ2）と入力して、「Enter」キーを押下します。



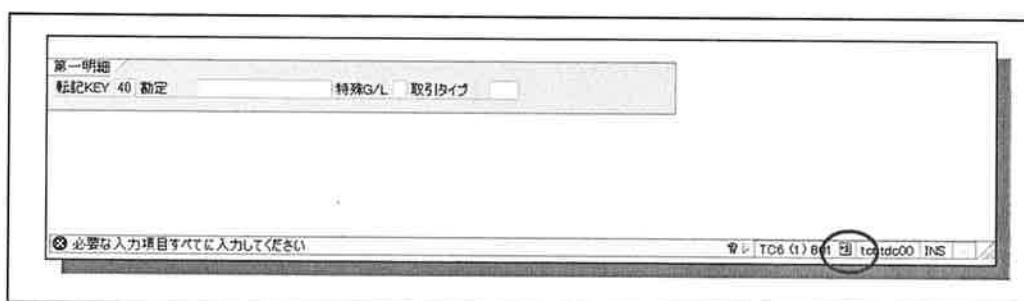
②先ほどの「一般転記入力：ヘッダデータ」の画面が起動することを確認します。標準ツールバーの「前画面」ボタンを選択し、SAP Easy Access の画面に戻ります。



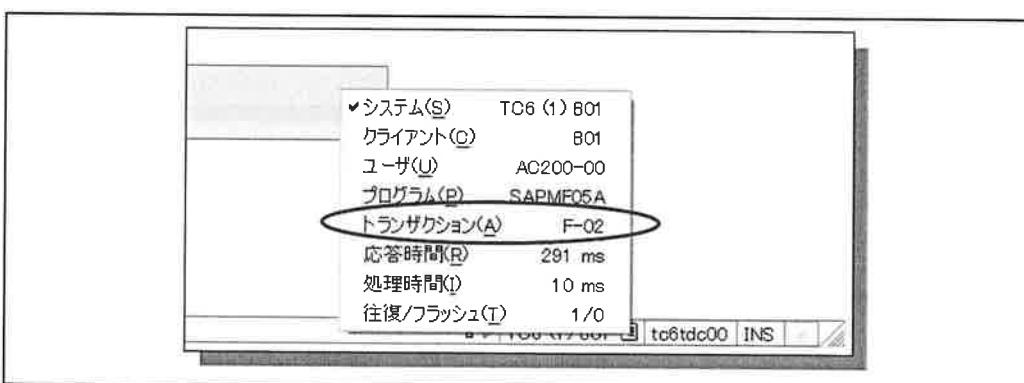
## 2-4. 【トランザクションコードの確認】各トランザクションのトランザクションコードを確認します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力

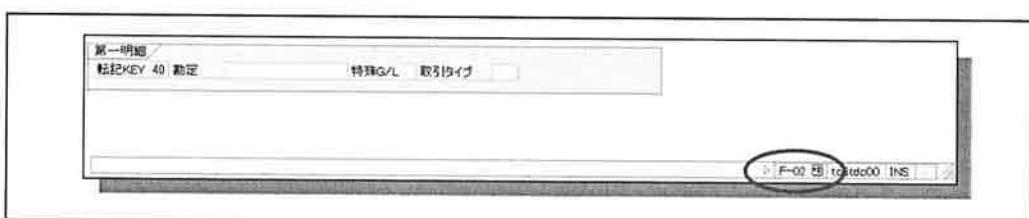
①ステータスバーにある四角のアイコンをクリックします。



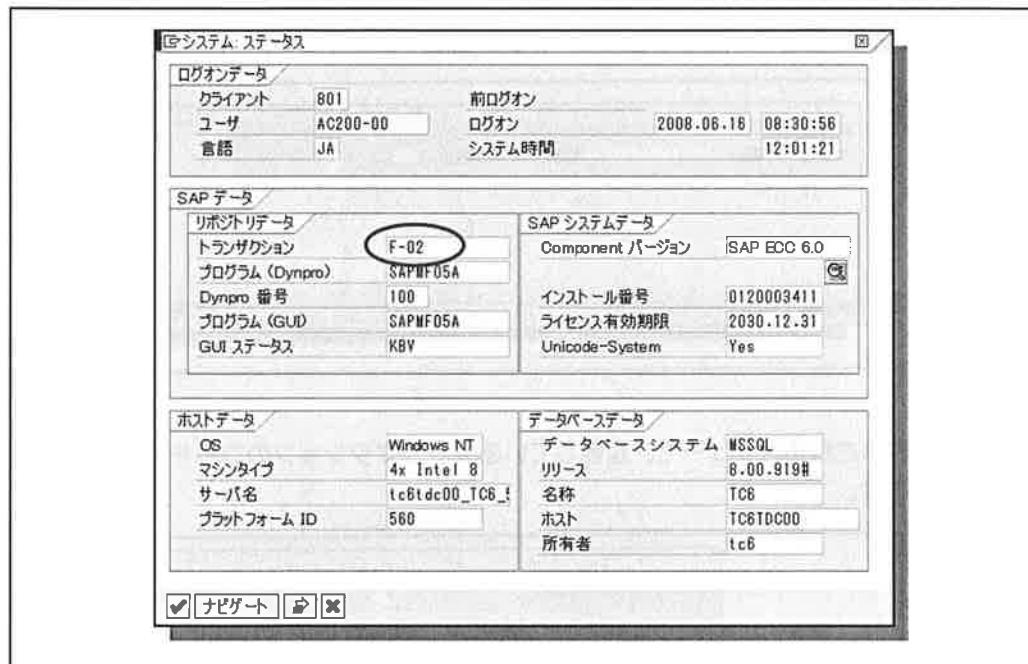
②表示されるメニューで、起動しているトランザクションのコードを確認することができます。



※表示されたメニュー上で「トランザクション」をクリックすると、以降、ステータスバーには、トランザクションコードが表示されることになります。

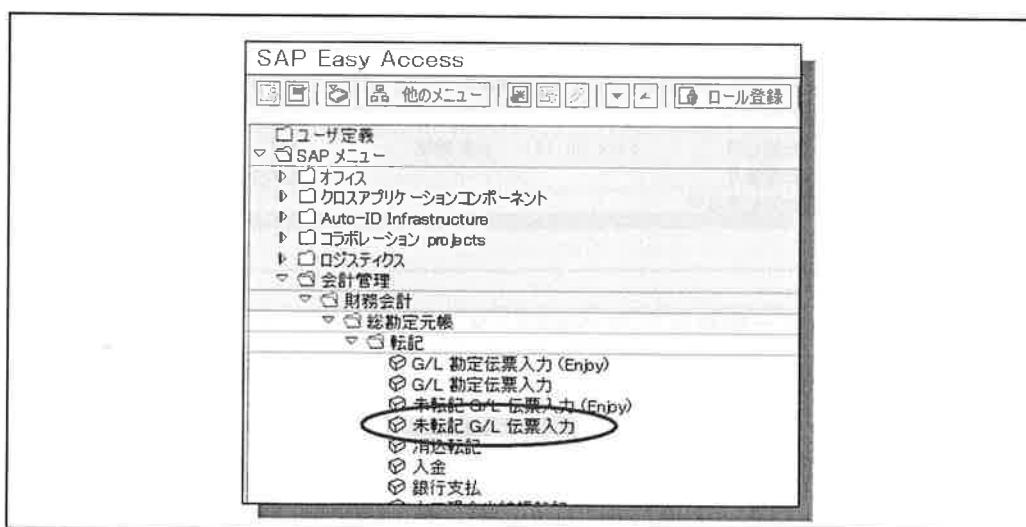


※また、メニューバー：システム>ステータスを選択し、「システム：ステータス」ダイアログの項目「トランザクション」で、トランザクションコードを確認することができます。

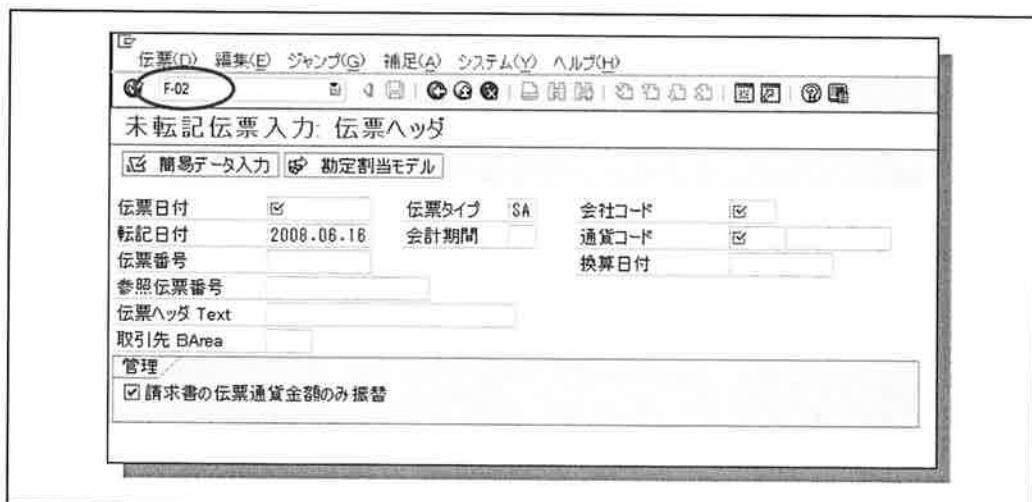


2-5. 【/nXXXX】特定のトランザクションから、別のトランザクションを、トランザクションコードを使って起動します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>未転記 G/L 勘定伝票入力



①起動した「未転記伝票入力：伝票ヘッダ」の画面で、「コマンドフィールド」にトランザクションコード「F-02」（小文字可）と入力し、「Enter」キーを押下します。トランザクションコード「F-02」の「一般転記入力：ヘッダデータ」が起動しないことを確認します。



- ②「コマンドフィールド」に「/nF-02」（小文字可）と入力し、「Enter」キーを押します。「一般転記入力：ヘッダデータ」の画面が起動することを確認します。

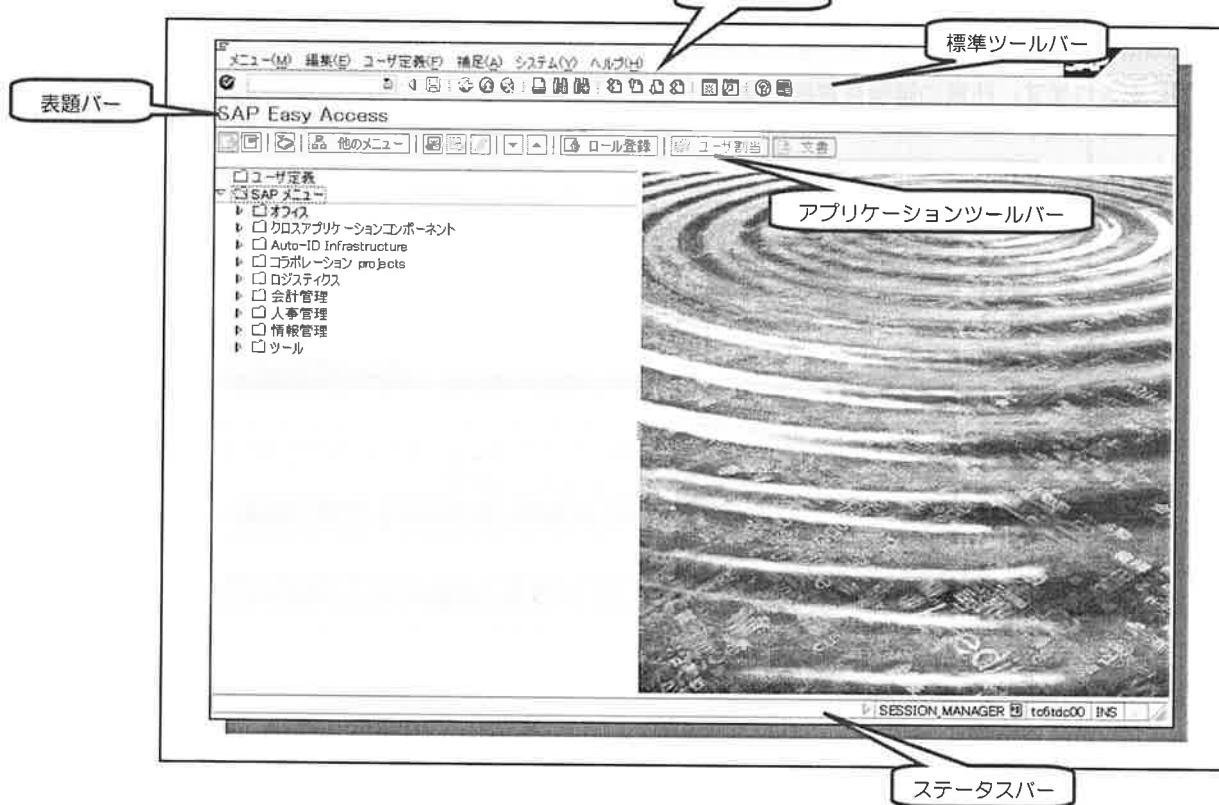
**未転記伝票入力: 伝票ヘッダ**

伝票日付  伝票タイプ  会社コード   
 転記日付  会計期間   
 伝票番号   
 参照伝票番号   
 伝票ヘッダ Text   
 取引先事業領域

**一般転記入力: ヘッダデータ**

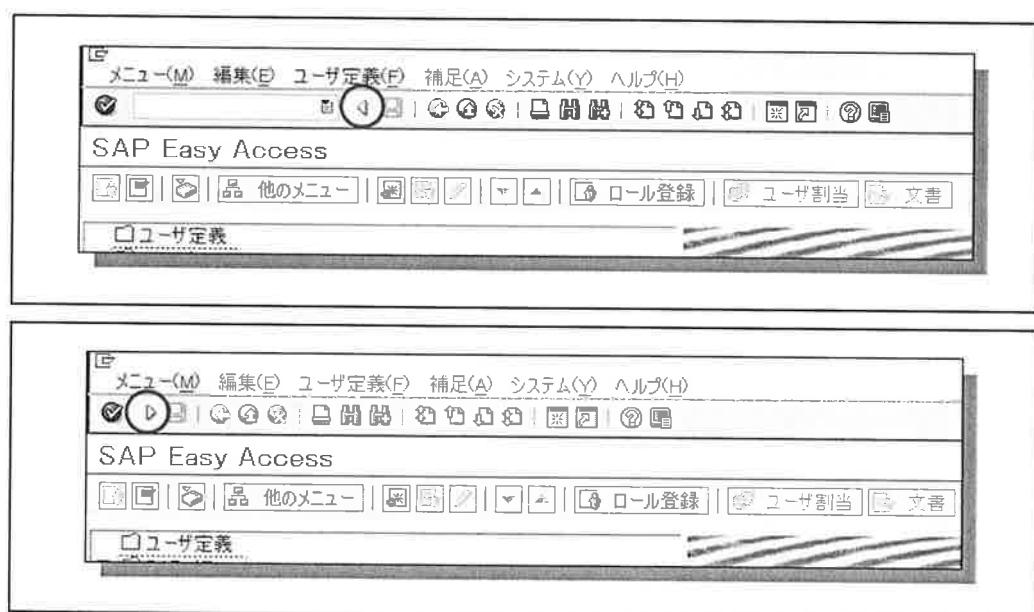
伝伝票  勘定割当モデル  簡易データ入力  参照転記  編集オプション  
 伝票日付  伝票タイプ  会社コード   
 転記日付  会計期間   
 伝票番号   
 参照伝票番号   
 会社コード   
 通貨/レート   
 換算日付   
 会社間取引番号

### 3. 画面要素



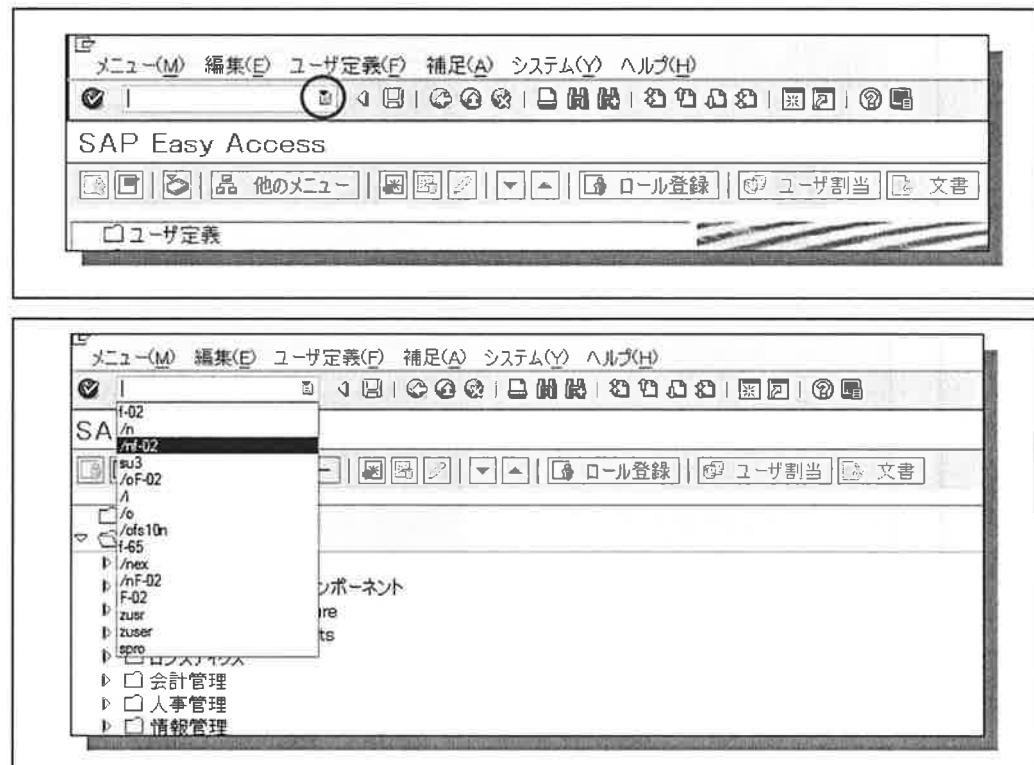
3-1. 【コマンドフィールドの表示/非表示】コマンドフィールドの表示/非表示を制御します。

- ①標準ツールバーの三角のボタンを選択すると、コマンドフィールドが非表示になります。
- ②再度、同じボタンを選択すると、コマンドフィールドが表示されます。



### 3-2. 【コマンドフィールドの履歴】コマンドフィールドの入力履歴を確認、選択します。

- ①コマンドフィールドの右端にある四角いアイコンをクリックすると、入力履歴が表示されます。任意の履歴を選択します。

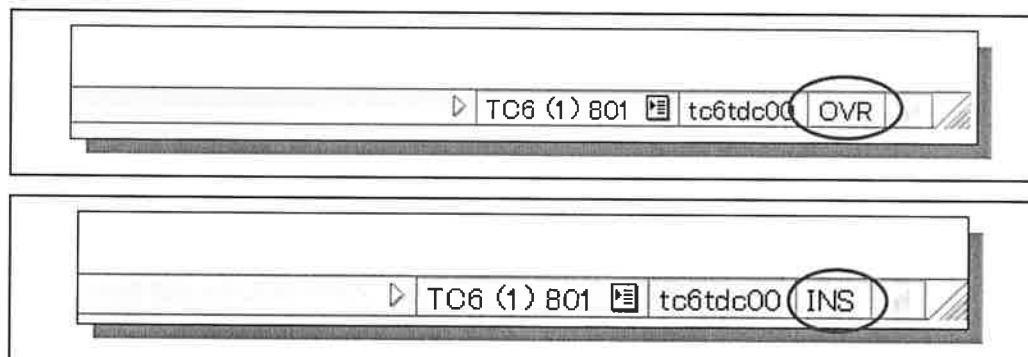


### 3-3. 【コマンドフィールドへのカーソル移動】コマンドフィールドへカーソルを移動させます。

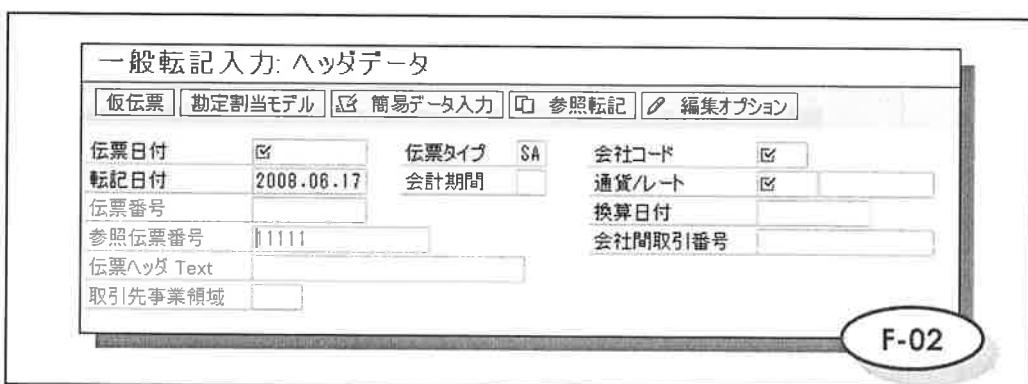
- ①「Ctr」キーを押しながら、「/」キーを押します。カーソルが、コマンドフィールドに移動します。

3-4. 【挿入/上書の切り替え】ステータスバーの右端の領域で、文字入力モード（挿入/上書）を選択します。

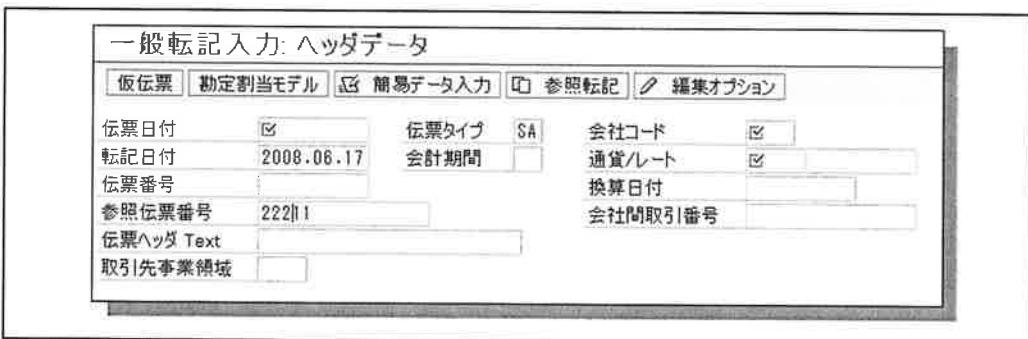
①ステータスバーの右端の文字列が「OVR」のとき、「上書モード」になります。文字列をクリックすると、「INS」（挿入モード）に変更されます。（「Insert」キーの押下によっても切り替えることができます。）



※「OVR」（上書モード）で、項目「参照伝票番号」に「111……」と入力されている状態で項目左端から、「222……」と入力した場合。

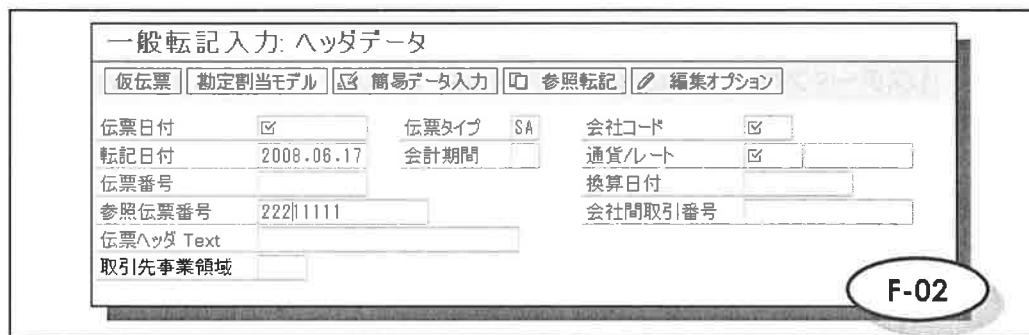


伝票日付	<input type="text"/>	伝票タイプ	SA	会社コード	<input checked="" type="checkbox"/>
転記日付	2008.06.17	会計期間	<input type="text"/>	通貨/レート	<input checked="" type="checkbox"/>
伝票番号	<input type="text"/>	換算日付	<input type="text"/>	会社間取引番号	<input type="text"/>
参照伝票番号	1111	伝票ヘッダ Text	<input type="text"/>		
取引先事業領域	<input type="text"/>				



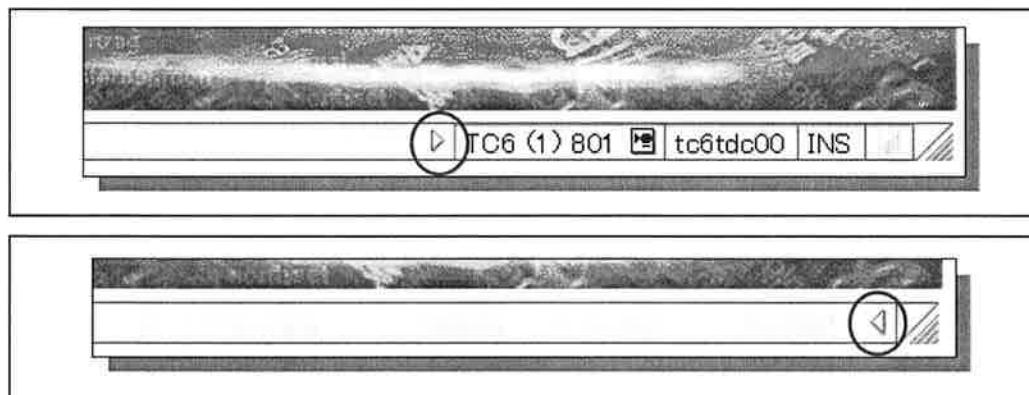
伝票日付	<input type="text"/>	伝票タイプ	SA	会社コード	<input checked="" type="checkbox"/>
転記日付	2008.06.17	会計期間	<input type="text"/>	通貨/レート	<input checked="" type="checkbox"/>
伝票番号	<input type="text"/>	換算日付	<input type="text"/>	会社間取引番号	<input type="text"/>
参照伝票番号	22211	伝票ヘッダ Text	<input type="text"/>		
取引先事業領域	<input type="text"/>				

※「INS」（挿入モード）の場合



3-5. 【ステータスバーの表示/非表示】ステータスバーの表示/非表示を制御します。

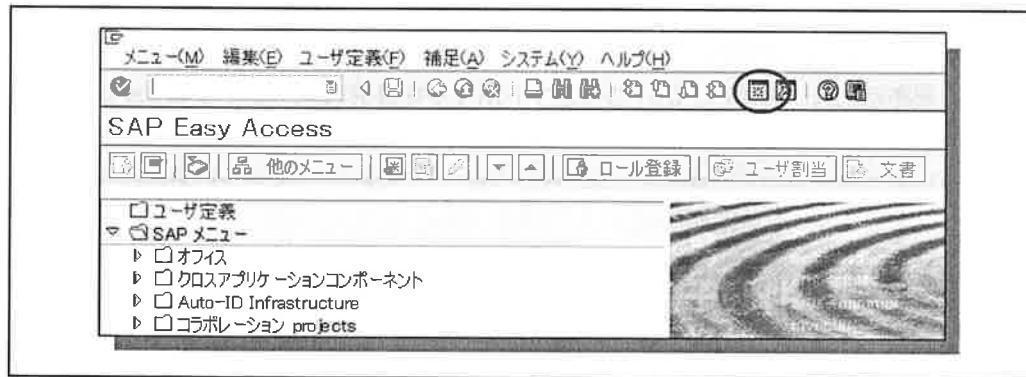
- ①ステータスバーの三角のボタンを選択すると、ステータスバーが非表示になります。
- ②再度、同じボタンを選択すると、ステータスバーが表示されます。



## 4. セッション

4-1. 【セッションの開始】複数のセッションを同時に起動することができます。

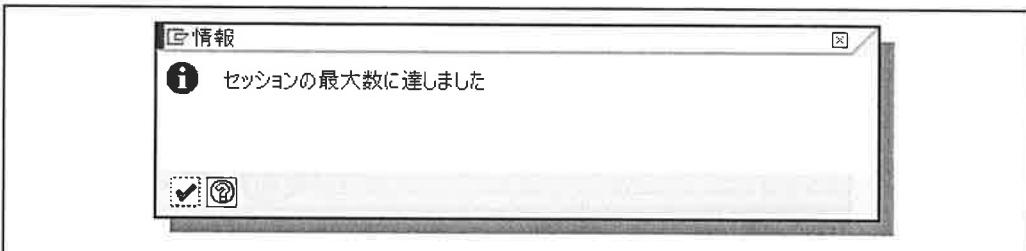
①標準ツールバーの「新しいセッションの開始」ボタンを選択します。



※最大 6 つのセッションを起動することができます。



※7 つ目のセッションを起動しようとすると、メッセージが表示されます。



※メニューバー：システム>セッション開始を選択して、セッションを開始することもできます。

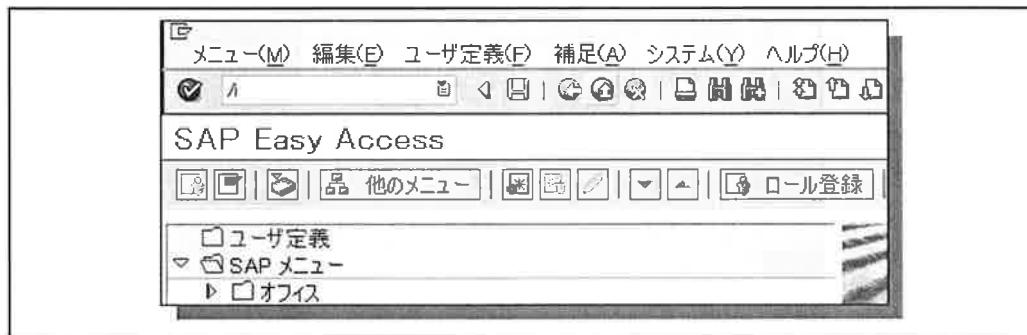
#### 4-2. 【セッションの終了】セッションを終了することができます。

①メニューバー：システム>セッション終了を選択します。（メニューを選択しているセッションが終了します。）

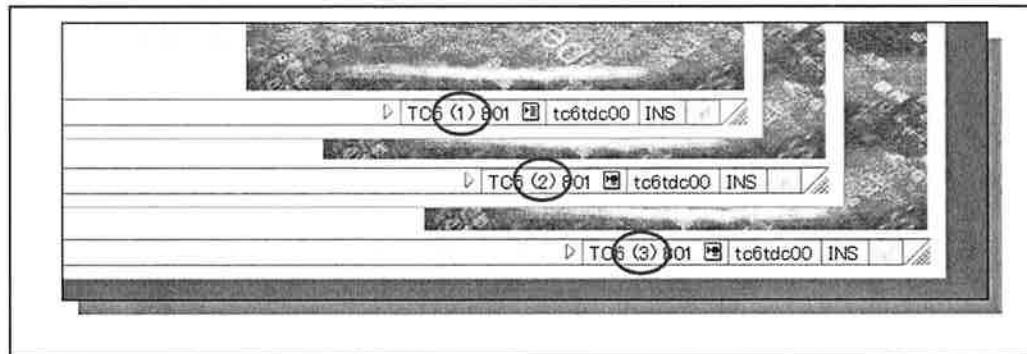
※あるいは、画面右上の「ログオフ」ボタンを選択して、セッションを終了させることができます。



※または、コマンドフィールドに「/i」と入力して、「Enter」キーを押下することによって、セッションを終了させることができます。

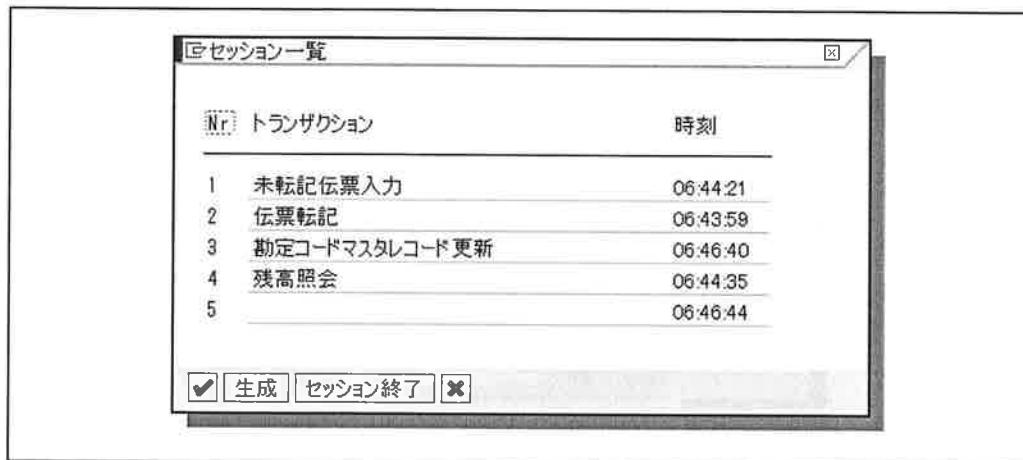


#### 4-3. 【セッション番号の確認】セッション番号を、ステータスバーで確認します。



#### 4-4. 【セッション一覧】セッションを終了することができます。

- ①コマンドフィールドに「/o」（スラッシュ オー）を入力して、「Enter」キーを押下します。「セッション一覧」ダイアログで、起動中のセッション（セッション上で起動しているトランザクション）の一覧を確認することができます。



※「生成」ボタンを選択すると、新規にセッションを開始することができます。

※終了させたいセッション番号にカーソルを置き、「セッション終了」ボタンを選択すると、当該セッションを終了させることができます。

#### 4-5. 【/oXXXX】トランザクションを、新規セッション上で起動します。

- ①コマンドフィールドに「/oF-02」（小文字可）と入力し、「Enter」キーを押下します。





### ※【まとめ】特殊なコマンド

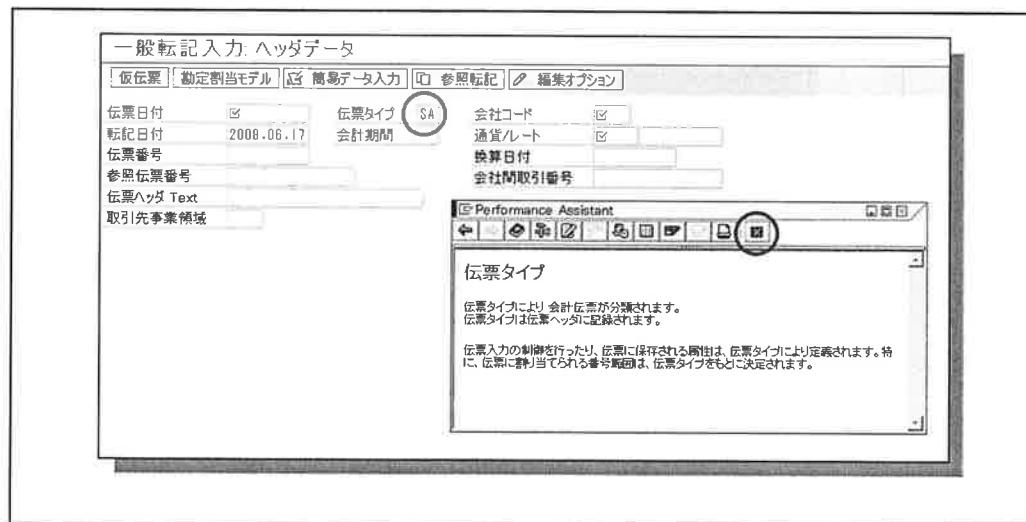
コマンド	結果
/n	SAP Easy Access の画面に戻る
/nXXXX	(XXXX はトランザクションコード) 特定のトランザクションから別のトランザクションを起動
/o	セッション一覧の起動 (セッションの開始/終了いずれも選択可)
/oXXXX	(XXXX はトランザクションコード) 新規セッション上でトランザクションを起動
/i	セッションの終了
/in	(n はセッション番号) 指定した番号のセッションを終了
/nend	ログオフ
/nex	(確認なしで) ログオフ

## 5. 「F1」と「F4」

5-1. 【F1：項目ヘルプ】「F1」キーを押下して、項目ヘルプを表示させます。

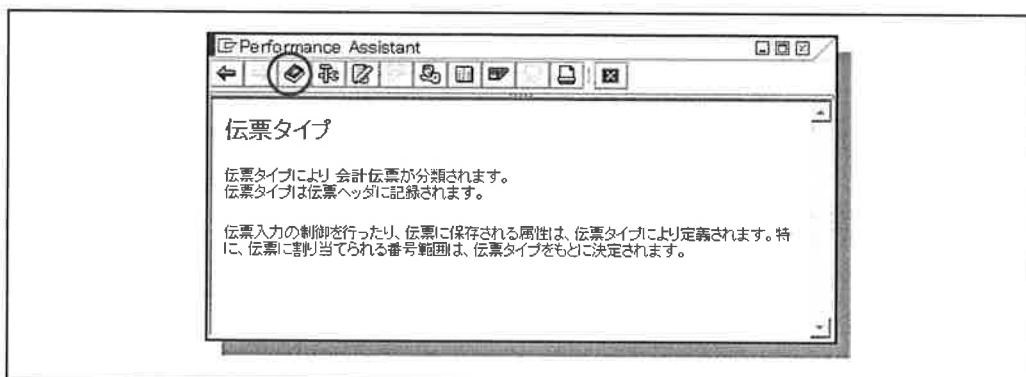
MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力 (Tr-cd : F-02)

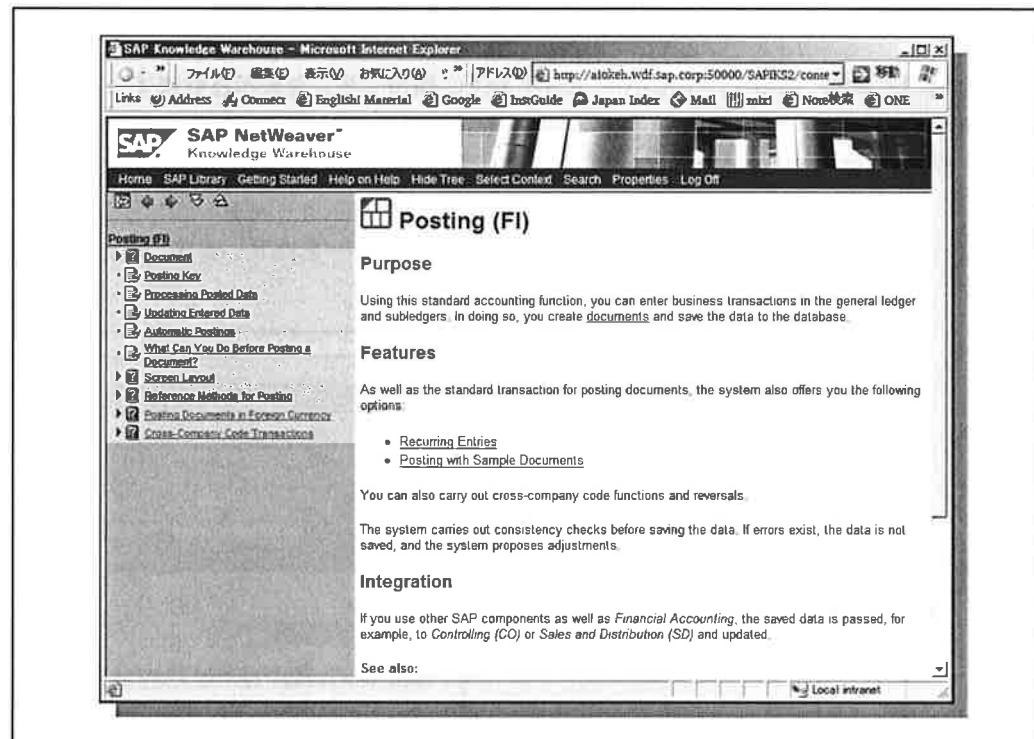
①項目「伝票タイプ」にカーソルを置き、「F1」キーを押下します。項目ヘルプが表示されます。



②ヘルプにある「閉じる」ボタンを選択します。ヘルプのダイアログが閉じます。

\*ヘルプにある「アプリケーションヘルプ」ボタンを選択すると、アプリケーションヘルプが起動します。





## 【アプリケーションヘルプ】

5-2. 【F4：入力可能値】 「F4」キーを押下して、項目の入力可能値を確認します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力 (Tr-cd : F-02)

①項目「伝票タイプ」にカーソルを置き、「F4」キーを押下します。入力可能値が表示されます。



②入力可能値の中から、適当なエントリをダブルクリックします。当該エントリの値が、項目「伝票タイプ」に設定されます。

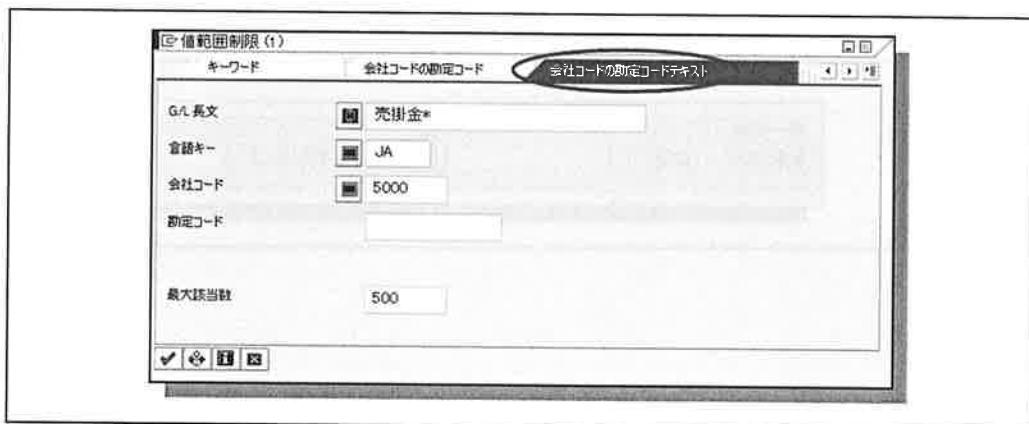
5-3. 【F4：検索ヘルプ】 「F4」キーを押下して、検索ヘルプを表示します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力 (Tr-cd : F-02)

①項目「勘定」にカーソルを置き、「F4」キーを押下します。検索ヘルプが表示されます。



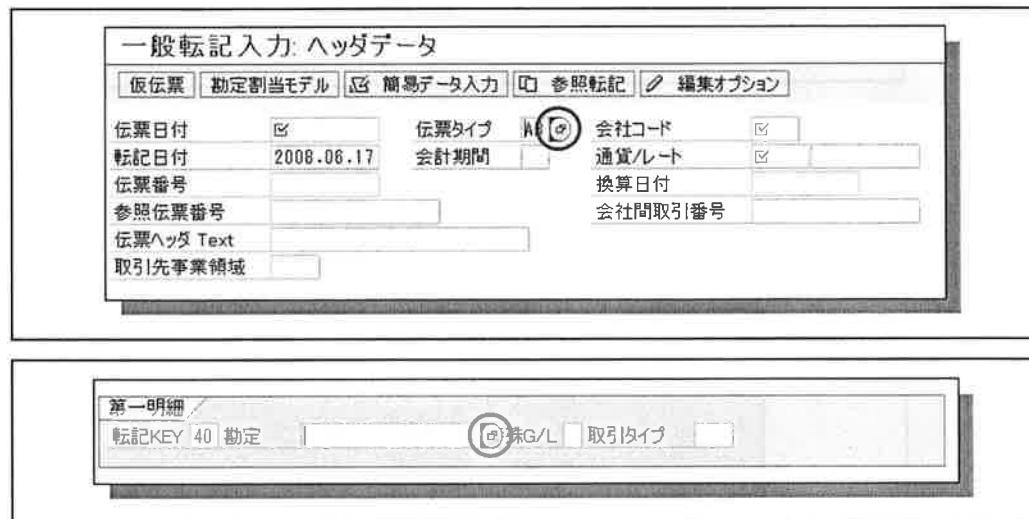
②「会社コードの勘定テキスト」タブを選択します。項目「G/L 長文」に「売掛金\*」(\*は半角)、項目「会社コード」に「5000」と入力します。「検索開始」ボタンを選択します。



③検索結果の中から、適当なエントリをダブルクリックします。当該エントリが、項目「勘定」に設定されます。



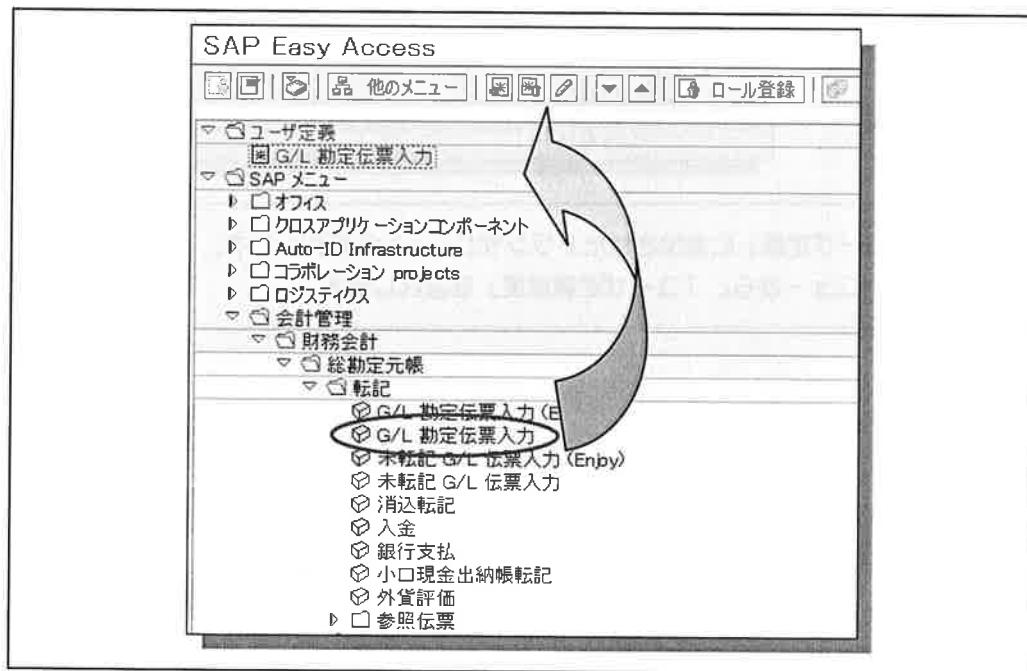
※「F4」キーを使用することができる項目は、項目にカーソルを置いたとき、項目左端に下記のようなマークが表示される項目についてのみです。このマークをクリックしても、「F4」キーを押下した場合と同じ結果を得ることができます。



## 6. ユーザ定義

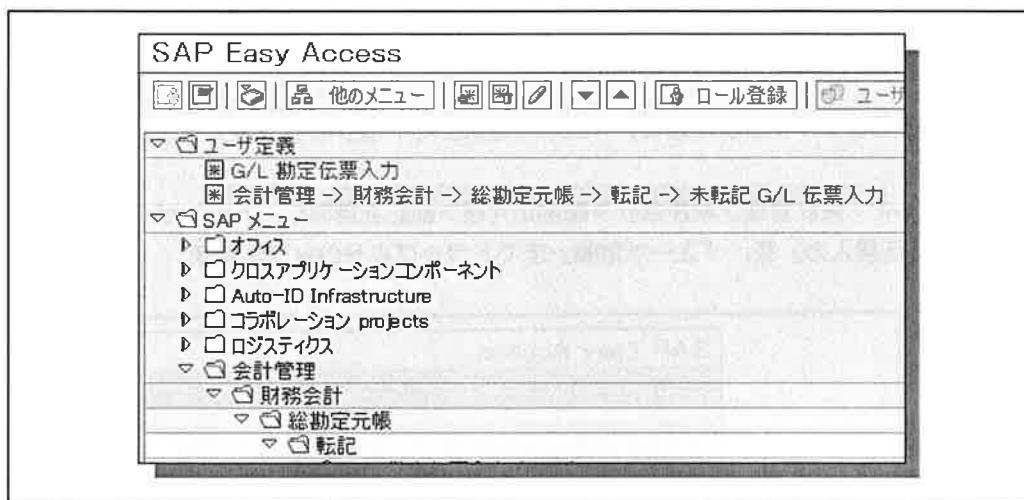
### 6-1. 【トランザクションの追加】「ユーザ定義」にトランザクションを追加します。

- ①MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記を展開し、トランザクション「G/L 勘定  
伝票入力」を、「ユーザ定義」までドラッグ&ドロップします。

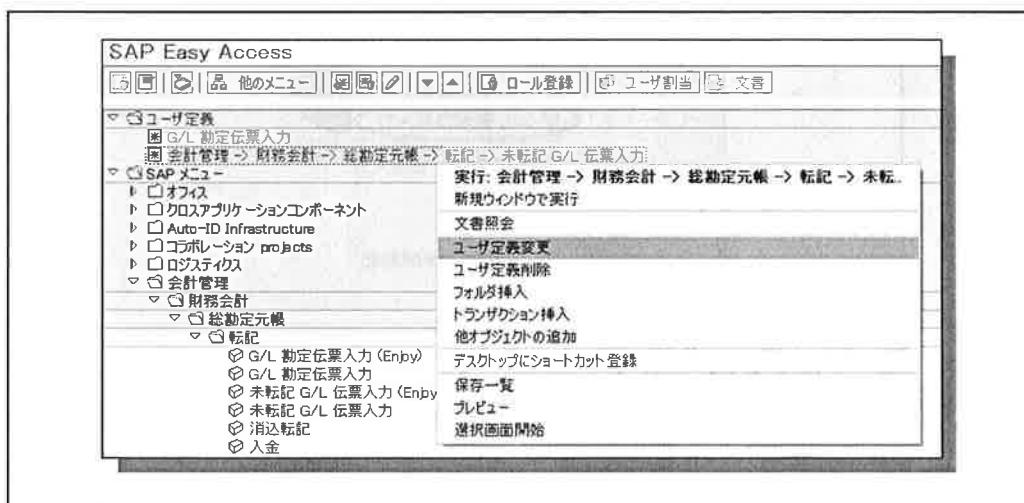


- ②MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記を展開し、トランザクション「未転記  
G/L 勘定伝票入力」を選択します。右クリックして表示されるメニューから、「ユーザ  
定義に追加」を選択します。

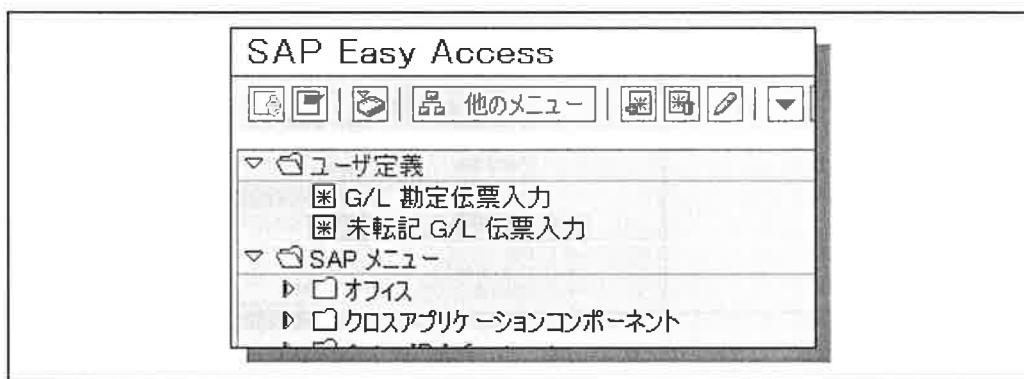
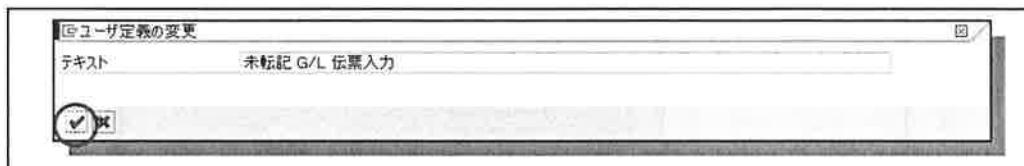




- ③「ユーザ定義」に追加されたトランザクションを選択します。右クリックして表示されるメニューから、「ユーザ定義変更」を選択します。

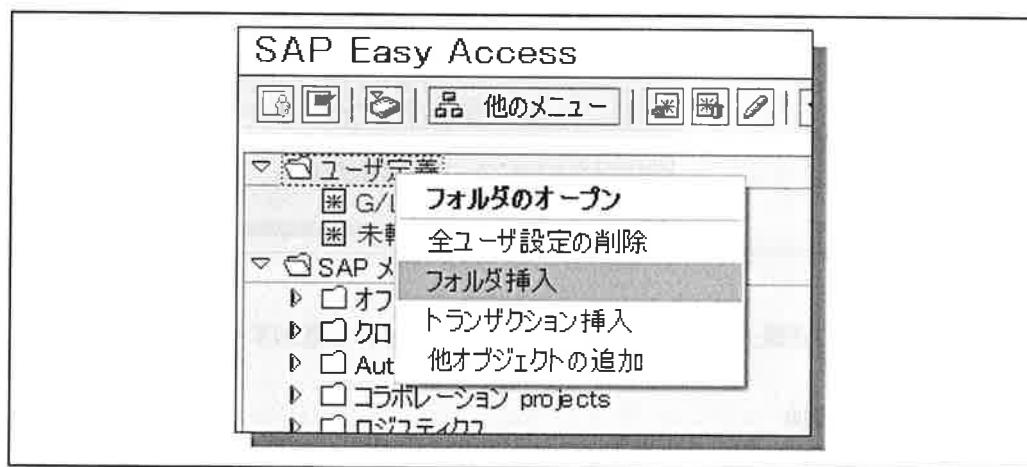


- ④「ユーザ定義の変更」ダイアログで、任意のテキストに変更します。「続行」ボタンを選択します。

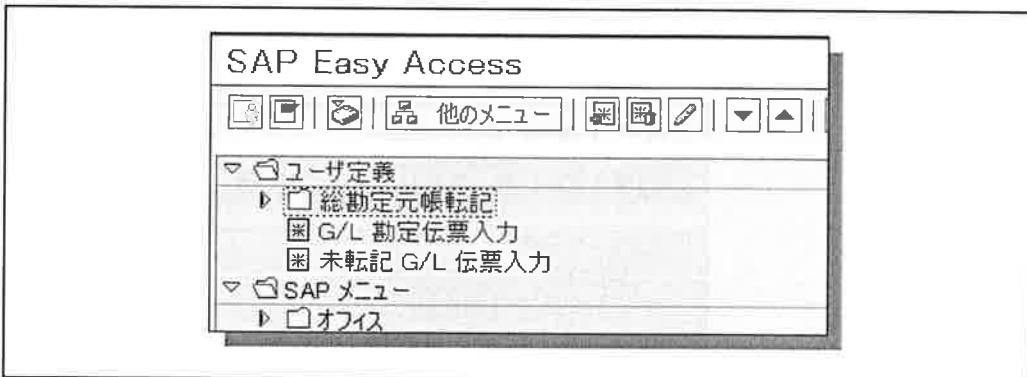
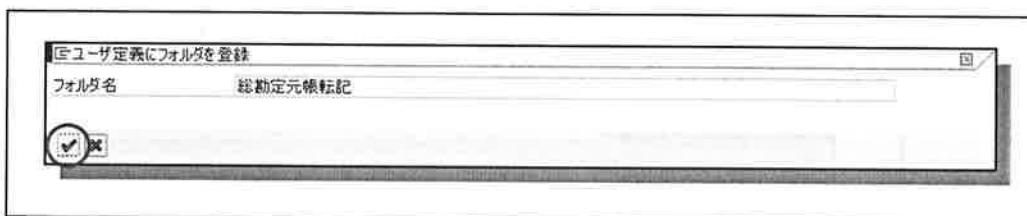


## 6-2. 【フォルダの追加】「ユーザ定義」にフォルダを追加します。

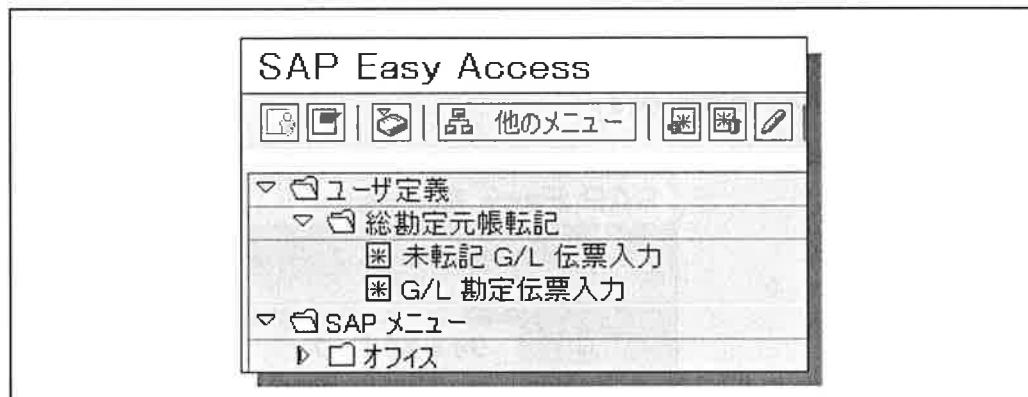
- ① 「ユーザ定義」 フォルダを選択します。右クリックして表示されるメニューから、「フォルダ挿入」を選択します。



- ② 「ユーザ定義にフォルダを登録」ダイアログで、任意のテキストに変更します。「続行」ボタンを選択します。



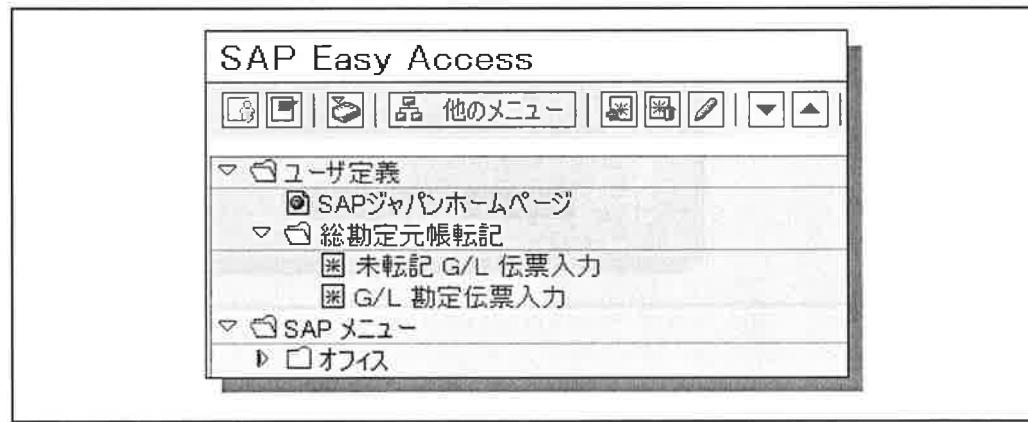
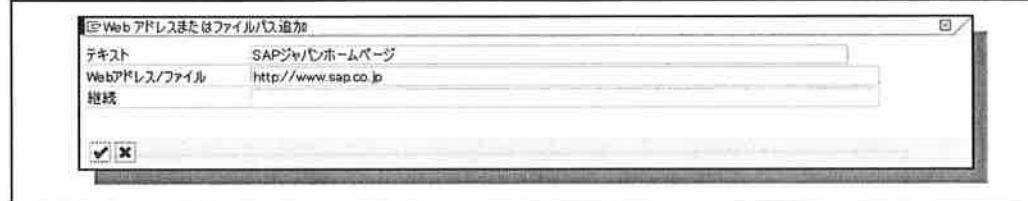
③新規に作成されたフォルダに、トランザクションをドラッグ&ドロップします。



※「ユーザ定義」には、URL や、ローカルファイルを追加することができます。

#### ※URL の追加

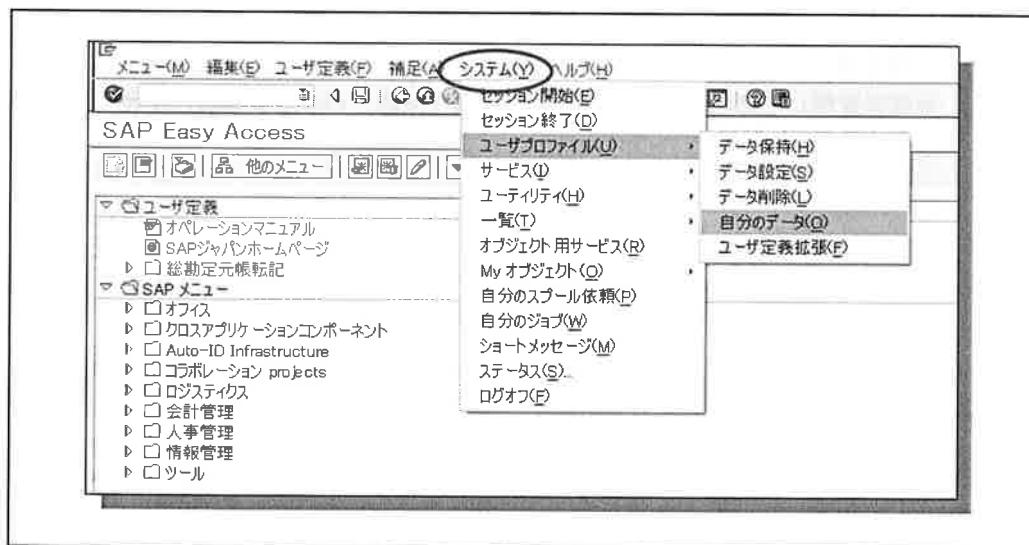
- ①「ユーザ定義」フォルダを選択し、右クリックして表示されるメニューで、「他オプジェクトの追加」を選択します。
- ②表示されるダイアログで、「Web アドレス/ファイル」をダブルクリックします。
- ③「Web アドレスまたはファイルパス追加」ダイアログで、項目「テキスト」に任意のテキスト、項目「Web アドレス/ファイル」に URL を入力します。「続行」ボタンを選択します。



## 7. ユーザプロファイル

### 7-1. 【デフォルト】ユーザのデフォルト値を設定します。

①メニューバー：ユーザプロファイル>自分のデータを選択します。（Tr-cd : SU3）



②「デフォルト」タブで、ユーザのデフォルト値を設定します。項目「ログオン言語」「10進表記」「日付書式」を確認します。



※項目「ログオン言語」は、当該ユーザーでログオンする際の、デフォルト言語を設定する項目です。この項目に言語が設定されている場合、ログオン画面の項目「Language」をブランクにしてログオンしたとしても、設定されている言語が自動で選択されます。

※項目「10進表記」は、画面上で数値、数量が表示される際の、書式を制御する項目です。

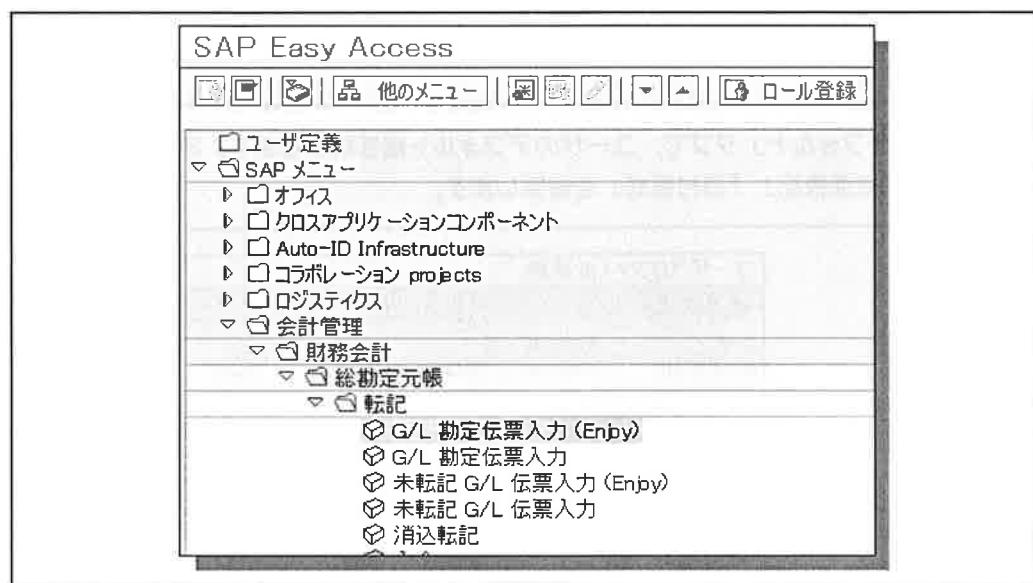
※項目「日付書式」は、画面上で、日付を入力、および、表示する際の書式を制御する項目です。

※値を変更した場合は、標準ツールバーの「保存」ボタンを選択します。

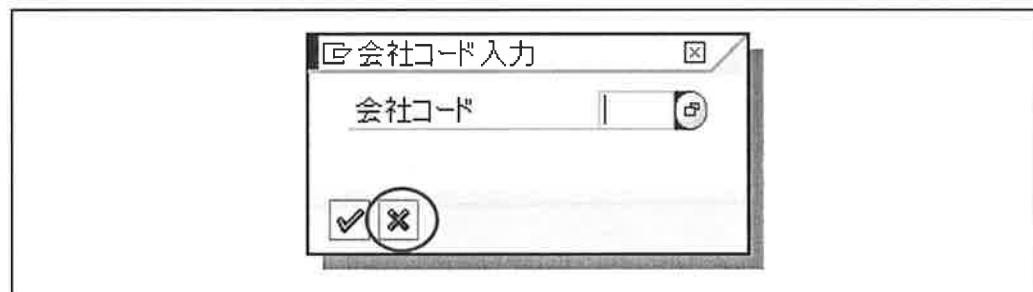
※変更した値は、次回ログオン時から有効化されます。

- 7-2. 【パラメータ】画面上で「会社コード」の入力が促された際に、初期値として会社コード「1000」が自動的に提案されるように、ユーザパラメータ「BUK」を設定します。

MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力(Enjoy) (Tr-cd : FB50)



- ①「会社コード入力」ダイアログが表示され、会社コードの入力が促されることを確認します。「中止」ボタンを選択します。

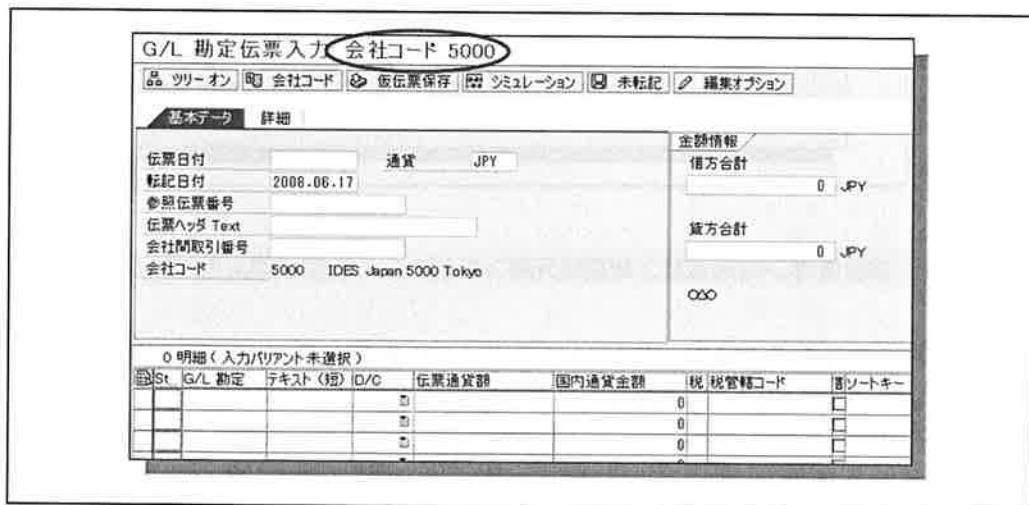


- ②メニューバー：ユーザプロファイル>自分のデータを選択します。（Tr-cd : SU3）  
 ③「パラメータ」タブを選択します。  
 ④項目「パラメータID」「パラメータ値」に、それぞれ、「BUK」「5000」と入力します。標準ツールバーの「保存」ボタンを選択します。



MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力(Enjoy) (Tr-cd : FB50)

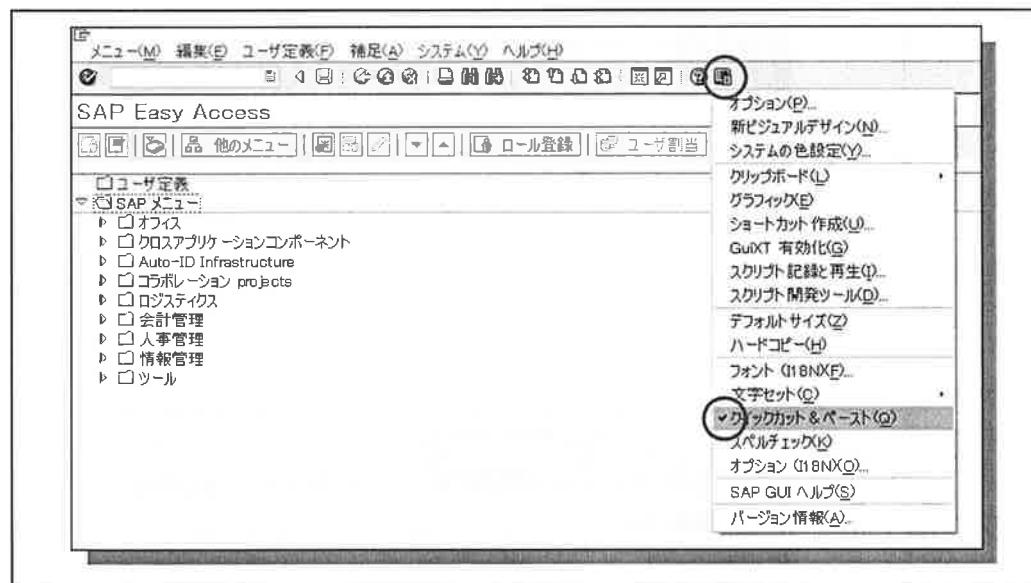
- ⑤表題バーで、会社コード「5000」が選択されていることを確認します。



## 8. 便利な機能

8-1. 【クイックカット&ペースト】画面上の文字列をマウスでドラッグすることによって、当該文字列をクリップボードに保存できるように、クイックカット&ペーストを有効化します。

- ①標準ツールバーの「ローカルレイアウトのカスタマイズ」ボタンを選択します。メニューから「クイックカット&ペースト」を選択します。（選択するこよによって、この機能が有効化されます。有効化されている場合、メニューの先頭に「✓」マークが表示されます。）



MP：会計管理>財務会計>総勘定元帳>転記>G/L 勘定伝票入力 (Tr-cd : F-02)

- ②項目「参照伝票番号」に任意の数字を入力します。入力した数字を、マウスでドラッグし、選択します。（反転させます。）

A screenshot of the 'General Transfer Input: Header Data' screen. The 'Reference Document Number' field contains the value '123456'. This value is highlighted with a red oval, indicating it has been selected using the quick cut and paste feature.

③項目「伝票ヘッダ Text」にカーソルを置き、マウスで右クリックします。②で選択した文字列がペーストされます。

一般転記入力: ヘッダデータ					
伝票日付	<input type="text"/>	伝票タイプ	SA	会社コード	5000
転記日付	<input type="text"/> 2008.06.17	会計期間	6	通貨/レート	JPY
伝票番号	<input type="text"/> 123456		換算日付	<input type="text"/>	
参照伝票番号	<input type="text"/> 123456		会社間取引番号	<input type="text"/>	
伝票ヘッダ Text	<input type="text"/> 123456				
取引先事業領域	<input type="text"/>				

8-2. 【項目の入力履歴】画面上の項目で「Backspace」キーを選択し、入力履歴を表示、選択します。

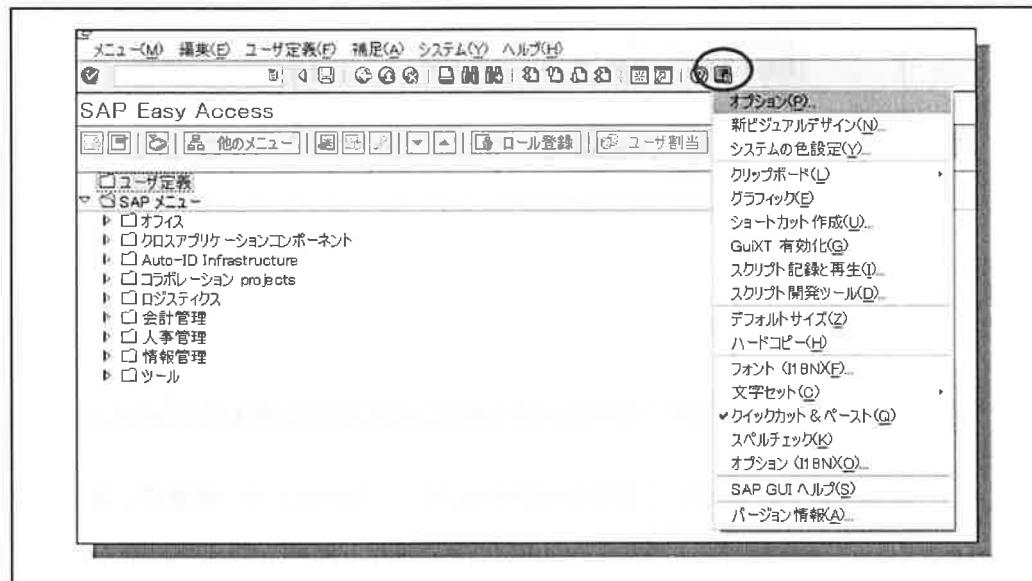
MP : 会計管理 > 財務会計 > 総勘定元帳 > 転記 > G/L 勘定伝票入力 (Tr-cd : F-02)

- ①項目「参照伝票番号」に適当な数字を入力し、「Enter」キーを選択します。
- ②①を何回か繰り返します。
- ③項目「参照伝票番号」にカーソルを置き、「Backspace」キーを選択します。入力履歴から、任意の値を選択します。

一般転記入力: ヘッダデータ					
伝票日付	<input type="text"/>	伝票タイプ	SA	会社コード	5000
転記日付	<input type="text"/> 2008.06.17	会計期間	6	通貨/レート	JPY
伝票番号	<input type="text"/>		換算日付	<input type="text"/>	
参照伝票番号	<input type="text"/> 87656443		会社間取引番号	<input type="text"/>	
伝票ヘッダ Text	<input type="text"/> 87656443		<input type="text"/>		
取引先事業領域	<input type="text"/>				

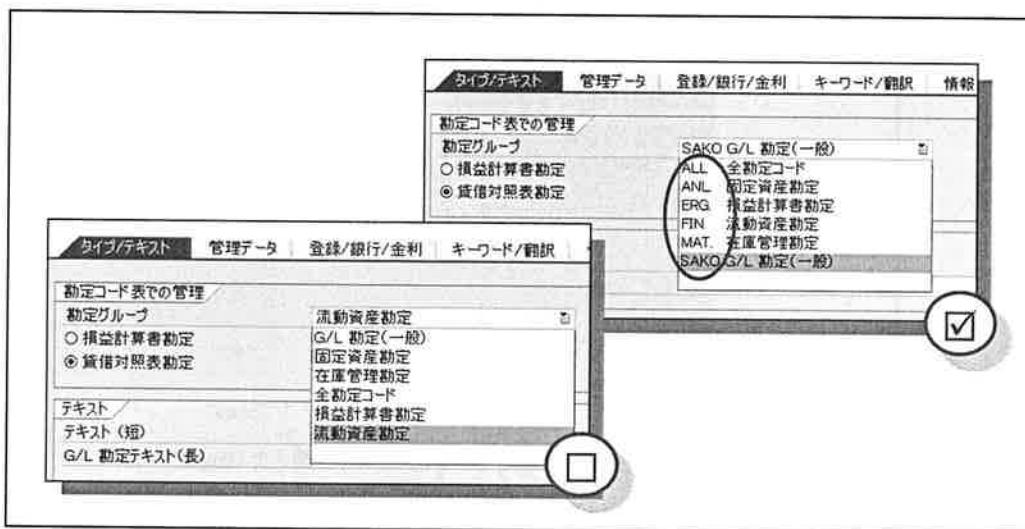
### 8-3. 【キーの表示】画面上のドロップダウンにキーを表示させます。

- ①標準ツールバーの「ローカルレイアウトのカスタマイズ」ボタンを選択します。メニューから「オプション」を選択します。



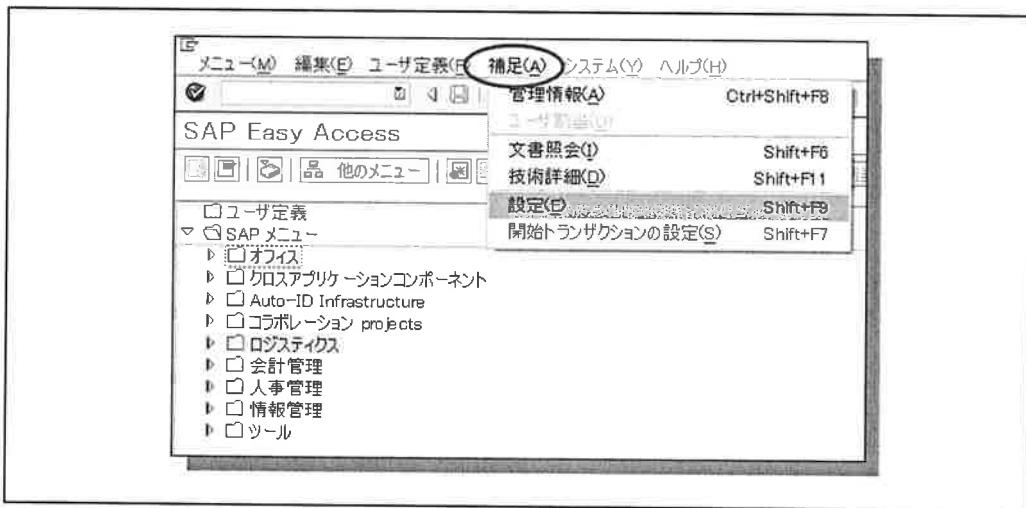
- ②「エキスパート」(Expert) タブを選択します。  
③「コントロール」セクションの 2 つのチェックボックスを有効化します。「OK」ボタンを選択します。



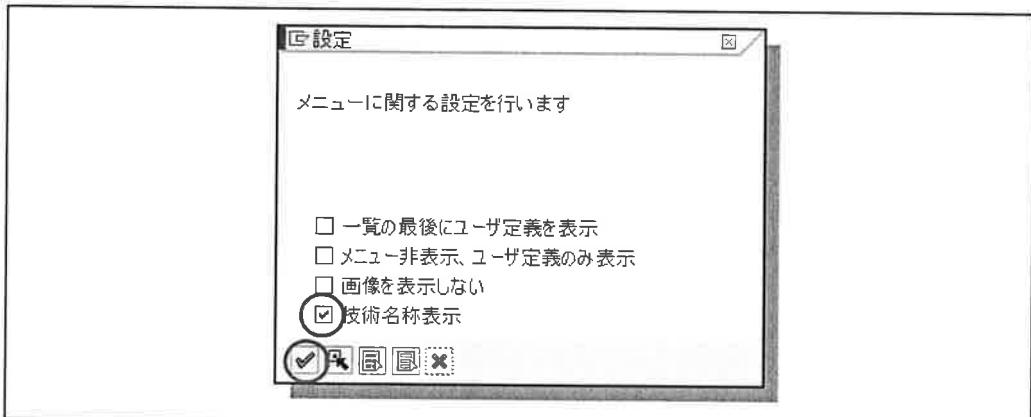


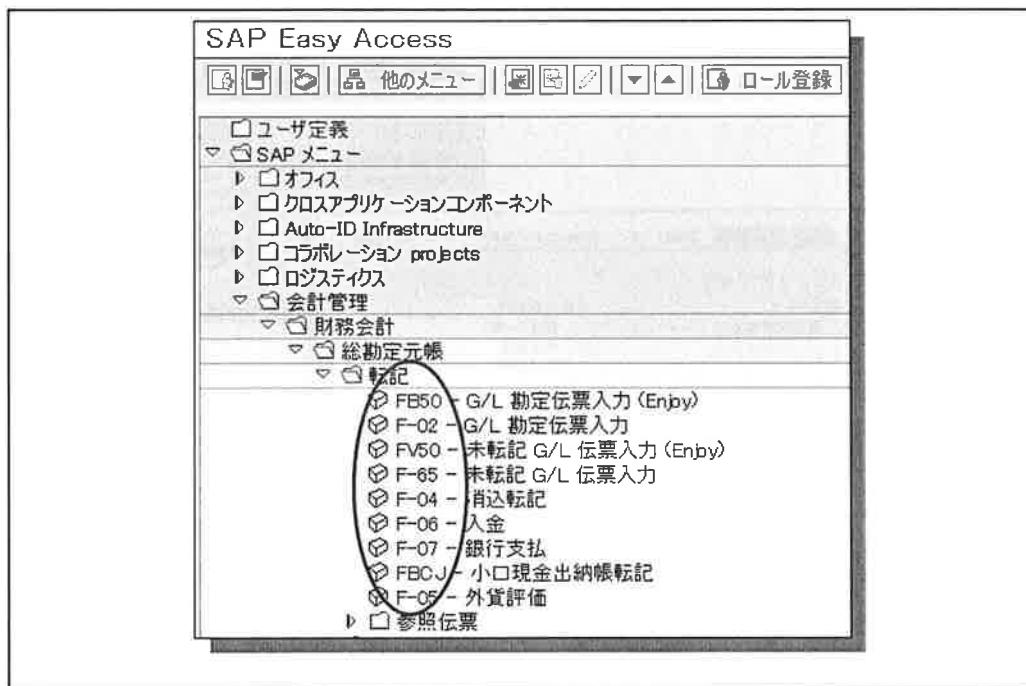
8-4. 【技術名称の表示】メニュー上にトランザクションコードを表示させます。

①SAP Easy Access の画面で、メニューバー：補足>設定 を選択します。



②「設定」ダイアログで、「技術名称表示」のチェックボックスを有効化します。「続行」ボタンを選択します。

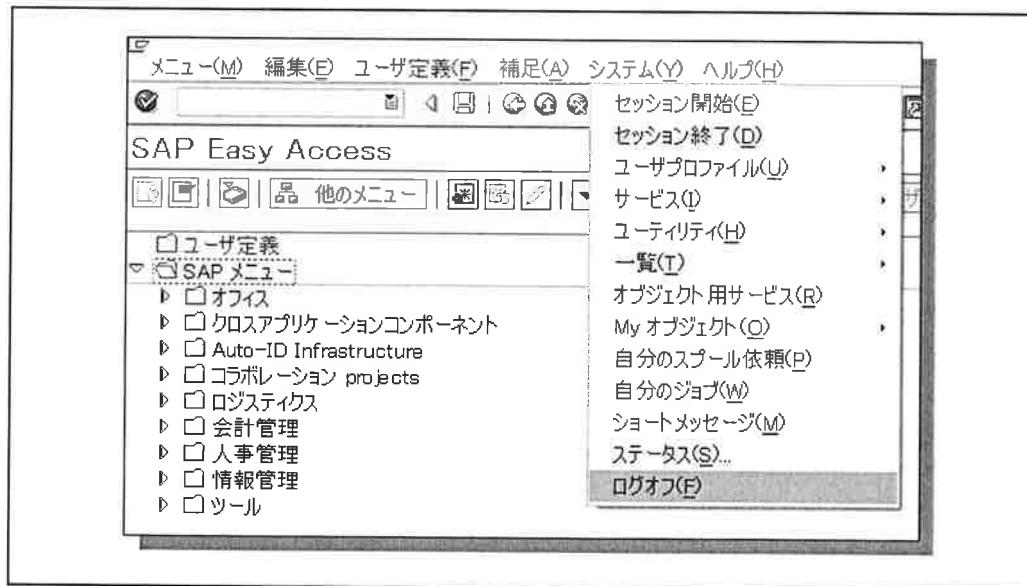




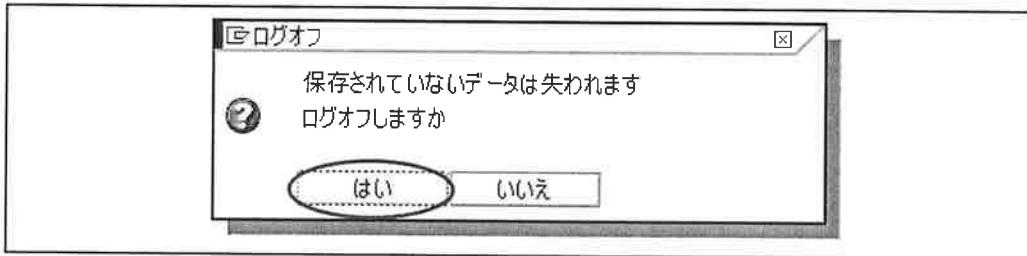
## 9. ログオフ

9-1. 【ログオフ】ログオフします。

①システムメニュー：システム>ログオフ を選択します。



②「ログオフ」ダイアログで、「はい」ボタンを選択します。



※コマンドフィールドに「/nend」（「ログオフ」ダイアログあり）「/nex」（ダイアログなし）と入力することによってログオフすることもできます。



# エンドユーザ向けプロジェクトサポート

## SAP Productivity Composer by RWD

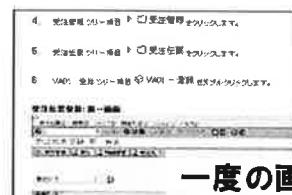
～個人のパフォーマンス向上とチームの成功、企業業績の向上をサポートする「企業内情報ナビゲーションの登場」

現代の知識集約型経済における企業の最大の資産は社員です。貴重な社員のパフォーマンスを最大化させるにあたって、必要な社内外の情報にどうアクセスし、その情報コンテンツをどう最新のものにアップデートしていいのでしょうか。今日のビジネスにおいて、マーケットリーダーとそれ以外の企業との差は、結局のところ一人ひとりの社員のパフォーマンスを最大化できる仕組みを企業内に持っているかどうかで決定されてしまうのです。

### SPC Value Cycle

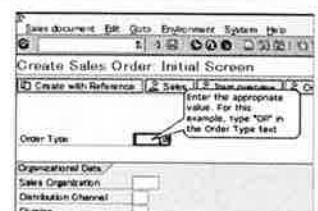
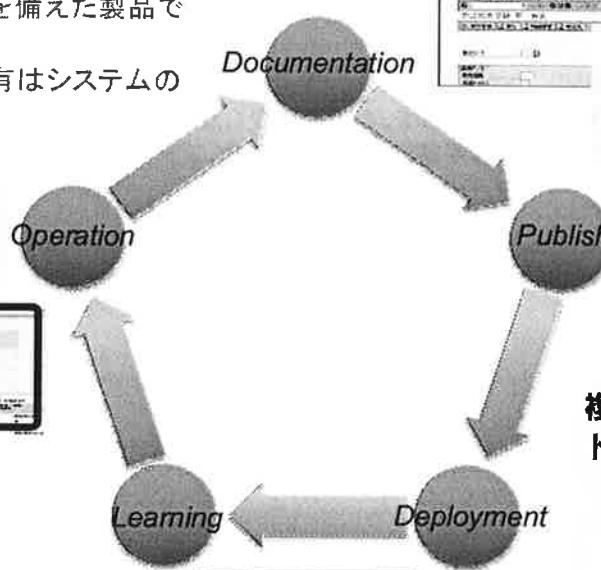
SPCはユーザー教育と情報公開を最小限のコストで実現するために必要な機能を備えた製品です。

統一されたフォーマット、情報共有はシステムのユーザー定着を実現します。



一度の画面操作でドキュメントとシミュレーションの作成、さらに多言語対応

### 実運用環境で最新のドキュメントをSAP画面から参照

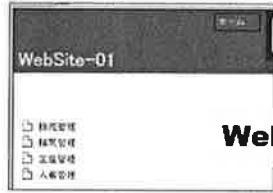
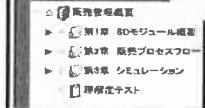


複数のユーザ用公開フォーマット

- ドキュメント
- シミュレーション
- e-Learningコンテンツ
- オンライン参照

### 販売管理トレーニング

### 自席での自習環境の提供



Webサイトでの情報一元管理と公開

### 企業を取り巻く環境1:社員にとって複雑で多様なビジネスアプリケーションの習得

企業は、業務向上のためにあらゆるビジネスアプリケーション(システム)に膨大な投資を行います。このようなビジネスアプリケーションがもたらす高効率化や顧客満足の向上およびその結果としての増収増益を実現するためには、実際にそれらを使うエンドユーザが社内に導入されているビジネスアプリケーションを効率的に活用し、所属部署別、職務役割別に適切な情報に常にアクセスできる環境、つまり継続的にエンドユーザのパフォーマンスをサポートする環境を構築し、維持していくことが求められます。

### SAP Productivity Composer by RWD の機能1 ~ XMLベースのコンテンツ作成、管理、および公開

- 一度の画面操作でドキュメントとシミュレーション(動画)の両方を記録可能
- シングルソースコンテンツのため、ドキュメント作成画面、またはシミュレーション作成画面を簡単に切り替え可能
- さまざまなフォーマット、およびファイル形式でドキュメントとシミュレーションを一括発行可能
- カスタムテンプレートの作成により、ドキュメントとシミュレーションのデザインを変更可能
- 用語と用語に対する定義文を管理する用語集の作成機能を提供

### 企業を取り巻く環境2:一貫性のあるビジネスプロセスの維持・徹底の実現

世界中で同じ方法・同じプロセスに則ってビジネスを進めていく、すなわちビジネスプロセスの一貫性を維持・徹底していくためには、同じ資料、同じ内容のトレーニング、さらには同じレベルのパフォーマンスサポートを受けられる環境を構築する必要があります。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能2 ~ 多言語対応、e-Learning コースの作成

- ・作成したコンテンツで他言語変換設定を行うだけで、指定した言語で自動的にドキュメント、シミュレーション共にテンプレートテキストと画像が自動的に置換可能
- ・コンセプト、評価、ポップアップ、シミュレーションを組み込んだ e-Learning コースを作成可能
- ・スケンシル(e-Learning 用テンプレート)を使用して、一貫性のあるレイアウトの e-Learning コースを作成可能
- ・Microsoft PowerPoint から e-Learning コースにコンテンツをインポート可能
- ・独立型の Flash ファイルを e-Learning コースにインポート可能
- ・e-Learning コースのストーリーボードを印刷可能
- ・LMS(ラーニングマネジメントシステム)への対応

## 企業を取り巻く環境3: 加速する人材の流動化への対応

新卒新入社員、他社からの転職社員、社内部署間異動社員等、人材の流動化はめまぐるしく加速する一方です。新規加入の新しいメンバーによる新しいアイディアによって新しいビジネスチャンスが生まれる一方で、こういった新しい社員を組織やチームに適応させ、また地理的にも分散している社員をトレーニングし、今までの社員も含め知識をアップデートさせ、結果として社員のパフォーマンスを最大化させなければなりません。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能3 ~ On-the-job のパフォーマンスサポート

- ・SAP 操作中のトランザクションに関連したファイルを、SAP GUI から直接呼び出すオンラインヘルプ機能
- ・呼び出したファイル(ブラウザ)は常に画面の手前に表示されるため、ブラウザ画面を見ながらの操作が可能

---

2010年 9月 29日 版  
発行 SAPジャパン株式会社

本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは  
伝送することを、電子的、機械的、フォトコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。



## SAP ソリューションアカデミーご受講の皆様へ

### SAP Solution Manager e-ラーニングのご案内



この度は SAP トレーニングをご受講頂き、誠に有り難うございます。

皆様にご受講頂いている SAP ソリューションアカデミーに対応する認定試験では、「SAP Solution Manager」についての内容が含まれます。この SAP Solution Manager については、別途ご用意しております電子媒体で提供させて頂いており、認定試験の受験前に学習されることをお願いしております。追加費用は発生しませんので、下記の手順にて学習をお願い致します。

#### 注意点

- コンテンツへのアクセスには、受講申込時にご用意頂きました“S-ID”を使用します。
  - S-ID やパスワードがご不明の方は、弊社 Web サイトの FAQ にございます手順で確認をお願い致します。  
SAP ジャパントレーニングセンター・FAQ ページ >> <http://www.sap.com/japan/services/education/faq.epx>
- S-ID およびアクセスについてのご質問は、弊社 Web サイトよりお問い合わせ下さい。
- 追加費用は発生しません。

#### 確認手順

- 以下の Web サイト(SAP Service Marketplace)にアクセスします。

• <http://service.sap.com/solutionmanager>

- 画面左側のリンクから、「メディアライブラリー」をクリックします。

You are here:

- ▼ SAP Solution Managerとツール
  - ▶ SAP Solution Manager
  - ▶ SAP Support Infrastructure
  - ▶ SAP Test Data Migration Server
  - SAP Test Acceleration and Optimization
  - SAP IT Service Management
  - SAP Solution Manager Adapter for SAP Quality Center by HP
  - Process Scheduling adapter for SAP Solution Manager
  - SAP ProductivityPak by RWD adapter for SAP Solution Manager
  - サービスデスク XT
  - ▶ SAP Solution Support Enablement Package
  - ▶ メディアライブラリー
  - ▶ FAQ(よく寄せられるご質問)

#### SAP Solution Managerとツール

##### SAP SOLUTION MANAGER およびツール

アプリケーションライフサイクル管理に必要な機能を提供するツール

アプリケーションライフサイクル管理では、多数の SAP ツールおよび非 SAP のツールが組み合わさっており、さまざまな ALM アクティビティーで必要となる機能を備えています。

##### SAP Solution Manager

アプリケーションライフサイクル管理(ALM)プラットフォームである SAP Solution Manager です。SAP Solution Manager は、ALM 機能を提供するだけでなく、さまざまなツールにより、必要な機能への一元的なアクセスと、必要な情報の一元的な提供をするための重要な基盤となります。さらに、SAP Solution Manager は、お客様が SAP と締結するサポート契約の価値を最適化します。

##### その他の関連ツール

SAP Solution Manager 以外にも、SAP は ALM サービスをサポートするツール、サードパーティ製の ALM ツールを統合することもできます。

- さらに、「概要プレゼンテーション」をクリックして、「SAP ソリューションマネージャ入門」という行を確認します。
- アイコンを右クリックして、「対象をファイルに保存」を選択することで、ローカル PC 上にダウンロードが可能です。

• SAP Solution Manager Adapter for SAP Quality Center by HP
• Process Scheduling adapter for SAP Solution Manager
• SAP ProductivityPak by RWD adapter for SAP Solution Manager
• サービスデスク XT
▶ SAP Solution Support Enablement Package
▼ メディアライブラリー
• <b>概要プレゼンテーション</b>
• 記事
• その他のドキュメント
• 技術文書
• How-To Documents
• SAP ベストプラクティス
• SAP Solution Manager Adapter for SAP Quality Center by HP

File Type	Title	Last Update
	<a href="#">SAP E2E Integration Testing Overview</a>	E
	<a href="#">SAP Solution Manager - Application Management</a>	E
	<a href="#">SAP Solution Manager - Value Proposition</a>	E
	<a href="#">SAP Solution Manager 7.0 SP15</a>	E
	<a href="#">SAP Solution Manager - シナリオ</a>	J
	<a href="#">SAP TAO Overview</a>	E
	<a href="#">SAP ソリューションマネージャ概要(e-Learning)</a>	J
	<a href="#">SAP ソリューションマネージャ - 概要</a>	J
	<a href="#"><b>SAP ソリューションマネージャ 入門</b></a>	J
	<a href="#">SAP ソリューションマネージャエンタープライズエディション概要</a>	J
	<a href="#">Where to find PPT versions of the presentations?</a>	E
	<a href="#">Work Centers for SAP Solution Manager - Overview</a>	E
	<a href="#">何ができる？SAP Solution Manager Enterprise Edition</a>	J

#### お問い合わせ先

- アクセス方法について、その他ご質問は、SAP ジャバントレーニングセンターWeb サイトよりお問い合わせください。
- SAP トレーニングセンターホームページ: <http://www.sap.com/japan/services/education/>